

統計数理研究所調査研究レポート No.117

アジア・太平洋価値観国際比較調査

——文化多様体の統計科学的解析——

総合報告書

吉野諒三・芝井清久・二階堂晃祐 編集

2015年3月

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

統計数理研究所

〒190-8562 東京都立川市緑町10-3

統計数理研究所調査研究レポート

ISM Survey Research Report

統計数理研究所調査研究レポートは、当研究所の研究調査のデータの発表を目的として、調査研究レポート編集委員会の審査を経て、適宜、発刊する。ただし、内容に関してはすべて各著者・編者が責任を負う。著作権は統計数理研究所にあるものとする。調査研究レポート編集委員会の文書による承諾なしには、調査研究レポートの全部または一部の転載や複製は、いかなる形式、いかなる媒体においても禁ずる。ただし、各著者が執筆した部分については、本人が論文等で活用する権利は認める。

(注) 本調査研究レポートは過去に以下のような名称で発刊されてきたが、平成 22 年 12 月に誌名は現在の「統計数理研究所調査研究レポート (略称 調査研究レポート)」と変更された。

- No.1~2 統数研究レポート
- No.3~41 数研研究レポート
- No.42~101 統計数理研究所研究レポート
- No.102~ 統計数理研究所調査研究レポート

The Institute of Statistical Mathematics issues the series of ISM Survey Research Report under the supervision of the committee of ISM Survey Research Report in order to publish data of surveys carried out by the institute. The author(s) and/or editor(s) of each issue, however, are responsible for the content. Copyright is reserved by the Institute of Statistical Mathematics. No part of any issue may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electric or mechanical, including photocopy, recording, or any information storage and retrieval system, without permission in writing from the committee of the institute. The author or editor of each issue, however, may make use of his/her writing in another academic paper or article.

(Note) This series of survey reports has been published under different titles in the past, but it has been renewed as “統計数理研究所調査研究レポート (ISM Survey Research Report)” in December of 2010.

- No.1~2 統数研究レポート (Research Report, General Series)
- No.3~41 数研研究レポート (Research Report, General Series)
- No.42~101 統計数理研究所研究レポート (Research Report, General Series)
- No.102~ 統計数理研究所調査研究レポート (ISM Survey Research Report)

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
統計数理研究所
〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3
電話 050-5533-8500(代表)

The Institute of Statistical Mathematics
10-3 Midori-cho, Tachikawa
Tokyo 190-8562, JAPAN
Phone: +81-(0)50-5533-8500 (receptionist)

統計数理研究所調査研究レポート No.117

アジア・太平洋価値観国際比較調査

——文化多様体の統計科学的解析——

総合報告書

吉野諒三・芝井清久・二階堂晃祐 編集

2015年3月

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

統計数理研究所

〒190-8562 東京都立川市緑町10-3

アジア・太平洋価値観国際比較 総合報告書

目次

ページ

はしがき	・・・	i
1. 概要	・・・	1
a. 計画概要〈和・英〉	・・・	1
b. 中間報告概要	・・・	3
2. 日米調査における調査票	・・・	5
(注) 各国の調査票の実物は ISM 調査研究リポートを参照。 http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/contents.html		
3. 項目の出典履歴 (和英)	・・・	58
a. 日本語	・・・	58
b. 英語	・・・	81
(注) 調査質問項目は、各国共通の意味の翻訳を意図しているが、国際関係 (質問 2 や質問 3) や宗教 (質問 43b) などを考慮して、各国で文章表現や選択肢が多少とも異 なる項目があるので留意する。		
4. 集計表	・・・	103
a. アジア・太平洋価値観国際比較調査の集計表	・・・	103
b. 関連する国際比較調査との比較	・・・	122
5. 論文・学会発表抄録等	・・・	144
6. 関連文献	・・・	200
a. 日本語	・・・	200
b. 英語	・・・	206

The Asia - Pacific Values Survey Summary Report

Content	Page
Preface	. . . i
1. The Objective of This Project	. . . 1
a. Program Outline	. . . 1
b. Interim Report	. . . 3
2. Questionnaires of Japan 2010 Survey and USA 2010 Survey	. . . 5
Note: See each of ISM Survey Research Reports for the other countries' questionnaires.	
http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/contents_e.html	
3. History of Items	. . . 58
a. Japanese	. . . 58
b. English	. . . 81
Note: We intended to translate the questionnaire into other languages so as to have the same meaning in all survey countries. However, there are some items that a style of writing and response choices are slightly different across countries, for example, international relations (Q2 and Q3) and religions (Q43b).	
4. Cross National Tabulation	. . . 103
a. Cross National Tabulation of the Asia Pacific Values Survey	. . . 103
b. Comparison with Some Related Surveys	. . . 122
5. Articles and Conference Papers	. . . 144
6. References	. . . 200
a. Japanese	. . . 200
b. English	. . . 206

アジア・太平洋価値観国際比較調査

——文化多様体の統計科学的解析——

総合報告書

研究組織

研究代表者 吉野諒三（統計数理研究所 調査科学研究センター センター長・教授）
研究分担者 土屋隆裕（統計数理研究所 調査科学研究センター 准教授）

連携協力者

佐々木正道（中央大学 文学部 教授）
鄭躍軍（同志社大学 文化情報学部 教授）
松本渉（関西大学 総合情報学部 准教授）
林文（統計数理研究所 調査科学研究センター 客員教授）
山岡和枝（帝京大学 公衆衛生学研究科 教授）
朴堯星（統計数理研究所 調査科学研究センター 助教）
前田忠彦（統計数理研究所 調査科学研究センター 准教授）
角田弘子（日本ウェルネススポーツ大学 専任講師）

研究協力者

芝井清久（統計数理研究所 特任研究員）
二階堂晃祐（統計数理研究所 特任研究員）
藤田泰昌（長崎大学 経済学部 准教授）
服部浩昌（統計数理研究所 特任研究員[2014年7月まで]）
大崎裕子（統計数理研究所 技術補佐員[2014年3月まで]）

※ 過去の調査について、統計数理研究所の Web ページも参考にして頂きたい。

<http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html> 調査科学研究レポートのシリーズ

http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index_e.html (in English)

http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html 統計数理研究所・調査研究

http://www.ism.ac.jp/ism_info_e/kokuminsei_e.html (in English)

<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/ap2/index.htm> 国際比較

http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index_e.html (in English)

今後、本報告書を含め、過去の国際比較調査報告書に誤謬が見つかった場合は、上記の Web ページにてお知らせする予定である。

(正誤表は、<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/corrigenda.html> 参照。)

The Asia-Pacific Values Survey
--- Cultural Manifold Analysis (CULMAN) on peoples' sense of trust ---
Summary Report

Chief Ryozo Yoshino
(Director and Professor, Survey Science Center, The Institute of Statistical Mathematics)

Members Masamichi Sasaki (Professor, Chuo University)
Yoosung Park (Assistant Professor, Survey Science Center,
 The Institute of Statistical Mathematics)
Yuejun Zheng (Professor, Doshisha University)
Wataru Matsumoto (Associate Professor, Kansai University)
Fumi Hayashi (Visiting-Professor, The Institute of Statistical Mathematics)
Kazue Yamaoka (Professor, Teikyo University)
Tadahiko Maeda (Associate Professor, Survey Science Center,
 The Institute of Statistical Mathematics)
Takahiro Tsuchiya (Associate Professor, Survey Science Center,
 The Institute of Statistical Mathematics)
Hiroko Tsunoda (Japan Wellness Sports University, Full-time Lecturer)

Collaborators
Kiyohisa Shibai (Project Researcher, The Institute of Statistical Mathematics)
Kosuke Nikaido (Project Researcher, The Institute of Statistical Mathematics)
Taisuke Fujita (Associate Professor, Nagasaki University)
Hiromasa Hattori (Project Researcher, The Institute of Statistical Mathematics [by July 2014])
Hiroko Osaki (Technical Assistant, The Institute of Statistical Mathematics [by March 2014])

Note: In the case we find some errors in our cross-national survey reports or data, we will list them in our website.

1) http://www.ism.ac.jp/~yoshino/corrigenda_e.html for Corrigenda.

2) http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index_e.html for our past surveys.

The following webpages provides the related information.

3) <http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html> The ISM Survey Research Report.

4) http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index_e.html (in English)

5) http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html The webpage of ISM survey.

6) http://www.ism.ac.jp/ism_info_e/kokuminsei_e.html (in English)

はしがき

本書は、日本学術振興会の御支援による「アジア・太平洋価値観国際比較調査---文化多様体の統計科学的解析---」（科学研究費補助金・基盤研究 S 課題番号 No.22223006、代表・吉野諒三）の総合報告を、統計数理研究所・調査研究リポートとして発刊したものである。

本調査研究は先行する 2002-2005 年度「東アジア価値観国際比較調査」、および 2004-2009 年度「環太平洋価値観国際比較調査」の拡大を意図した調査研究の一環であり、2010-2013 年度において、順次、日本、米国、中国（北京・上海・香港）および台湾、シンガポール、オーストラリア、韓国、インド、ベトナムの各国・地域に応じた統計的標本抽出法による面接調査が遂行された。

この研究は、歴史的には統計数理研究所における 1953 年以降の「日本人の国民性」調査及び 1970 年初頭以降の「意識の国際比較」調査の延長上にある。「日本人の国民性」調査は、戦後民主主義の基盤としての官民の世論調査発展と緊密に結びつき、「意識の国際比較」調査は、連鎖的調査分析（Cultural Linkage Analysis, CLA）の確立へとつながった。そしてさらに、近年は計量的文明論としての「文化多様体解析（Cultural Manifold Analysis, CULMAN）」という方法論の上で、国際比較調査が展開されてきた。

本研究の背景と意義は、以下の通りである。

冷戦の終了以降、世界情勢のダイナミックな変動とともに、政治、経済、社会の伝統的枠組が大きく変わり、社会生活の基盤であった人々の信頼のあり方も大きな影響を受けてきた。伝統的な産業社会から高度情報化社会への過渡期と見られる現在、従来の家庭、学校、職場での人間関係のあり方にも崩壊が生じ、新たな時代の流れが確立するまでの混乱が続いてきた。日本経済はバブル崩壊以降、「失われた 10 年」と言われたが、その状況が 10 年をはるかに越えて続く中で、さらに、2011 年 3 月には東日本大震災とそれに伴うフクシマ原子力発電所事故という未曾有の災難を被り、その復興の途上で混迷が続いてきた。

一方、外交の視点からは、欧州共同体や南北アメリカ圏のみならず、東アジア圏の再編成が唱えられてきた。東南アジアを含む東アジア圏は、欧州とは異なり、多様な文化、歴史を持つ国々や地域の集合であり、政治にせよ経済にせよ、それらの統合は必ずしも容易ではないといわれたが、現実には ASEAN 等の協力関係が推進されつつある。我々が 2002 年の東アジア価値観調査を計画した時には、「東アジア」という言葉はまだ一般には曖昧なものでしかなかった。その後、「東アジア共同体」構想についての議論が高まり、特に戦後長期に継続した自民政権から民主党政権になり、その構想が掲げられたが、沖縄米軍基地移転問題などを含め、日中米の国際関係の中で警戒感を巻き起こした。しかし、アジアと太平洋の各国の多様な連携協力は着実に推進されており、「アジア・太平洋共同体（APEC）」や「環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）」等々の国際協力の枠組みの検討が進展し、2012 年末に再び自民政権へ戻り、この勢いが加速されている。時は、「文化の多様体」（吉野,2005; Yoshino, 2014）が構築されているかのようである。現実には、この流れには正負両面があるろうが、混迷から抜け出そうとする人々の期待は大きい。

アジア・太平洋諸国の社会状態は複雑であり、特に中国やインドの躍進は目覚ましいものがある。一方でどの国も政治的にも決して一枚岩ではなく、地域や階層の間の著しい経済格差を抱え、それが国際関係における交渉の進展にも影を投げ、将来を予測するのは容易ではない。それゆえ

に、各国の客観的実態とともに、各国民の意識や価値観の動向を的確に調査する意義がある。

こういった世界の流れを的確に把握し、将来を見通すための実証的基礎情報を収集すべく、各国、各機関が様々な社会調査、国際比較調査を遂行している。例えば、世界価値観調査（World Values Survey）は世界の数十カ国で共通質問項目を用いた国際比較調査データや時系列比較可能なデータを提供し、学術研究にも行政施策にも資するところが大きい。しかしながら、過去の東アジア地域における調査の実情を詳細にみると、その結果には疑いが隠せない。国際比較調査では、質問項目を各国の言語に適切に翻訳することが重要な手続きであるが、各国内の事情の差異を見逃したための誤訳が見受けられ、また、報告された回収率などから、計画された統計的無作為標本抽出の手続きが調査の現場でどこまで遵守されているのか、疑義を持つ調査研究者も少なくない。

以上のような背景があり、我々は、アジア・太平洋地域の調査は、やはり当該地域の人々により慎重に推進されるべきであるという認識に至った。我々は、通常、各国でどの程度統計学的に適正な標本抽出調査が遂行でき、また国際比較可能性が保てるのかという課題を実証的に検討することを主眼にし、その上でアジア・太平洋諸国の人々の価値観や意識を比較することに取り組んできた。この中で、各国で通常の世界世論調査や政府統計調査においてどの程度厳密な統計調査がなされているか、それ自体が各国の社会、経済、政治的状况を如実に表していることを強く認識してきた。政府等の統計的無作為標本抽出による世論調査という点では、住民基本台帳や選挙人登録名簿がほぼ完備している日本が世界で一番、一人一票の民主主義の理念のもとでの統計科学的な調査を遂行しているようだが、他方、米国を含め海外の諸国の世論調査の方法（その多くは性別、年齢層、人種別等の「割り当て法」）では、しばしば選挙予測などで大きな失敗を見るのはやむを得ない状況なのだと、今さらながら痛感せざるを得ない。

今回の調査票は、人々の生活一般に関する多様な項目を含んでいる。特に 21 世紀初頭の急変しつつある世界情勢、とりわけ、急速に変化するアジア・太平洋の国々と、数々の問題を抱えながらも再秩序化されつつある国家間の関係を考慮して、日本と他のアジア・太平洋諸国の人々の価値観、人や組織に対する信頼感、法意識、自然観や生命観等々の統計的解明に適切と思われる項目を検討した。結果として、多くの項目は、2002-2005 年度の「東アジア価値観国際比較調査」及び 2004-2009 年度の「環太平洋価値観国際比較調査」と重複しているため、重複して調査されている国・地域は、この 10 年ほどの時系列調査ともなっている。新たには、人々の意識を深く調べる目的で「お化け調査」というニックネームで呼んでいる「人々の基底意識構造」に関する項目（死後の世界や幽霊の存在など）を導入し、またこれまでの対人的信頼感を測る項目の限界を超えるために、「生きがい」に関する項目も導入した。これらについては、外国語翻訳に苦闘したものであり、現在でも翻訳・再翻訳の検証程度では解決されない、各国の本質的な文化や宗教などを含む歴史的な背景の差に直面した。しかし、その意味で、単純な回答分布の数字の比較などでは表せない、現実が浮かび上がってきたとも考える。

- ・ 信頼感に関する質問項目・・・ 問 22, 24(ソーシャル・サポート), 問 55(社会的参画), 問 2, 3 国家間の友好[タテマエとホンネ], 問 36, 37, 38 (対人的信頼感), 問 52 (組織等への信頼感)

- ・生きがいに関する質問項目・・・問 8, 51
- ・「お化け調査」関連の質問項目・・・問 26, 33, 39,

調査の実践的方法に関しては、熟慮の末、我々の基本方針としては、現地で通常用いられている調査方法を尊重し、まずその実態を学ぶこととした。国や地域によっては、回収データの質の低さの点で、これまで我々が遂行してきた国や地域と比較して、統計的方法論や実践的手続きなどの諸問題に憂いを抱かざるを得ないところもあるが、普段、そのような方法で得られた世論調査の結果で当該国の政治や経済が動いているのだとしたら、それは尊重しなければならない。しかし、調査研究者としてはそのようなデータの中から、いかに信頼できる情報を抽出できるか考えていかねばならない。

また質問項目の選定にしても、目前の多様な問題解決へ直ちに繋がるような調査項目の選定は容易ではない。単一の質問項目で皮相的な「信頼感」などを比べるのではなく、複数の質問項目群の内在的連関を多次的に解析し、意識の基底構造の中での本当の信頼感を探り、人々や国々との間の信頼感の醸成への手掛かりを探索的に解明していくことが肝要であろう。国際比較としての観点からは、実際の調査では避けられない各国・各地域の言語の差異、調査方法の差異なども考慮し、単純に回答分布の皮相な数字の大小比較ではなく、今後収集されていく他の関連諸国・地域の調査データや資料、情報とともに、慎重に時間をかけて安定したパターン構造を浮かび上がらせるような分析がなされて行くべきである。

われわれの調査チームは、データ解析の試行錯誤の繰り返しを継続している最中であり、明確な結論のようなことを提示するには、まだ遠い。しかし、その中で、皮相的に各国の信頼感を論じたり、価値観の差を強調し国際間の緊張を高めたりするよりは、洋の東西や時代を越えた「家族の大切さ」や「親孝行、親への愛情と尊敬」という普遍的価値の深層構造を念頭に、その上で各国・地域の政治や経済の在り方の表層的な差を眺めた方が、世界の平和と繁栄に繋がるであろうとの認識を深めている。

本報告書は、国内外の多くの方々に速やかに基本情報をまとめたものを提供すべく刊行しているものである。最新の解析結果は、学術誌 *Behaviormetrika* (Vol.42, No.2 予定) 等に刊行準備中である。世界の官民学の方々の御利用に供し、建設的な議論や政策立案に繋がることに多少とも寄与することがあれば、真に幸いである。

(文責 吉野諒三)

※注意 1. 2004-2009 年度の「環太平洋価値観国際比較調査」に関して、同調査がインドを含めていたため、過去の報告書や論文等で「アジア・太平洋価値観比較調査」の名称が用いられていた場合があったが、3 つの関連する調査を明確に区別するために以下のように正式名称を定めることとした。

- ・「東アジア価値観国際比較調査」(2002-2005 年度)
- ・「環太平洋価値観国際比較調査」(2004-2009 年度) (注.科学研究費プロジェクトとしては 2006-2009 年度)
- ・「アジア・太平洋価値観国際比較調査」(2010 年度-2014 年度)

謝辞

本研究は日本学術振興会による科学研究費補助金・基盤研究 S（課題番号 No.22223006、研究代表 吉野諒三）の御支援により遂行されている。

今回のアジア・太平洋価値観国際比較調査は、これまでの一連の調査研究の延長線上にあり、これらの研究は、文部科学省研究振興局学術研究助成課、機関課、情報課、日本学術振興会、トヨタ財団、日本財団、笹川財団をはじめ、官民の多くの方々や団体の御支援を得て遂行されたものであり、深く感謝いたします。

The Asia Pacific Values Survey

--- Cultural Manifold Analysis (CULMAN) on Peoples' Sense of Trust ---

Ryozo Yoshino

Director of Survey Science Center

The Institute of Statistical Mathematics

10-3 Midori-cho, Tachikawa-shi, Tokyo, Japan 106-8562.

1. Introduction

This is the Summary Report “the Asia-Pacific Values Survey” (2010-2014 fiscal years) by the cross-national survey team of the Institute of Statistical Mathematics (Chief Ryozo Yoshino), with the financial support by the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS): Grant-in-Aid for Scientific Research (S) No.22223006. We are developing this study in order to exemplify practical research of a new methodology for cross-national comparative survey, called CULMAN (Cultural Manifold Analysis) (Yoshino, 2005, 2014; Yoshino, Nikaido & Fujita, 2009). It is part of the broader research project that is meant to build on and expand the two predecessor projects: the East Asia Values Survey (2002-2005), and the Pacific-Rim Values Survey (2006-2009). In 2010, we conducted fieldwork for the surveys in Japan and the United States, in three locations of the mainland China (Beijing, Shanghai and Hong Kong) and Taiwan in 2011, Australia, Singapore and South Korea in 2012, and India and Vietnam in 2013. We carried out these surveys, using the statistical random sampling method appropriate for each location and through face-to-face interviews.

As far as the methodology of public opinion survey is concerned, we have confirmed that the Japanese has an advantage to realize statistically the most rigid and democratic (one vote for each electorate) survey in the world, simply because the census data are reliable and the registration list of all voters and all residents are available for public opinion survey for the government and academic research.

We kept in our mind, however, that we should learn as to the methodology of public opinion survey carried out in each country, rather than imposing the Japanese way upon the other countries. The result of public opinion survey more or less influences each country's economy and politics, whether each country can carry out is statistically rigid survey or not. Thus, we believe that each country's methodology of public opinion survey and its degree of statistical rigidity itself show their economic, political and social conditions, including the degree of democracy.

This brief monograph gives some historical background of the study. On the other hand, we would like to refer readers to Yoshino (2001, 2005c, 2006, 2009, 2014), Yoshino & Hayashi (2001), Yoshino, Nikaido & Fujita (2009), and Yoshino, Shibai, Nikaido & Fujita (in preparation) for more detailed English explanation on the methodologies such as back-translation technique for questionnaire and statistical random sampling, a paradigm of cross-national comparability, etc. As for the information on our past surveys, see a series of

ISM Research Reports published over decades, or our home page of the Institute of Statistical mathematics.

- 1) http://www.ism.ac.jp/~yoshino/corrigenda_e.html for Corrigenda.
- 2) http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index_e.html for our cross-national surveys.
- 3) <http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html> The ISM Survey Research Report.
- 4) http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index_e.html (in English)
- 5) http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html The webpage of ISM survey.
- 6) http://www.ism.ac.jp/ism_info_e/kokuminsei_e.html (in English)

Although our questionnaire covers various topics of daily life, the questionnaire of the APVS includes the following items.

- Items on Sense of Trust • • Q22, 24(Social Support) , Q55 (Social Participation) , Q2, 3 Friendships between states [public opinion & real intension], Q36, 37, 38 (GSS 3 items on interpersonal trust) , Q52 (WVS items on Trust on Organization & Science and Technology)
- Items on the Reason to Live • • • Q8, 51
- Items related to "Ghost Survey" (interest on mystery) • • • Q26, 33, 39,

2. Some History on Our National Character Survey

The Institute of Statistical Mathematics (ISM) has been conducting a longitudinal nationwide social survey on the Japanese national character every five years since 1953, using the same questionnaire items (Mizuno et al., 1992). The survey is called "Nihonjin no Kokuminsei Chosa" (Japanese National Character Survey). Although definition of the term "national character" may be very problematic, here it simply means the characteristic shown in people's response patterns to a questionnaire survey (Hayashi et al., 1998; cf. Inkeles, 1997). The question items cover various aspects of people's opinions about their culture and daily life. This survey was one of the foundations of the public opinion survey system based on the statistical sampling theory developed immediately after World War II in Japan. The significance of this survey was clear at the time when Japan was expected to shift from the military regime to a democratic system in the latter half of 1940s (Yoshino, 1994). This survey stimulated many countries to carry out the same sort of time series surveys such as the World Values Survey, Eurobarometer, General Social Survey (GSS) of USA, ALLBUS of Germany, CREDOC of France, etc. (There was a time that the post-war Japanese democracy had been criticized because it was not democratic from a viewpoint of the Western world. Interestingly, however, Japan conducts public-opinion polls based on statistically ideal sampling using an almost complete residential or voters' list whereas the other countries have to use other methods such as quota sampling or random-route sampling. The latter two sampling methods consider statistical randomness but do not yield the statistical estimate of sampling errors. As far as the system of public-opinion polls is concerned, therefore, Japan may be more democratic than the Western countries in the sense of inclusiveness and representativeness.)

Since 1971, the survey of ISM has been extended to a cross-national comparative study for more advanced understanding of Japanese national character (Hayashi, 1973). The focus of our cross-national surveys is the investigation of the statistical comparison of peoples' social values and their ways of thinking and feeling. More explicitly, our concern has been with cultural identities and people's attitudes toward economy, freedom of speech, interpersonal relationships, leadership, politics, public acceptance of science and technology, religion, social security, etc. These aspects may clarify certain similarities or dissimilarities that are represented by psychological distances between countries or races in certain statistical pattern analyses of responses (Hayashi, 2001a, 2001b; Hayashi et al., 1998; Yoshino, 1994, 2001c).

Table 1. List of the Main Past Surveys on National Character by the Institute of Statistical Mathematics.

1953 - present Japanese National Character Survey (every five years)

- 1971 Americans of Japanese ancestry in Hawaii
- 1978 Honolulu residents, Americans in Mainland USA
- 1983 Honolulu residents
- 1988 Honolulu residents

1987-1993 Seven Country Survey

- 1987 Britain, Germany & France
- 1988 Americans in Mainland USA, Japanese in Japan
- 1992 Italy
- 1993 The Netherlands

1991-1999 Recent Overseas Japanese Surveys

- 1991 Brazilians of Japanese ancestry in Brazil
- 1998 Americans of Japanese ancestry on the U.S. West Coast.
- 1999 Honolulu residents in Hawaii

2002-2005 East Asia Values Survey

(Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, & Singapore)

2004-2009 The Pacific-Rim Values Survey (1st round of The Asia-Pacific Values Survey)

(Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia & India)

2010-2014 The Asia-Pacific Values Survey (2nd round)

(Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia, India & Vietnam)

- 2010 Japan & USA
- 2011 China (Beijing, Shanghai, & Hong Kong) and Taiwan
- 2012 Singapore, Australia, & South Korea
- 2013 India, Vietnam
- 2014 Japan (omnibus), USA (CATI, omnibus)

(All of these are face-to-face surveys based on nationwide statistical random sampling data, except for Hawaii, Brazil, Mainland China, i.e., Beijing and Shanghai [urban areas only], Australia [Queensland, New South Wales, & Victoria], and India [10 major cities].)

Note: Although the Japanese title of the survey project 2004-2009 literally means the Pacific-Rim Values Survey, the title "The Asia-Pacific Values Survey" was occasionally used for the

project in the past English publication, because it covered not only Pacific-Rim Area but India. From now on, we designate **the Pacific-Rim Values Survey** (effectively 1st round of the Asia-Pacific Values Survey) for the 2004-2009 project and **the Asia-Pacific Values Survey** for the 2010-2014 project (effectively 2nd round the Asia-Pacific Values Survey).

The cross-national survey, however, involves particular methodological problems. It is not simple to compare response data collected under different conditions. Different countries may use the same questionnaire but in different languages and employ different statistical sampling methods as well. There is no *a priori* knowledge as to how these different conditions influence peoples' responses even in the case where there is no substantive difference of opinions and social values between peoples (Yoshino, 2001c). Thus, an important problem of our study is to investigate those conditions under which meaningful *cross-national comparability* of social survey data is guaranteed. As our approach towards this problem over decades, we have been developing the methodology called **CLA (cultural link analysis)**. The main components of CLA are 1) a spatial link for cross-national comparison, 2) a temporal link inherent in longitudinal analysis, and 3) an item-structure link inherent in the commonalties and differences in item response patterns within and across different cultures (cf. Guttman, 1972). In CLA we utilize, for example, the back-translation technique and statistical pattern analyses such as Hayashi's Quantification Method (Hayashi, 1992) or Yoshino's (1992a, 1992b, 1994, 2001c) Super-culture Model. The utilization of those pattern analyses consists of an important part of our methodology. Namely, although a simple cross-national tabulation of people's responses with respect to a single item may not be reliable because people's responses may occasionally be sensitive to slight differences in the wording of certain questions, certain pattern analyses or scaling on a set of items can be reliable. (See Yoshino & Hayashi [2002] for an overview on our approach.)

On the other hand, in this cross-national study, we have found some response tendencies particular to certain countries. For example, the Japanese tend to avoid polar answer categories and to choose intermediate categories, whereas the French generally tend to give negative responses to any question. (Here I may be exaggerating these tendencies to make the points clearer.) I think that we should consider these response tendencies when we analyze not only people's sense of trust but public opinion polls or social survey data in general.

See Hayashi (2001a, 2001b), Hayashi et al. (1998), Yoshino (1994, 2001c, 2002, 2005, 2006, 2009), Yoshino & Hayashi (2002), Yoshino, Nikaido & Fujita (2009), and Yoshino, Hayashi & Yamaoka (2010) for results of our cross-national surveys.

3. Japanese national character survey (1953-present)

Our longitudinal survey of Japanese national character shows some stable aspects of attitudes and social values of the Japanese (Hayashi & Kuroda, 1997; Yoshino, 1994). Among others, the stability of certain interpersonal attitudes and religious attitudes may distinguish the Japanese from other countries. Namely, the Japanese show a higher score on

the “Giri-Ninryo (a sort of conflict between obligation and heart) scale” than the other countries. Moreover, while only one third of the Japanese have religious faith, but more than 60% of the Japanese support the opinion that religious attitudes are important (Yoshino & Hayashi, 2002; Yamaoka, 2000).

I will briefly explain certain fundamental dimensions of the Japanese social values as follows.

Fundamental dimensions of the Japanese social values

Hayashi (1993) has identified two important dimensions that underlie the Japanese national character in the survey. That is, 1) the dimension of interpersonal relationships (“Giri-Ninryo” attitude, or a complicated sense of humanity and obligation that is particular to the Japanese interpersonal relationships) and 2) the dimension of a modern-traditional contrast in their way of thinking. On one hand, as mentioned before, the Japanese interpersonal attitude has been stable, at least over the last half century, and probably for much longer than our longitudinal survey. This corresponds to the first dimension. On the other hand, for over 100 years since the Meiji Restoration in 1868, Japan has been doing her best to overtake Western science and technology and to develop it into a Japanese adaptation. Probably this enduring effort has underlined the dimension of the tradition vs. modernity orientation in the Japanese way of thinking.

However, the Japanese way of thinking has been gradually changing, and there appeared a generation gap between people of 20-24 years old and those older than 25 years in our survey of 1978 (note that the younger generation was born more than 10 years after the end of World War II. In 1956, the economic white paper declared, “Japan is no longer in the post-war condition,” and this symbolized the start of the high-speed development of industry and economy. On the other hand, however, Japan had to face many social problems concerning pollution because of the high-speed industrialization around 1970. Since the signs of the younger generation’s changes appeared as early as 1978, their current way of thinking has become more complicated than ever.

Furthermore, the Japanese have been in the confusion of the transition period from the established social system to a system of a highly advanced information age. In this confusion, a Central Research Services, Inc. (2000) survey reported the majority of Japanese people’s distrust toward traditional systems such as banking, bureaucracy, as well as of congressmen, police, etc., in spite of the stereotype of the Japanese as a highly trustful nation (Fukuyama, 1995).

4. The World as a Cultural Manifold

The 20th century was the time of expansion of Western civilization. Differences of cultures occasionally prevented us from our understanding each other. In this time of globalization, I would like to emphasize the fact that there are various ways of successful social development, therefore, we should not impose one’s own social value on any other country if we intend to develop a peaceful world.

The globalization necessarily changes some institutional systems and customs towards more universal ones under the influences of transnational exchange or trade. On the other hand, some other systems are becoming more and more sensitive to cultural differences, as a reaction to the globalization.

In order to facilitate the mutual understanding between the East and the West, we need to keep in mind the differences of social values between them. The study on the scale of trust (Yoshino, 2005, 2006, 2008) may caution us on the applicability of a certain “single” scale invented by the Western cultures to the Eastern cultures, or vice versa. For example, it is not always the case in Asia that “the distrust is a culture of poverty” as Banfield (1958) once mentioned. A Chinese proverb says that “Fine manners need a full stomach” (or “The belly has no ears”), but another says “Be contented with honest poverty.” Gallup (1977, p.461) reported that they could not find a very poor but still happy people in their global survey. I think that they missed the reality. For example, Brazilians were very optimistic even when Brazil fell down to the worst debtor nation in the world (Inkeles, 1997). Inglehart reported a correlation of .57 between economic development and life satisfaction for some 20 countries surveyed in 1980s (Inkeles, 1997, pp. 366-371). But the life satisfaction of Japan in the 1980’s was lower than the years around 2000, although Japan was close to the top of the world economy in those days and now she has suffered from depression over two decades. Thus, we need scales constructed from various perspectives of social values in order to understand various cultures in the age of globalization.

Although China had so many battles between small countries (within the area corresponding to the modern China) over thousands of years in their history, once they were synthesized as a large empire such as Tang Dynasty, their government employed peoples of various races as high-class bureaucrats. This used to be the main factor to successfully develop and maintain a large empire and their culture, often over centuries. This is analogous to the Roman Empire, but it is contrastive to the modern Western countries (and Japan during WWII) that colonized Asian and African countries in the 19th and 20th centuries. The history shows that trust between different races changes according to social conditions in the short run, although it is relatively stable over time.

After our previous China survey (China 2001 survey [Yoshino, 2006]), there occurred the problem of SARS spreading from Guang-Zhou in China. People inside and outside of China criticized the local governments, suspecting that they attempted to hide the serious conditions. This seems to suggest a significant change of China, from secretive attitude to more open attitude for every matter. The secretive attitude was linked to the system of severe punishment on political responsibility. The open attitude is a key to democracy that is necessary for successful capitalism. The then mayor of Beijing got fired because of his mishandling of SARS. The government started encouraging people to inform of the presence of patients. This situation seems to show that China is changing rapidly, but in a Chinese way. Here it may be important to quote Dogan (2000)’s

statement“... Erosion of confidence is first of all a sign of political maturity. It is not so much that democracy has deteriorated, but rather the critical spirit of most citizens has improved...”

In spite of still prevailing confusion in East Asia (actually in the entire world), I hope that East Asia will advance towards the peaceful development without serious conflicts. For the mutual understanding among Asian countries, one should keep in mind their ways of thinking such as “Mentsu (face)” and “Honne and Tatemaie (a difference between words and actual intensions)” of the Chinese, the Japanese, and the Korean. This is also the case with the Asian countries for their understanding of the West.

Once upon a time, Weber (1904-05) argued that Asian countries were not able to develop capitalism in his theory on religion and capitalism. Now we know so many counter-examples such as Japan, Korea, NIES, and China, against his argument. Some people argued that the Japanese adaptation of Confucius philosophy adapted to Japan functioned as a replacement of Protestant ethics and led Japan to a successful development of capitalism (Morishima, 1984). But the past decades have seen many examples to show that economic success is not linked to a particular ethics, ideology or religion. Now we have more and more data to consider the relationships between economic development, social systems and social values because of the rapid change of social systems in many countries of the world than before.

In 2010 spring, we started a new project “The Asia-Pacific Values Survey” and carried out a nationwide face-to-face survey in Japan and USA during November of 2010 to January of 2011. Finally this project has covered all the countries and areas of the previous project “Pacific-Rim Values Survey”, and Vietnam also. (Originally we intended to cover more countries in the South-East Asia, but we have not made it because of difficulties which we faced some political and technical problems in order to carry out statistically rigorous sampling surveys by face-to-face interview.)

We are still struggling on data analyses. For some recent analyses, see a special issue on Bahaviormetrika [scheduled for the issue of 2015 July].

I hope that our survey data will be helpful for further constructive arguments, and the mutual understanding for the peaceful development and economic prosperity of the world.

Ryozo Yoshino

Note 1: For more updated explanation of the history of our surveys and our methodology, see the forthcoming papers of special issue of Bahaviormetrika, among others, Yoshino, Shibai, Nikaido & Fujita (2015, in preparation) and Yoshino (2015, in preparation) .

Note 2: In each country we have employed an area sampling method that accommodates the

specific circumstances and conditions therein, which does differ from the kind of random sampling method used in Japan based as it is on the national residential registry system. It is important for the researchers to grasp the nature of the ground-level operations of actual surveys as they happened, as real-life practice could differ from plans on paper. While we believe this to be no different in Japan too, but the local survey research operators tend to conceal information to the client (i.e., the ISM), both because the relaying of such minute details can be cumbersome, and that it is conceptually difficult to legitimize any discrepancy between theory and actual practice. As far as possible we have goaded the local survey operators to explain and clarify the relations between theory and their actual practice, while appreciating their efforts to overcome the practical and logistical difficulties of carrying out a survey research project. We like to note that there are many revelations and insights that have come to us only in our second and third attempts at survey research in the three countries. We have been reintroduced to the importance of being sensitive to the discrepancy between theory and practice.

Note 3: In the case we find some errors in our reports or data, we will list them in our home page: http://www.ism.ac.jp/~yoshino/corrigenda_e.html, where you can see our past surveys too.

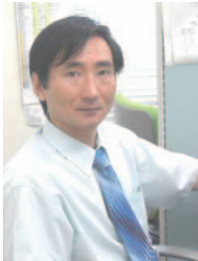
Acknowledgement

This study is financially supported by **the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS): Grant-in-Aid for Scientific Research (S) No.22223006**. We are very grateful for their support over years.

1. 概要 The Objective of This Project

【基盤研究(S)】

人文社会系 (社会科学)



研究課題名 アジア・太平洋価値観国際比較調査 －文化多様体の統計科学的解析

統計数理研究所・データ科学研究系・教授

よしの りょうぞう
吉野 諒三

研究分野：社会学、国際関係論、社会心理学

キーワード：社会調査法、社会集団・社会組織、国際社会・エスニシティ

【研究の背景・目的】

統計数理研究所では、1953年以來、「日本人の国民性」調査を継続してきた。この研究は1970年頃より国際比較調へと拡張され、「連鎖的比較 (Cultural Link Analysis)」や「文化多様体解析 (Cultural Manifold Analysis)」と呼ばれる方法論が発展し、「データの科学」という実践パラダイムの展開へ結びついている。

21世紀初頭の今日、世界秩序の再構成が進み、国家を超えた単位によって構成された国際社会が生まれつつある。それが世界の平和と繁栄へと繋がるためには、国家間、民族間の円滑な相互理解が重要である。その成功のためには、現在の国内外の状況を適確に把握する必要がある。われわれの研究の主目的は、各国の人々の意識構造の統計科学的解明にある。

【研究の方法】

特に、以下 a)～c) に重点をおいて研究を遂行する。

- 文化の伝播変容を統計科学的に解明するため、**アジア・太平洋諸国の人々の意識構造**について統計的標本抽出法に則った面接調査を遂行する。
- 特に、21世紀における国際交流の中で、アジア・太平洋諸国民の「信頼感」のあり方に焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。
- 収集した「アジア・太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査」データとともに世界へ**一般公開**する。

【期待される成果と意義】

日本は少子高齢化社会の中で労働人口が減少し、外国人労働者の積極的受け入れ等を始め、国際交流が必然となろうが、これに伴い、日常生活の中でも異文化間摩擦が様々な形で現われて来るに違いない。また、近年の「東アジア共同体」の具体化に伴う、EUや南北アメリカ圏との国際関係が構想され、異文化間理解、文化変容の研究がま

すますます重要となってくる。

本研究で「アジア・太平洋諸国の国際比較データ」を、統計的に信頼できる方法で収集し公開することで、調査データが広く世界の人々に活用され、国内外での異文化間摩擦を回避し、世界の秩序の維持と発展の一助となり、また、世界の人文社会科学の研究者、統計学者の多様な実証研究をも促進させることを期待する。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

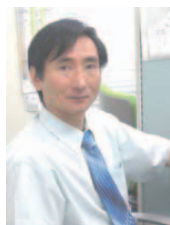
- 吉野諒三. (2005). 東アジア価値観調査－文化多様体解析 (CULMAN) に基づく計量文明論の構築へ向けて. 行動計量学, 32, 1, pp. 133-146.
- 吉野諒三編 (2007). 「東アジア国民性比較－データの科学－」. 勉誠出版.
- Yoshino, R., Nikaido, K., & Fujita, T. (2009) Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character. Behaviormetrika, 36, 2, 89-114.

【研究期間と研究経費】

平成22年度－26年度
114, 100千円

【ホームページ等】

<http://www.ism.ism.ac.jp/~yoshino/>
http://www.ism.ac.jp/souran/kenkyusya/yoshino_ryozo.html



Title of Project : Asia Pacific Values Survey--- Cultural Manifold Analysis (CULMAN) on peoples' sense of trust ---.

Ryoza Yoshino

(The Institute of Statistical Mathematics, Department of Data Science, Professor)

Research Area : sociology, international relations, social psychology

Keyword: : social survey, social organization, national character, ethnicity

【Purpose and Background of the Research】

The Institute of Statistical Mathematics has been conducting a longitudinal nationwide survey on the Japanese national character since 1953. The survey, called "Nihonjin no Kokuminsei Chosa" (Japanese National Character Survey), stimulated many countries to carry out the same sort of time series surveys such as the World Value Survey, Eurobarometer, General Social Survey of USA, ALLBUS of Germany, CREDOC of France, etc. Since 1971, our survey has been extended to a cross-national comparative study for more advanced understanding of Japanese national character. The focus of our cross-national surveys is the investigation of the statistical comparison of peoples' social values and their ways of thinking and feeling: cultural identities and people's attitudes toward economy, freedom of speech, interpersonal relationships, leadership, politics, public acceptance of science and technology, religion, social security, etc. These aspects clarify certain similarities or dissimilarities that are represented by psychological distances between countries in certain statistical analyses of responses.

【Research Methods】

The cross-national survey involves particular methodological problems to compare response data collected under different conditions. Thus, an important problem of our study is to investigate those conditions under which meaningful cross-national comparability of social survey data is guaranteed. As our approach towards this problem over decades, we have been developing the methodologies called CLA (Cultural Linkage Analysis) and CULMAN (Cultural Manifold Analysis). The main components of CLA are 1) a spatial link for cross-national comparison, 2) a temporal link inherent in longitudinal analysis, and 3) an item-structure link inherent in the commonalities and differences in item response patterns within and across different cultures. CULMAN is a development introducing hierarchical structures into the three types of cultural linkages.

【Expected Research Achievements and Scientific Significance】

In CULMAN we utilize the back-translation technique and statistical pattern analyses such as Hayashi's Quantification Method or Yoshino's Super-culture Model. Although a simple cross-national tabulation of people's responses with respect to a single item may not be reliable because people's responses may occasionally be sensitive to slight differences in the wording of certain questions, certain pattern analyses or scaling on a set of items can be reliable.

On the other hand, we have found some response tendencies particular to certain countries. For example, the Japanese tend to avoid polar answer categories and to choose intermediate categories, whereas the French generally tend to give negative responses to any question.

We believe that our methodologies will be useful to analyze not only people's sense of trust but public opinion polls or social survey data in general.

【Publications Relevant to the Project】

Yoshino, R.(ed.) (2007). East Asia Values Survey -- Science of Data. Tokyo: Bensei-syuppan.

Yoshino, R., Nikaido, K., & Fujita, T.(2009). Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character. *Behaviormetrika*, 36, 2, 89-114.

Yoshino, R. (2009) Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character. *Behaviormetrika*, 36, 2, 115-147.

Fujita, T., & Yoshino, R. (2009). Social values on international relationships in the Asia-Pacific region. *Behaviormetrika*, 36, 2, 149-166.

【Term of Project】 FY2010-2014

【Budget Allocation】 114,100 Thousand Yen

【Homepage Address and Other Contact Information】

<http://www.ism.ism.ac.jp/~yoshino/>

http://www.ism.ac.jp/souran/kenkyusya/yoshino_ryoza.html

アジア・太平洋価値観国際比較調査 —文化多様体の統計科学的解析—

Asia Pacific Values Survey— Cultural Manifold Analysis
(CULMAN) on People's Sense of Trust—

吉野 諒三 (YOSHINO RYOZO)

統計数理研究所・調査科学研究センター・センター長・教授



研究の概要

本計画は、アジア・太平洋諸国の人々の意識構造について、「統計的標本抽出法」に則った面接調査を遂行し、特に諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報を与える分析を推進させる。収集した意識調査のデータは、WEB等を利用して世界へ一般公開する。

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：社会調査法、社会集団・社会組織、国際社会・エスニシティ

1. 研究開始当初の背景

統計数理研究所では、1953年以来、「日本人の国民性」調査を継続してきた。この研究は1970年頃より**国際比較調**へと拡張され、「**連鎖的比較 (Cultural Link Analysis)**」や「**文化多様体解析 (Cultural Manifold Analysis)**」と呼ばれる方法論が発展し、「**データの科学**」という実践パラダイムの展開へ結びついている。

21世紀初頭の今日、世界秩序の再構成が進み、国家を超えた単位によって構成された国際社会が生まれつつある。それが世界の平和と繁栄へと繋がるためには、国家間、民族間の円滑な相互理解が重要である。その成功のためには、現在の国内外の状況を適確に把握する必要がある。

2. 研究の目的

われわれの研究の主目的は、アジア・太平洋諸国の人々の意識構造について、「標本抽出法」に則った面接調査を遂行し、特に「信頼感」のあり方について焦点を当てながら、

各国の人々の意識構造を統計科学的に解明することにある。

3. 研究の方法

特に、以下 a)~c)に重点をおいて研究を遂行する。

- a) **アジア・太平洋諸国の人々の意識構造**について統計的標本抽出法に則った面接調査を遂行する。
- b) 特に、アジア・太平洋諸国民の「**信頼感**」のあり方に焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。
- c) 収集した「アジア・太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査」データとともに世界へ**一般公開**する。

4. これまでの成果

平成24年度末までに、日本、米国、中国(北京、上海、香港)、台湾、韓国、シンガポール、オーストラリアで意識調査を遂行している。回収調査データは整備し、基本調査集計データに関しては、整備後速やかに統計数理研究所・調査研究レポートとして刊行配布し、統計数理研究所 WEB 上でも公開し、

官民学の各方面での利用に供している。

この間、各時点での調査データは、既存の関連データとともに解析の試行錯誤を継続している。その成果の一部は、各時点で、各学会の研究発表大会や、関連の研究シンポジウムやワークショップにて講演してきた。

その中で、本研究の主要テーマのアジア・太平洋地域の人々の「信頼感」のあり方を計測する質問項目や尺度に関して、米国のGSS(General Social Survey)対人的信頼感の質問項目群やWVS(World Values Survey)の各組織に対する信頼感の質問項目群など、欧米の既存の質問項目や尺度の限界が改めて浮き彫りになってきた。

これに対し、われわれは人々の「生きがい」や「死生観」に関する質問項目、1980年代に林知己夫や鮑戸弘らによって開発された「おぼけ調査」というニックネームがつけられている人々の深層構造の解明を試みた質問項目群を導入し、国際比較の文脈の中でデータ解析を試行錯誤し始めた。「信頼感」を含め、歴史と文化、宗教や社会が密接に絡み合った様相が、多次元データ解析の中で浮き彫りになりつつある。

5. 今後の計画

平成25年度はインドにおける面接調査を遂行する。他方で、タイ、マレーシア、フィリピン等の東南アジア各国の都市と地方の一部における面接調査を、統計技術的な問題やテロ等の治安問題を勘案しながら、小規模でも可能な範囲で遂行することを検討する。

上記の海外調査に並行して、日本時系列調査として、「第13回日本人の国民性調査」を遂行する。これは、国際比較版

の日本2010調査とリンクさせることにより、調査データの空間的解析と時間的解析の比較の要となる。

最終年度である26年度は、22年～25年度に収集した各国の調査データを総合的に分析し、「アジア・太平洋価値観国際比較調査」最終報告書をまとめ、国内外へ配布する。他方で調査データのコンピューター・ネットワーク等を利用した公開作業を推進させる。

6. これまでの発表論文等(受賞等を含む)

・吉野諒三. 日本行動計量学会・林知己夫賞(功績賞) 2010年9月

・Yoshino, R. On the trust of nations Japan-Russian Joint Workshop Social Trust in Russia and Japanese Contexts. Institute of Social Sciences, Chuo University. (March 27-28, 2013).

・吉野諒三・大崎裕子(2013、印刷中). 「主観的階層帰属意識」, 「満足感」と「信頼感」. 行動計量学.

・吉野諒三・角田弘子(2013). 「人のつながりと広がり---国際比較の視点から」. 「ソーシャル・キャピタルで解く社会的孤立」(稲葉・藤原編) 第1章. ミネルヴェア書房.

・吉野諒三(2012). 特集号「数量化理論の現在」. 「数量化理論と社会調査、そしてそれから」. 社会と調査、9、33-40.

・Yoshino, R. (2012) Reconstruction of Trust on a Cultural Manifold. In Trust: Comparative Perspectives (M. Sasaki & R. M. Marsh [eds.]), 297-346. Brill.

【ホームページ等】

・研究者の紹介

http://www.ism.ac.jp/souran/kenkyusya/yoshino_ryozo.html

・過去の国際比較調査

<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index.htm>

・統計数理研究所・調査研究レポート

<http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html>

・統計数理研究所・調査WEB

http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html

2. 日米における調査票 Questionnaires of Japan 2010 survey and USA 2010 survey

No4997

原版はAサイズ。
The original size is A4.

生活と文化に関する世論調査

(アジア・太平洋価値観国際比較 2010年日本調査)

平成 22 年 12 月

地点番号				対象番号		調査員氏名		点検者氏名	

①～④ ⑦～⑭ ⑮⑯ ⑰～⑳ ㉓～㉔ ㉗～㉘

第1回 () 日		第2回 () 日		第3回 () 日		第4回 () 日	
() 時 () 分頃		() 時 () 分頃		() 時 () 分頃		() 時 () 分頃	
接触状況	対応方法	接触状況	対応方法	接触状況	対応方法	接触状況	対応方法
1. 本人		1. 本人		1. 本人		1. 本人	
2. 家族		2. 家族		2. 家族		2. 家族	
3. 誰も会えず		3. 誰も会えず		3. 誰も会えず		3. 誰も会えず	
第5回 () 日		第6回 () 日		第7回 () 日		第8回 () 日	
() 時 () 分頃		() 時 () 分頃		() 時 () 分頃		() 時 () 分頃	
接触状況	対応方法	接触状況	対応方法	接触状況	対応方法	接触状況	対応方法
⑨ 1. 本人		1. 本人		1. 本人		1. 本人	
2. 家族		2. 家族		2. 家族		2. 家族	
⑩ 3. 誰も会えず		3. 誰も会えず		3. 誰も会えず		3. 誰も会えず	

※訪問時間：24時間制で記入する

⑭～⑰

⑱～㉒

㉕～㉖

※対応方法のコード：下のコードを記入する

- 1 調査完了, 2 在宅時間を聞いた, 3 次回訪問を約束, 4 不在票を使用, 5 不在票は使用せず,
6 調査を拒否された, 7 拒否以外の不能

【自己紹介】 こんにちは (こんばんは)。私は、社団法人 新情報センターからきた「...」と申します (身分証を見せ、調査員の名前をいう)。きょうは (旧文部科学省) 大学共同利用機関法人・情報システム研究機構・統計数理研究所の委託で、世界の人々の生活や文化、意識の比較資料を集めるために、日本での調査にうかがいました。調査の内容は、答えてくださった方々の全体の統計数字のみが使われるだけで、それぞれの個人のご回答はあくまでも秘密厳守され、他の目的に使われることは一切ありません。もし、この規則をわれわれが破ると罰せられることもあるので、絶対に個人情報をもらすことはありませんので、どうぞよろしくご協力お願いいたします。

問 1 【カード1】日本人全体の生活水準は、これから先の5年間によくなると思いますが、それとも悪くなると思いますが。

- 1 非常によくなるだろう 5 非常にわるくなるだろう
2 ややよくなるだろう 8 その他 (記入)
3 変わらないだろう 9 わからない
4 ややわるくなるだろう

⑪

問2 【カード2】 今後、日本のために、一番に友好を深めていくべき国や地域は、次の中ではどこでしょう。1つだけ選んでください。

- | | | | | |
|----|--------------|---------|---------|-----------|
| 1 | アメリカ合衆国 | 6 | シンガポール | |
| 2 | EU (ヨーロッパ連合) | 7 | オーストラリア | |
| 73 | 3 | 中国 (本土) | | |
| 74 | 4 | 韓国 | 8 | その他 (記入) |
| | 5 | インド | 9 | わからない |

問3 【カード3】 もし、もういちど生まれ変われるとしたら、日本以外の国や地域で、次の中ではどこに生まれたいですか。1つだけ選んでください。

- | | | | | | | |
|----|---------|----|----|--------|---------|-----------|
| 1 | 中国 (本土) | 4 | 香港 | 7 | オーストラリア | |
| 73 | 2 | 韓国 | 5 | インド | 8 | その他 (記入) |
| 74 | 3 | 台湾 | 6 | シンガポール | 9 | わからない |

問4 では、もういちど生まれかわるとしたら、あなたは男と女の、どちらに生まれたいと思いますか。

- | | | |
|----|----|-----------|
| 1 | 男に | |
| 2 | 女に | |
| 75 | 8 | その他 (記入) |
| | 9 | わからない |

今度は、家庭や暮らしについておうかがいいたします。

問5 あなたはどちらかといえば、普通より先祖を尊ぶ方ですか、それとも普通より尊ばない方ですか。

- | | | | | | |
|----|-------------|---------------|----|-----------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 8 | 9 | |
| 76 | 普通より
尊ぶ方 | 普通より
尊ばない方 | 普通 | その他 (記入) | わからない |

問6 子供がないときは、血のつながりがない他人の子供を、養子にとって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか。

- | | | | | | |
|----|--------------|---------------|-------|-----------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 8 | 9 | |
| 77 | つがせた方
がよい | つがせる必要
はない | 場合による | その他 (記入) | わからない |

問7 現在、一般的な家庭にとって望ましい子供の数は何人だと思いますか。

- | | | |
|----|------------------------|-------|
| 78 | | 99 |
| 79 | <input type="text"/> 人 | わからない |

問8 【カード4】 一般に、人のくらし方には、いろいろあるでしょうが、次にあるもののうちで、どれが一番、あなた自身の気持ちに近いものですか。(1つ選択)

- 1 あやまちをおかさず、まじめに生きること
- 2 ボランティア活動などをして、社会のためにつくすこと
- 3 一生けんめい働き、金持ちになること
 - 4 まじめに勉強して、名をあげること
- 5 金や名誉を考えずに、自分の趣味にあったくらし方をする事
- 6 その日その日を、のんきにヨクヨシしないでくらすこと
- 8 その他(記入)
- 9 わからない

80

問9 【カード5】 あなたは次のような価値観についてどう思いますか。

	全くそのとお りだと思う	そう 思う	そうは 思わない	決してそう は思わない	その他 (記入)	わから ない
a. 先祖を尊ぶべき	1	2	3	4	8()	9
b. 長男は親の面倒を見るべき	1	2	3	4	8()	9
c. 妻は夫に従う	1	2	3	4	8()	9
d. 親が反対する結婚しない	1	2	3	4	8()	9
e. 年上の人意見従う	1	2	3	4	8()	9
f. 家系を続かせるため息子は必要だ	1	2	3	4	8()	9
g. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべき	1	2	3	4	8()	9

81
82
83

問10a それでは、あなたが一番尊敬する職業は何ですか。(もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す)

(記入)	9 わからない
------	------------

84

b では、あなたが一番信用できないと思う職業は何ですか。(もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す)

(記入)	9 わからない
------	------------

85

問11 【カード6】 実際に今、働いているかどうかは別にして、もしあなたが働いているとした時、あなたの職場では良きリーダーはどんな資質を持っているべきでしょうか。最も重要なものを3つ、次の中から選んでください。(3つ選択)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 技術的に優れていること | 8 判断力が優れていること |
| 2 部下を公平に扱うこと | 9 部下に利益をもたらすこと |
| 3 部下に尊敬され、好かれていること | 10 年功を積んでいること |
| 4 真剣に仕事に取り組むこと | 11 よい階級の出身であること |
| 5 人間関係がよい、顔が広いこと | 88 その他(記入) |
| 6 仕事仲間誠心誠意、接すること | 99 わからない |
| 7 決断力がある、断固としていること | |

86
87

問 12 【カード7】あなたと同年齢の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか。

- ⑨②
- | | |
|--------------|-----------|
| 1 非常に満足している | 4 満足していない |
| 2 満足している | 8 その他（記入） |
| 3 あまり満足していない | 9 わからない |

問 13 【カード8】かりに現在の日本社会全体、ここに書いてあるように5つの層に分けるとすれば、お宅はこのどれにはいると思いますか。

- ⑨③
- | | | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-----|-----------|---------|
| 1 上 | 2 中の上 | 3 中の中 | 4 中の下 | 5 下 | 8 その他（記入） | 9 わからない |
|-----|-------|-------|-------|-----|-----------|---------|

問 14 【カード9】あなたは次のうち、どちらが好ましいと思いますか。

- ⑨④
- | |
|-------------------|
| 1 収入が増えること |
| 2 余暇（自由な時間）が増えること |
| 8 その他（記入） |
| 9 わからない |

問 15 もし、一生、楽に生活できるだけのお金がたまったら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか。

- ⑨⑤
- | | | | |
|---------|-----------|-----------|---------|
| 1 ずっと働く | 2 働くのをやめる | 8 その他（記入） | 9 わからない |
|---------|-----------|-----------|---------|

問 16 【カード10】ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。

あなたは、どれが一番関心がありますか。（1つ選択）

- ⑨⑥
- | |
|------------------------|
| 1 お金のことを気にしないで、すむ程いい給料 |
| 2 倒産や失業の恐れがない仕事 |
| 3 気の合った人たちと働くこと |
| 4 やりとげたという感じがもてる仕事 |
| 8 その他（記入） |
| 9 わからない |

問 17 【カード11】ときどき、自分自身とや家族のことで不安になることもあるかもしれません。

あなたは、次のような危険について不安を感じることがありますか。

- | | 非常
じこる | か感
なじり | 少感
しじは | 全
く
ない
感じ | そ
の
他
（
記
入
） | わな
か
い
ら |
|-------------------------------|-----------|-----------|-----------|--------------------|---------------------------------|-------------------|
| ⑨⑦ a. まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか… | 1 | 2 | 3 | 4 | 8() | 9 |
| ⑨⑧ b. では、「交通事故」についてはどうでしょうか…… | 1 | 2 | 3 | 4 | 8() | 9 |
| ⑨⑨ c. では、「失業」についてはどうでしょうか…… | 1 | 2 | 3 | 4 | 8() | 9 |
| ⑩⑩ d. では、「戦争」についてはどうでしょうか…… | 1 | 2 | 3 | 4 | 8() | 9 |

問 18 【カード 12】 次にあげる生活領域のそれぞれについて、あなたが重要だと思う程度に従って 1～7 の評価をつけてください。

	重要でない						重要	その他	(記入)	(該当せず)
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
a. まず、「あなた自身の家族や子供」に	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ついてはどうですか。										
b. では、「職業や仕事」についてはどうですか。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
c. では、「自由になる時間とくつろぎ」に	1	2	3	4	5	6	7	8	9	(10)
ついてはどうですか。)
d. では、「友人、知人」にわては	1	2	3	4	5	6	7	8	9	(10)
e. では、「両親、兄弟、姉妹、親戚」については	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
f. では、「宗教」については	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
g. では、「教」については	1	2	3	4	5	6	7	8	9	

問 19 【カード 13】 あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか。

1	2	3	4	5	8	9	
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	その他 (記入)	わからない	
							(10)

問 20 【カード 13】 あなたの生活についておきします。ひとくちにいったあなたは今の生活に満足していますか、それとも不満がありますか。

1	2	3	4	5	8	9	
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	その他 (記入)	わからない	
							(10)

問 21 【カード 14】 ここ 1 ヶ月の間ここ次にあげるものに 悩みましたか (かかりましたか)。 (1 つずつ聞く)

	あり	なし
a. 頭痛・偏頭痛・頭が重い	1	2
b. 背中の痛み肩こりや腰痛など)	1	2
c. いらいら	1	2
d. うつ状態 (ゆううつになる、気がふさぐ)	1	2
e. 不眠症 (よく眠れない)	1	2
f. 全身がだるい	1	2
g. 心臓がどきどきしたり、息苦しい	1	2
h. 胃腸の調子が悪い・痛みがある	1	2
i. アレルギーがある	1	2
j. ぜん息、息切れ、せきが出やすい	1	2
k. その他、健康上で何か悩みがありますか	1 (記入)	2 なし
9 わからない		

問 22 【カード 15】 それでは、あなたは悩みごとや重大な相談事を、まずどなたに相談していますか、あるいは、すると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 父親
- 2 母親
- 3 きょうだい
- 4 配偶者やパートナー（夫や妻）
- ⑫⑭ 5、その他の家族や親戚
- ⑫⑭ 6 友人・知人（職場や学校、近所の）
- 7 匿名で相談できるところ（電話やインターネットなど）
- 8 医者など、その問題の専門家（記入）
- 9 その他（記入）
- 10 相談できる人がいない
- 11 特に悩みはない
- 99 わからない

問 23 【カード 16】（要注意：この質問は、明らかに本人や家族が重い病気の場合は質問しないでよい。）

次の問いは重い問題を含みますので、もし、答えたくなければ、答えなくともかまいませんが、一応、読み上げます。答えたくない場合は、おっしゃってください。

万が一、あなたが「ガン」など治療が難しい病気になったときのことをお伺いします。もし、あなた自身がそのような重い病気にかかったとしたら、医者にそれを告げてもらいたいと思いますか、告げてもらいたくはないと思いますか。あなたの気持ちに一番近い意見はどれですか。

- 1 どんな場合でも告げてもらいたい
- ⑫⑭ 2 治癒の可能性の程度（治る見込みの度合い）による
- 3 その他の条件にもよる
- 4 どんな場合でも告げてもらいたくはない
- 7 答えたくない・答えない
- 8 その他（記入）
- 9 わからない

問 24 【カード 17】 あなたのご家族も含めて、あなたの周りには、次にあげたような人がどの程度いらっしゃいますか。次にあげた a～d のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んでください。

	た く さ ん い る	ま あ ま あ い る	ひ い と り だ け	特 に い な い	わ か ら な い
a. 物や金銭を貸してくれたり、手伝ってくれる人……………	1	2	3	4	9
⑫⑭ b. あなたの現在の気持ちや状態を理解してくれている人……………	1	2	3	4	9
⑫⑭ c. 気軽に電話したり、会ったりして相談できる人……………	1	2	3	4	9
d. あなたのことを高く評価していたり、敬意を払ってくれている人…	1	2	3	4	9

問 25 【カード 18】いまの社会で成功している人を見て、その人の成功には、個人の才能や努力と、運やチャンス、あるいは血縁・地縁・学閥などの人のつながりの、どれが一番大きな役割をはたしていると思いますか。(1つ選択)

- 1 個人の才能や努力 2 運やチャンス 3 血縁・地縁・学閥
 などの人のつながり 8 その他(記入) 9 わからない (29)

問 26 【カード 19】世間でときどき話題になることをおうかがいします。このカードにある「超能力」や「空飛ぶ円盤」などについて、あなたはどんな感じをもちますか。1から8までの言葉をよくごらんになって、それぞれについて、あなたの気持ちにもっともピッタリする言葉を1つずつ選んでください。

	つまらない	いあってほしい	いる・ある	おそろしい	いあってほしくない	おもしろい	いばかない・かしい	おそろしくない	その他(記入)	わからない
a. 超能力や念力………	1	2	3	4	5	6	7	8	88 ()	99 (30) (31)
b. 空飛ぶ円盤や宇宙人………	1	2	3	4	5	6	7	8	88 ()	99 (32) (33)
c. 妖怪や鬼………	1	2	3	4	5	6	7	8	88 ()	99 (34) (35)
d. 幽霊や亡霊、人のたたり………	1	2	3	4	5	6	7	8	88 ()	99 (36) (37)

問 27 【カード 20】 こういう意見があります。

「世の中は、だんだん科学や技術が発展して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなって行く」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

- 1 賛成(人間らしさはへる) 8 その他(記入))
 2 反対(人間らしさは不変、ふえる) 9 わからない (38)
 3 いちがいにはいえない

問 28 こういう意見があります。

「国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは、その人達にまかせる方がよい」というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。

- 1 賛成(まかせる) 8 その他(記入))
 2 反対(まかせっきりはいけない) 9 わからない (39)
 3 いちがいにはいえない

問 29 【カード 21】 次の3つの意見の中で、どれが一番あなたの意見に近いですか。

- 1 離婚はすべきではない
 2 ひどい場合には、離婚してもよい
 3 二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい
 8 その他(記入)) (40)
 9 わからない

問 30 【カード 22】 自然と人間との関係について、次のような意見があります。あなたがこのうち真実に近い（ほんとうのことに近い）と思うものを、1つだけ選んでください。

- 1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない
- 2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない
- ④④ 3 人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない
- 8 その他（記入）
- 9 わからない

問 31 【カード 23】 あなたは次の意見の、どちらに賛成ですか。1つだけあげてください。

- 1 個人が幸福になって、はじめて国全体がよくなる
- 2 国がよくなって、はじめて個人が幸福になる
- ④④ 3 国がよくなることも、個人が幸福になることも同じである
- 8 その他（記入）
- 9 わからない

問 32 【カード 24】 こういう意見があります。

「どんなに世の中の機械化や情報化が進んでも、人の心の豊かさ（人間らしさ）はへりはしない」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

- 1 反対（へる）
- 2 賛成（へらない）
- 3 いちがいにはいえない
- 8 その他（記入）
- 9 わからない

問 33 【カード 25】 次にあげるものを、あなたは「ある」または「存在する」と思いますか。それぞれについてお答えください。（1つずつ聞く）

	ある・存在する	あるかもしれない	ない・存在しない	その他（記入）	わからない
④④ a. 神や仏 ……………1	2	3	8 ()	9	
④⑤ b. 死後の世界 ……………1	2	3	8 ()	9	
④⑥ c. 霊魂（たましい） ……1	2	3	8 ()	9	

問 34 【カード 26】 次のうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれとどれにしますか。（この質問では、2つの項目をあげてもらうこと）

	あり	なし
④⑦ a. 親孝行、親に対する愛情と尊敬……………	1	2
④⑧ b. 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する……………	1	2
④⑨ c. 個人の権利を尊重すること……………	1	2
d. 個人の自由を尊重すること……………	1	2
8 その他（記入）		
④⑩ 9 わからない		

問 35 【カード 27】 ある会社に次のような 2 人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長に使われる方がよいと思いますか。どちらか 1 つあげてください。

- 1 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことは人のめんどろを見ません
- 2 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもありますが、仕事のこと以外でも人のめんどろをよく見ます
- 8 その他（記入 _____）
- 9 わからない

152

問 36 さて、たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

- 1 他人の役にたとうとしている
- 2 自分のことだけ考えている
- 8 その他（記入 _____）
- 9 わからない

153

問 37 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

- 1 機会があれば利用しようとしていると思う
- 2 そんなことはないと思う
- 8 その他（記入 _____）
- 9 わからない

154

問 38 たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

- | | | | |
|--------------|----------------|---------------|-------|
| 1 | 2 | 8 | 9 |
| 信頼できる
と思う | 常に用心した
方がよい | その他（記入 _____） | わからない |

155

問 39 【カード 28】 次に、人生や死についての考え方をあげてあります。あなたはどのように思われますか。それぞれについて「そう思う」か「そうは思わない」か、お答えください。

	そう 思う	そうは 思わない	どちらとも いえない	わから ない
a. 自分はなにか大きな見えない力によって「生かされている」という実感がある……	1	2	3	9
b. ある人が、どこで生まれ、いつ死ぬかは、その人の運命によって決まっており、人の力では変えられない……	1	2	3	9
155 c. 人は死んでも、繰り返し生まれ変わるものだ……	1	2	3	9
156 d. 自分が死んでも、自然の一部になって生き続けることができる……	1	2	3	9
e. 人類全体の進歩と幸福のために、自分でできることをやってみたい……	1	2	3	9
f. 自分を犠牲にしても、その人のために尽くしたいと思ったことがある……	1	2	3	9
g. 自分の主義主張のために死ぬことは、立派なことだ……	1	2	3	9
h. 自殺するとき、自分の罪を道連れにする人の気持ちは、よくわかる……	1	2	3	9
i. 恋する者どうしが心中する、ということは美しい……	1	2	3	9

問 40a 【カード 29】 人生の考え方について、次のつの意見のうちどちらがあなたのお考えに近いですか。

- 1 人の運命は決まっており、人の力では変えられない
 2 人生は自分で切り開いていくものだ
 155 8 その他（記入） 9 わからない

【カード 30】

- b では次の2つの意見では、強いて言えば、どちらがあなたのお考えに近いですか。
 1 人生は太く短く生きたい
 156 2 人生は細く長く生きたい
 8 その他（記入） 9 わからない

問 41 【カード 31】 次に読みあげる事柄についてあなたはどのように思いますか。それぞれについて、この中からお答えください。（a～dについてそれぞれ聞く）

- a 病気の中には近代医学とは別の方法で治療した方がよいものもある。
 1 全くそのとおりだと思う 4 決してそうは思わない
 157 2 そう思う 8 その他（記入）
 3 そうは思わない 9 わからない
- b 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる。
 1 全くそのとおりだと思う 4 決してそうは思わない
 158 2 そう思う 8 その他（記入）
 3 そうは思わない 9 わからない

c 今日、我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される。

- | | | |
|---------------|--------------|-------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない | |
| 2 そう思う | 8 その他 (記入) |) 169 |
| 3 そうは思わない | 9 わからない | |

d 将来、科学技術の発展により、火星でも、地球と同じような生活ができるようになる。

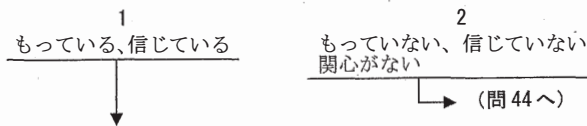
- | | | |
|---------------|--------------|-------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない | |
| 2 そう思う | 8 その他 (記入) |) 170 |
| 3 そうは思わない | 9 わからない | |

問 42 少し話がかわりますが、日本文化ときいて、まず思い浮かべることは何ですか。

(もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す)

(記入)	9 わからない
------	------------

問 43 a 宗教についておききたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか。



b (問 43 a で「1 もっている、信じている」と回答した人に)
それは何という宗教ですか。(1つ選択)

- | | |
|---------------|-------|
| 1 仏教系 | |
| 2 神道系 | |
| 3 キリスト教 | |
| 8 その他の宗教 (記入) |) 171 |
| 9 わからない | |

問 44 それでは、いままでの宗教にはかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか、それとも大切だとは思いませんか。

- | | | | |
|------|---------|------------|---------|
| 1 大切 | 2 大切でない | 8 その他 (記入) | 9 わからない |
|------|---------|------------|---------|

今度は、法律についてお聞きします。

問 45 「法律はどんなときにも守るべきである」という意見と「目的が本当に正しいものだと確信がもてるときには、法律をやぶることもやむをえない」という意見があります。どちらの考えがあなたにぴたりしますか。

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 1 「どんなときにも守るべきだ」という意見 | |
| 2 「目的が正しい時には、法律をやぶることもやむをえない」という意見 | |
| 8 その他 (記入) |) 172 |
| 9 わからない | |

問 46 [カード 32] 契約書というものについて、次のAさんとBさんの意見のうち、あなたはどちらに近い
、ですか。

A 「契約書を取りかわすというのは、お互いに信頼合っていない証拠だ。信頼し合っていれば、
契約書など必要ない」

B 「いくら拙い信頼し合っている、契約は契約として、ちゃん文書を取りかわしておく方が
よい」

- 1 Aの意見に近い
2 Bの意見に近い
8 その他(記入)
9 わからない

問 47 [カード 33] また、次のAさんとBさんの意見では、あなたはどちらに近いですか。

A 「契約書を取りかわすときでも、契約は形式的なものだから、できるだけ簡単にして、契約書の表
現もできるだけ融通がきくようなものにしておく方がよい」

B 「契約書というものは、あとで解釈などをめぐってもめないように、できるだけこまかく具体的に
キチッと決めておく方がよい」

- 1 Aの意見に近い
2 Bの意見に近い
8 その他(記入)
9 わからない

問 48 [カード 34] 環境保護と経済成長について、AとBの2つの意見がよく出されます。どちらがあなた
の考えに近いですか。

A ある程度の公害や環境汚染・自然破壊が伴うことがあっても、経済のゆとりや快適な生活は
大切だと思う

B 公害や環境汚染・自然破壊を抑えるために、経済力が低下し生活が不便になってもよいと思う

- 1 Aの意見に近い
2 Bの意見に近い
8 その他(記入)
9 わからない

次に、政治や今後の日本と世界との関係について、おうかがいします。

問 49 [カード 35] 今後の世界において、日本がすべきとがらについていろいろな意見があります。

この中で、日本にとってもっとも切と思うものを1つだけ選んでください。

- 1 環境問題に積極的に取り組む
2 戦争や地域紛争の解決、難民への支援や平和維持活動を行う
3 科学技術の発展を促進する
4 必要とされる国や地域に、積極的に経済援助をする
5 異なる文化や宗教の間で互いに理解を深めるようにつとめる
8 その他(記入)
9 わからない

問 50 あなたにとって一番大切と思うものはなんですか。(もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す)

(記入)	9 わからない
------	------------

180

問 51 【カード 6】 さて、日頃の生活の中での気持ちを聞かせてください。次のようなことを感じていますか。

	そう思う	まあまあ そう思う	どちらと も言えな い	そうは思 わない	その 他 (記入)	わか らな い
a. 私には心のよりどころ、 ^{はげ} 励みと するものがある……………	1	2	3	4	8 ()	9
b. 今の生活に張り合いを感 じている……………	1	2	3	4	8 ()	9
c. 私世の中や家族のためになる ことをしていると思う……………	1	2	3	4	8 ()	9
d. 私は家族や他人から期待され頼 りにされている……………	1	2	3	4	8 ()	9

181

182

183

問 52 【カード 37】 あなたは、次にあげる組織や制度、事ごらをどの程度信頼しますか。「非常に信頼する」「やや信頼する」「あまり信頼しない」「全く信頼しない」のいずれかでお答えください。

(1つずつ聞く)

	非常に 信頼する	やや 信頼する	あまり 信頼しない	全く 信頼しない	わか らな い
a. 宗教団体……………	1	2	3	4	9
b. 法律や裁判の制度……………	1	2	3	4	9
c. 新聞・テレビ……………	1	2	3	4	9
d. 警察……………	1	2	3	4	9
e. 国の行政……………	1	2	3	4	9
f. 国会……………	1	2	3	4	9
g. NPO・NGO(非営利団体や非政府組織)……………	1	2	3	4	9
h. 社会福祉施設……………	1	2	3	4	9
i. 国連……………	1	2	3	4	9
j. 科学技術……………	1	2	3	4	9

185

186

187

問 53 [カード 38] 現在、世界中にいろいろな宗教があり、宗教間の対立による争いが起こっていますが、これからの世界の人々は、どのようにすべきと思いますか。次のうち、どれがあなたのお考えに近いですか。次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1 世界の人々は、自分の宗教を広めるべき
- 2 世界の人々は、自分の宗教を世界に理解させることに努力すべき
- ⑨⑩ 3 世界の人々は、他のいろいろな宗教を理解することに努力すべき
- 4 世界の人々は、理解するかどうかは別として、 お互いの宗教を尊重すべき
- 8 その他 (記入)
- 9 わからない

問 54 [カード 39] あなたは、次にあげる会や組織に入っていますか。入っているものすべてをお答えください。(いくつでもいいです)

	はい	いいえ
a. 政治関係の団体や会・	1	2
b. 業界団体・同業者団体・	1	2
c. ボランティのグループ・	1	2
⑨⑩ d. 市民運動・消費者運動のグループ・	1	2
e. 宗教の団体や会・	1	2
⑩⑪ f. スポーツ関係のグループやクラブ・	1	2
g. 趣味の会同窓会・老人会・コーラス・写真・山歩きなど)	1	2
h. コンピューターネット上のグループ・	1	2
i. その他 (具体的に)	1 (記入)	2
⑩⑫ 9 わからない		

<フェイス・シート>

(最後に、あなたご自身のことについてお伺いします。)(この部分は回答者本人が記入してもよい。)

F1 [性別]

- | | | |
|----|-----|-----|
| | 1 | 2 |
| ⑩⑫ | 男 性 | 女 性 |

F2 [年 齢] あなたのお年は満でいくつですか。

⑩⑬ ⑭ 歳

- | | | |
|--------------|-----------|------------|
| 1 20~24 歳 | 5 40~44 歳 | 9 60~64 歳 |
| 2 25~29 歳 | 6 45~49 歳 | 10 65~69 歳 |
| ⑩⑮ 3 30~34 歳 | 7 50~54 歳 | 11 70 歳以上 |
| 4 35~39 歳 | 8 55~59 歳 | |

F3〔学歴〕〔カード40〕あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。
 (中退・在学中は卒業としてお答えください。)

- | | | | | | |
|--------------------|--------------|-------------|------------|-------------|-----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 8 | 9 |
| 小学校・中学校
(及び旧高小) | 高校
(及び旧中) | 短大・
専門学校 | 大学・
大学院 | その他
(記入) | わからない・無回答 |

F4〔職業〕あなたのご職は何ですか。

具体的に職名を

- | 自営者 | | | 被傭者 | | | | 家族従業員 | | | 無職 | | |
|-----|---|---|-----|---|---|---|-------|---|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 農 | 商 | 自 | 管 | 専 | 事 | 労 | 農 | 商 | 自 | 無 | 学 | そ |
| 林 | 工 | 由 | 理 | 門 | 務 | 務 | 林 | 工 | 由 | 職 | | の |
| 漁 | サ | 業 | 職 | ・ | 職 | 職 | 漁 | サ | 業 | の | | 他 |
| 業 | ー | | | 技 | | | 業 | ー | | 主 | | の |
| | ビ | | | 術 | | | | ビ | | 婦 | 生 | 無 |
| | ス | | | 職 | | | | ス | | 無 | | 職 |
| | 業 | | | | | | | 業 | | | | |

F5〔世帯収入〕〔カード41〕では、お宅の収入は、ご家族全部合わせて、過去1年間でおよそどれくらいになりましたか。この中ではどうでしょうか。ボーナスも含め税込みでお答えください。

- 1 200万円未満
- 2 200万円400万円未満
- 3 400万円～800万円未満
- 4 800万円～2000万円未満
- 5 1,200万円以上
- 8 回答拒否
- 9 わからない

F6〔同居人数〕今、ごいっしょにお住まいの方は、あなた自身をふくめて、何人でしょうか。

人

99 無回答

F7〔同居形態〕〔カード42〕現在、あなたは誰と一緒に住んでいますか。次から、当てはまるものすべてをお選びください。(いくつでも)

- | | |
|------------------|--------------|
| 1 本人だけ(独り暮らし) | 6 親戚 |
| 2 配偶者(妻、夫、パートナー) | 7 ノルームメイト友人 |
| 3 親 | 8 それ以外の人(記入) |
| 4 兄弟・姉妹 | 9 無回答 |
| 5 子供 | |

ご協力ありがとうございました。

【調査員記入欄】

面接時間

分

原版はA5版。ただし問38（カード28）のみ縦横25cm×21cm
The original size is A5, but it is 25cm×21cm for Card 38.

提示カードは、元は A5 版の各カードを 1 枚ずつ提示した。
ただし、問 38（カード 28）のみ提示リストが長いため、
縦横 25 cm×21 cm とした。

No.4997

【カード1】 問1

- 1 非常によくなるだろう
- 2 ややよくなるだろう
- 3 変わらないだろう
- 4 ややわるくなるだろう
- 5 非常にわるくなるだろう

【カード2】 問2

- 1 アメリカ合衆国
- 2 EU（ヨーロッパ連合）
- 3 中国（本土）
- 4 韓国
- 5 インド
- 6 シンガポール
- 7 オーストラリア

【カード3】 問3

- 1 中国（本土）
- 2 韓国
- 3 台湾
- 4 香港
- 5 インド
- 6 シンガポール
- 7 オーストラリア

【カード4】 問8

- 1 あやまちをおかさず、まじめに生きること
- 2 ボランティア活動などをして、社会のためにつくすこと
- 3 一生けんめい働き、金持ちになること
- 4 まじめに勉強して、名をあげること
- 5 金や名誉を考えずに、自分の趣味にあったくらし方をする事
- 6 その日その日を、のんきにクヨクヨしないでくらすこと

【カード5】 問9

決してそうは 思わない	1	2	3	4
そうは思わない	1	2	3	4
そう思う	1	2	3	4
全くそのとおり だと思う	1	2	3	4

a. 先祖を尊ぶべき.....	1	2	3	4
b. 長男は両親の面倒を見るべき.....	1	2	3	4
c. 妻は夫に従う.....	1	2	3	4
d. 親が反対する結婚はしない.....	1	2	3	4
e. 年上の人の意見に従う.....	1	2	3	4
f. 家系を継がせるため息子は必要だ.....	1	2	3	4
g. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべき.....	1	2	3	4

【カード6】 問11 (3つ選択)

- 1 技術的に優れていること
- 2 部下を公平に扱うこと
- 3 部下に尊敬され、好かれていること
- 4 真剣に仕事に取り組むこと
- 5 人間関係がよい、顔が広いこと
- 6 仕事仲間と誠心誠意、接すること
- 7 決断力がある、断固としていること
- 8 判断力が優れていること
- 9 部下に利益をもたらすこと
- 10 年功を積んでいること
- 11 よい階級の出身であること

【カード7】 問12

- 1 非常に満足している
- 2 満足している
- 3 あまり満足していない
- 4 満足していない

【カード8】 問13

- 1 上
- 2 中の上
- 3 中の中
- 4 中の下
- 5 下

[カード9] 問 14

- 1 収入が増えること
- 2 余暇(自由な時間)が増えること

[カード10] 問 16

- 1 お金のことを気にしないですむ程、よい給料
- 2 倒産や失業の恐れがない仕事
- 3 気の合った人たちと働くこと
- 4 やりとげたという感じもてる仕事

[カード11] 問 17

	非常に感じる	かなり感じる	少しは感じる	全く感じない
a. 重い病気.....	1	2	3	4
b. 交通事故.....	1	2	3	4
c. 失業.....	1	2	3	4
d. 戦争.....	1	2	3	4

[カード12] 問 18

	重要でない							重要						
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
a. あなた自身の家族や子供.....	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
b. 職業や仕事.....	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
c. 自由になる時間とくつろぎ.....	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
d. 友人、知人.....	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
e. 両親、兄弟、姉妹、親戚.....	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
f. 宗教.....	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
g. 政治.....	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7

[カード13] 問19、20

- 1 満足
- 2 やや満足
- 3 どちらともいえない
- 4 やや不満
- 5 不満

[カード14] 問21

- a. 頭痛・偏頭痛・頭が重い
- b. 背中痛み（肩こりや腰痛など）
- c. いらいら
- d. うつ状態（ゆううつになる、気がふさぐ）
- e. 不眠症（よく眠れない）
- f. 全身がだるい
- g. 心臓がドキドキしたり、息苦しい
- h. 胃腸の不調が悪い・痛みがある
- i. アレルギーがある
- j. ぜん息、息切れ、せきが出やすい
- k. その他、健康上の悩み（具体的に ）

[カード15] 問22

- 1 父親
- 2 母親
- 3 きょうだい
- 4 配偶者やパートナー（夫や妻）
- 5 その他の家族や親戚
- 6 友人・知人（職場や学校、近所の）
- 7 匿名で相談できる場所（電話やインターネットなど）
- 8 医者など、その問題の専門家（具体的に ）
- 9 その他（具体的に ）
- 10 相談できる人がいない

[カード16] 問23

- 1 どんな場合でも告げてもらいたい
- 2 治癒の可能性の程度（治る見込みの度合い）による
- 3 その他の条件による
- 4 どんな場合でも告げてもらいたくない

【カード19】 問26

a. 超能力 <small>ESP</small> や念力.....	1	2	3	4	5	6	7	8
b. 空飛ぶ円盤や宇宙人.....	1	2	3	4	5	6	7	8
c. 妖怪や鬼.....	1	2	3	4	5	6	7	8
d. 幽霊 <small>オウレイ</small> や亡霊 <small>ゴースト</small> 、人のたたり...	1	2	3	4	5	6	7	8

つまらない
いてほしい
いてほしい
いる・ある
かわい
あつてほしい
たのしい
おもしろい
いばな
いばな

【カード20】 問27

- 1 賛成 (人間らしさはへる)
- 2 反対 (人間らしさは不変、ふえる)
- 3 いちがいいはいえない

【カード17】 問24

a. 物や金銭を貸してくれたり、手伝ってくれる人.....	1	2	3	4
b. あなたの現在の気持ちや状態を理解してくれている人..	1	2	3	4
c. 気軽に電話したり、会ったりして相談できる人.....	1	2	3	4
d. あなたのことを高く評価していたり、敬意を払ってくれている人.....	1	2	3	4

たくさんいる
まあまあいる
ひとりだけいる
特にない

【カード18】 問25

- 1 個人の才能や努力
- 2 運やチャンス
- 3 血縁・地縁・学閥などの人のつながり

〔カード 21〕 問 29

- 1 離婚はすべきではない
- 2 ひどい場合には、離婚してもよい
- 3 二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい

〔カード 22〕 問 30

- 1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない
- 2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない
- 3 人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない

197

〔カード 23〕 問 31

- 1 個人が幸福になって、はじめて国全体がよくなる
- 2 国がよくなって、はじめて個人が幸福になる
- 3 国がよくなることも、個人が幸福になることも同じである

〔カード 24〕 問 32

- 1 反対（へる）
- 2 賛成（へらない）
- 3 いちがいいにはいえない

198

[カード25] 問33

	ある か 存在 する	ある か もし し れ な い	な い ・ 存 在 し な い
a. 神や仏 ……………1	2	3	
b. 死後の世界 ……………1	2	3	
c. 霊魂（たましい） ……1	2	3	

[カード26] 問34 (2つ選択)

- a. 親孝行、親に対する愛情と尊敬
- b. 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する
- c. 個人の権利を尊重すること
- d. 個人の自由を尊重すること

[カード27] 問35

- 1 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことでは人のめんどろを見ません
- 2 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもあります。仕事のこと以外でも人のめんどろをよく見ます

[カード 28] 問 39

そう思う
そうは思わ
ない

- a. 自分はなにか大きな見えない力によって「生かされている」という実感がある 1 2
- b. ある人が、どこで生まれ、いつ死ぬかは、その人の運命によって決まっておき、人の力では変えられない 1 2
- c. 人は死んでも、繰り返し生まれ変わるものだ 1 2
- d. 自分が死んでも、自然の一部になって生き続けることができる 1 2
- e. 人類全体の進歩と幸福のために、自分のできることをやってみたい 1 2
- f. 自分を犠牲にしても、その人のために尽くしたいと思っただけのことがある 1 2
- g. 自分の主義主張のために死ぬことは、立派なことだ 1 2
- h. 自殺するとき、自分の子供を連れにする人の気持ちは、よくわかる 1 2
- i. 恋する者どうしが心中する、ということは美しい 1 2

[カード 29] 問 40 a

- 1 人の運命は決まっておき、人の力では変えられない
- 2 人生は自分で切り開いていくものだ

[カード 30] 問 40 b

- 1 人生は太く短く生きたい
- 2 人生は細く長く生きたい

〔カード 31〕 問 41 a～d

- 1 全くそのとおりだと思う
- 2 そう思う
- 3 そうは思わない
- 4 決してそうは思わない

〔カード 32〕 問 46

- A 「契約書を取りかわすというのは、お互いに信頼し合っていない証拠だ。信頼し合っていれば、契約書など必要ない」
- B 「いくらお互いに信頼し合っていても、契約は契約として、ちゃんと文書を取りかわしておく方がよい」

〔カード 33〕 問 47

- A 「契約書を取りかわすときでも、契約は形式的なものだから、できるだけ簡単にして、契約書の表現もできるだけ融通がきくようなものにしておく方がよい」
- B 「契約書というものは、あとで解釈などをめぐってもめないように、できるだけこまかく具体的にキチッと決めておく方がよい」

〔カード 34〕 問 48

- A ある程度の公害や環境汚染・自然破壊が伴うことがあっても、経済のゆとりや快適な生活は大切だと思う
- B 公害や環境汚染・自然破壊を抑えるために、経済力が低下し生活が不便になってもよいと思う

- 1 環境問題に積極的に取り組む
- 2 戦争や地域紛争の解決、難民への支援や平和維持活動を行う
- 3 科学技術の発展を促進する
- 4 必要とされる国や地域に、積極的に経済援助をする
- 5 異なる文化や宗教の間でお互いに理解を深めるようにつとめる

	非常に信頼する	やや信頼する	あまり信頼しない	全く信頼しない
a. 宗教団体.....	1	2	3	4
b. 法律や裁判の制度.....	1	2	3	4
c. 新聞・テレビ.....	1	2	3	4
d. 警察.....	1	2	3	4
e. 国の行政.....	1	2	3	4
f. 国会.....	1	2	3	4
g. NPO・NGO(非営利団体や非政府組織).....	1	2	3	4
h. 社会福祉施設.....	1	2	3	4
i. 国連.....	1	2	3	4
j. 科学技術.....	1	2	3	4

- 1 世界の人々は、自分の宗教を広めるべき
- 2 世界の人々は、自分の宗教を世界に理解させることに努力すべき
- 3 世界の人々は、他のいろいろな宗教を理解することに努力すべき
- 4 世界の人々は、理解するかどうかは別として、お互いの宗教を尊重すべき

	そう思う	まあまあ思う	どちらともいえない	そうは思わない
a. 私には心のよりどころ、励みとするものがある.....	1	2	3	4
b. 今の生活に張り合いを感じている.....	1	2	3	4
c. 私は世の中や家族のためになることをしていると思う.....	1	2	3	4
d. 私は家族や他人から期待され頼りにされている.....	1	2	3	4

[カード39] 問54 (いくつでも)

- a. 政治関係の団体や会
- b. 業界団体・同業者団体
- c. ボランティアのグループ
- d. 市民運動・消費者運動のグループ
- e. 宗教の団体や会
- f. スポーツ関係のグループやクラブ
- g. 趣味の会 (同窓会・老人会・コーラス・写真・山歩きなど)
- h. コンピューターネット上のグループ
- i. その他 (具体的に)

207

[カード40] F3 学歴

(中退・在学中は卒業としてお答えください。)

- 1 小学校・中学校 (及び旧高小)
- 2 高校 (及び旧中)
- 3 短大・専門学校
- 4 大学・大学院

[カード41] F5 世帯収入

- 1 200万円未満
- 2 200万円～400万円未満
- 3 400万円～800万円未満
- 4 800万円～1,200万円未満
- 5 1,200万円以上

[カード42] F7 同居形態 (あてはまるものをすべて)

- 1 本人だけ (独り暮らし)
- 2 配偶者 (妻、夫、パートナー)
- 3 親
- 4 兄弟・姉妹
- 5 子供
- 6 親戚
- 7 ルームメイト・友人
- 8 それ以外の人 (具体的に)

208

原版はリーガルサイズ
The original is in the legal size.

4. Questionnaire & Show Cards (reduced size) 調査票と提示カードの縮刷版

The original are legal size and letter size, respectively. (原版はリーガルサイズとレターサイズ)

KANE, PARSONS & ASSOCIATES
765 Amsterdam Ave., #16H
New York, NY 10025
(917) 351-0800

P.N. 3333

ASIA-PACIFIC VALUES SURVEY

INTERVIEWER ID#

--	--	--	--

1-4

(FOR OFFICE USE ONLY)

RECORD GENDER (DO NOT ASK)

Male----- 5-1
Female----- 2

Good morning/afternoon/evening. We are conducting a survey about people's values. The survey is being conducted in a number of countries around the world, including the U.S. I would like to speak to the person in your household aged 18 years or older, who has most recently celebrated his/her birthday. The survey asks questions about daily life, including health, politics, economic/financial issues and religion, among others.

Your participation will be known only to the researcher and your answers will be recorded as part of the aggregate and not identified with you personally. All of the information you provide will be kept strictly confidential. The only time you may hear from us again is to verify that you participated in the survey. As a thank you for your cooperation, we will pay you \$10 in cash.

RECORD START TIME

6,7	8,9

Q.S1 How old are you?

18-19-----	10,11-01	45-49-----	07
20-24-----	02	50-54-----	08
25-29-----	03	55-59-----	09
30-34-----	04	60-64-----	10
35-39-----	05	65-69-----	11
40-44-----	06	70 or older---	12
		Refused/DK----	99

S2. Which of the following racial/ethnic categories best describes you?

White, non-Hispanic-----	12-1	
Black/African-American-----	2	
Hispanic/Latino-----	3	
Asian/Asian-American-----	4	
None of the above (VOL)-----	5	(THANK AND TERMINATE)

Now, let us turn to asking a question about daily life.

[SHOW CARD Q1]

Q.1 Over the next five years do you think your living conditions will get better or worse?

Much better-----	13-1
Slightly better-----	2
About the same-----	3
Slightly worse-----	4
Much worse-----	5
Other (VOL) _____	8
	[PLEASE SPECIFY]
DK-----	9

[SHOW CARD Q2]

Q.2 Which one of the following countries or regions would you like to see develop the friendliest relationship for our own national interest?

EU (European Union)-----	14-1
Japan-----	2
China (Mainland)-----	3
South Korea-----	4
India-----	5
Singapore-----	6
Australia-----	7
Other (VOL) _____	8
	[PLEASE SPECIFY]
DK-----	9

[SHOW CARD Q3]

Q.3 If you could be born again in a country or area other than the United States, which one of the following countries or area(s) would you like to be born in?

Japan-----	15,16-01
China (Mainland)-----	02
South Korea-----	03
Taiwan-----	04
Hong Kong-----	05
India-----	06
Singapore-----	07
Australia-----	08
Other (VOL) _____	88
	[PLEASE SPECIFY]
DK-----	99

Q.4 Now, if you could be born again, would you like to be a boy or a girl?

Boy-----	17-1
Girl-----	2
Other (VOL) _____	8
	[PLEASE SPECIFY]
DK-----	9

Now, I'd like to ask some questions about your family or lifestyle.

Q.5 Would you say you are, on the whole, more or less inclined than the average American to respect your ancestors?

More than the average American-----	18-1
Less than the average American-----	2
Average (VOL)-----	3
Other (VOL) _____	8
	[PLEASE SPECIFY]
DK-----	9

Q.6 If you had no children, would you think it desirable to adopt a child in order to continue the family line, even if there is no blood relationship?

Would adopt-----	19-1
Would not adopt-----	2
Depends on situation (VOL)-----	3
Other (VOL) _____	8
	[PLEASE SPECIFY]
DK-----	9

Q.7 In general, what would you think is the ideal number of children for a family?

	(Record number)
_____	Don't know----- 99
20,21	

[SHOW CARD Q8]

Q.8 There are all sorts of attitudes toward life. Which one of the following statements would you say comes closest to your way of life?

- Lead an honest and ethical life-----22-1
- Make a social commitment by being active in
volunteer work----- 2
- Work hard and get rich----- 3
- Make a name for yourself by studying earnestly---- 4
- Don't think about money or fame; just live a
life that suits your own taste----- 5
- Live each day as it comes, optimistically and
without worrying----- 6
- Other (VOL) _____ 8
- [PLEASE SPECIFY]
- DK----- 9

[SHOW CARD Q9]

Q.9 How do you feel about each of the following traditional values? (READ LINES a. to g.)

	Strongly Agree	Agree	Dis- agree	Strongly Disagree	Other (Specify (VOL))	DK
a. We should respect our ancestors-----	23-1	2	3	4	8()	9
b. The eldest son should look after his aging parents-----	24-1	2	3	4	8()	9
c. A wife should obey her husband-----	25-1	2	3	4	8()	9
d. Not to marry someone whom your parents object to-----	26-1	2	3	4	8()	9
e. We should obey older peoples' opinions----	27-1	2	3	4	8()	9
f. It is important to have a son to keep the family line going-----	28-1	2	3	4	8()	9
g. Men should work outside and women should tend to housekeeping-----	29-1	2	3	4	8()	9

Q.10a What occupation do you respect most? (WRITE DOWN ALL ANSWERS IF THE RESPONDENT GIVES MORE THAN ONE)

Response provided-----30-1
DK----- 9

Q.10b And what is the occupation that you find least trustworthy? (WRITE DOWN ALL ANSWERS IF THE RESPONDENT GIVES MORE THAN ONE)

Response provided-----31-1
DK----- 9

[SHOW CARD Q11]

Q.11 Whether you have a job in a certain workplace or not, what qualifications should good leaders have in your workplace? Please choose the three most important qualifications from among the following. (3 MULTIPLE ANSWERS)

	Yes	No
Technical competence-----	32-1	2
Fair in treating subordinates-----	33-1	2
Being liked and respected by subordinates-----	34-1	2
Serious attitude toward work-----	35-1	2
Have many friends/acquaintances-----	36-1	2
Sincere in attitudes toward co-workers-----	37-1	2
Decisive and determined-----	38-1	2
Good judgment-----	39-1	2
Ability to bring great benefit to subordinates-----	40-1	2
Seniority-----	41-1	2
Come from good family background-----	42-1	2
Other (VOL) _____	43-1	2
[PLEASE SPECIFY]		
DK-----	44-1	2

[SHOW CARD Q12]

Q.12 For your age, how satisfied are you with your health?

Very satisfied-----	45-1
Fairly satisfied-----	2
Fairly dissatisfied-----	3
Very dissatisfied-----	4
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q13]

Q.13 Using the classifications on this card, how would you classify your current standard of living?

Upper-----	46-1
Upper middle-----	2
Middle-----	3
Lower middle-----	4
Lower-----	5
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q14]

Q.14 If you had to choose one, which would you prefer, more money or more free time?

More money-----	47-1
More free time-----	2
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

Q.15 If you were to get enough money to live as comfortably as you would like for the rest of your life, would you continue to work or would you stop working?

Continue to work-----	48-1
Stop working-----	2
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q16]

Q.16 Here are some of the things people usually take into account in relation to their work. Which one would you personally place first? (PLEASE SELECT ONLY ONE)

- A good income so that you do not have any worries about money-----49-1
- A safe job with no risk of closing down or unemployment----- 2
- Working with people you like----- 3
- Doing an important job which gives you a feeling of accomplishment-- 4
- Other (VOL) _____ 8
- [PLEASE SPECIFY]
- DK----- 9

[SHOW CARD Q17]

Q.17 People feel uneasy about themselves or their family members from time to time. To what extent do you worry, either for yourself or for your family, about each of the following? Would you say very much, somewhat, slightly, or not at all? (READ ITEMS a. THROUGH d.)

	Very Much	Somewhat	Slightly	Not At All	Other (Specify) (VOL)	DK
a. Serious illness-----	50-1	2	3	4	8()	9
b. Car accident-----	51-1	2	3	4	8()	9
c. Unemployment-----	52-1	2	3	4	8()	9
d. War-----	53-1	2	3	4	8()	9

[SHOW CARD Q18]

Q.18 By using the scale of 1 to 7, where '7' is "very important," and '1' is "not important at all," can you tell me how important each of the following is to you? (READ ITEMS a. THROUGH g.)

	Not Important At All			Very Important				Other (Specify) (VOL)	DK/NA
a. Your immediate family members such as spouse and children, if you have any-----	54-1	2	3	4	5	6	7	8()	9
b. Career and job-----	55-1	2	3	4	5	6	7	8()	9
c. Free time and relaxation-----	56-1	2	3	4	5	6	7	8()	9
d. Friends and people you know-----	57-1	2	3	4	5	6	7	8()	9
e. Parents, brothers, sisters, and other relatives-----	58-1	2	3	4	5	6	7	8()	9
f. Religion-----	59-1	2	3	4	5	6	7	8()	9
g. Politics-----	60-1	2	3	4	5	6	7	8()	9

[SHOW CARD Q19]

Q.19 All things considered, how satisfied are you with your family life - the time you spend and the things you do with members of your family? Just call off the number which comes closest to your feelings.

- Satisfied-----61-1
- Somewhat satisfied----- 2
- Neither satisfied nor dissatisfied (neutral)----- 3
- Somewhat dissatisfied----- 4
- Dissatisfied----- 5
- Other (VOL) _____ 8
- [PLEASE SPECIFY]
- DK----- 9

[SHOW CARD Q20]

Q.20 Now I would like to ask about your life as a whole. How satisfied are you with your life as a whole these days? Which number on this card comes closest to your feelings?

Satisfied-----	62-1
Somewhat satisfied-----	2
Neither satisfied nor dissatisfied (neutral)-----	3
Somewhat dissatisfied-----	4
Dissatisfied-----	5
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q21]

Q.21 During the last four weeks, have you suffered from any of the following? (READ EACH ITEM FROM a. TO k.) (MULTIPLE RESPONSE)

	Yes	No
a. Headaches/migraines-----	63-1	2
b. Backaches (including stiff shoulder, lower back pain)-----	64-1	2
c. Nervousness-----	65-1	2
d. Depression (feeling down constantly)-----	66-1	2
e. Insomnia (sleeplessness)-----	67-1	2
f. Lassitude (lack of energy, feeling lethargic)---	68-1	2
g. Chest pains or heart palpitations-----	69-1	2
h. Stomachache or digestive distress-----	70-1	2
i. Allergy-----	71-1	2
j. Asthma, coughing or breathing difficulties-----	72-1	2
k. Please tell us if you have any other health-related problems-----	73-1	2
_____ [PLEASE SPECIFY]		
DK-----	74-1	2

[SHOW CARD Q22]

Q.22 Whom would you go to for advice when you have worries about your personal problems and important matters? Please choose one from among the following.

Father-----	75,76-01
Mother-----	02
Brothers and sisters-----	03
Spouse or partner (wife or husband)-----	04
Other family member or relative-----	05
Friends or acquaintances (in your workplace, school or neighborhood)-----	06
Person to consult anonymously (on the phone or Internet)-----	07
Specialists with expertise in the area you are having difficulty with, such as physicians (SPECIFY)--	08
Other _____	09
[PLEASE SPECIFY]	
I don't have anyone with whom I can confide-----	10
I don't have any problems (VOL)-----	11
DK-----	99

[SHOW CARD Q23]

(NOTE TO INTERVIEWER: DO NOT ASK IF IT IS OBVIOUS THAT EITHER THE RESPONDENT OR HIS OR HER IMMEDIATE FAMILY MEMBER(S) IS/ARE SERIOUSLY ILL.)

Q.23 Please note that you are free to decline to answer this question as it involves some issues of dire gravity.

Suppose you developed cancer or another serious disease that is life-threatening. Would you want your doctor to inform you of it? Which of the following comes closest to your feelings?

- I would like to be informed of it under all circumstances-----77-1
- Depends on the chances of recovery----- 2
- Depends on other conditions and situations----- 3
- I do not wish to be informed under any circumstance----- 4
- Decline to answer (VOL)----- 7
- Other (VOL) ----- 8
- [PLEASE SPECIFY]
- DK----- 9

[SHOW CARD Q24]

Q.24 Including your family members, about how many people can you count on for each of the following? Please use a four-point scale, where 1 means a lot, 2 means some, 3 means one, and 4 means none. How many people in your life will (READ EACH ITEM IN TURN; a. TO d.)

	<u>A Lot</u>	<u>Some</u>	<u>One</u>	<u>None</u>	<u>DK</u>
a. Lend you money, a helping hand, or anything you might need-----	78-1	2	3	4	9
b. Understand your feelings and situation-----	79-1	2	3	4	9
c. Let you call or see them any time to speak freely or seek advice---	80-1	2	3	4	9
d. Highly appreciate and respect you-	81-1	2	3	4	9

[SHOW CARD Q25]

Q.25 If you look at successful people in society today, which one of the following do you think has played the largest part in their success; their ability and effort, luck and change, or relationships through kindred countrymen/countrywomen, and alumni/alumnae (personal connections)? (SINGLE RESPONSE)

- Ability and effort-----82-1
- Luck and chance----- 2
- Relationships through kindred countrymen/countrywomen,
and alumni/alumnae (personal connections)----- 3
- Other (VOL) ----- 8
- [PLEASE SPECIFY]
- DK----- 9

[SHOW CARD Q26]

Q.26 We now would like to ask you some questions about topics that at least some people take seriously. How do you feel about things like 'Supernatural Power' and 'UFO (Unidentified Flying Object)' on this card? Looking at categories 01 to 08 carefully, please choose the one that comes closest to your feeling for each of the following items. (READ ITEMS FROM a. TO d.)

	<u>Boring</u>	<u>Would like To Be</u>	<u>Exist</u>	<u>Dread- ful, Scary</u>	<u>Would Not Like To Be</u>	<u>Inter- est- ing, Amus- ing</u>	<u>Non- sense/ Does Not Exist</u>	<u>Not Dread- ful, Not Scary</u>	<u>Other (VOL) (Specify)</u>	<u>DK</u>
a. Supernatural power or psycho- kinesis-----	83, 84-01	02	03	04	05	06	07	08	88()	99
b. UFO (Unidenti- fied Flying Object) or alien-----	85, 86-01	02	03	04	05	06	07	08	88()	99
c. Goblin or ogre-----	87, 88-01	02	03	04	05	06	07	08	88()	99
d. Ghost or apparition, curse-----	89, 90-01	02	03	04	05	06	07	08	88()	99

[SHOW CARD Q27]

Q.27. Some people say that with the development of science and technology, life becomes more convenient, but at the same time humanity/a lot of human feeling is lost. Do you agree with this opinion or do you disagree?

Agree (Humanity is lost)-----	91-1
Disagree (Humanity is NOT lost)-----	2
Undecided/it depends-----	3
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

Q.28 Some people say that if we get outstanding political leaders, the best way to improve the country is for the people to leave everything to them, rather than for the people to discuss things among themselves. Do you agree with this, or disagree?

Agree-----	92-1
Disagree-----	2
Undecided/it depends (VOL)-----	3
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q29]

Q.29 Which of the statements on this card comes closest to your own opinion about marriage? Just call off the number, please.

Marriage is permanent-----	93-1
Marriage may be broken only under serious circumstances-----	2
Marriage can be broken by simple agreement of the two partners--	3
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q30]

Q.30 Here are three opinions about man and nature on the card. Which one of these do you think is closest to the truth?

In order to be happy, we must follow nature-----	94-1
In order to be happy, we must make use of nature-----	2
In order to be happy, we must conquer nature-----	3
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q31]

Q.31 Please choose from among the following statements the one with which you agree most.

If individuals are made happy, then and only then will the country as a whole improve-----	95-1
If the country as a whole improves, then and only then can individuals be made happy-----	2
Improving the country and making individuals happy are the same thing--	3
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
Don't know-----	9

[SHOW CARD Q32]

Q.32 Some people say that no matter how mechanized and how much advanced information technology the world gets, nothing can reduce the richness of human feelings or one's humanity. Do you agree with this opinion or disagree?

Disagree (Humanity is REDUCED)-----	96-1
Agree (Humanity is NOT REDUCED)-----	2
Can't say one way or another-----	3
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q33]

Q.33 Which, if any, of the following do you believe in? (READ ITEMS a. THROUGH c.)

	Exist	May Exist	Does Not Exist	Other (Specify) (VOL)	DK
a. God, or other deities such as Jesus, Jehovah, Allah, Buddha, etc.-----	97-1	2	3	8()	9
b. Life after death-----	98-1	2	3	8()	9
c. A soul or a spirit-----	99-1	2	3	8()	9

[SHOW CARD Q34]

Q.34 If you were asked to choose the two most important items listed on the card, which two would you choose? (SELECT TWO)

	Yes	No
a. Filial piety/love and respect for parents-----	100-1	2
b. Repaying people who have helped you in the past--	101-1	2
c. Respect for the rights of the individual-----	102-1	2
d. Respect for the freedom of the individual-----	103-1	2
Other (VOL) _____	104-1	2
[PLEASE SPECIFY]		
DK-----	105-1	2

[SHOW CARD Q35]

Q.35 Suppose you are working in a firm. Which of the following department managers would you prefer to work under?

A department manager who always sticks to the work rules and never demands any unreasonable work, but who, on the other hand, never does anything for you personally in matters not connected with work-----	106-1
A department manager who sometimes demands more than what the rules call for but who takes care of you personally beyond the call of his or her responsibility-----	2
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

Q.36 Would you say that most of the time, people try to be helpful, or that they are mostly just looking out for themselves?

Try to be helpful-----	107-1
Look out for themselves-----	2
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

Q.37 Do you think that most people would try to take advantage of you if they got the chance, or would they try to be fair?

Take advantage-----	108-1
Try to be fair-----	2
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

Q.38 Generally speaking, would you say that most people can be trusted or that you can't be too careful in dealing with people?

Can be trusted-----	109-1
Can't be too careful-----	2
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q39]

Q.39 There are some opinions about human life and death on this card. What do you think about each of them? Would you say you "agree", or "disagree"?

	<u>Agree</u>	<u>Disagree</u>	<u>It Depends (VOL)</u>	<u>DK</u>
a. I have a feeling that some invisible power controls my life---	110-1	2	3	9
b. Destiny beyond human power is in force in determining when and where we are born and die-----	111-1	2	3	9
c. One goes through a cycle of rebirths repeatedly after death---	112-1	2	3	9
d. One may keep living as a part of nature even after one dies-----	113-1	2	3	9
e. I'll try everything I can do for the progress and happiness of all humanity-----	114-1	2	3	9
f. There are times when I thought I could devote myself completely to someone else-----	115-1	2	3	9
g. It is respectable to die for one's ideology or principles-----	116-1	2	3	9
h. I can understand why people sometimes involve their children when they commit suicide-----	117-1	2	3	9
i. It is wonderful that lovers carry out a suicide pact-----	118-1	2	3	9

[SHOW CARD Q40a]

Q.40a Which of these outlooks on life is closer to your own opinion?

Destiny cannot be changed, so you must accept your fate-----	119-1
Life can be improved or changed through your own actions-----	2
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q40b]

Q.40b Which of these two contrasting views on life is closer to your own opinion, if you had to choose?

Lead a short but colorful life-----	120-1
Lead a simple but long life-----	2
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q41]

Q.41 Using the answers on this card, please tell me how much you agree or disagree with each one of the following statements. Would you say that (READ OUT STATEMENTS a. THROUGH d.)?

	<u>Strongly Agree</u>	<u>Agree To Some Extent</u>	<u>Disagree To Some Extent</u>	<u>Strongly Disagree</u>	<u>Other (Specify) (VOL)</u>	<u>DK</u>
a. There are some illnesses that are better treated by methods that modern medicine does not recognize-----	121-1	2	3	4	8 ()	9
b. Some day science will permit the complete understanding of the functioning of the human mind-----	122-1	2	3	4	8 ()	9

Q. 41 (Continued)

	Strong- ly Agree	Agree To Some Extent	Dis- agree To Some Extent	Strong- ly Dis- agree	Other (Specify) (VOL)	DK
c. Most of the social and economic problems we face today will be resolved by the advancement of science and technology-----	123-1	2	3	4	8 ()	9
d. At some point in the future, we can live on Mars as we live on the earth today-----	124-1	2	3	4	8 ()	9

Q.42 What first comes to your mind when you think of American culture?
(WRITE DOWN ALL ANSWERS IF THE RESPONDENT GIVES MORE THAN ONE)

Response provided-----125-1
DK----- 9

Q.43a Now I would like to ask you a few questions about religion. Do you have any personal religious faith?

Yes-----126-1 (ASK Q.43b)
No----- 2 (SKIP TO Q.44)

[ASK Q.43b IF YES IN Q.43a - ALL OTHERS SKIP TO Q.44]

Q.43b What is your religion

Buddhism-----127-1
Protestantism----- 2
Catholicism----- 3
Judaism----- 4
Islam----- 5
Hinduism----- 6
Other ----- 8
[PLEASE SPECIFY]
DK----- 9

[ASK EVERYONE]

Q.44 Without reference to any of the established religions, do you think a religious mind is important, or not important?

Important-----128-1
Not important----- 2
Other (VOL) ----- 8
[PLEASE SPECIFY]
DK----- 9

Q.45 Here are two statements that people sometimes make when discussing the law. Which of them comes closer to your opinion?

- (1) "We should always obey the law," or
- (2) "It should be excusable to break a law when we have the confidence that what we are doing is right."

We should always obey the law-----129-1
It should be excusable to break a law when we have the confidence that what we are doing is right----- 2
Other (VOL) ----- 8
[PLEASE SPECIFY]
DK----- 9

[SHOW CARD Q46]

Q.46 Here are two statements about a contract. Which of them comes closer to your own opinion?

- A. "To have a contract constitutes evidence that there is no trust between two parties. There is no need to have a contract if the two parties trust each other"
- B. "No matter how much two parties trust each other, it is better to have a contract"

Closer to A's opinion-----130-1
 Closer to B's opinion----- 2
 Other (VOL) _____ 8
 [PLEASE SPECIFY]
 DK----- 9

[SHOW CARD Q47]

Q.47 Which of the following comes closer to your opinion?

- A. "If you were to have a contract, it is better to keep the contract simple, allowing for its flexibility, because it is a mere formality"
- B. "Contracts should be written clearly, in detail, to avoid the possibility of conflicting interpretations"

Closer to A's opinion-----131-1
 Closer to B's opinion----- 2
 Other (VOL) _____ 8
 [PLEASE SPECIFY]
 DK----- 9

[SHOW CARD Q48]

Q.48 Here are two statements people sometimes make when discussing the environment and economic growth. Which of them comes closer to your own point of view?

- A. "Economic comfort and a convenient lifestyle is important even if it is accompanied by pollution, environmental hazards or the destruction of nature to a certain extent"
- B. "It is okay for economic vigor to decline and to face a less convenient lifestyle in order to control pollution, environmental hazards or the destruction of nature"

Closer to A's opinion-----132-1
 Closer to B's opinion----- 2
 Other (VOL) _____ 8
 [PLEASE SPECIFY]
 DK----- 9

[SHOW CARD Q49]

Q.49 The next question concerns politics as well as the relationships between the United States and the world. There are some opinions as to what the United States should do in the world on this card. Which one do you think is the most important course of action for the United States? (READ THE ITEMS ON THE CARD)

Make positive efforts on environmental issues-----	133-1
)} Resolve regional conflicts, provide assistance to refugees or participate in peacekeeping operations-----	2
Promote scientific and technological development-----	3
Extend economic support to nations and areas that need it-----	4
Promote mutual understanding between different cultures and religions-----	5
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

Q.50 What is the single most important thing in life for you? (WRITE DOWN ALL ANSWERS IF THE RESPONDENT GIVES MORE THAN ONE)

Response provided-----134-1
 DK-----9

[SHOW CARD Q51]

Q.51 Now let me ask you some questions about feelings you have toward your daily life. Do you feel that (READ ITEMS a. THROUGH d.)?

	Very Much	Some- what	Can't Say One Way Or Another	No	Other (Specify) (VOL)	DK
a. I have a belief system that guides my life and encourages me-----	135-1	2	3	4	8()	9
b. I feel like the challenges I face in my life are meaningful-----	136-1	2	3	4	8()	9
c. I am doing something useful for my family or for the world-----	137-1	2	3	4	8()	9
d. My family or others believe I am able to do something important for them-----	138-1	2	3	4	8()	9

[SHOW CARD Q52]

Q.52 How much confidence do you have in the following? For each one, could you tell me how much confidence you have in them? Is it a great of confidence, quite a lot of confidence, not very much confidence or none at all? (READ OUT AND CODE ONE ANSWER FOR EACH)

	A Great Deal	Quite A Lot	Not Very Much	None At All	DK
a. Religious organizations-----	139-1	2	3	4	9
b. The law and the legal system-----	140-1	2	3	4	9
c. The press and television-----	141-1	2	3	4	9
d. The police-----	142-1	2	3	4	9
e. Federal bureaucracy-----	143-1	2	3	4	9
f. Congress-----	144-1	2	3	4	9
g. NPO/NGO (Non-Profit and Non-Governmental Organization)-	145-1	2	3	4	9
h. Social welfare facilities---	146-1	2	3	4	9
i. The United Nations-----	147-1	2	3	4	9
j. Science and technology-----	148-1	2	3	4	9

[SHOW CARD Q53]

Q.53 There are many religions in the world, some of which are in conflict with one another. What do you think we should do? Which one of the following ideas comes closest to your thoughts? (PLEASE SELECT ONLY ONE ANSWER)

Everyone should spread his/her own religious beliefs-----	149-1
We should all try to make others understand our religious beliefs-----	2
We should all try to understand each other's religion-----	3
Regardless of understanding each other's religion, we should all respect each other's religious beliefs-----	4
Other (VOL) _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

[SHOW CARD Q54]

Q.54 To which of the organizations and activities on the Card do you belong or participate? (CHOOSE ALL THAT APPLY)

	<u>Yes</u>	<u>No</u>
a. Political organization or group-----	150-1	2
b. Industrial Association or Chamber of Commerce---	151-1	2
c. Group for volunteer activities-----	152-1	2
d. Group for citizen's or consumer's movements-----	153-1	2
e. Religious organization or group-----	154-1	2
f. Group or club for athletic or sporting activities-----	155-1	2
g. Association or club for hobbies and pastimes (e.g., alumni club, senior citizen's club, choir, group for photography, mountaineering, etc.)-----	156-1	2
h. Group existing on the Internet-----	157-1	2
i. Other _____	158-1	2
[PLEASE SPECIFY]		
DK-----	159-1	2

Demographics

We have now reached the last section of the survey. We would like to ask you a bit about yourself.

[SHOW CARD F3]

F3 What is the highest level of education you completed?

No high school diploma-----	160-1
High school diploma, but no 4-year college/university degree----	2
4-year college/university degree, but no advanced degree-----	3
Advanced degree (masters, doctorate, law, medicine, etc.)-----	4
Other _____	8
[PLEASE SPECIFY]	
DK-----	9

F4a Are you currently (READ CATEGORIES)?

Employed-----	161-1	} (SKIP TO Q.F5)
Retired-----	2	
Unemployed & looking for work----	3	
Student-----	4	
Homemaker-----	5	

[ASK Q.F4b IF EMPLOYED IN Q.F4a - ALL OTHERS SKIP TO Q.F5]

F4b What is your current occupation?

[SPECIFY]: _____

CODE APPROPRIATE RESPONSE: (DO NOT READ)

High status professional (doctor, dentist, lawyer, architect, consultant, psychologist, professor, engineer, etc.)-----	162,163	01
Other professional (teacher, social worker, therapist, etc.)-----		02
High level business executive (CEO, CFO, COO, President, Executive VP, Senior VP, VP, etc.)-----		03
Middle manager (supervisor, director, division head, manager, etc.)-----		04
Small business owner/entrepreneur/shopkeeper-----		05
White collar worker (word processor, secretary, typist, clerk, administrative assistant, computer programmer, etc.)-----		06
Skilled worker (technician, electrician, plumber, carpenter, etc.)-----		07
Blue collar laborer-----		08
Civil servant (policeman, postal worker, fireman, sanitation worker, military, etc.)-----		09
Farmer/fisherman-----		10
Any other not elsewhere classified-----		88

[PLEASE SPECIFY]

[ASK EVERYONE]

[SHOW CARD F5]

F5 Please choose the category on the card within which your total household income for 2010 before taxes (will fall/fell), including any bonuses.

Under \$20,000-----	164-1	\$120,000 or higher-----	5
\$20,000-\$39,999-----	2	Refused (VOL)-----	8
\$40,000-\$79,999-----	3	DK-----	9
\$80,000-\$119,999-----	4		

F6 What is the total number of people in your household, including yourself?

persons

DK/not stated----- 99

[SHOW CARD F7]

F7 Who do you live with in your household now? Please choose as many categories as you like from the following items?

	Yes	No
Only myself (Single)-----	167-1	2
Spouse/partner (wife, husband or partner)-----	168-1	2
Parent(s)-----	169-1	2
Brother(s) and/or Sister(s)-----	170-1	2
Child(ren)-----	171-1	2
Relative(s)-----	172-1	2
Roommate(s)/friend(s)-----	173-1	2
Other -----	174-1	2
[PLEASE SPECIFY]		
DK-----	175-1	2

RECORD FINISH TIME

Sampling Point Number: _____

<u>U.S. Region</u>		<u>U.S. City Size</u>	
New England-----	180,181-01	Urban 500,000+-----	182,183-01
Middle Atlantic-----	02	Urban 100,000-500,000-----	02
East North Central--	03	Urban under 100,000-----	03
West North Central--	04	Urban fringe 50,000+-----	04
South Atlantic-----	05	Urban fringe 25,000-50,000--	05
East South Central--	06	Urban fringe 10,000-25,000--	06
West South Central--	07	Urban fringe under 10,000---	07
Mountain-----	08	Rural-----	08
Pacific-----	09	Misc. other-----	09

Record Respondent Name: _____

Record Respondent Telephone Number: _____

Interviewer Information

Name: _____

ID# _____

184,185

Signature _____

Date _____

SHOW CARD Q1

- 1 Much better
- 2 Slightly better
- 3 About the same
- 4 Slightly worse
- 5 Much worse

202

SHOW CARD Q2

- 1 EU (European Union)
- 2 Japan
- 3 China (Mainland)
- 4 South Korea
- 5 India
- 6 Singapore
- 7 Australia

203

SHOW CARD Q3

- 1 Japan
- 2 China (Mainland)
- 3 South Korea
- 4 Taiwan
- 5 Hong Kong
- 6 India
- 7 Singapore
- 8 Australia

204

SHOW CARD Q8

- 1 Lead an honest and ethical life
- 2 Make a social commitment by being active in volunteer work
- 3 Work hard and get rich
- 4 Make a name for yourself by studying earnestly
- 5 Don't think about money or fame; just live a life that suits your own taste
- 6 Live each day as it comes, optimistically and without worrying

205

SHOW CARD Q9

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
a. We should respect our ancestors	1	2	3	4
b. The eldest son should look after his aging parents	1	2	3	4
c. A wife should obey her husband	1	2	3	4
d. Not to marry someone whom your parents object to	1	2	3	4
e. We should obey older peoples' opinions	1	2	3	4
f. It is important to have a son to keep the family line going	1	2	3	4
g. Men should work outside and women should tend to housekeeping	1	2	3	4

206

SHOW CARD Q11

(3 multi-answers)

- 1 Technical competence
- 2 Fair in treating subordinates
- 3 Being liked and respected by subordinates
- 4 Serious attitude toward work
- 5 Have many friends/acquaintances
- 6 Sincere in attitudes toward co-workers
- 7 Decisive and determined
- 8 Good judgment
- 9 Ability to bring great benefit to subordinates
- 10 Seniority
- 11 Come from good family background

207

SHOW CARD Q12

- 1 Very satisfied
- 2 Fairly Satisfied
- 3 Fairly dissatisfied
- 4 Very dissatisfied

208

SHOW CARD Q13

- 1 Upper
- 2 Upper middle
- 3 Middle
- 4 Lower middle
- 5 Lower

209

SHOW CARD Q14

- 1 More money

- 2 More free time

210

SHOW CARD Q16

- 1 A good income so that you do not have any worries about money

- 2 A safe job with no risk of closing down or unemployment

- 3 Working with people you like

- 4 Doing an important job which gives you a feeling of accomplishment

211

SHOW CARD Q17

	Very Much	Somewhat	Slightly	Not At All
a. Serious illness	1	2	3	4
b. Car accident	1	2	3	4
c. Unemployment	1	2	3	4
d. War	1	2	3	4

212

SHOW CARD Q18

	Not Important At All						Very Important
	1	2	3	4	5	6	7
a. Your immediate family members such as spouse and children, if you have any	1	2	3	4	5	6	7
b. Career and job	1	2	3	4	5	6	7
c. Free time and relaxation	1	2	3	4	5	6	7
d. Friends and people you know	1	2	3	4	5	6	7
e. Parents, brothers, sisters, and other relatives	1	2	3	4	5	6	7
f. Religion	1	2	3	4	5	6	7
g. Politics	1	2	3	4	5	6	7

213

SHOW CARD Q19

- 1 Satisfied
- 2 Somewhat satisfied
- 3 Neither satisfied nor dissatisfied (neutral)
- 4 Somewhat dissatisfied
- 5 Dissatisfied

214

SHOW CARD Q20

- 1 Satisfied
- 2 Somewhat satisfied
- 3 Neither satisfied nor dissatisfied (neutral)
- 4 Somewhat dissatisfied
- 5 Dissatisfied

215

SHOW CARD Q21

- a. Headaches/migraines
- b. Backaches (including stiff shoulder, lower back pain)
- c. Nervousness
- d. Depression (feeling down constantly)
- e. Insomnia (sleeplessness)
- f. Lassitude (lack of energy, feeling lethargic)
- g. Chest pains or heart palpitations
- h. Stomachache or digestive distress
- i. Allergy
- j. Asthma, coughing or breathing difficulties
- k. Please tell us if you have any other health-related problems
(Please specify: _____)

216

SHOW CARD Q22

- 1 Father
- 2 Mother
- 3 Brothers and sisters
- 4 Spouse or partner (wife or husband)
- 5 Other family member or relative
- 6 Friends or acquaintances (in your workplace, school or neighborhood)
- 7 Person to consult anonymously (on the phone or Internet)
- 8 Specialists with expertise in the area you are having difficulty with, such as physicians
(Please specify: _____)
- 9 Other (Please specify: _____)
- 10 I don't have anyone with whom I can confide

217

SHOW CARD Q23

- 1 I would like to be informed of it under all circumstances
- 2 Depends on the chances of recovery
- 3 Depends on other conditions and situations
- 4 I do not wish to be informed under any circumstance

SHOW CARD Q24

	A Lot	Some	One	None
a. Lend you money, a helping hand, or anything you might need	1	2	3	4
b. Understand your feelings and situation	1	2	3	4
c. Let you call or see them any time to speak freely or seek advice	1	2	3	4
d. Highly appreciate and respect you	1	2	3	4

SHOW CARD Q25

- 1 Ability and effort
- 2 Luck and chance
- 3 Relationships through kindred, countrymen/ countrywomen, and alumni/alumnae (personal connections)

SHOW CARD Q26

	Boring	Would like To Be	Exist	Dreadful, Scary	Would Not Like To Be	Interesting, Amusing	Non-sense/ Does Not Exist	Not Dreadful, Not Scary
a. Supernatural power or psycho kinesis	01	02	03	04	05	06	07	08
b. UFO (Unidentified Flying Object) or Alien	01	02	03	04	05	06	07	08
c. Goblin or ogre	01	02	03	04	05	06	07	08
d. Ghost or apparition, Curse	01	02	03	04	05	06	07	08

SHOW CARD Q27

- 1 Agree (Humanity is lost)
- 2 Disagree (Humanity is NOT lost)
- 3 Undecided/it depends

222

SHOW CARD Q29

- 1 Marriage is permanent
- 2 Marriage may be broken only under serious circumstances
- 3 Marriage can be broken by simple agreement of the two partners

223

SHOW CARD Q30

- 1 In order to be happy, we must follow nature
- 2 In order to be happy, we must make use of nature
- 3 In order to be happy, we must conquer nature

224

SHOW CARD Q31

- 1 If individuals are made happy, then and only then will the country as a whole improve.
- 2 If the country as a whole improves, then and only then can individuals be made happy.
- 3 Improving the country and making individuals happy are the same thing.

225

SHOW CARD Q32

1. Disagree (Humanity Is REDUCED)
2. Agree (Humanity Is NOT REDUCED)
3. Can't say one way or another

226

SHOW CARD Q33

	<u>Exist</u>	<u>May Exist</u>	<u>Does Not Exist</u>
a. God, or other deities such as Jesus, Jehovah, Allah, Buddha, etc.	1	2	3
b. Life after death	1	2	3
c. A soul or a spirit	1	2	3

227

SHOW CARD Q34

(Select two)

- a. Filial piety/love and respect for parents
- b. Repaying people who have helped you in the past
- c. Respect for the rights of the individual
- d. Respect for the freedom of the individual

228

SHOW CARD Q35

1. A department manager who always sticks to the work rules and never demands any unreasonable work, but who, on the other hand, never does anything for you personally in matters not connected with work.
2. A department manager who sometimes demands more than what the rules call for but who takes care of you personally beyond the call of his or her responsibility

229

SHOW CARD Q39

	Agree	Disagree
a. I have a feeling that some invisible power controls my life	1	2
b. Destiny beyond human power is in force in determining when and where we are born and die	1	2
c. One goes through a cycle of rebirths repeatedly after death	1	2
d. One may keep living as a part of nature even after one dies	1	2
e. I'll try everything I can do for the progress and happiness of all humanity	1	2
f. There are times when I thought I could devote myself completely to someone else	1	2
g. It is respectable to die for one's ideology or principles	1	2
h. I can understand why people sometimes involve their children when they commit suicide	1	2
i. It is wonderful that lovers carry out a suicide pact	1	2

230

SHOW CARD Q40a

- 1 Destiny cannot be changed, so you must accept your fate
- 2 Life can be improved or changed through your own actions

231

SHOW CARD Q40b

- 1 Lead a short but colorful life
- 2 Lead a simple but long life

232

SHOW CARD Q41a-d

- 1 Strongly Agree
- 2 Agree to Some Extent
- 3 Disagree to Some Extent
- 4 Strongly Disagree

233

SHOW CARD Q46

- A "To have a contract constitutes evidence that there is no trust between two parties. There is no need to have a contract if the two parties trust each other"

- B "No matter how much two parties trust each other, it is better to have a contract"

234

SHOW CARD Q47

- A. "If you were to have a contract, it is better to keep the contract simple allowing for its flexibility because it is a mere formality"

- B. "Contracts should be written clearly in detail to avoid the possibility of conflicting interpretations"

235

SHOW CARD Q48

- A. Economic comfort and a convenient lifestyle is important even if it is accompanied by pollution, environmental hazards or the destruction of nature to a certain extent.

- B. It is okay for economic vigor to decline and to face a less convenient lifestyle in order to control pollution, environmental hazards or the destruction of nature.

236

SHOW CARD Q49

- 1 Make positive efforts on environmental issues
- 2 Resolve regional conflicts, provide assistance to refugees or participate in peacekeeping operations
- 3 Promote scientific and technological development
- 4 Extend economic support to nations and areas that need it
5. Promote mutual understanding between different cultures and religions

237

SHOW CARD Q51

	Very Much	Somewhat	Can't Say One Way Or Another	No
a. I have a belief system that guides my life and encourages me	1	2	3	4
b. I feel like the challenges I face in my life are meaningful	1	2	3	4
c. I am doing something useful for my family or for the world	1	2	3	4
d. My family or others believe I am able to do something important for them	1	2	3	4

238

SHOW CARD Q52

	A Great Deal	Quite A Lot	Not Very Much	None At All
a. Religious organizations	1	2	3	4
b. The law and the legal system	1	2	3	4
c. The press and television	1	2	3	4
d. The police	1	2	3	4
e. Federal bureaucracy	1	2	3	4
f. Congress	1	2	3	4
g. NPO/NGO (Non-Profit and Non-Governmental Organization)	1	2	3	4
h. Social welfare facilities	1	2	3	4
i. The United Nations	1	2	3	4
j. Science and technology	1	2	3	4

239

SHOW CARD Q53

1. Everyone should spread his/her own religious beliefs
2. We should all try to make others understand our religious beliefs
3. We should all try to understand each other's religion
4. Regardless of understanding each other's religion, we should all respect each other's religious beliefs

240

SHOW CARD Q54

(CHOOSE ALL THAT APPLY)

- a. Political organization or group
- b. Industrial Association or Chamber of Commerce
- c. Group for volunteer activities
- d. Group for citizen's or consumer's movements
- e. Religious organization or group
- f. Group or club for athletic or sporting activities
- g. Association or club for hobbies and pastimes (e.g., alumni club, senior citizen's club, choir, group for photography, mountaineering, etc.)
- h. Group existing on the Internet
- i. Other (Please specify _____)

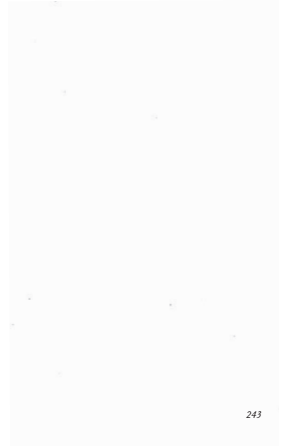
241

SHOW CARD F3

- 1 No high school diploma
- 2 High school diploma, but no 4-year college/university degree
- 3 4-year college/university degree, but no advanced degree
- 4 Advanced degree (masters, doctorate, law, medicine, etc.)

SHOW CARD [Family income] F5

- 1 Under \$20,000
- 2 \$20,000 - \$39,999
- 3 \$40,000 - \$79,999
- 4 \$80,000 - \$119,999
- 10 \$120,000 or higher



SHOW CARD F7

(CHOOSE ALL THAT APPLY)

- 1 Only myself (Single)
- 2 Spouse/partner (wife, husband or partner)
- 3 Parent(s)
- 4 Brother(s) and/or Sister(s)
- 5 Child(ren)
- 6 Relative(s)
- 7 Roommate(s)/friend(s)
- 8 Other (Please specify: _____)

3. アジア・太平洋価値観調査における項目の出典履歴

以下に、2010～2014年度のアジア・太平洋価値観国際比較調査（以下アジア・太平洋調査）における項目の履歴を示す。アジア・太平洋調査は、東アジア価値観国際比較調査（2002-2005年度、以下、東ア調査）とそれを拡大した環太平洋価値観国際比較調査（2004～2009年度、以下、環太平洋調査）の延長上にある。アジア・太平洋の調査票は、主として環太平洋調査日本2004A調査をもとに、いくつかの項目の入れ替え、新問の追加、項目によっては回答カテゴリーを適宜変更したもの（Q2、Q3、Q22、Q43b、Q52等）であり、また各国・地域の翻訳では、回答カテゴリーの尺度表現には程度の差こそあれ、不可避な差違があるもの（Q12、Q41等）もある。アジア太平洋調査の調査票は、環太平洋調査、及びその注意事項にほぼ忠実に依拠している項目が多いが、一方でそれ以外の調査（特に日本癌病態治療研究会[1996]による「日本人の心とガン告知」、兵庫教育大学の平成18年度「生活と文化に関する世論調査」）を参考に、新しく組み込まれた質問項目もある。以下はそれらを踏まえた全質問の出典履歴である。個々の項目の変更に関して、過去の経緯をすべて勘案して簡明に記録することに努めているが、省かれてしまっている可能性には注意する。

なお、各調査で各国語への翻訳は、基本的には、中国語（北京・上海、香港、台湾）や韓国語は日本調査票をもとに、シンガポール、オーストラリア、インド、ベトナムはUSA調査票をもとに作成されているために、しばしば日本版とUSA版とのニュアンスの差違が拡大されている懸念を完全に避けられないことに留意する。（ただし、ベトナム調査では、英語からベトナム語への翻訳とそのバックトランスレーションと並行させて、日本語調査票からの翻訳とバックトランスレーションも行い、対照させて、検討を進めた。）さらに、基本方針としては、過去から複数回の調査にあたる国や地域は、基本的に過去の調査票で用いた質問の表現をそのまま用いることに努めたが、インドなど、後の解析で前回の調査票の表現があまりにも問題があった場合は、大きく修正した場合もあるので留意する。

また、シンガポール調査の中国語版調査票では、字体が同様の北京・上海調査の調査票をベースに作成したが、問10b「信頼できない職業」、問40b「太く短く、細く長く」、問41b「心の解明」などについては、翻訳が日本語版により忠実と思われる台湾調査の調査票の表現を採用した。

※ 以下、文中の「KS」は「日本人の国民性調査」を指し、右端の「04B」は、日本2004A調査と同時期に遂行した日本2004B調査で同じ項目があるものを指す。

※ 韓国2003及び2006調査では、面接調査での慣習として、各質問の冒頭に相手の名前を呼びかけたり、質問文中でも「あなた」の代わりに「相手のフルネーム（様）」を用いた。韓国2012調査も実際にはその慣習に従っているが、調査票では、「あなた」と表現していることに注意。

質問	KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連 調査
問1	#7.31	日本人の国民性 七か国比較・問3 環太平洋・問1	生活水準	KSと七か国比較の「あなたの」を、日本2004Aで「日本人全体の」に変更。アジア・太平洋調査でも「日本（〇〇）人全体の」とした。（例えば、韓国2012では、「韓国人全体の」とした。）ただし、USA2010のみ「your」となっており、回答者個人についての質問であることに注意。	04B
問2	修正	東ア日本02・問44 環太平洋・問2	国際関係 (友好)	【国別で選択肢が異なる質問】 日本2004A以降、「わが国」は「日本」に変更、「中国」は「中国（本土）」に変更、「1つ」をboldにした。 アジア・太平洋調査（Singapore2012除く）では、選択肢に新たに「7. シンガポール」を追加すると共に、「8. 中国、日本、インド、シンガポ	

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連 調査
					ル以外のアジア国家」という表現に修正した。 Vietnam2013の選択肢にロシアと北朝鮮を追加したほうがよいか現地調査会社に訪ねたところ、ロシアはあったほうが良いが北朝鮮は必要ないとの返事だったのでロシアのみ追加。	
問3	修正		東ア日本02・問43 環太平洋・問3	国の親近感 (生まれた い国)	【国別で選択肢が異なる質問】 日本2004A以降、「もういちど」追加、「中国」は「中国（本土）」に変更。 環太平洋調査ではUSA2006のみ選択肢に「10. None」が入っていたが、それ以外の国ではこの選択はなかった（これは作成時のミスと考えられる）。今回のアジア・太平洋調査ではNoneの回答肢を入れないことで統一する。 アジア・太平洋調査から、質問文の「日本（○）以外のアジアの国（地域）」を「日本（○○）以外の国や地域」に変更し、「次の中では」を追加。 アジア・太平洋から選択肢の「フィリピン」を削除して「オーストラリア」を追加（ただしシンガポールおよびインド調査については、環太平洋から「オーストラリア」も選択肢にあり）。また、アジア地域以外の国が回答として挙げられた場合どう対応するか検討されたが、カード上の選択肢に限定することを強調することとした。 問2と同様に、Vietnam2013の選択肢にロシアと北朝鮮を追加したほうがよいか現地調査会社に訪ねたところ、ロシアはあったほうが良いが北朝鮮は必要ないとの返事だったのでロシアのみ追加。	
問4		#6.2	日本人の国民性 東ア日本02・問42b (修正版) 環太平洋・問4	男女の生まれ 変わり (将来)		
問5	修正	#4.11	日本人の国民性 七か国比較A票・問11 東ア日本02・問1 環太平洋・問5	先祖を尊ぶ	日本2004Aの「普通より」は、他の各国では「その国の普通の人々より」に翻訳。 なお、環太平洋の英語版ではUSA2006を含め基本的に、“Would you say you are, on the whole, more inclined than the average 各 国 人 to respect your ancestors or less?” としたが、Australia 2007とIndia2008のみ “Would you say you are, on the whole, more or less inclined than the average 各 国 人 to respect your ancestors?” と質問文が異なることに注意。 アジア・太平洋調査のUSA2010を含む英語表現では、回答選択肢にはmoreとlessが含まれた表現がそれぞれあることを考慮し、Australia 2007とIndia2008の表現を採用した。ただし、北京・上海2011の中国語は日本語からのBT翻訳で、「あなたは普通より」と訳しているが「中国人」という表現はない。香港2011調査票の表現も北京・上海2011に準じ、「香港人」とは表記していない。 また「尊ぶ」という表現については、環太平洋調査の韓国2006では日本語訳に近い「大切に思う」という表現を採用していたが、韓国2012では、意味がより韓国語に近い表現に変更した。したがって、意味は変わらないが、より尊ぶという意味に近い表現に変更することで、両表現の比較を試みた。	04B

質問		KS 国民性調査	関連典拠	トピック	変更内容	関連 調査
					この設問の前に「今度は、家庭や暮らしについておうかがいします。」の一文を入れているが、Singapore2007および2012, Australia2012のみ入っていない。	
問6	修正 注意 事項 あり	#4.10	日本人の国民性 七か国比較A票・問12 東ア日本02・問2 環太平洋・問6	他人の子供 を養子にす るか	<p>環太平洋調査英語版の中で、Australia2007とIndia2008のみ、“Or do you not think this is important?”を削除。（おそらくそれ以外の国の英訳は日本語版からのバックトランスレーション時に足されたと考えられるが、2カ国の調査票作成時では冗長と判断して削除）。</p> <p>アジア・太平洋では、日本2010と北京・上海2011のみ質問文の最後に「それとも、つがせる必要はないと思いますか」の確認文があり、USA2010、香港2011、台湾2011、Australia2012、韓国2012、India2013、Vietnam2013にはない事に留意。Singapore2012では、(USA2010を踏襲した)英語版とタミル語版には確認文がなく、(北京・上海2011を踏襲した)中国語版には確認文がある。質問のニュアンス、バイアスを考慮すると、他の国・地域でも削除すべきではなかった。</p> <p>これまでの韓国2003、韓国2006の結果に基づくと、回答結果が安定していることから、韓国では日本2010のように確認文があった方が自然な表現であると考えられる。ただし、韓国2012では、各国における確認文の有無がもたらす影響を比較するため、日本以外の国や地域と合わせて確認文を取ることにした。</p> <p>また、韓国語における「子供」という表現には、「一般名称としての子供」と「自分の子供」という2つの意味がある。これまでの韓国2003、韓国2006では、「一般名称としての子供」という表現を採用したが、韓国2012では、「自分の子供」という表現に変更した。</p> <p>USA2010では選択肢3“Depends on situation (VOL)”だが、この設問には提示カードもなく選択肢の読み上げもないため調査員への指示は必要ないとの指摘がオーストラリアの現地調査会社からあったため、Australia2012では“Depends on situation”のみとした。</p> <p>Singapore2012の中国語版調査票で（北京2011、上海2011、香港2011、台湾2011同様）「desirable」が「必要」と訳されているのは本来おかしいが、今回はそのままにした。なおシンガポールでも、養子の質問は、「家系をつがせるため」という部分に反応して選択しているのではなく、単に、養子が望ましいか否かに反応しているのであろうとの指摘が現地調査会社からなされた。</p>	
問7		#4.80	日本人の国民性 七か国比較A票・問13 東ア日本02・問3 環太平洋・問7	望ましい子 供の数	USA2006とUSA2010、Australia2007では“for a family”, Australia2012、Singapore2007およびSingapore2012では“in a family”となっている。	
問8	修正	#2.4	日本人の国民性 七か国比較A票・問22 環太平洋・問8	くらし方	<p>KS、七か国比較に対して、「(1つ選択)」追加、カテゴリーと項目順変更。</p> <p>日本2004Bと関連するが、内容は異なる。</p> <p>環太平洋調査の英語版の選択肢1は、USA2006を含め基本的に“Make no offense and lead a serious life”だが、Australia2007とIndia2008では“Resist all evils in the world and live a pure and</p>	04B

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連 調査
					<p>just life”と異なっている。</p> <p>アジア・太平洋のUSA2010ではAustralia2007の表現を引き継いだものが多いが、問8では後者の表現は大袈裟すぎると判断し、環太平洋調査のUSA2006の表現を基準とした。ただし、選択肢1では現地調査会社の提案もあり、Make no offenseという表現を冒頭から省いた。</p> <p>これまでの韓国2003、韓国2006では日本語訳に充実した「どれが一番、あなた自身の気持ちに近いものですか」という表現を採用したが、韓国2012では、現地調査会社の提案に基づき、韓国語で意味を明確に伝えるため、「次のどんな生き方が一番望ましいものだと思いますか」という表現に変更した。</p> <p>Singapore2012では、選択肢1, 2, 4については、USA2010に合わせることとし、Singapore2007から変更した。</p> <p>選択肢6の英語表現は環太平洋およびアジア・太平洋で“Live each day as it comes, cheerfully and without worrying”だが、USA2010のみ“Live each day as it comes, optimistically and without worrying”となっていることに留意。</p>	
問9a			東ア日本02・問50a 環太平洋・問9a	儒教精神 (先祖尊ぶ)		
問9b	修正		東ア日本02・問50b 環太平洋・問9b	儒教精神 (長男が両親の面倒)	<p>本質問は、その他の子供ではなく、特に長男が親の面倒を見るべきであるということを開く項目である。これまでの韓国2003、韓国2006では、日本語訳に充実した「長男は親の面倒を見るべき」という表現を採用した。ただし、表現の語順を逆にした方が、韓国語でより明確に意味が伝わるといふ現地調査会社の提案に基づき、「親の面倒は長男が見るべき」に修正した。</p>	
問9c	修正		東ア日本02・問50c 環太平洋・問9c	儒教精神 (妻は夫に従う)	<p>問9a, b, f, gは、「すべき」という表現だが、その他の問9のc, d, eは、「である」という表現であったため、韓国2012では、問9のc, d, eを「すべき」という表現に揃えた方が良いという現地調査会社の提案を反映した。ただし、これまでの韓国2003、韓国2006の回答結果が安定していることは、過去の調査の表現も質問の文脈から判断できていたことを示唆している。問9のaと同様に、韓国2012では、問9のcを「すべき」という表現に変更した。</p> <p>USA2006調査票の作成段階で間違いがあり、「従う」を“follow”とした。Australia2007の時点でこれに気付き、そのためAustralia2007とIndia2008のみ正しく“obey”となった。</p> <p>アジア・太平洋調査の英語訳表現ではUSA2010を含め、「儒教的」な保守的価値観が明確になるため、“obey”にした。中国語表現もこのニュアンスを強調した表現としている。</p>	
問9d			東ア日本02・問50d 環太平洋・問9d	儒教精神 (親の反対する結婚)	<p>問9のa, b, f, gと同様に、韓国2012では、問9のdを「すべき」という表現に変更した。</p> <p>アジア・太平洋での英語表現は“We should obey older people”だが、USA2010のみ“We should obey older people’s opinion”となっていることに留意。</p>	

質問	KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連 調査
問9e	修正	東ア日本02・問50e 環太平洋・問9e	儒教精神 (年上の人の意見)	問9のa, b, f, gと同様に、韓国2012では、問9のeを「すべき」という表現に変更した。	
問9f		東ア日本02・問50f 環太平洋・問9f	儒教精神 (家系に息子が必要)	USA2010とAustralia2012では(USA2006やAustralia2007を踏襲して)、“It is important to have a son to keep...”との表現だが、Singapore2012では“We need a son to keep...”の方が回答者に分かりやすいとの現地会社の意見を受けて、Singapore2007に引き続き、後者の表現を採用した。	
問9g		東ア日本02・問50g 環太平洋・問9g	儒教精神 (男が働き女は家庭)		
問10a		東ア日本02・問39a 環太平洋・問10a	尊敬する職業	北京・上海2011では「尊敬する」に該当する表現として「称敬的」の表現も検討されたが、環太平洋調査と揃える利点の方が大きいと判断して再度「称敬的」とした。	
問10b	新設		信頼できない職業	香港2011では「最唔可信嘅職業」で、日本語の「最も信頼出来ない職業」の適訳と考えられる。なお、北京・上海2011では現地調査会社との調整の過程で「信頼出来ない」の直訳的な「不可相信的」を考えていたが、現地の事情を考慮して適切ではないとの指摘を受け、新たに「讨厌的」という、実質的には「嫌いな」職業に近い表現とした。だが、台湾2011と香港2011では、「不可信頼」とした。 USA2010では、表現を検討した後、least trustworthyが採用されている。	
問11	#5.25	日本人の国民性 東ア日本02・問52 環太平洋・問11	リーダーの条件	東ア日本02から、KSの選択肢に加えて「部下を公平に扱うこと」「真剣に仕事に取り組むこと」「決断力がある、断固としていること」「判断力が優れていること」「年功を積んでいること」「よい階級の出身であること」を追加し、「若くて有能であること」「その他」「DK」を削除。またKSの選択肢の語尾なども若干修正。 環太平洋調査の日本2004Aで「実際に今、働いているかどうかは別にして、もしあなたが働いているとした時、」を追加し、「(3M.A.)」を「(3つ選択)」に変更。 環太平洋調査の英語版では基本的に“5: Have many friends/acquaintances, 7: Decisive and determined”だが、Singapore2007のみ“5: Good human relations and have a wide acquaintance, 7: Being quick in decision and determined”となっていた。Singapore2012では、現地調査会社の意見を取り入れ、“5: Good human relations and have a wide acquaintance,” “7: Decisive and determined”とした。 Singapore2007のみ選択肢9で“followers”が用いられたが、Singapore2012では、他の英語版に合わせてfollowers→subordinatesに変更。 アジア・太平洋では“Other, DK”を追加。韓国2003、韓国2006のみ“Other, DK”がそもそもあったことから、韓国2012でも同様に“Other, DK”を加	04B

質問	KS 国民性調査	関連典拠	トピック	変更内容	関連 調査
				<p>えた。</p> <p>なお、韓国における「良い出身」という表現から浮かぶイメージについて現地調査会社の担当者に尋ねた。その結果、過去のTK地方、HN地方のように出身地域を思い浮かぶことはほとんどなく、一般論としての良さそうな家庭、高学歴、江南地区のような富裕層が居住している地区の住民というものを想定する可能性が高いとの意見があった。</p>	
問12	#2.3g	日本人の国民性 七か国比較A票・問15 東ア日本02・問5 環太平洋・問12	健康満足	<p>日本2004Aでは「いかがですか」だが、順序尺度の選択肢を考慮すると、「どれくらい満足していますか？」の表現の方が正確と各国で指摘される。日本語ではあまり問題なさそうなので、アジア・太平洋調査の日本2010でもそのままになっている。</p> <p>また、順序尺度の回答選択肢は、英語版に基づいた調査は形式上、満足と不満足の前形容詞veryやfairlyが一致しているが、日本語版に基づいた調査は一致していない。ただし、過去の調査で各国の回答分布を考慮すると、満足感の「心理的な中間」は、選択肢の中間より高い方が回答分布の中間となるので、それを意図して日本語版調査票ができていた。したがって、日本語版調査票に基づき翻訳された韓国2012でも、このままで構わないと判断し、変更しない。</p> <p>ただし、各国の回答分布の比較の差違には、再カテゴリー化などに注意する。</p>	
問13	修正 #1.8	日本人の国民性 七か国比較A票・問16 東ア日本02・問6 環太平洋・問13	社会的階層	<p>【国別質問】</p> <p>環太平洋調査英語版では、USA2006のみに“class”が意図せず付加されてしまっていた。アジア・太平洋調査のUSA2010ではclassの言葉を外した。</p> <p>インドでは“standard of living”という表現に抵抗があるとの指摘を現地会社より受けたため、主観的階層意識の質問として元の英文は不適切と判断した。India2013のみ以下のように変更。</p> <p>Using the classification on this card, how would you classify your current standard of living?</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>Using the classification on this card, what groups do you think belong to?</p>	
問14	#7.81	日本人の国民性 七か国比較A票・問17 東ア日本02・問7 環太平洋・問14	収入と余暇		
問15	#2.8	日本人の国民性 七か国比較A票・問18 東ア日本02・問8 環太平洋・問15	一生働くか	<p>香港2011では「仕事をやめる」の表現が質問文、選択肢2ともに「辞去」で一致しており、この表現が最も望ましいと考えられる。北京・上海2011では質問文が「放棄」、回答肢2が「辞去」となっている。台湾2011は「放棄」で統一されているが、「放棄」では多少表現が強い可能性もある。</p>	
問16	#7.24	東ア日本02・問9 環太平洋・問16	就職の第一条件	<p>環太平洋調査以降、「(1つ選択)」をboldにした。ただしAustralia2012, Singapore2012のみ(1つ選択)が削除されている。</p> <p>India2013の調査票を考察するにあたって、現地調査会社から、問11や問18と比較してもこの質問は現在働いていない人には特に答えにくいとの意</p>	

質問		KS 国民性調査	関連典拠	トピック	変更内容	関連 調査
					見が出た。そのため、調査員指示書に“Respondents need not be working to answer this question. Students, retirees, housewives, etc, should answer this question as if they were working. ”と注意書きを掲載した。	
問17a	変更	#2.30	日本人の国民性 七か国比較A票・問9a 東ア日本02・問10a 環太平洋・問17a	不安感 (重い病気)	Singapore2007中国語版の(選択肢ではなく)設問本文において、「まったく不安ではない」の訳が「非常不安」となっており間違っていた。この点をSingapore2012中国語版では「不会不安」に修正。 日本2002の質問文「～と思います」から日本2004Aで「～かもしれません」に変更。 USA2010, 韓国2012, Vietnam2013のみ“(READ ITEMS a. THROUGH e.)”の指示あり。	04B
問17b	変更	#2.30d	日本人の国民性 七か国比較A票・問9b 東ア日本02・問10b 環太平洋・問17b	不安感 (交通事故)	日本2002の質問文「～と思います」から日本2004Aで「～かもしれません」に変更。	04B
問17c	変更	#2.30e	日本人の国民性 七か国比較A票・問9c 環太平洋・問17c	不安感 (失業)	日本2002の質問文「～と思います」から日本2004Aで「～かもしれません」に変更。 ヒンディー語版では、「失業」よりも「無職」の意味に近い単語に訳されている。その表現が適切といえる完全雇用に近いかつての日本とは異なり、無職状態が常態に近い人々が多いインドの状況を勘案すると、インドの雇用状況、失業率など判断が難しい面もあるが、変更しないこととした。	04B
問17d	変更	#2.30f	日本人の国民性 七か国比較A票・問9d 東ア日本02・問10c 環太平洋・問17d	不安感 (戦争)	日本2002の質問文「～と思います」から日本2004Aで「～かもしれません」に変更。	04B
問17e	注意 事項 あり	#2.30g	日本人の国民性	不安感(原 発事故)	2011年3月11日の東日本大震災に伴う福島第一原発事故を受け、アジア・太平洋調査の北京・上海2011から含めた。質問自体はKSで使用。ただし、 日本2010およびUSA2010調査は事故前だったため含めていない。 香港領内には原発はないが、すぐ北の中国本土沿岸部には存在する。 原子力の不安感の英語表現は、Australia2012, Singapore2012では“Nuclear power accidents”だが、India2013のみ“Accidents of nuclear facilities”が使用されている。日本2010では「原子力施設の事故」、北京・上海・香港・台湾2011では「原子力発電所の事故」としており、軍事施設を含むかどうかが国によって微妙に異なっていることに留意。Vietnam2013では“Accidents of nuclear facilities”の訳語を使用した。	
問18a	修正	#5.81a	日本人の国民性 七か国比較A票・問27a 東ア日本02・問12a 環太平洋・問18a	生活領域の 重要性(家 族や子供)	問18aは回答者の配偶者及び子供を指しており、それ以外の家族は問18eとなる。したがって、aの「家族や子供」を、東アジア調査で使用した表現の「あなた自身の家族や子供」に変更。アジア・太平洋の日本2010から調査員向け指示書に回答者が「自分の家族や子供はいない」と言った場合などは「9. わからない・該当せず」に○を付け、他方で、家族や子供がいなくとも、回答者が重要性の度合い1から7を回答した場合は、その回答を記録するように記した。	

質問	KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容
				韓国2012では、問18の質問本文にある1点から7点までの点数という表現を、1点（重要でない）から7点（重要である）までの点数という表現に変更した。カッコ内の表現を追加した。 USA2010, 韓国 2012, Vietnam2013 のみ“(READ ITEMS a. THROUGH e.)”の指示あり。
問18b	#5.81b	日本人の国民性 七か国比較A票・問27b 東ア日本02・問12b 環太平洋・問18b	生活領域の 重要性（職 業や仕事）	
問18c	#5.81c	日本人の国民性 七か国比較A票・問27c 東ア日本02・問12c 環太平洋・問18c	生活領域の 重要性（自 由時間とく つろぎ）	
問18d	#5.81d	日本人の国民性 七か国比較A票・問27d 東ア日本02・問12d 環太平洋・問18d	生活領域の 重要性（友 人，知人）	
問18e	#5.81e	日本人の国民性 七か国比較A票・問27e 東ア日本02・問12e 環太平洋・問18e	生活領域の 重要性（両 親，親戚）	
問18f	#5.81f	日本人の国民性 七か国比較A票・問27f 東ア日本02・問12f 環太平洋・問18f	生活領域の 重要性（宗 教）	
問18g	#5.81g	日本人の国民性 七か国比較A票・問27g 東ア日本02・問12g 環太平洋・問18g	生活領域の 重要性（政 治）	
問19	#2.3c	日本人の国民性 七か国比較A票・問28 東ア日本02・問13 環太平洋・問19	家庭満足	質問は「満足していますか、それとも不満がありますか」と2択だが、回答選択肢は順位尺度で5つあるのは回答者が混乱しやすい、との指摘が中国現地調査会社からあった。ただし、環太平洋調査との整合性を考え、アジア・太平洋調査でも環太平洋調査のフォーマットを継続して使用する事とした。 環太平洋およびアジア・太平洋調査の英語版は基本的に“1. Satisfied” “5. Dissatisfied”だが、Singapore2007 および Singapore2012 のみ“1. Completely satisfied” “5. Completely dissatisfied”となっている。シンガポールでは（多言語社会のため）明確にする必要があるとの現地調査会社の意見を採用した。 India2013の現地調査会社から、質問文冒頭の“All things considered…”と後半の“the time you spend and the things you do with members of your family?”の組み合わせは理屈として合わないのでは、との指摘があった。日本語の質問は単に「あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか」でもあり、妥当な指摘で英語表現は細かく説明しすぎているとも思われたが、ただし継続性の問題もあり変更しない事とした。x
問20	#2.82	日本人の国民性 七か国比較A票・問29	生活満足	問19と同様。 ただし、香港2006の調査票では選択肢3が「不能

関連
調査

質問		KS 国民性調査	関連典拠	トピック	変更内容	関連調査
			東ア日本02・問14 環太平洋・問20		判断」となっていたが、DKとの区別が分かり難いため、香港2011では「中立」という表現に変更した。 問19と同じく、環太平洋およびアジア・太平洋調査の英語版は基本的に“1. Satisfied” “5. Dissatisfied” だが、Singapore2007 および Singapore2012のみ“1. Completely satisfied” “5. Completely dissatisfied”となっている。	
問21a	修正	#2.80a	日本人の国民性 七か国比較A票・問14a 東ア日本02・問4a 環太平洋問21a	病 気（ 頭 痛・偏頭痛、 頭が重い）	環太平洋で「(1つずつ聞く)」追加。Vietnam2013のみ“(READ ITEMS a. THROUGH k.)”の訳語とした。 中国語表現は環太平洋調査から変更なし。 USA2010のみ、環太平洋調査の全ての英語版に含まれていた (head felt heavy)”を削除し” headaches/migraines”のみとした事に留意。 環太平洋およびアジア・太平洋調査での問21の病気症例については基本的に、「DK」の選択肢は全体に対してのみ当てはまることとなっている。つまり、個々の症例の項目ではなく、問21全体について分からない、もしくは回答拒否の場合にのみ「DK」が記録される。しかしIndia2013では現地調査会社が「分からない (DK)」は個々の症例の項目ごとに記録できたほうが正確だ、と指摘したためこの提案を採択した。そのため、India2013とSingapore2012のみで、問21aからkそれぞれの項目について「9. DK」を調査員が記録できるようにした (Singapore2012における変更については記録が残っておらず理由が完全には分からないが、これも現地会社の提案に基づくものと推測される)。	04 B
問21b	修正	#2.80b	日本人の国民性 七か国比較A票・問14b 東ア日本02・問4b 環太平洋問21b	病気（背中 の痛み）	環太平洋で「(1つずつ聞く)」追加。	04 B
問21c	修正	#2.80c	日本人の国民性 七か国比較A票・問14c 東ア日本02・問4c 環太平洋問21c	病気（いら いら）	環太平洋で「(1つずつ聞く)」追加。 ヒンディー語の表現は一般的な意味での「不安」に近く、「いらいら」やNervousnessよりも更にニュアンスは広いようだ。しかし、India2013の現地調査会社からは、一般的に使用されるより具体的な表現の言葉はヒンディー語にはないため、基本的には今回の表現で通じるとの助言を受けた。	04 B
問21d	修正	#2.80d	日本人の国民性 七か国比較A票・問14d 東ア日本02・問4d 環太平洋問21d	病気（うつ 状態）	環太平洋で「(1つずつ聞く)」追加。	04 B
問21e	修正	#2.80e	日本人の国民性 七か国比較A票・問14e 東ア日本02・問4e 環太平洋問21e	病気（不眠 症）	環太平洋で「(1つずつ聞く)」追加。 ヒンディー語の表現は直訳すると「眠気がない」に近い。しかし India2013の現地調査会社の考えではこの表現で、それが病的なもの、少なくとも望ましくはないものであることは一般的に通じる、とのこと。	04 B
問 21 f	新設		米 国 CATI 調 査 06 問 26f・兵庫教育大学「生 活と文化に関する世論 調査」06問16f	病気（全身 がだるい）	問21は、環太平洋調査では5種類の症状について尋ねていたが、さらに5つの症状を追加。 米 国 CATI 調 査 06 の “lack of energy” は、USA2010では“lassitude (lack of energy, feeling	

質問	KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容
				lethargic”に変更。
問 21g	新設	米国 CATI 調査 06 問 26h・兵庫教育大学「生活と文化に関する世論調査」06問16g	病気(心臓、息苦しさ)	米国CATI調査06を利用。
問 21h	新設	米国 CATI 調査 06 問 26g・兵庫教育大学「生活と文化に関する世論調査」06問16h	病気(胃腸)	米国CATI調査06を利用。
問21i	新設	兵庫教育大学「生活と文化に関する世論調査」06問16i	病気(アレルギー)	USA2010では“Allergy”。
問21j	新設	兵庫教育大学「生活と文化に関する世論調査」06問16j	病気(喘息)	USA2010では“Asthma, coughing or breathing difficulties”。
問21k	新設	兵庫教育大学「生活と文化に関する世論調査」06問16k	病気(その他)	アジア・太平洋では「その他健康上で悩みがありますか」の質問を、各項目の「その他」(Voluntary)とは別に聞く事にした。このため、環太平洋では「病気(その他)」の選択肢はカード未記入であったが、アジア・太平洋ではカードに記載した。
問22	修正	東アジア02・問45 環太平洋問22	相談相手	東アジア調査に対して、環太平洋の日本2004A「4、6、7」の回答肢を大幅に変更。アジア・太平洋調査では、「8. 医者など、その問題の専門家(記入:)」を新規追加。 Singapore2007では“I can confide in”と表記していたが、Singapore2012ではUSA2010に合わせて「in」を削除。 Australia2012では、2つ以上を選択した回答者が121人と非常に多く、それ自体が特徴といえたので、複数回答も含めて集計した。 India2013のみ選択肢7「匿名で相談できるところ(電話やインターネットなど)」を現地調査会社の提案に基づいて(helpline on the phone or Internet)とした。インドでは諸問題についての匿名相談窓口が多く見られ、総称としてhelplineと呼ばれるとのこと。 アジア・太平洋で「DK」を調査票に追加。 環太平洋では「その他」「相談できる人がいない」はカード未記入であったが、アジア・太平洋では「医者など、その問題の専門家」とともにカードに記載した。
問23	新設	林・生越のガン告知QOL調査	病気告知	林・生越のガン告知QOL調査では「ガン」、日本2004Bでは「治するのが難しい病気」、日本2010は双方の表現を考慮し「ガンなどの治療が難しい病気」。また、USA2010は現地調査会社の提案も取り入れ、“cancer or another disease that is life-threatening”とした。回答選択肢については、この質問は特に一部の回答者にとって答えにくい状況もあり得ることを考慮し、「拒否」と「考えても分らない」(DK)、の2つの状況を区別することにした(拒否は7、DKは9でコード)。
問24a	新設	米国CATI調査06問10	金銭や物を貸す人	米国CATI調査06で使用された項目(日本版ではアジア・太平洋が初出)。最後の“to borrow”が繰り返しになるため落とした。また、上記調査では選択肢3が“only one”となっていたが、選択に抵抗を

関連
調査

04B

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容
					示す人が多いとも考えられるため、USA2010から単に“one”と変更。一方、日本2010では元のCATI調査の直訳を採用し、回答肢3は「ひとりだけいる」である。香港2011では北京・上海2011と共に、「只有一位」とした。
問24b	新設		米国CATI調査06問10	理解者	問24aと同じ。
問24c	新設		米国CATI調査06問10	相談者	問24aと同じ。
問24d	新設		米国CATI調査06問10	高く評価する人	問24aと同じ。 韓国2012では、「敬意」の言葉は固すぎるとの現地調査会社の指摘をうけ、「尊敬」に修正した。ただし、韓国語としての意味は変わらない。
問25	修正		東ア日本02・問15 環太平洋問23	成功の要因	東アジア調査の「(1つ選択)」を環太平洋調査でboldにした。 USA2006では質問文中で“personal relationship”だが、Australia2007およびSingapore2007では“personal”を削除し問題文の最後に“personal connections”を追加した。 アジア・太平洋のUSA2010ではAustralia2007に合わせ、質問文中で“relationships through”とし文尾に“personal connections”を追加。 香港2005では質問文が簡略化されていたが、北京・上海2011、台湾2011と合わせ、質問文でも3つの選択肢に言及するよう変更した。選択肢3は、東アジア調査の北京、上海、香港では「血縁・地縁・学縁等関係」、台湾のみ「血縁・地縁及學派」と表記。それを環太平洋調査の北京、上海では「血縁 地縁 学閥等関係」に、香港では「血縁 / 地縁 / 學縁等關係 (出身 / 住嘅地區 / 學校教育等關係)」にそれぞれ変更した。台湾は変更せず。 アジア・太平洋調査の上海の調査委託先から、環太平洋調査にて使われた「学閥」という表現は使用される事もあるが、現在では悪い意味を含む事が多いとの指摘を受けた。そのため、北京・上海2011ではより中立的とされる「学縁」を採用し、「血縁・地縁・学縁等関係」に戻した。香港2011、台湾2011、Singapore2012中国語版は環太平洋から変更せず。 質問文の最後に（一つ選択）の注意書きを入れてあるが、Australia2012, Singapore2007, Singapore2012, India2008のみ記入されていない。
問26a			日本の習慣・行事に関する調査1976・問19G 「ガン告知QOL」 環太平洋問24a	超能力・念力	環太平洋で“Now the questions about hot topics.”とした質問文の出だしを、アジア・太平洋調査のUSA2010からは現地調査会社の意見もあり、英表現の自然さを考慮して“We now would like to ask you some questions about topics that at least some people take seriously”と変更。 Australia2012では選択肢2“Would like to be”を“Would like it to exist”に、選択肢5“Would not like to be”を“Would not like it to exist”に変更した。 Singapore2012では選択肢2“Would like to be”を“Would like it to exist”に、選択肢5“Would not like to be”を“Would like it not to exist”に変更し

関連
調査

04B

質問	KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連 調査
				た。	
問26b		日本の習慣・行事に関する調査1976・問19C 「ガン告知QOL」 環太平洋問24b	空飛ぶ円盤・宇宙人		04B
問26c		日本の習慣・行事に関する調査1976・問19F+L 「ガン告知QOL」 環太平洋問24c	妖怪・鬼	環太平洋では英語表記は“Specter or ogre”だったが、アジア・太平洋では“Goblin or ogre”に変更。	04B
問26d	注意事項あり	日本の習慣・行事に関する調査1976・問19D+H 「ガン告知QOL」 環太平洋問24d	幽霊・人のたたり	韓国2012では、韓国2006を踏襲し、同様な選択肢順で尋ねており、韓国調査内では整合している。ただし、選択肢6と選択肢7の順が、他の国とは異なっている逆である。このことを「調査票及び項目の履歴表」に注釈で明記した。	04B
問27	修正 #7.1 注意事項あり	日本人の国民性 七か国比較A票・問32 東ア日本02・問16 環太平洋問25	人間らしさはへるか	USA2006では質問文は「a lot of human feeling is lost」で回答は「1. Agree」であったが、Australia2007, India2008, USA2010, Australia2012では質問文は「humanity / a lot of human feeling is lost」で回答は「1. Agree (Humanity is lost.)」とし、India2013では質問文は「humanity / a lot of human feeling is lost」で回答は「1. Agree (Humanity / a lot of human feeling is lost.)」とした。 また USA2010, India2013 の質問文は「humanity / a lot of human feeling is lost」だが、Australia2012の質問文は「humanity / a lot of human feelings are lost」、Singapore2012の質問文は「humanity / a lot of human feelings is lost」と英語表記には細かな違いが存在する。 日本2010では選択肢2は、「反対（人間らしさは不変、増える）」だが、USA2010はAustralia2007と同様に「2. Disagree (Humanity is NOT lost)」で、「増える」はなかった事に留意。北京・上海、台湾、香港2011においては日本2010に合わせ、「不変もしくは増加」という表現を採用した。 この項目の選択肢は賛成・反対だけでは、混同しやすいので、カッコ内に丁寧な説明を明示することとした。 問27は、賛否を尋ねる質問である。そのため、「3どちらともいえない」は明示すべきではなかったが、日本2010において採用したことを踏まえ、韓国2012ではそのまま採用することにした。	
問28	#8.1b	日本人の国民性 七か国比較A票・問34 東ア日本02・問17 環太平洋問26	政治家にまかせる	KSでは「その人」、七か国Aでは「その人たち」、七か国Bでは「その人」、東ア日本02では「その人達」、日本2004Bでは「その人」、アジア・太平洋では「その人達」と表記。 USA2010では選択肢3“Undecided/it depends (VOL)”だが、この設問には提示カードもなく選択肢の読み上げもないため調査員への指示は必要ないとの指摘がオーストラリアの現地調査会社からあったため、Australia2012では“Undecided/it depends”のみとした。	04B

質問		KS 国民性調査	関連典拠	トピック	変更内容
問29		#4.32	日本人の国民性 七か国比較A票・問38 東ア日本02・問20 環太平洋問28	離婚すべき ではないか	香港2005、香港2011では選択肢1で「いかなる場合でも離婚するべきではない」といった状況説明が入っており、回答の構成からするとこの表現が最も望ましいと考えられる。香港以外はすべて単に「離婚はするべきでない」となっている。
問30		#2.5	日本人の国民性 七か国比較A票・問43 東ア日本02・問21 環太平洋問29	自然と人間 との関係	東アジアに対して、日本2004Aで「1つ」をboldにした。日本2010も同様。
問31	修正 注意事項あり	#7.4	日本人の国民性 七か国比較A票・問44 東ア日本02・問22 環太平洋問30	国と個人の 幸福	東アジアに対して、日本2004Aで「1つ」をboldにした。日本2010も同様。 また、問31の質問本文は、選択肢3つから一つの回答を選んでもらうものである。しかし、これまでの韓国2003、韓国2006では、賛否を確認する形式で尋ねていた。この背景には、回答者を配慮する日本語の言い回しが原因にあったと考えられる。したがって、韓国2012では、現地調査会社の提案をもとに、問29、問30のように、「あなたのお考えに最も近いものをお選びください」に修正した。
問32	注意事項あり	#7.2	日本人の国民性 東ア日本02・問18 環太平洋問31	心の豊かさ はへらない か	KSに対して、東ア日本02で回答カテゴリーの順番を「1. 反対、2. 賛成」から、自然と思われた「1. 賛成、2. 反対」としたが、このため韓国2003で翻訳の過程でカッコ内の説明(へる)(へらない)の対応が逆になっていたことに調査開始から数日後に気が付き、訂正を申し入れたことがあった。このため、環太平洋以降はその順番をもとに戻し、さらに海外調査版では「1. 反対(人間らしさは減る) 2. 賛成(人間らしさは減らない)」というように説明を付加した。 アジア・太平洋のUSA2010では、環太平洋の英語版で選択肢3が“cannot say one way or another”だったのを、“can't say one way or another”に変更。アジア・太平洋では、特に大きな修正点はないが、当質問は過去の調査において 選択肢1「反対」、2「賛成」の意味が特に混同されやすかったため、意図しない間違いが現地調査委託先との連絡中などに起きないように特別な注意を払った。 USA2006, India2013では“1. Disagree (the richness of human feelings is REDUCED)” “2. Agree (the richness of human feelings is NOT REDUCED)”、USA2010, Australia2007, Australia2012, Singapore2007, Singapore2012では“1. Disagree (Humanity is REDUCED)” “2. Agree (NOT REDUCED)”、India2008では“1. Disagree (humanity is REDUCED)” “2. Agree (humanity is NOT REDUCED)”と英語表記には若干の違いがある。 中後国語表記でも北京2005、北京2011、上海2005、上海2011では「1 反対(会減少)」「2 賛成(不会減少)」、台湾2006と台湾2011では「1 不賛成(人情味會減少)」「2 賛成(人情味不會減少)」、香港2006では「1 賛成(唔會減少)」「2 反対(減少)」、香港2011では「1 反対(會減少)」「2 賛成(唔會減少)」と若干の違いがある。特に 香港2006のみ「反対」と「賛成」の順番が逆になって

関連
調査

質問		KS 国民性調査	関連典拠	トピック	変更内容	関連 調査
					いることに注意。ただし上述した韓国2003のような回答の意味が変わるような間違いはない。	
問33a	修正 注意事項あり		東ア日本02・問11a WVS世界23カ国価値観・問71 環太平洋問32a	神や仏の存在	東ア日本02の「(1つずつ○印)」を環太平洋の日本2004Aで「(1つずつ聞く)」に変更。また、選択肢に「その他」を追加。 アジア・太平洋調査のUSA2010, Australia2012ではこれまでの類似質問の英訳で使われてきた“Buddha, God or gods”という表現を、よりキリスト教中心の米国の事情に合わせて“God, or other deities such as Jesus, Jehovah, Allah, Buddha, etc.”と変更。なおSingapore2012, India2013は“Buddha, God or gods”のまま。 問33 a,b,cについては、韓国2003、韓国2006では、「その他」の応答に対する記入欄を設けていなかったが、韓国2012では、「その他」の応答がある場合においては空欄に具体的な内容を記入するようにした。ただし、カードには「その他」及び「DK」を示さない。 問33a,b,cは各国・地域の事情を勘案すべき。	04B
問33b	修正		東ア日本02・問11b WVS世界23カ国価値観・問71 環太平洋問32b	死後の世界の存在	東ア日本02の「(1つずつ○印)」を環太平洋の日本2004Aで「(1つずつ聞く)」に変更。また、選択肢に「その他」を追加。	04B
問33c	修正		東ア日本02・問11c WVS世界23カ国価値観・問71 環太平洋問32c	霊魂の存在	東ア日本02の「(1つずつ○印)」を環太平洋の日本2004Aで「(1つずつ聞く)」に変更。また、選択肢に「その他」を追加。	04B
問34a	注意事項あり	#5.1d	日本人の国民性 七か国比較A票・問45 東ア日本02・問23a 環太平洋問33a	大切な道徳 (親孝行)	環太平洋の日本2004A以降「(この質問では、2つの項目をあげてもらうこと)」を質問の文尾に移動し、boldにした。 USA2006, 2010およびSingapore2007, 2012では“filial piety/love and respect for parents”だが、Australia2007, 2012およびIndia2008, 2013では“filial piety”が抜けて“Love and respect for parents”となっている。儒教文化圏以外では“filial piety”の概念は理解が難しく、この言葉を“love and respect for parents”の前に入れると、この選択肢の選択率が下がるのではとAustralia2012の現地調査会社からコメントがあった。	
問34b		#5.1d	日本人の国民性 七か国比較A票・問45 東ア日本02・問23b 環太平洋問33b	大切な道徳 (恩返し)		
問34c		#5.1d	日本人の国民性 七か国比較A票・問45 東ア日本02・問23c 環太平洋問33c	大切な道徳 (個人の権利)		
問34d		#5.1d	日本人の国民性 七か国比較A票・問45 東ア日本02・問23d 環太平洋問33d	大切な道徳 (自由)		

質問	KS 国民性調査	関連典拠	トピック	変更内容	関連調査
問35	#5.6	日本人の国民性 七か国比較A票・問50 東ア日本02・問25 環太平洋問35	めんどうを みる課長	環太平洋調査ではUSA2006および Singapore2007が“chief”、Australia2007および India2008が“manager”と異なる表現だったが、ア ジア・太平洋では“manager”に統一。 また選択肢2について、Singapore2012では前半 部分をUSA2010に合わせてSingapore2007から変 更する一方、後半はSingapore2007を踏襲するこ ととし、以下のような表現とした。“A department manager who sometimes demands more than what the rules call for, but who, on the other hand, looks after you personally in matters not connected with work.”	04B
問36	#2.12	日本人の国民性 七か国比較A票・問51 東ア日本02・問26 環太平洋問36	他人のため か自分のた めか		04B
問37	#2.12b	日本人の国民性 七か国比較A票・問52 東ア日本02・問27 環太平洋問37	スキがあれば 利用される か		
問38	#2.12c	日本人の国民性 七か国比較A票・問53 東ア日本02・問28 環太平洋問38	人は信頼で きるか		
問39a	新設	兵庫教育大学「生活と 文化に関する世論調 査」06問35a	死生観 (見えない 力)	日本2004Bで作成され、兵庫教育大学調査06の 質問を組み入れる。USA2010は、日本2004B問39 の黒田安昌による試行的英訳（実際に諸外国で使 用されたわけではない）を利用。問39aはそのまま転 用。香港2011においては北京・上海2011と共に、 日本2010の翻訳・再翻訳によって中国語版を作成。	04B
問39b	新設	兵庫教育大学「生活と 文化に関する世論調 査」06問35b	(運命)	問39aと同じ。日本2004B問39では“manifest” の単語が不自然な使われ方だったため、USA2010 では表現を多少変更している。	04B
問39c	新設	兵庫教育大学「生活と 文化に関する世論調 査」06問35c	(輪廻)	問39aと同じ。USA2010では、日本2004B問39 の表現から、輪廻の概念を表すのに英語圏で多く の場合使用される言い回しに変更している。	04B
問39d	新設	兵庫教育大学「生活と 文化に関する世論調 査」06問35d	(自然に選 る)	問39aと同じ。USA2010では、日本2004B問39 の“can”を“may”にしている。	04B
問39e	新設	兵庫教育大学「生活と 文化に関する世論調 査」06問35e	(人類全体 への貢献)	問39aと同じ。USA2010は、日本2004B問39の ために作られた試行的英訳を転用。	04B
問39f	新設	兵庫教育大学「生活と 文化に関する世論調 査」06問35f	(自己犠 牲)	問39aと同じ。USA2010は、日本2004B問39の ために作られた試行的英訳を転用。ただし文法上 の微修正あり。	04B
問39g	新設	兵庫教育大学「生活と 文化に関する世論調 査」06問35g	(主義主 張)	問39aと同じ。USA2010は、日本2004B問39の ために作られた試行的英訳を転用。	04B
問39h	新設	兵庫教育大学「生活と 文化に関する世論調 査」06問35h	(親子心 中)	問39aと同じ。USA2010では、日本2004B問39 の黒田安昌による試行的英訳では中立的な認識を 問う形になるため、より「気持ち分かる」の表 現に近づくよう変更している。ただし上海の調査 委託先から、日本より個人主義的な中国の文化で は当項目は理解され難い、との指摘があった。そ	04B

質問		KS 国民性調査	関連典拠	トピック	変更内容	関連 調査
					のため、北京・上海・香港2011の調査票は、日本2010では「道連れ」、USA2010の英表現では「involve」としていたのを、より状況を明確に示すため「自殺する時に子供と一緒に自殺」とした。一方で台湾2011の調査委託先からは、子供を後に残すのは不憫だという考え方は台湾でも理解できるといわれたため、台湾2011はinvolveの中国語訳のままである。	
問39i	新設		兵庫教育大学「生活と文化に関する世論調査」06問35i	(恋人心 中)	問39aと同じ。USA2010では、日本2004B問39では“manifest”の単語が不自然な使われ方だったため、表現を多少変更している。	04B
問40a	新設		米国 CATI 調査 06 問 20a・兵庫教育大学「生活と文化に関する世論調査」06問17a	運命は決ま っているか	USA2010はCATI調査06を修正し、“changed through own actions”と“own”を足している。	
問40b	新設		米国 CATI 調査 06 問 20b・兵庫教育大学「生活と文化に関する世論調査」06問17b	太く短く 細く長く	兵庫教育大学調査に対し、「強いて言えば」を追加。調査過程で、韓国を除き、類似の日常表現はなく、翻訳が難しい項目であることが判明。日本語の「太く」に当たる表現は中国語では良い意味も悪い意味もあり、回答者が混乱するとの意見もあり、台湾の現地が提案した「精彩」に当たる表現を回答肢1で採用した。回答肢2は、アジア・太平洋調査の北京、上海、香港、台湾の各現地委託先の意向を尊重し、ある程度の違いを残した。USA2010では、CATI調査06で使われていた“burn the brightest, burn the shortest”という表現は慣用句としてそれほど使われるものでもなく不自然な印象もあり、“lead a long and simple life”と“lead a short but colorful life”に選択肢を変更。2011年の中国調査における選択肢1については、USAで採用された「colorful」の表現に近いかもしれない。 注意. 海外調査の調査票作成において、日本版に基づくかUSA版に基づくかで、日米の調査票の微妙なニュアンスの差違が拡大される恐れがあるのに注意する。	注意 事項 あり
問41a		#7.83	日本人の国民性 七か国比較A票・問57a 東ア日本02・問29a 環太平洋問40a	病気の治療		
問41b	注意 事項 あり	#7.84	日本人の国民性 七か国比較A票・問57b 東ア日本02・問29b 環太平洋問40b	心の解明	「人間の心の中まで解明出来る」という科学の可能性が主題。香港2011の訳文は概ね適切と考えられるが、北京・上海2011では「他者の心の裏側を読み取る事が可能になる」といったニュアンスも含まれて、訳文は間違いではないものの、必ずしも最適でなかったかもしれない。	
問41c		#7.85	日本人の国民性 七か国比較A票・問57c 東ア日本02・問29c 環太平洋問40c	経済的・社会的問題の 解決		
問41d			東ア日本02・問29d 環太平洋問40d	火星での生活		
問42		#9.80	日本人の国民性 七か国比較A票・問61	文化	【国別質問】 USA2006, Australia2007, Singapore2007, Singapore2012は「(もし回答者が複数あげた場合	

質問	KS 国民性調査	関連典拠	トピック	変更内容	関連調査
		東ア日本02・問30 環太平洋問41		は、すべて記す)」の指示文が未記入。	
問43a	#3.1a	日本人の国民性 七か国比較A票・問62 a 東ア日本02・問31a 環太平洋問42a	宗教を信じるか	Australia2012では宗教について答えたくない回答者が存在するとの現地調査会社の指摘をうけ、「Refused」の選択肢を追加した。しかし、韓国2012は、自分自身の宗教を答えることに対して抵抗がないという現地調査会社の意見をもとに、「Refused」の選択肢を追加せず。 ベトナムでは、IDカードに記載されるような国が認定した宗教と、個人が持つ信仰が別々に存在すると現地調査会社より説明があったため、Vietnam2013のみ選択肢1「Religion」、2「Religious faith」、3「No」を作成し、1か2を選んだ人に問43bを答えてもらった。	
問43b	注 意 事 項 あ り	#3.1b 日本人の国民性 七か国比較A票・問62 b 東ア日本02・問31b 環太平洋問42b	何という宗教	【国別質問】 選択カテゴリーは国・地域の宗教分類に合わせて、異なっている。 環太平洋調査で、東アジア調査の「持っている」を「もっている」に変更し、「(1つ選択)」はboldにした。 アジア・太平洋調査の北京2011の打ち合わせで、政治的な不満と宗教心が混同されやすい状況があるとの指摘があった。調査前に中東諸国でジャスミン革命が起こり、中国でも危惧される雰囲気があり、回答者が「ジャスミン党」と称する懸念が表明されたが、本項目はあくまでも宗教分類の質問であり、政治とは切り離し、そのような回答がある場合は、「その他」として記録することを明確にし、項目はそのまま採用した。 「基督教」は信仰対象がキリスト中心、「天主教」は聖母マリアが中心である。台湾では「一貫道」は民間信仰として盛んなので、単独の選択肢を台湾のみ設けた。Vietnam2013では、選択肢になかった「その他」の回答として“Ancestors worship”が多かったため、「独立させて集計した。	
問44	#3.2	日本人の国民性 七か国比較A票・問63 東ア日本02・問32 環太平洋問43	「宗教心」は大切な	韓国2012では、現地調査会社の提案より、「いままでの宗教にはかかわりなく」という表現から、「あなたが宗教を持つか持たないかに関わらず」と変更した。 また、韓国2012では意味は変わらないが「大切」をより韓国語に馴染む表現にするために「重要」という表現に変更した。	
問45		東ア日本02・問34 日本人の法意識(日本文化会議)・Q35 環太平洋問45	法の遵守	Australia2012, Singapore2012では、多民族国のため、現地調査会社の提案により、Q45にカードを追加した。しかし、韓国2012では日本語と同様に本文のみでわかるため、追加しない。 India2013には追加しなかったが、Vietnam2013には追加した。	
問46	修正	東ア日本02・問35 日本人の法意識(日本文化会議)・Q43 環太平洋問46	契約書と信頼感	USA2006の“parties”を、Australia2007, Singapore2007, India2008では“two parties”と変更し、アジア・太平洋のUSA2010でも変更した。 アジア・太平洋の日本2010で「契約書をとりかわすなどというのは」を「契約書をとりかわすのは」に変更。(前者は質問項目そのものに対して否	

質問		KS 国民性調査	関連典拠	トピック	変更内容	関連 調査
					定的なニュアンスがあるため)	
問47			東ア日本02・問36 日本人の法意識(日本 文化会議)・Q44 環太平洋問47	契約書の規 定	環太平洋調査にあった質問文初めの一文“Here are two statements about a contract.”は問46に もあるので、繰り返しをさせてアジア・太平洋で は削除。	
問48	修正		東ア日本02・問37 WVS世界23ヵ国価値 観・問12 環太平洋問48	環境保護か 経済成長か	建前の回答が多くなるのを避けるため、選択肢 を大幅に修正。東アジア調査及び環太平洋調査の 「経済がある程度悪化しても、環境保護が優先さ れるべきだ」と、「環境がある程度悪化しても、経 済成長が優先されるべきだ」の組み合わせを、ア ジア・太平洋調査では「ある程度の公害や環境汚 染・自然破壊が伴うことがあっても、経済のゆと りや快適な生活は大切だと思う」と、「公害や環境 汚染・自然破壊を抑えるために、経済力が低下し 生活が不便になってもよいと思う」に変更。	
問49	新設		日本2004B調査の問42	世界の中の 役割	英語版訳は日本2004Bの黒田安昌による試行的 英訳(実査に使用せず)に文法的な修正を施し、 アジア・太平洋調査で用いている。選択肢1, 4, 5 では文法上の修正あり。アジア・太平洋の中国語 訳については日本2010から翻訳。	04B
問50		#2.7	日本人の国民性 七か国比較A票・問26、 問26b 東ア日本02・問38 環太平洋問49	一番大切な もの	七か国調査で「一番大切と思うもの」「そのほか、 非常に大切と思うもの」と2つに分かれていた項目 を、東アジアで「(もし回答者が複数あげた場合は、 すべて記す)」の注意書きを追加して1つの項目と し、環太平洋調査で、それをboldにした。 また、問44と同様に、韓国2012では、意味は変 わらないが「大切」をより韓国語に馴染む表現に するために「重要」という表現に変更した。	
問51a	新設			日常生活 (抛り所、 はげみ)	「心の抛り所、はげみとするものがある」の厳密 な英訳は難しいが、日本語よりも硬い印象になる が米国における言い回しとしては一般的な“belief system”を使うこととした。 韓国2012では、韓国語の文法上の理由で日本 2010の質問文のような主語がない文章は不自然で あるため、現地調査会社の提案を受け、質問文を 「あなたさまは普段次のようなことを感じていま すか」に変更した。	
問51b	新設			日常生活 (張り合 い)		
問51c	新設			日常生活 (役に立 つ)		
問51d	新設			日常生活 (期待され ている)		
問52a	修正 注意 事		東ア日本02・問41a WVS世界23ヵ国価値 観・問9 環太平洋問50a	信頼感 (宗教団 体)	問52全体で東アジアの「(1つずつ印)」は、 環太平洋で「(1つずつ聞く)」に修正。 アジア太平洋調査の USA2010 の質問文は、環 太平洋調査の表現を再考した結果、WVS の類似質 問に近づけることにした。ただし、WVS では対象 になっているのがすべて組織であるが、アジア・	

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連 調査
	項あり				太平洋調査では「科学技術」といった概念も含まれているため、USA2010 調査については質問で“organizations”という言葉は使わず、“How much confidence do you have in the following”とした。選択肢も、WVSの表現に合わせ、1 a great deal, 2 quite a lot, 3 not very much, 4 none at all と変更した。一方、日本 2010 調査については質問文で「組織や制度、事柄」とより具体的な表現を採用した。北京・上海、香港、台湾 2011、韓国 2011 については、日本版を訳した形式になっている。Australia2012、Singapore2012、India2013 は環太平洋版と同じまま。ただし、問 52 全体として、 各国の政治制度に準じて項目の表現が異なることに注意。	
問52b			東ア日本02・問41b WVS世界23カ国価値観・問9 環太平洋問50b	信頼感 (司法制度)	問 52a と同じ。ただし、「法律や裁判の制度」の直訳の場合、特に中国の事情を考慮すると法律そのものは問題ないが裁判制度は信頼しないといったダブルパーレルの問題が顕著になる、との指摘があった。そのため、北京・上海 2011、台湾 2011 調査では「司法制度」の後、括弧の中に「法律や裁判の制度等」と説明を足すという表現にしてあり、日本や米国の調査とは微妙にニュアンスが異なる。 香港 2011 は「法律あるいは裁判制度」とされており、これは日本 2010、USA2010 に準ずる。	
問52c			東ア日本02・問41c WVS世界23カ国価値観・問9 環太平洋問50c	信頼感 (マスクミ)	問 52a と同じ。	
問52d			東ア日本02・問41d WVS世界23カ国価値観・問9 環太平洋問50d	信頼感 (警察)	問 52a と同じ。	
問52e	修正		東ア日本02・問41e WVS世界23カ国価値観・問9 環太平洋問50e	信頼感 (行政)	問 52a と同じ。ただし、 各国の政治制度に準じて表現が異なることに注意。 アジア・太平洋調査の USA2010 では米国の事情に合わせ、“National Government Bureaucracy”をより自然な“Federal Bureaucracy”の表現にした。Australia2012 および Singapore2012 では“National Government Bureaucracy”のまま。なお India2008 および 2013 では“Bureaucracy”。台湾 2011 調査では国と地方の区別を考慮して台湾 2006 の「行政能力」から「政府行政能力」に変更した。香港 2006 の「國家行政（行政會議）」を香港 2011 では「行政會議」とした。	
問52f	修正		東ア日本02・問41f WVS世界23カ国価値観・問9 環太平洋問50f	信頼感 (国会)	問52aと同じ。ただし、 各国の政治制度に準じて表現が異なることに注意。 USA2006の“National Assembly (Congress)”をUSA2010では“Congress”とした。Australia2007の“National Assembly (Federal Parliament)”およびSingapore2007の“National Assembly (Diet or Parliament)”をAustralia2012 および Singapore2012では“Parliament”とした。香港2006の「人民代表大會（立法會）」を香港2011で	

質問	KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容
				は「立法會」とした。
問52g		東ア日本02・問41g WVS世界23カ国価値観・問9 環太平洋問50g	信頼感 (NPO・NGO)	問52aと同じ。
問52h		東ア日本02・問41h WVS世界23カ国価値観・問9 環太平洋問50h	信頼感 (社会福祉施設)	問52aと同じ。
問52i		東ア日本02・問41i WVS世界23カ国価値観・問9 環太平洋問50i	信頼感 (国連)	問52aと同じ。
問52j		東ア日本02・問41j 環太平洋問50j	信頼感 (科学技術)	問52aと同じ。 ただし、WVSではこの項目は入っていないことに従い、質問文全体の表現も変更してある点に注意。
問53		東ア日本02・問51 環太平洋問51	宗教の在り方	東アジアに対して、環太平洋で「1つ」をboldに修正。環太平洋調査の英語版では基本的に“his/her”だが、Singapore2007のみ“one’s”。アジア・太平洋調査のUSA2010では“his/her”の表現に戻している。 Singapore2004およびSingapore2007のみ選択肢1, 2, 4を“beliefs”ではなく“belief”と記載。Singapore2012では、“beliefs”に修正。
問54	修正	東ア日本02・問54 国民性七か国比較オムニバスD票・問14 米国CATI調査06問D3 兵庫教育大学「生活と文化に関する世論調査」06問F8 環太平洋問52	社会参画	【国別質問】 環太平洋調査で東アジア調査の「(M.A.)」を「(いくつでも)」(bold)とし、回答肢表現や番号も一部変更。アジア・太平洋の回答カテゴリーの内容はUSA2006とほぼ同じだが、表現をIndia2008にあわせている。しかし、各国の組織が名目上は同じでも実態がかなり異なることが判明し、アジア・太平洋調査では、簡略化する一方で、本当のボランティアグループへの参画を捉えるものを意図した。 日本2010、USA2010では米国CATI調査06、及び兵庫教育大学調査に基づき、回答肢の組み合わせや表現を大幅に変更。英語表現については、文法・表現上不自然な点を修正した。 アジア・太平洋から「コンピュータネットワーク上のグループ」の選択肢を追加。中国で、「コンピュータネットワーク上のグループ」については、インターネット使用が極めて盛んで参加していない人は少ないとの指摘があったが、国際比較自体は妥当と判断した。ただし、「団体」という表現は政治的な意味合いが強いという指摘もあり、より中立的な「組織」に変更する事とした。 Australia2007ではかなり複雑なカテゴリーを選択肢に並べたが、比較可能性が薄かったのでアジア・太平洋調査からより簡単なものにした。Australia2012, Singapore2012, India2013の選択肢はUSA2010と同じである。 環太平洋では「その他」はカード未記入であったが、アジア・太平洋ではカードに記載した。

関連調査

質問	KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容
(フース・シート) Face Sheetの項目のカテゴリーは、各国の事情に合わせて、変更されているので注意				
F1	変更		七か国比較A票・F1	性別 通常、調査の際に回答者がサンプルとして適合するかどうかを確認するため、F1性別およびF2年齢の項目のみは先頭に出すのが一般的であるとの現地調査会社のコメントを反映し、韓国2012では、F1性別およびF2年齢の項目のみを最初の質問として変更した。ただし、F3以降の項目は、これまでの韓国2003、韓国2006と同様である。香港2011、India2013、Vietnam2013も同様にF1、F2のみ最初の質問としている。
F2	修正		七か国比較A票・F2	年齢 日本の調査対象者は20歳以上だが、米国、中国大陸、オーストラリア、インド、ベトナムでは成人年齢が18歳以上のため、カテゴリー1は18歳から24歳まで。台湾の成人年齢は20歳以上だが、中国大陸とあわせるために18歳以上を調査対象とした。 USA2010、香港2011でのサンプリングは性別、年齢に基づく割り当て法だったため、F1、F2は調査票の冒頭で訊かれている。日本調査では70歳以上も対象としているが、国・地域によっては、69歳以下を対象としているため、「11.70歳以上」を削除している場合がある。 F1と同様に、韓国2012では、F2年齢項目を最初の質問とするように変更した。 シンガポールの成人年齢が21歳であることを受けて、Singapore2012での調査対象は21歳以上とした (Singapore2007では20歳以上)。このため、選択肢1は、「21～24yrs」に変更。またSingapore2007では69歳までを調査対象としたが、Singapore2012では70歳以上も対象に含めたので、選択肢11「70yrs and over」を追加。 Australia2007では70歳までを調査対象としたが、Australia2012では71歳以上も対象に含めたので、選択肢11「65-70」を「65-69yrs」に変更し、選択肢12「70yrs & over」を追加。 Vietnam2013では65歳までを調査対象とした。
F3 F4 F5 F6 F7	修正		学歴 本人職業 世帯収入 同居人数 同居形態	【国別質問】 Face Sheetの項目の順番、内容、カテゴリーは、各国の事情に合わせて、変更されているので注意 (基本的には現地調査会社の通常形式を尊重) アジア・太平洋調査のUSA2010ではQS2として、人種/民族を質問。台湾2011では外国のパスポート所持を質問。Australia2012では家庭で使用する言語を質問。Singapore2012ではPermanent Residentか否かを質問。India2013では、家庭での主言語と自身の主言語、調査員の主言語を質問。Vietnam2013では民族、家庭での主言語を質問。 世帯収入についてはアジア・太平洋調査で見直し、簡略化して日本2010、USA2010の選択肢を5つとした。ただし、各国・地域の状況を勘案して、最終的には3段階程度の分類でよいので現地で無駄のない聞き方でよいとしたが、実際はそれ以上の分類カテゴリーとなっている。 学歴については、各国・地域で、大学入試や卒業資格の難易度を考慮した違いがある。例えば日本では「中退」は卒業とみなすが、米国では「中

関連調査

質問	KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連 調査
				<p>退」はひとつ下のレベルの学歴とみなす。日本2010、韓国2012は中退を卒業扱いとし、USA2010、北京・上海2011、台湾2011、香港2011、Australia2012、Singapore2012、India2013、Vietnam2013では、中退の場合はひとつ下のレベルの学歴とした。</p> <p>Singapore2012では現地の教育事情を踏まえて大学中退は大学卒に含めないこととし、Singapore2007の質問文から”If you dropped out or still in the school, please consider yourself graduated”を削除した。</p>	

【参考文献】

- 電通総研・余暇開発センター編 (1999). 世界 23 カ国 価値観データブック. 同友館.
- 日本癌病態治療研究会 (1996) 「日本人の心とガン告知」(日本癌病態治療研究会、QOL 班)
- 林知己夫他 (1998). 国民性七か国比較. 出光書店.
- 兵庫教育大学 (2006). 生活と文化に関する世論調査 (<http://essrc.hyogo-u.ac.jp/jedi/handle/10479/JEDI.131>).
- 日本文化会議編 (1973). 日本人の法意識—調査分析—. 至誠堂.
- 統計数理研究所・研究レポート No.76 (1995). 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—総合報告書—.
- 統計数理研究所・研究レポート No.77 (1995). 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—国民性の国際比較のためのマニュアル—.
- 統計数理研究所・研究レポート No.89 (2003). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査—.
- 統計数理研究所・研究レポート No.90 (2003). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究(2)—中国上海市における意識調査—.
- 山岡和枝・吉野諒三 (2008). 医療と文化の連関に関する統計科学的研究—生命観の国際比較 2006 年米国 CATI 調査—. 統計数理研究所.
- 吉野諒三 (2001). 心を測る—個と集団の意識の科学—. 朝倉書店.
- Yoshino, Ryoza, Kosuke Nikaido and Taisuke Fujita (2009). “Cultural Manifold Analysis (CULMAN) of National Character: Paradigm of Cross-National Survey.” *Behaviormetrika* 36(2): 89-113.
- 吉野諒三・林文・山岡和枝(2010). 「国際比較データの解析」 朝倉書店.

【関連調査データ】

KS：日本人の国民性調査 (1953 年～2008 年) →

統計数理研究所・研究レポート No.99 (2009) 国民性の研究第 12 次全国調査—2008 年全国調査—. 他多数.

日本の法意識 →

日本文化会議編 (1973). 日本人の法意識—調査分析—. 至誠堂.

日本の習慣・行事に関する調査 (1976・1977・1978) →

統計数理研究所・研究レポート No.44 (1979) には東京 1976 年調査、米沢 1977 年調査、及び東京 1978 年調査の調査票がある。

がん告知 QOL 調査 (1996) → 「日本人の心とガン告知」(日本癌病態治療研究会、QOL 班)

WVS 世界 23 カ国価値観 →

電通総研・余暇開発センター編 (1999). 世界 23 カ国 価値観データブック. 同友館.

国民性七か国比較：A 票・オムニバス D 票 →

林知己夫他 (1998). 国民性七か国比較. 出光書店.

統計数理研究所・研究レポート No.76 (1995). 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—総合報告書—.

統計数理研究所・研究レポート No.77 (1995). 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—国民性の国際比較のためのマニュアル—.

吉野諒三 (2001). 心を測る—個と集団の意識の科学—. 朝倉書店.

東ア日本 02 (東アジア価値観国際比較調査, 日本調査 2002) →
統計数理研究所・研究レポート No.89 (2003). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査—.

統計数理研究所・研究レポート No.90 (2003). 日本・中国の国民性比較のための基礎研究(2)—中国上海市における意識調査—.

東アジア価値観国際比較調査 (2002年～2005年) →

基盤研究 (A) 研究成果報告書—信頼感の統計科学的解析— (2006 発刊)

環太平洋価値観国際比較調査 (2004年～2009年) →

環太平洋価値観国際比較調査総合報告書—東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計的解析— (2010 発刊)

アジア・太平洋価値観国際比較調査 —文化多様体の統計科学的解析—日本 2010 調査報告書

統計数理研究所・研究レポート No.103 (2011).

アジア・太平洋価値観国際比較調査 —文化多様体の統計科学的解析—USA2010 調査報告書

統計数理研究所・研究レポート No.104 (2011).

アジア・太平洋価値観国際比較調査 —文化多様体の統計科学的解析—北京・上海 2011 調査報告書

統計数理研究所・研究レポート No.105 (2012).

アジア・太平洋価値観国際比較調査 —文化多様体の統計科学的解析—台湾 2011 調査報告書

統計数理研究所・研究レポート No.106 (2012).

アジア・太平洋価値観国際比較調査 —文化多様体の統計科学的解析—香港 2011 調査報告書

統計数理研究所・研究レポート No.107 (2012).

アジア・太平洋価値観国際比較調査 —文化多様体の統計科学的解析—オーストラリア 2012 調査報告書

統計数理研究所・研究レポート No.109 (2013).

アジア・太平洋価値観国際比較調査 —文化多様体の統計科学的解析—韓国 2012 調査報告書

統計数理研究所・研究レポート No.110 (2013).

アジア・太平洋価値観国際比較調査 —文化多様体の統計科学的解析—シンガポール 2012 調査報告書

統計数理研究所・研究レポート No.111 (2013).

アジア・太平洋価値観国際比較調査 —文化多様体の統計科学的解析—インド 2013 調査報告書

統計数理研究所・研究レポート No.113 (2014).

アジア・太平洋価値観国際比較調査 —文化多様体の統計科学的解析—ベトナム 2013 調査報告書

統計数理研究所・研究レポート No.114 (2014).

【統計数理研究所の関連ホームページ】

日本人の国民性調査 <http://www.ism.ac.jp/kokuminsei/index.html>

国際比較調査 <http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index.htm>

3. History of the Past Use of the Individual Questionnaire Items in the Asia-Pacific Values Survey

Below is a list of the origin and past use of the individual questionnaire items as used in the Asia-Pacific Values Survey conducted in the years 2010~2014. The Asia-Pacific Values Survey (thereafter the APVS) is conceived as a successor project to the Pacific-Rim Values Survey (conducted in the years 2006~2009, thereafter the PRVS), which in turn has built and expanded on the East Asia Values Survey series (conducted in the years 2002~2005). The questionnaire for the APVS is mainly based on the Japanese installment of the PRVS conducted in 2004, and has been created by adding some new questions, changing the ordering of certain other items, and in some cases by altering the response categories accompanying certain questions (e.g., Q2, Q3, Q22, Q43b, and Q52). However, it should also be noted that on certain questions, there are some ineluctable variations by nation and/or language in the ways the response categories have been quantified and/or expressed (e.g., Q12, Q40). In general, the majority of the individual questionnaire items used in the APVS are literal reproductions of those found in the preceding PRVS project. On the other hand, there are some new questions that have been inspired by various other survey projects, most notably the survey research project “Hearts of the Japanese People, and Whether to Inform Patients of Cancer”, conducted by the Japan Cancer Treatment Society in 1996, and the project “An Opinion Poll on Daily Life and Culture”, conducted by the Hyogo University of Education in 2007. Below is a complete listing of the history of past use for the individual questionnaire items in the APVS, taking fully into consideration all the points discussed so far.

We like to note that there is an issue of particular import from the theoretical and methodological standpoint in the ways in which translations for the different languages have been prepared. Generally speaking, the Chinese language questionnaire (used in the surveys in Beijing, Shanghai, Hong Kong, and Taiwan) and the Korean language version have been translated from the Japanese language questionnaire (used in the 2010 survey), whereas that for Singapore, Australia, India, and Vietnam respectively refers to the 2010 USA questionnaire as the baseline. It is therefore quite possible that on certain questions, the unavoidable differences in nuances and connotations between the Japanese and English languages might have been magnified in the process of writing translations in the other languages.

* In South Korea it is usually a practice in the context of conducting a formal survey research that the use of second person pronoun “you” is avoided in favor of addressing the respondent’s name in full, accompanied by the honorifics. In our survey projects in South Korea in 2003 and 2006, this was in fact the case both on paper as well as in the field. However, in the 2012 South Korean installment of the APVS, most sentences for questions in the written questionnaire do use the

pronoun “you”, even though the survey practitioners have observed the standard procedure as described above in the field.

Q1: In KS and 7-Nations Survey, expression “your living conditions” was used. This was changed to “living conditions of Japanese people” in Japan 2004A. In the APVS the question refers to population (of a country/region) in general, too, except in the USA 2010 survey which asks for “your living condition”.

Q2: [Response Categories Differ by Country]

In the APVS (except Singapore 2012) the selection “7. Singapore” was added anew; while selection 8 was altered to refer to “8. An Asian Country Other Than China, Japan, India, Singapore, and South Korea”. In Vietnam 2013 Russia was added as a selection – this was after our inquiry to the local contractor in Vietnam on whether either Russia and/or North Korea should be added as a response category for this question, and their reply was that only the former was needed.

Q3: [Response Categories Differ by Country]

In the PRVS the selection “10. None” was included in USA 2006, whereas in all other surveys in the PRVS this question did not offer the response category “none”. This was probably due to a mistake, and “none” is not offered on this question throughout the APVS. In the APVS, Australia was added as a selection while the Philippines was removed from the PRVS (except for surveys in Singapore and India, which did already offer Australia as a selection in the PRVS). The research team also decided that the interviewers needed to remind respondents to stay within the bounds of the selections offered (on the Showcard), since we deemed that a voluntary naming of a country outside Asia likely indicates not so much a response to a grasped question as a misunderstanding of its intent. As on Q2, in Vietnam 2013 Russia, but not North Korea, was offered as a response category.

Q5: In the APVS in Japan, Beijing, Shanghai, and Hong Kong the question does not include an expression referring to a national or ethnic group, whereas in the other countries it does (i.e., for the former the question is in the form “more or less inclined to respect your ancestors than the average”; for the latter it is in the form “more or less inclined than the average American/Australian/Singaporean//Indian/South Korean/Taiwanese).

In the PRVS, the standard English expression on this question was: “Would you say you are, on the whole, more inclined than the average_____to respect your ancestors or less?”; in Australia 2007 and India 2008 the expression was slightly altered to: “Would you say you are, on the whole, more or less inclined than the average_____to respect your ancestors?” In the APVS we decided to uniformly use the latter expression, since we came to think that it was a better fit for the

response categories.

In the Korean version of this question, the PRVS expression had a connotation that was closer to “give importance to”, while that in the APVS was altered to be genuinely closer to “respect”.

The APVS questionnaire includes a reminder phrase “Now, I’d like to ask some questions about your family or lifestyle” just prior to this question, though this statement is not included in the questionnaires used in Singapore or Australia.

Q6: In the PRVS this question ended with a confirmatory phrase “or do you not think this is important?” in most countries, but in Australia 2007 and India 2008 such phrase was deleted. The difference is probably due to the fact that the original Japanese sentence also included the confirmatory phrase at the end, and initially its literal translation was adopted as the English language version. It was perhaps judged to be redundant while expressions for the Australian and Indian surveys were being assessed.

In the APVS the latter, simplified phrasing was adopted except in Japan 2010, and Beijing/Shanghai 2011, which was translated directly from the original Japanese. (In Singapore 2010, whereas the Malay and Tamil versions omit the confirmatory phrase, the Chinese language version includes it.) We now like to note that at this point we believe the decision to drop the confirmatory phrase was a mistake. Considering the generally applicable phenomenon in survey research that most respondents tend to react disproportionately to whatever the statement that comes at the very end of a question, the ending phrase should have been held uniform across countries.

Q7: Slight differences in English syntax: “for a family” in USA (both 2006 and 2010), and Australia 2007; “in a family” for Australia 2012, and Singapore (both 2007 and 2012).

Q8: In the PRVS the “default” English translation for this question, including that for USA 2006, was “Make no offense and lead a serious life”, though a somewhat different phrasing “Resist all evils in the world and live a pure and just life” was used in Australia 2007 and India 2008. In writing an English translation for the APVS for Q8 we decided to adopt the USA 2006 phrasing as the baseline, even though it did deviate from the general rule of considering the English translations used in Australia 2007 to be an improvement over USA 2006 – due to its newness – whenever they differed from each other. We deemed that on this particular question the expression used in Australia 2007 was overwrought and perhaps exaggerative. Further, additional adjustment was made after we had taken into consideration a suggestion by the local contractor in the USA that the beginning phrase “make no offense” be dropped, as this was deemed to be too vague. Because in turn, the remaining phrase “lead a serious life” appeared too laconic, we changed it to “an honest and ethical life”. While the word “ethical” could be considered a bit biased than the more generic term

“serious” in the Western English speaking cultures due to its religious or philosophical connotation, nevertheless it should be noted that the corresponding word in Japanese – “majime” – does have a stronger moral and normative connotation than the word in “serious” in English.

Also, on this question expressions are somewhat different in the Japanese and all the other languages, including English, for whereas the former simply asks “which of the following comes closest to your feelings”, the latter more explicitly asks “which comes closest to your way of life?” In South Korea 2003 and 2006, the Korean translation was closer to the Japanese statement, but for South Korea 2012 it was made to resemble the latter more closely as our local contractor in South Korea believed it would be more easily understandable in Korean.

For Singapore 2012, response categories 1, 2, 4 has been altered from Singapore 2007 for the APVS, in effect giving priority to cross-sectional international comparison rather than to longitudinal comparison within the country.

For response category 6 on Q8, sentence for USA 2010 is slightly different and says “Live each day as it comes, optimistically and without worrying”. English versions for all the other countries substitute “cheerfully” for “optimistically”.

Q9b: While the specific cultural nuance of this question may be difficult to convey to a non-East Asian audience, its implied connotation is that the eldest son of a family in particular ought to accept a stronger responsibility for looking after his aging parents, over and beyond that of his siblings. Admittedly, such implicit cultural understanding regarding the differing roles expected of the siblings may be hard to discern from the question’s English version. Nevertheless, we wanted to keep the question’s wording simple without over-explaining, and see how respondents in different countries would respond. However, a minor syntactical alternation of switching the subject and object respectively was made in South Korea after a suggestion by our local contractor; the English equivalent of the South Korea phrasing on this question would be “looking after his aging parents ought to be done by the eldest son”, instead of the previous 2003 and 2006 South Korean version “the eldest son should look after his aging parents” that was aligned with the other languages.

Q9c: In the PRVS this question was stated “A wife should follow her husband”, though this was a mistake. We realized such an error had occurred during the making of the translations for Australia 2007, so in that survey as well as in India 2008 the English rendition was changed to a desired one of “A wife should obey her husband”. The intent here is to clearly convey the decidedly conservative character of the value tapped by this question, and in the APVS we made sure that the English draft for all countries used the term “obey”. We also made sure that the question’s Chinese translation was a literal equivalent of “obey”.

Q9d: The “default” English statement for this question in the APVS is “We should obey older people”, though in the USA 2010 the question says “We should obey older people’s opinion”.

Q9f: The question uses the phrasing “It is important to have a son to keep the family line going” in the USA 2010 and Australia 2012, though in Singapore 2012 (as well as in the PRVS Singapore 2007) it says “We need a son to our family line going”. Our local contractor in Singapore believed the latter would be more easily understood by the local population.

Q10b: After some deliberation for the USA 2010 we decided to use the phrase “occupation you find least trustworthy” for this question’s English rendition. We believe this is an accurate and relatively literal rendition of the original Japanese wording. We further were able to make sure that the subsequent translation in Chinese faithfully reflected the meanings embodied in the former, or so at least for that used in Taiwan 2011 and Hong Kong 2011. However, our local contractors in mainland China resisted the idea of asking for a type of occupation that one finds untrustworthy, perhaps because of the politically sensitive nature of the question. So the statement used in Beijing and Shanghai 2011 is closer in connotation to asking for an “occupation you dislike”. (That is, a more literal translation of the Chinese term adopted is something like “boring”. So essentially the Chinese version on this question is asking people to name an occupation that they personally find to be too mundane for them to consider if they had a choice.)

Q11: In the PRVS the expressions “Have many friends/acquaintances”, and “Decisive and determined” were used respectively for response categories 5 and 7. However, in Singapore 2007 these two choices were different and stated: “5: Good human relations and have a wide acquaintance”, and “7: Being quick in decision and determined”. In the APVS the former combination was adopted as the “default” English version. In Singapore 2012 however, we elected to inherit the PRVS phrasing for 5 but did align 7 with the other countries by omitting “being quick”. Further, in Singapore 2007 in response categories 2, 3, and 9 the term “followers” was used instead of “subordinates”, perhaps due to a translation error. In Singapore 2012 this was changed to “subordinates”.

Also, in the PRVS this question did not allow the interviewer to record a response as either an “Other” or “DK” except in South Korea, unlike on most other questions. The reason for this omission is not clear, though in the APVS we did add the options “Other” and “DK” for this question.

Q12: The original Japanese phrasing for this question, inherited from the PRVS, was actually not very precise in two senses. First, the question itself is phrased as “how is your health”, thereby implying a relatively objective or “medical” status, even though it is clear from the response

categories that the question is about subjective satisfaction with one's health. Second, the aforementioned question sentence fails to indicate the ordinal nature of the response categories. Translators in many other countries were concerned with these points, and they have been corrected in the other languages. However, the Japanese phrasing has been left unchanged for the APVS, as we believed it would make little difference in Japanese context. Also, it should be noted that the ordinal nature of the response categories is more precise in the sense of being closer to an interval scale in its English version (as well as in other languages that used it as the baseline) than in Japanese (and in other languages that used it as the baseline), at least at the purely grammatical level. That is, the 4 response categories in English are: "Very Satisfied - Fairly Satisfied - Fairly Dissatisfied - Very Dissatisfied". But in Japanese, the 4 categories are not nearly as symmetric, and could be literally translated as: "Very Satisfied - Satisfied - Not Too Satisfied - Not Satisfied". The main reason for this is to preempt any bias stemming from differences in cultural context. We know from experiences in analyzing survey research data from diverse countries in the past that in nearly all places, the "mean" response for this sort of question on subjective satisfaction tends to be higher (i.e., towards greater satisfaction) than the response scale's physical midpoint. The differential wording strategies used in different countries are meant to adjust for known cultural bias, and set up ordinal scales in which the expected midpoint is at about the same location across countries. Still, we hope that analysts studying our data be aware of these issues, especially when recoding of categories, and so on, is involved.

Q.13: In the PRVS the 5 response categories included the term "class" in the USA survey, even though we did not intend to use this terminology. In the USA 2010, we made sure to use only the terms as "upper", "middle", and "lower" for the response categories. In India 2013, our local contractor believed that many Indian respondents would not be able to answer this question, as they would only think of a binary contrast of being "higher" or "lower" from the expression "standard of living". Accordingly, in India 2013 we changed the question sentence to: "Using the classification on this card, what groups do you think you belong to?"

Q.15: In Hong Kong 2011, the adopted Chinese translation for "stop working" in both the question statement as well as the response categories appears to have a connotation of resignation or withdrawal, which is probably about appropriate for this question. In Taiwan 2011 however, the adopted Chinese translation appears to be closer to "abandonment", which could be a little too decisive in nuance. In Beijing 2011 and Shanghai 2011, it should be noted that while the question statement uses the former terminology, the second response category uses the latter.

Q.16: Starting in the PRVS we have added an instructional note in bold, stating that only one

response category should be selected. However, in Australia 2012 and Singapore 2012 this note has been omitted by mistake. In India 2013, our local contractor was of the opinion that for Indian respondents this question is confusing for anybody not working currently, even compared with similar questions as Q11 and Q18. As such, we have included a note “Respondents need not be working to answer this question. Students, retirees, housewives, etc. should answer this question as if they were working” inside the instruction sheets used to brief the interviewers.

Q17a: In the Chinese language questionnaire for Singapore 2007 there was an error in the question statement (but, fortunately, not in the response categories themselves) such that an expression for “very much” was used twice for the two extreme response options. This error was corrected in Singapore 2012 so that the response option 4 in fact said “not at all”. Note that only in the USA 2010, South Korea 2012, and Vietnam 2013 there is an instructional note for the interviewers stating “Read Items a. THROUGH e”, whereas such a note is absent for the rest of the countries/areas.

Q17c: While the term “unemployment” in English could mean either an instance of losing a job, or a state of not having a job for some time, in Hindi the normally used counterpart tends to predominantly connote the latter. This has presented us with some difficulties in translation, as the Japanese equivalent tends to predominantly imply the former. In creating a questionnaire in Hindi for India 2013, however, we decided such a difference in meaning was unavoidable given that presumably there are so many individuals in India who are employed marginally, temporarily, or not at all.

Q17e: Taking a cue from the nuclear plant disaster at the Fukushima Daiichi plant following the great earthquake that hit northeastern Japan in March, 2011, we have included this item in our questionnaire starting in the 2011 surveys in Beijing and Shanghai, and thereafter. The item was not included in Japan 2010 or the USA 2010, as these surveys took place before the Fukushima accident. However, in the past the question has occasionally been featured in some of our domestic surveys, i.e., the Study of the Japanese National Character series. Note that while Hong Kong does not have a nuclear power plant inside its territory, the adjoining coastal regions in mainland China do have some nuclear power facilities. Also, in Australia 2012 and Singapore 2012, this item was phrased as “Nuclear power accidents”. On the other hand, in India 2013 and Vietnam 2013, the expression was “Accidents of nuclear facilities”. The original Japanese in the aforementioned survey was closer in nuance to the latter, whereas in the Chinese translation (Beijing, Shanghai, Hong Kong, Taiwan) it was closer to the former. It should be noted that this subtle difference could lead to difference in whether certain respondents come to think of military facilities in addition to the nuclear power plants.

Q18a: This item is intended to indicate the respondent's spouse and children; all other family members are covered in Q18e. In the instructional sheet for interviewers for the APVS, we have asked the interviewers to consider a response as "9: DK" if and when a respondent says something in the order of "I don't have a family member or own children". On the other hand, if a respondent has picked one of the ordered categories (i.e., from 1 "not important at all" to 7 "very important") regardless of whether he or she actually has a spouse or children, we have told the interviewers to simply record that response as is. Also, note that for this item only in the USA 2010, South Korea 2012, and Vietnam 2013 there is an instructional note stating "READ ITEMS a. THROUGH e" – the note is absent in all other countries/areas.

Q.19: In China our local research partner expressed a concern that this question could be confusing, since the question statement itself implies a dichotomous choice by asking whether the respondent is satisfied or dissatisfied with family life but then presents a 5-point ordinal scale. However, we elected to keep the formatting for this question as is, since it is an inherited item from the PRVS and direct comparability across the surveys is an important factor. Also, notice that while the English language statements on the ordinal response categories have "1: Satisfied", "5: Dissatisfied", and the 3 middling choices in between, in Singapore only the two respective polar choices are "1: Completely satisfied", and "5: Completely dissatisfied". This is because the local partner in Singapore thought that the categories need to be clear and emphatic, since in a multilingual society some respondents may not be sure of the nuances involved in a language that happen to be used in a survey. In India, our local partner argued it may be contradictory to add the phrase "the time you spend and the things you do with your family?" after initially stating "All things considered" at the beginning, since family life need not necessarily be restricted to times spent together physically. Our thinking was that this was likely a valid argument, and that the simpler statement in original Japanese that only asked whether people were satisfied or not of their own family was preferable to the current English version that seemed overly explanatory. Still, for the sake of longitudinal comparability we did not alter the question.

Q.20: Same consideration applies as in Q.19. Additionally, in Hong Kong 2006 survey of the PRVS response category 3 stated "Cannot decide". Since this expression could be confused with a DK response, we changed it to "Neutral".

Q21a: An instructional note to the interviewers "READ EACH ITEM from a. to k." was added beginning in the PRVS (In Vietnam the phrasing was "READ ITEMS a. THROUGH k."). On the other hand, no alteration has been made to the Chinese language version of this item since the PRVS.

In the USA 2010, the first item was reduced to just “headaches/migraines” by omitting an expression in parentheses “head felt heavy”, which was included in every country in the PRVS. In general, in both the PRVS and the APVS a DK response on this item is meant to apply to the entire Q.21 series as a whole. That is, rather than recording a DK response by individual items describing various symptoms from a. to k., the DK response was accepted only when a respondent was either unsure of the entire Q.21 series or declined to consider it. However, in India 2013 our local partner insisted it would metrically more accurate when the researchers had the option of recording a DK response by individual items, so after consideration we elected to use that policy in India, as also was the case, incidentally, in Singapore 2012. Unfortunately, for the latter the reasoning for the change is unclear as there is no written record of the transactions. We presume that either there was some miscommunication, or that our local partner in Singapore made the alteration on own accord.

Q21b: An instructional note to the interviewers “READ EACH ITEM from a. to k.” was added beginning in the PRVS (In Vietnam the phrasing was “READ ITEMS a. THROUGH k.”).

Q.21c: An instructional note to the interviewers “READ EACH ITEM from a. to k.” was added beginning in the PRVS (In Vietnam the phrasing was “READ ITEMS a. THROUGH k.”). According to our local partner in India, the expression used on this item in Hindi is closer in connotation to “anxiety” in a very generic sense, and is broader than being nervous to one extent or another in a neurotic sense. The Indian research partner nevertheless assured us that the working would convey our intent as is, since in Hindi outside the esoteric language of medicinal specialists there is really no comparable vocabulary that is more specific and be recognized easily by the general public.

Q.21d: An instructional note to the interviewers “READ EACH ITEM from a. to k.” was added beginning in the PRVS (In Vietnam the phrasing was “READ ITEMS a. THROUGH k.”).

Q.21e: An instructional note to the interviewers “READ EACH ITEM from a. to k.” was added beginning in the PRVS (In Vietnam the phrasing was “READ ITEMS a. THROUGH k.”). In India 2013 the literal translation of the Hindi wording used might be something like “does not experience sleepiness”. Still, our local partner argued that the expression was good enough to convey a sense that the item was meant to indicate a pathological condition, or at least a state that is not desired.

Q.21f: In the PRVS there were 5 items in the Q.21 series, corresponding to the items a. to e. In the APVS, 5 more items were added, corresponding to item f. and thereafter. These items were originally introduced in either one of the two other different survey projects: (1) a survey research

conducted by one of our affiliated researchers in the USA in 2006, which used the CATI method (thereafter USA CATI 2006); and (2) a project titled “An Opinion Poll on Daily Life and Culture”, conducted by the Hyogo University of Education in 2007 (thereafter Hyogo U 2007). This item originally stated just “lack of energy” in that survey, though in the APVS it was modified to “lassitude (lack of energy, feeling lethargic)”.

Q.21g: Adopted from USA CATI 2006

Q.21h: Adopted from USA CATI 2006.

Q.21i: Adopted from Hyogo U 2007; in the USA 2010 the wording was changed simply to “Allergy”.

Q.21j: Adopted from Hyogo U 2007; in the USA 2010 the wording was changed to “Asthma, coughing or breathing difficulties”.

Q.21k: This item is different than the “other” response in most questions in the APVS in the sense that while the latter is meant to be voluntary and recorded only when a respondent insists on it, on this item we have decided to deliberately ask whether respondents experienced any other symptomatic conditions than those already asked of. This change in policy was made starting with the APVS. Accordingly, while the SHOW CARDS listing the response categories used for the PRVS did not show this item, in the APVS “Any other health related problems (Specify:)” was included on the SHOW CARDS.

Q.22: Adopted starting with Japan 2004 survey in the PRVS, after significant modifications were made to the response choices 4, 6, and 7 from a similar item used originally in the East Asia Value Survey project, one of our older cross-national surveys. In the APVS, response choice 8 “Specialists with expertise in the area you are having difficulty with, such as physicians (Specify:)” was introduced. In Singapore 2007, response choice 98 stated “I don’t have anyone with whom I can confide in”, though in Singapore 2012 the last “in” was dropped and made to replicate exactly the wording used in the USA 2010 and other English language questionnaires in the APVS. In Australia 2012, quite a few respondents – 121 – selected multiple responses on this question, even though this was meant to be a single response item. While this was perhaps due to a miscommunication between us and the local research partner, nevertheless we consider the dataset as it is to be a valuable source of information. Accordingly, in tabulating the data we have tallied all the selected responses for these individuals. In India 2013 response choice 7 was altered slightly to

“Helpline on the phone or Internet”, from “Person to consult anonymously (on the phone or Internet)”. Our local partner in India suggested this would make better sense to many respondents in India, since in India there are quite a few such outlets and they are often collectively called the helpline. Also note that in the PRVS, this question did not let the interviewers record a “DK” response since such option was left out of the questionnaire itself. In the APVS a “DK” response was included in the questionnaire (but not on the SHOW CARDS). Further, In the PRVS the “Other” and “I don’t have anyone with whom I can confide” options were not shown on the SHOW CARDS. In the APVS, both these choices, along with the “Specialists with expertise...” option, are shown on the SHOW CARDS.

Q.23: Wording for this item has fluctuated over the years by different survey projects. In the Quality of Life survey conducted by one of our affiliated researchers in the past, the wording was simply “cancer”. In the 2004 Japan Survey, it was “disease that is difficult to cure”, while in Japan 2010 we attempted to incorporate both signifiers so that the expression was “disease that is difficult to treat such as cancer”. In the USA 2010, after receiving a suggestion by our local partner we adopted the English expression of “cancer or another disease that is life-threatening”. We also considered the possibility that for some respondents, this question might be particularly difficult to answer. Accordingly, we have decided to distinguish between refusal on one hand (coded as 7) and DK on the other (coded as 9, and meant to be used for a respondent who gives thoughts but still don’t know how to respond).

Q.24a: Adopted from USA CATI 2006. The redundant phrase “to borrow” was dropped from the wording used in that questionnaire for the APVS. Also, and more substantively, in the USA CATI 2006 the response choice 3 stated “only one”. We changed this to simply “one”, since we came to think that the former expression was perhaps unnecessarily negative in connotation. However, because a literal translation of the original English phrase was directly transferred to questionnaires in Japanese and Chinese, so in Japan 2010, Hong Kong 2011, and Beijing and Shanghai 2011 the third option does in essence still say “only one”.

Q.24b: Same consideration applies as in Q.24a.

Q.24c: Same consideration applies as in Q.24a.

Q.24d: Same consideration applies as in Q.24a.

Q.25: In the PRVS, this question used the wording “personal relationship” in the USA 2006. In

Australia 2007 and Singapore 2007, however, this was modified slightly so that while the term “personal” in front of “relationship” was dropped, an expression “personal connections” was added at the very end of the question statement parenthetically. In the APVS, the Australia 2007 format was adopted. Also in the PRVS, in the Hong Kong 2005 questionnaire the question statement was simplified for the sake of brevity such that it ended with “which one of the following do you think has played the largest in their success?” In Hong Kong 2011, however, the question statement itself introduces all the 3 possible response choices, as it does in questionnaires used in all the other locations, including Beijing and Shanghai 2011, and Taiwan 2011. Further, in Beijing and Shanghai 2011, we changed the Chinese expression for “relationships through alumni/alumnae” as our local partner claimed that the previous wording – inherited from the PRVS - has increasingly taken on a cliquish connotation and now interpreted quite negatively. On this item there is also an instructional note to the interviewers stating “SINGLE RESPONSE”, though this was omitted in Australia 2012, Singapore 2007 (in the PRVS) and 2012, and India 2008 (in the PRVS).

Q.26a: In the PRVS there was an introductory clause prior to this question “Now the questions about hot topics.” As our local partner in the USA suggested that this phrasing was not appropriately natural as English, we modified it to: “We now would like to ask you some questions about topics that at least some people take seriously.” In Australia 2012 the response category 2 was changed to “Would like it to exist” from “Would like to be”, while the response category 5 was changed to “Would not like it to exist” from “Would not like to be”. A similar modification was made for Singapore 2012, except therein the response category 5 states “Would like it not to exist”.

Q.26c: In the PRVS “Specter or ogre” was the wording in English language. In the APVS this was changed to “Goblin or ogre”.

Q.26d: In South Korea 2006 (in the PRVS) and 2012 the response categories 6 and 7 show up in reverse order.

Q.27: In Japan 2010 response category 2 stated “Disagree (humanity/a lot of human feeling is NOT lost, or increases), though in Australia 2007 and the USA 2010 the translation omitted the “(even) increases” portion. It is possible, though not verified, that to certain extent this difference may have affected the ways in which some people respond to this question. In Beijing and Shanghai 2011, Taiwan 2011, and Hong Kong 2011 we decided to match the translation to Japanese and thus the Chinese language version states “is not lost, or increases”. We deem the parenthetical explanations accompanying the response categories in this question to be important, as this question could be confusing as to what people are agreeing or disagreeing to if it merely offered the choices

“Agree” and “Disagree”. Also, our original intent was to make this a binary choice so that respondents would need to choose between one or the other idea, if they were made to. As such, “3: Undecided/it depends” should not have been included, though it was due to a mistake. On a more peripheral level, we also would like to note that a number of small differences in English phrasing exist across different countries and/or survey years. In the USA 2006, the question statement was “a lot of human feeling is lost”, and the response choice 1 was “Agree”. In Australia 2007, India 2008, the USA 2010, and Australia 2012, however, they were respectively “humanity/a lot of human feeling is lost”, and “1: Agree (Humanity is lost)”. In India 2013, while the question statement is the same as the latter, the response category 1 is “Agree (Humanity/a lot of human feeling is lost)”. Also, while in the USA 2010 and India 2013 the question statement is singular in saying “humanity/a lot of human feeling is lost”, in Australia 2012 it is plural and states “humanity/a lot of human feelings are lost”. In Singapore 2012 the sentence is “humanity/a lot of human feelings is lost”.

Q.28: In the original Japanese phrasing as used in our predecessor domestic survey, the presumed political leader was singular so that it referred to “an outstanding political leader”. However, in the series of cross-national comparative surveys we have conducted save for an wave of the Seven Nation Survey, this question has referred to the political leaders in plural and still do in the APVS. A minor observation is that in the USA 2010 there is a parenthetical note “(VOL)” following the response category 3, “Undecided/It Depends”. The acronym stands for “Voluntary”, and is meant to indicate to the interviewers that this option was to be recorded as such only when respondents voluntarily insisted on it. However, having such a policy could have been confusing, for this question does not come with a corresponding SHOW CARD for the responses, nor were they to be read out by the interviewers in the first place. Our partner in Australia pointed this out, so in Australia 2012 there is no “(VOL)” for the 3rd response category.

Q.29: The phrasing for the response category 1 is somewhat different in Japanese and in the languages that have been translated from it including Korean and Chinese, for it says “One should not divorce”, rather than “Marriage is permanent”. In Hong Kong 2005 and 2011, furthermore, a situational cue has been included so that that the category says: “One should not divorce regardless of the circumstances”. We believe in retrospect that this phrasing might have been more appropriate given the intent of the question, though except in Hong Kong this possible clarification was not included.

Q.31: The phrasing for the Korean language questionnaire in 2003 and 2006 was uniquely different in that it listed 3 statements and asked the respondent whether he or she agreed with each of them or

not, instead of asking him or her to choose one statement from the list of 3. This may be because we have been concerned with a somewhat distinct way in which courtesy and social desirability operate in Korean society. For Korea 2012 after consultation with our local partner we determined that this consideration was unnecessary and aligned the phrasing for this question with that for other countries.

Q.32: In the original Japanese language questionnaire in our domestic survey the response categories showed up in the order of “1. Disagree”, and “2. Agree”, and these statements were not accompanied by any further explanatory or parenthetical notes. For our series of cross-national comparative surveys we introduced parenthetical explanations indicating that while disagreeing meant not favoring the notion that the richness of human feelings cannot be reduced no matter what, agreeing meant humanity can or will be reduced. This was done to help respondents avoid any confusion, since we deemed that the syntactical structure of this question could make it difficult for some respondents to judge exactly what they were agreeing or disagreeing to. However, in the Korea 2003 survey in the EAVS there was an error and the parenthetical explanations were shown the other way around. This may be because in the EAVS we decided to switch the ordering of disagreeing and agreeing so that the latter was shown as “1”, since that seemed more natural. To this day we have been a little concerned with whether this mistake may have affected the patterns of responses in Korea for this particular wave of survey or not, since it was not noticed and corrected until a few days into the fieldwork. In the PRVS and APVS, we have elected to move back to the original format of “1. Disagree” and “2. Agree”, and stay with it consistently. In any event, it should be noted that as we have increasingly become more sensitive to the possible ways in which this particular question might be confusing to some respondents, we have tried to make sure that our fieldwork partners made some concrete efforts to make sure that the respondents have grasped what they were agreeing or disagreeing to before recording an answer. Other minor considerations with regards this question are as follows:

In the USA 2010, the English language phrasing was modified slightly to “can’t say one way or another” from “cannot say one way or another” as printed in the PRVS. Of somewhat greater substance, in the USA 2006 and India 2013, the response categories are: “1. Disagree (the richness of human feelings is REDUCED)” , and “2. Agree (the richness of human feelings is NOT REDUCED)”. But in the USA 2010, Australia 2007 and 2012, Singapore 2007 and 2012, they are: “1. Disagree (Humanity is REDUCED)” , and “2. Agree (NOT REDUCED). Further, in India 2008 they are: “1. Disagree (humanity is REDUCED)” , and “2. Agree (humanity is NOT REDUCED)”. Likewise, in our Chinese language questionnaires the respective statements for the response categories for Beijing and Shanghai on one hand and Taiwan and Hong Kong on the other come with slight variations in nuance of the sort that are quite comparable to those in English. In

particular, in Hong Kong 2006 there was another mistake in ordering and the questionnaire thereof has “1. Agree”, and “2. Disagree”. However, unlike in the aforementioned Korea 2003 survey the parenthetical explanations do correspond correctly.

Q.33a, b, & c: An expression “Buddha, God or gods” had been used on this or similar question until the PRVS. However, in the USA 2010 and Australia 2012 we modified the expression to “God, or other deities such as Jesus, Jehovah, Allah, Buddha, etc.” to better suit the cultural and social context of Western, Christian-majority societies. However, in the English language version for Singapore 2012 and India 2013, the expression “Buddha, God or gods” was retained.

Q.34: While the expression used in the USA 2006, 2010, and Singapore 2007, 2012 is “filial piety/love and respect for parents”, the term “filial piety” has been dropped from the questionnaires in Australia 2007, 2012, and India 2008, 2013, so that this question only asks of “love and respect for parents”. Our research partner in Australia expressed a concern that outside societies whose traditions and values have been strongly influenced by Confucianism, the statement “filial piety” could be difficult to grasp – thereby possibly dissuading some respondents from selecting the idea of love and respect for parents as an important value in an unpredictable manner. It should also be mentioned that a likeminded concern was also heard from our research partner in India.

Q.35: In the PRVS, while the USA 2006 and Singapore 2007 used the term “chief”, Australia 2007 and India 2008 opted for “manager”. In the APVS, we decided to use the latter wording for all the English language questionnaires. Also, in the PRVS the statement for the response category 2 differed slightly in Singapore 2007 than that for the other countries. In the APVS, we have decided to partially, but not entirely, eliminate this minor difference as found in the Singaporean questionnaire by altering the front end of the statement to correspond exactly with the USA 2010. The ending part of the statement, however, has been carried over from Singapore 2007, so that in the end the expression used is: “A department manager who sometimes demands more than what the rules call for, but who, on the other hand, looks after you personally in matters not connected with work.”

Q.39a: The series of sub-questions featured as Q.39 are new to the APVS for the purpose of our cross-national comparative survey research projects. They have originally been introduced in one of our domestic surveys in 2004, and also used by the Hyogo University of Education in their project on lifestyle and culture in 2006. Generally, the English language translations featured in the USA 2010 are courtesy of Professor Yasumasa Kuroda, who wrote them experimentally based on the 2004 questionnaire in order to summarize and introduce the research findings to an overseas audience.

On the other hand, do note that on some sub-questions we have made some minor adjustments to the translations written by Prof. Kuroda. Q.39a, however, retains the original wording as is. Also, it should be noted that for the Chinese language questionnaire for Beijing and Shanghai 2011, as well as Hong Kong 2011, translations were written directly from Japan 2010 without referring to the preceding question sets from 2004 or 2006.

Q.39b: Same general consideration applies as in Q.39a. Also, in the 2010 USA version we have made a small modification to the original statement written for the 2004 questionnaire, as we found the part stating “manifest to when and where” to be syntactically awkward.

Q.39c: Same general consideration applies as in Q.39a. A small modification was also made to this statement, from “After death one has a rebirth repeatedly” to “One goes through a cycle of rebirths repeatedly after death”.

Q. 39d: Same general consideration applies as in Q.39a. The word “may” has been added in the USA 2010 version to make the statement slightly less definitive.

Q.39e~g: Same general consideration applies as in Q.39a, except for a minor grammatical modification in Q.39f.

Q.39h: Same general consideration applies as in Q.39a. In addition, we like to note that in its original Japanese this question intended to tap into the feelings and sentiments regarding the subject matter, and not just factual recognition, as the English translation courtesy of Prof. Kuroda seemed to focus on. We believe the modified statement used in the USA 2010 reflects this intent more accurately. However, our research partner in Shanghai expressed a concern that this question would likely be baffling to many respondents in China, since the Chinese culture is on the whole more individualistic than that of Japan. As a result, whereas the English language statement “people sometimes involve their children when they commit suicide” is more or less a literal translation of the original Japanese, we have rendered the Chinese translation more direct and explicit to state “make children commit suicide together”. On the other hand, our research partner in Taiwan thought that most respondents in Taiwan would find the intent of this question recognizable, as people could assume that some would find it pitiable to leave behind parentless children. As a result, we have made the Chinese translation for Taiwan 2011 to be more in line with the Japanese and English statements, but not identical with that used in Beijing and Shanghai 2011.

Q.39i: Same consideration applies as in Q.39a. However, in India our research partner expressed a strong reservation on this question that it might sound awkward and exaggerated for many respondents. As such, in India 2013 the word “touching” has been substituted for “wonderful” – though with hindsight this modification may have unwittingly made this question far more ordinary and agreeable in India only.

Q.40a: From a question originally used in the CATI 2006 survey research project conducted by one of our affiliates. The word “own” has been inserted to the phrase “changed through actions”, rendering it “changed through own actions”.

Q.40b: This turned out to have been one of the questions for which we found it difficult to write translations from the original Japanese statement. It is inspired by a widely recognized aphorism in Japanese that contrasts longevity for its own sake on one hand and bold risk taking for a major accomplishment of some sort on the other under an assumption that they might be conflicting goals in life, wherein the contrast is expressed in a pair of very terse statements. In the process of writing translations we found that except in Korean the similar sort of idea is not expressed in a comparably short adage, so that it would be difficult to write translations that are satisfactorily accurate. In the end, for the English language expression we have settled on the contrast of “lead a long and simple life” and “lead a short but colorful life” – which we believe is adequately similar, but not exactly the same, with the proverbial concept widely used in Japanese. In the CATI 2006 survey research project, the latter statement was worded as “burn the brightest, burn the shortest”, apparently because it was then thought that would be more idiomatic. For the USA 2010 we have come to think that this expression was not that natural or commonly recognized as idiomatic in the context of US English either, so we decided to at least keep the statements short and simple. As with most other questions in the APVS, while translations for Korea, Beijing and Shanghai, Taiwan, and Hong Kong have been based largely on the Japanese language questionnaire, those for Singapore, Australia, India, and Vietnam have been translated from English as featured in the USA 2010 version. We like to emphasize that analysts of our research output need to be cautious in interpretation as on this question the intrinsic differences between its Japanese and English statements due to the aforementioned reasons could have been magnified in the process of secondary translations into the other languages. On the other hand, while the Chinese language phrases have been generally based on the Japanese, wording for the response category 1 may be closer in tone to the English word “colorful” than it is to the matched word in Japanese for this question, which literally means “thick” or “powerful”. Meanwhile, expressions for the response category 2 vary considerably across the different Chinese language versions for Beijing and Shanghai, Taiwan, and Hong Kong depending on the thinking and preference of our respective local research partners.

Q.41b: This question is meant to ask about people's views on the potential of modern science, to the extent of being able to decipher the aspects of the human mind that are not externally visible. However, it is possible that the Chinese translation for Beijing and Shanghai 2011 could be interpreted as meaning "it would be possible to read certain intentions people are trying to hide". We do not believe that the translation was necessarily wrong, though it was perhaps not the most accurate one we could be made, either.

Q.42: In general, this question comes with a note for interviewers stating "Write down all answers if the respondent gives more than one". However, this note is absent in Singapore 2012, as well as in the USA 2006, Australia 2007, and Singapore 2007 in the PRVS.

Q.43a: In Australia 2012 this question offers a response category of "Refusal", since our local research partners there suggested that in Australia some people might not want to disclose the specific faith they believe in even if it was not the case that they did not profess any particular religious faith. In the countries/areas in which research came later than Australia we also considered whether the category of refusal should be included or not, but in the end we decided not to. In Korea 2012 the local partner there suggested specifically that people in Korea generally would have no problem naming their particular faith. Also, in Vietnam certain forms of faith are formally recognized by the state as being part of the "official" religion. They are also indicated on the state ID that citizens carry. Other types of religious faith and belief exist, though they are not recognized as official by the state. As such, in Vietnam we decided to try to capture this distinction by categorizing the former as "1: Religion", and the latter as "2: Religious faith". So in Vietnam "3" refers to having no religious faith at all; people who selected either 1 or 2 were then directed to respond also to Q.43b.

Q.43b: Response categories vary by country/area. In creating the questionnaire for Beijing 2011 the local research partner pointed out given the political circumstances that were prevalent then, some people might conflate political discontent with religious sentiment. For instance, some people could express a desire for radical political change as a form of religious expression, as happened among certain segments of the population in the so-called Arab Spring movement of the early 2010's. We emphasized that religion and politics are separate, and that in this question any response that does not clearly fall into one of the religious faiths offered be recorded as "Other". In Vietnam 2013, quite a few people answered "ancestor worship" for this question. As such, during the stage of tabulating responses we created a separate category independent of the "Others" for this response in the Vietnamese data.

Q.44: In general, this question begins with a qualifying statement: “Without reference to any of the established religions”. However, in Korea 2012 our local partner suggested that we change this statement slightly to “Regardless of whether you yourself profess a religious faith or not”.

Q.45: In Australia 2012, Singapore 2012, and Vietnam 2013 this question is accompanied by a Show Card.

Q.46: The contracting agents were simply referred to as “parties” in the USA 2006 and Australia 2007 in the PRVS. However, in Singapore 2007 and India 2008 slightly and says “two parties”. Also, in the PRVS and before this question in its original Japanese statement stated “Doing things like having a contract” for the response category A. Since we later came to think that this was unnecessarily negative and might lower the proportion of people selecting it, in Japan 2010 it was changed simply to “To have a contract”.

Q.48: We came to think that in the PRVS this question was quite prone to social desirability effect as its two response categories lacked subtlety. As such, in the PRVS the contrasting choices were respectively: (1) Protecting the environment should be given priority, even if it causes slower economic growth, and (2) Economic growth should be the top priority, even if the environment suffers to some extent. In the APVS, they were modified to: (1) Economic comfort and a convenient lifestyle is important even if it is accompanied by pollution, environment hazards or the destruction of nature to a certain extent”, and (2) It is okay for economic vigor to decline and to face a less convenient lifestyle in order to control pollution, environmental hazards or the destruction of nature.

Q.49: As with Q.39, the original English translations for this question are courtesy of Professor Yasumasa Kuroda. However, we did make some modifications to the response categories 1, 4, and 5 due to grammatical reasons.

Q.50: In our domestic survey as well as in the Seven Nations Survey in the past, this question first asked for the “most important thing in life”, and then there was a follow-up question that asked “please name it there are other things you also consider very important”. Thereafter however, including in the PRVS and APVS, they were merged into a single question and we added a note stating “Write down all answers if the respondent gives more than one”.

Q.51a: We found the original expression in Japanese difficult to translate exactly or literally into

English. The term used here, “belief system”, is admittedly slightly different in nuance and feels more formal than what the corresponding question said in Japanese, but we thought this expression to be adequate and commonly recognized in American English.

Q.52a: This question was modified to certain extent to mirror a question in the World Values Survey delving into the comparable topic of the level of confidence or trust in the various kinds of modern social and political organizations. However, whereas all the included items in the WVS are organizations of one type or another, since our question includes “science and technology”, accordingly the question statement simply says “How much confidence do you have in the following”. However, in Japan 2010, as well as in Beijing and Shanghai 2011, Taiwan 2011, and Korea 2011, the statement is more specific and says the “following organizations, institutions or phenomena”. The response categories were also modified to correspond to the WVS, so that whereas in the PRVS the responses were measured as “very confident”, “somewhat confident”, “not confident”, and “not confident at all”, in the APVS they are “a great deal”, “quite a lot”, “not very much”, and “none at all”.

Q.52b: Same general consideration applies as in Q.52a. However, because this item asks about “the law and the legal system”, it could be construed as being double barreled. Our research partner in China suggested that this problem could in particular be acute in the Chinese context, since many respondents might consider the law itself to be fair but not the judiciary. As such, in Beijing and Shanghai 2011, and Taiwan 2011, this item includes a parenthetical part and states “the legal system (the law and/or the judiciary system)”. It could be somewhat different in nuance than the terminology used in the Japanese or English questionnaire.

Q.52c: Same general consideration applies as in Q.52a.

Q.52d: Same general consideration applies as in Q.52a.

Q.52e: Same general consideration applies as in Q.52a. However, terminologies differ by country/area depending on the structure of its political institutions. In the USA 2006 this item was phrased as “National government bureaucracy”; this was altered to “Federal bureaucracy” in the USA 2010 since that sounds more natural in US politics. Meanwhile, “National government bureaucracy” was used in Australia 2012 and Singapore 2012, while in India 2008, and 2013, it is simply “Bureaucracy”. In Taiwan 2006 the terminology was “Executive branch”, but in 2011 an adjective “Governmental” was added. In Hong Kong 2006 the terminology was “Executive branch of the state (Executive Council)”, but in 2011 only the parenthetical portion was retained.

Q.52f: Same general consideration applies as in Q.52a. However, terminologies differ by country/area depending on the structure of its political institutions. In the USA 2006 the terminology was “National Assembly” (Congress)”, but in the USA 2010 only the parenthetical portion was retained. In Australia 2007 it was “National Assembly (Federal Parliament)”, while in Singapore 2007 it was “National Assembly (Diet or Parliament). They were both simplified to just “Parliament” in Australia 2012 and Singapore 2012. In Hong Kong 2006, it was “National People’s Congress of the People’s Republic of China (Legislative Council)”, in Hong Kong 2012 only the parenthetical portion was retained.

Q.52g: Same general consideration applies as in Q.52a.

Q.52h: Same general consideration applies as in Q.52a.

Q.52i: Same general consideration applies as in Q.52a.

Q.52j: Same general consideration applies as in Q.52a. However, note that this was one item that had not been included in the WVS.

Q.53: In the questionnaires for the PRVS, the phrasing of “his/her” was used for the possessives therein except in Singapore 2007, which used “one’s”. In the APVS, starting with the USA 2010, this was we have decided to consistently use “his/her”. Also note that in the past only in Singapore 2004 and 2007, response categories 1, 2, 4 were singular (“belief” instead of “beliefs”). In Singapore 2012 this was corrected to the plural form.

Q.54: Individuals aged 20 or over constitute the sample in Japan. However, because the age of majority in the US, mainland China, Australia, India, and Vietnam is 18, the youngest age group in these locations is from 18 to 24. In Taiwan, though the age of majority is 20, we decided to include the 18 and 19 year olds to align the sample thereof with that from mainland China.

Note that in the USA 2010 and Hong Kong 2011, quota sampling based on gender and age was used. Therefore, in these places questions F1 and F2 have been asked at the beginning, rather than toward the end, of the questionnaire. In Japan and some other locations, individuals aged 70 or older have been included in the sample, though in certain other locations they have not been. Therefore, in the latter the resulting dataset does not include the age group of those over 70 (coded as 11 when included). Further, in Korea 2012, while the sampling procedure was not strictly based on quotas yet questions F1 and F2 have been moved up to the front part of the questionnaire, too.

In Singapore 2012, only individuals aged 21 or older have been included because the age of majority there is set at 21 – in Singapore 2007, the lower age limit was set at 20. As such, age category 1 for the Singaporean dataset includes those aged 21 to 24. Also, in Singapore 2012 those over 70 years in age have been included, while previously in 2007 they were excluded. Likewise, while in Australia 2007 the upper age limit was set at 70, in 2012 those aged 71 or older were included. Accordingly, in the 2012 Australian dataset the age group category 11 has been changed to refer to ages 65 to 69 instead of from 65 to 70, while code 12 was added to refer to those over 70 years in age. Lastly, the upper age limit in Vietnam was set at 65.

F3~F7: Users of our dataset are urged to exercise caution in interpreting these demographic data as their content, ordering and the response categories differ according to the context and social structure of the individual countries/areas. In principle, we try to respect whatever the format and preferences our local research partners wish to adopt based on their established practice.

In the USA 2010, we included a question on race and ethnicity, which in the questionnaire was identified as QS2. In Taiwan 2011, we asked a question about whether the respondent possessed a foreign passport or not. In Australia 2012, we asked a question on the main language spoken at home. In Singapore 2012, we included a question about whether the respondent is a permanent resident of Singapore or not. In India 2013, 3 separate questions were respectively included to identify the main language spoken at home, preferred language of the respondent as an individual, and main language of the interviewer. In Vietnam 2013, main language spoken at home and ethnicity were asked for. As far as income is concerned, we simplified the categories into broader brackets than was the case in the PRVS. As such, for instance, in Japan 2010 and the USA 2010 there are five income categories. In general, we requested our local partners in different locations to be simple and efficient in asking for the approximate level of income while taking into account the economic and social conditions their countries are experiencing, informing that perhaps 3 or so categories might be all that are needed. In reality, most of our local partners have opted to use more than that.

As far as educational levels are concerned, our coding scheme differs for the different countries/areas based on the level of difficulty of getting admission into particular schools of higher learning, and/or of graduation. Specifically, while in Japan 2010 and Korea 2012 we consider having left college without obtaining a degree comparable to being a college graduate, but in other locations those who did not complete a degree are recorded as having only a lower level of educational credential. Note that in Singapore, our thinking changed from the PRVS to the APVS, so that in Singapore 2012 the statement “If you dropped out or still in the school, please consider yourself graduated” that was included in Singapore 2007 was dropped.

4. 集計表 Cross National Tabulation

a アジア・太平洋価値観国際比較調査の集計表 Asia-Pacific Values Survey

(注) 日本2010、USA1020調査後に、東日本大地震及びフクシマ原子力発電所事故が起きたため、関連する項目を中心に事後に補遺調査を遂行した。ただし、本調査とは異なり、JPN-Omnibus (Shinjyoho)^{*1}は割り当て法、JPN-Omnibus (Chuo-chosa)^{*2}はランダムルート法による面接調査であり、USA-Omnibus (SSRS社)^{*3}はCATIによって。日本調査は2014年2月-3月、USA調査は2014年12月であった。

Note: Because the Great East Japan Earthquake and the Fukushima nuclear power plant disaster happened in March 2011 after Japan 2010 survey and USA2010 survey, we carried out sort of supplementary surveys concerning those disasters. JPN-Omnibus (Shinjyoho Center)^{*1} and JPN-Omnibus (Chuo-Chosa)^{*2} used quota sampling and random route sampling respectively, and USA Omnibus (SSRS, Inc.)^{*3} used CATI. These Japan surveys were done during February 2014, and USA survey in December 2014.

APVS	Country code	Item	category	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	#1	#2	#3
				Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (Shinjyoho)	JPN-Omnibus (Chuo-chosa)	USA-Omnibus			
Q1	#7.31	Living Conditions	#sample	852	1002	1000	1000	1000	1000	1005	801	1021	2030	1000	1003	1220	1018			
			1)Much better	0.2	31.6	52.0	35.9	4.3	2.2	2.9	7.0	19.7	24.9	27.3						
			2)Slightly better	9.3	30.5	39.9	48.1	34.7	33.1	41.5	26.5	29.1	34.1	52.3						
			3>About the same	43.2	25.3	3.7	8.5	26.8	18.4	32.1	24.5	20.3	17.7	13.5						
			4)Slightly worse	37.0	8.8	2.8	3.4	24.5	34.6	19.9	31.1	19.0	11.6	5.8						
			5)Much worse	8.7	2.9	0.9	1.1	5.4	4.2	1.3	10.1	9.4	10.0	0.6						
			6)DK	0.1	0.1	0.3	0.6	0.7	0.8	0.1	0.1	-	0.0	-						
			*NA含む	1.5	0.7	0.4	2.4	3.6	2.2	2.2	0.7	2.5	1.6	0.5						
			9)DK	150.0		147.1	154.4	134.2	136.5	156.3	117.7	114.4	150.7	128.8						
Q2	corrected	Country for Friendship	USA	24.2	114.4	219.4	214.5	210.7	215.7	26.7	212.0	214.7	23.5	212.6						
	修正	※【国別質問】	EU(European Union)	29.6	33.3	33.5	313.6	37.4	43.0	45.4	43.7	311.1	519.3							
		※フランスは、各調査票で設定	Japan	43.9	49.5	46.7	42.9	41.1	42.7		53.7	52.0	60.6	68.1						
		※されていない回答は	South Korea	325.6	333.0			532.0		321.3	335.3	323.7	532.0	60.6						
			Mainland of China																	
			China																	
			Australia	71.3	712.2	76.7	76.3	71.2	64.5	53.1		67.7	47.7	91.9						
			India	58.0	54.8	52.3	51.4	90.7	84.6	60.8	79.7	74.0		70.6						
			Singapore	60.7	61.1	67.6	67.9	81.4	77.2	71.0	64.1		75.9	82.9						
			Hong Kong					60.4												
			Taiwan						510.7											
			The Other Asian than, China and South Korea																	
			The Other Asian than, Japan and South Korea																	
			Country other than China and Japan																	
			Asian country other than China, India, Japan and South Korea									8330.4								
			Asian country other than China, Japan and South Korea							84.6				100.4						
			Asian country other than China, Japan, India and Singapore																	
			Asian country other than China, India, Japan, Singapore and South Korea																	
			Asian country other than China, Japan, South Korea and Singapore	811.1	86.0	84.0	81.7	880.4	882.6	880.7	881.4	881.2	882.4	881.70						
			Other	95.3	99.5	92.9	97.4	994.3	998.1	992.6	992.7	998.2	9911.4	994.1						
			DK																	

APVS	Comment code	Item	category	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	2014	2014	2014	2014
				Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA-Omnibus					
Q3	corrected 修正	Country to be Born again ※【国別質問】	Japan South Korea China Mainland of China Taiwan	2,46 1,29 3,23 4,26 5,26	17,0 3,11 2,37 3,99 5,30 6,39	1,36 2,78 3,99 4,23 5,08	1,86 2,37 3,47 4,23 5,11	1,38 2,52 3,70 4,86 6,07	1,48 2,60 3,16 4,86 6,05	2,70 3,33 1,57 4,26 5,15	2,25 3,33 1,87 4,92 6,75	2,75 3,33 1,97 4,92 6,43	2,14 3,21 4,38 5,10 6,36	3,20 4,18 5,10 6,28 7,09								
Q4	#6.2	Boy or Girl to be Born again	DK 1)A Boy 2)A Girl 3)Other	88,74 99,14 50,7 45,2 0,9	12,9 9,7 5,1 4,6 0,4	8,3 9,2 5,7 3,6 5,0	8,3 9,2 5,7 3,6 5,0	8,2 9,1 6,0 3,9 2,7	8,2 9,1 5,5 3,5 6,3	7,1 5,6 1,4 3,4 0,3	3,4 1,4 5,1 1,7 0,3	5,1 6,2 1,7 3,9 0,2	6,0 7,1 2,1 3,2 0,2	7,1 8,2 3,2 4,7 0,2								
Q5	#4.11 corrected 修正	Respect for Ancestors	1)More Than the Average 2)Less Than the Average 3)Average 4)Other	5,4 1,1 3,6 0,1	7,0 4,2 2,4 0,1	6,5 1,7 3,2 0,2	6,5 1,7 3,2 0,2	6,2 4,6 3,2 0,1	6,2 4,9 4,4 0,2	5,6 1,3 1,7 0,1	3,4 8,0 3,8 0,5	1,4 5,0 4,1 0,5	5,1 2,1 3,2 0,0	6,2 7,1 2,6 0,0								
Q6	#4.10 corrected 修正	Child Adoption	1)Would Adopt 2)Would Not Adopt 3)Depends 4)Other	19,4 5,4 2,2 0,2	5,6 2,3 1,9 0,5	4,0 4,4 1,4 0,5	2,7 5,5 1,6 0,2	2,3 6,7 1,3 0,2	1,1 6,7 1,3 0,2	2,3 3,8 2,3 0,9	1,2 3,1 2,0 0,6	0,5 4,5 2,1 0,6	1,7 3,9 2,0 0,9	0,2 5,4 2,6 0,0								
Q7	#4.80	Ideal Number of Children		0,2 1,1 4,1 5,0 1,9 0,7 0,1 3,5	0,3 3,7 2,3 2,4 1,9 3,2 2,9 3,0	0,7 2,0 1,4 0,5 0,5 0,1 0,1 0,3	0,7 2,4 1,6 0,2 0,2 0,1 0,3 0,7	0,7 2,4 1,6 0,2 0,2 0,1 0,3 0,7	0,7 2,3 1,6 0,2 0,2 0,1 0,3 1,4	2,3 3,8 2,3 0,9 1,2 1,0 1,0 5,1	1,2 3,1 2,0 0,6 0,6 1,1 1,5	1,6 4,5 2,8 0,6 1,1 1,7 2,4	1,2 3,9 2,6 0,9 1,4 0,9 1,9	4,3 5,4 4,9 0,0 6,2 0,3 0,1 1,5								
Q8	#2.4 corrected 修正	Attitudes towards Life corrected 修正 ※1)の表現が修正された	1)Lead an honest and ethical 2)Active in volunteer work and 3)Work hard and get rich 4)Study earnestly and make 5)Don't think about money or 6)Live each day as it comes. 7)Other	48,2 11,2 4,1 1,4 2,0 13,6 0,1	50,7 3,9 6,5 2,3 15,9 19,6 0,7	37,0 12,9 9,7 3,0 22,4 14,5 0,3	42,2 13,7 9,8 2,4 20,1 11,2 0,2	40,6 13,7 10,4 2,4 25,1 14,5 0,4	22,0 6,8 12,9 2,6 23,2 14,1 0,9	2,0 6,8 19,4 6,5 9,5 17,9 0,8	32,9 11,1 19,4 8,0 12,4 19,1 0,4	32,9 11,1 19,4 8,0 12,4 19,1 0,4	44,4 15,1 22,3 8,4 11,9 14,7 0,1	40,7 15,1 30,6 8,4 7,0 5,8 0,1								
				0,5	0,5	0,2	0,4	0,4	1,8	0,8	0,2	0,5	0,1	0,1								

APVS	Comment code	Item	category	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	2014	2014	2014	2014	
				Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA-Omnibus	Project Name, Item # and Notes for Omnibus Data								
Q8a		Confucius Teaching - We should respect our ancestors	1)Strongly Agree 2)Agree 3)Disagree 4)Strongly Disagree 8)Other	45.7 46.2 5.6 1.5	59.5 37.9 1.4 0.5	54.5 44.6 0.7 -	61.9 35.5 1.9 0.2	54.5 44.4 0.7 0.1	63.1 32.2 2.2 1.8	33.1 66.8 13.5 0.7	15.5 50.8 4.1 0.6	36.4 59.7 3.3 0.1	84.0 15.1 0.5 0.4	78.9 20.9 - 0.2												
Q8b	correct 修正	*NAを含む Confucius Teaching - The eldest son should look after his aging parents	1)Strongly Agree 2)Agree 3)Disagree 4)Strongly Disagree 8)Other	0.9 10.9 25.7 46.8 15.6	0.7 18.9 35.1 35.8 5.7	0.7 30.9 46.0 19.9 2.4	0.4 35.0 88.8 21.5 0.8	0.2 19.7 48.6 27.6 1.8	1.4 26.9 52.2 16.9 0.9	1.8 3.6 23.5 55.0 16.9	0.1 9.5 29.7 38.4 9.1	0.4 17.7 37.7 34.4 5.3	0.0 60.0 26.4 18.1 4.2	0.0 33.2 43.6 - 4.9												
Q8c	correct 修正	*NAを含む Confucius Teaching - A wife should follow her husband	1)Strongly Agree 2)Agree 3)Disagree 4)Strongly Disagree 8)Other	0.9 8.0 26.1 46.8 18.0	3.2 11.5 29.0 35.8 20.7	0.3 6.7 26.6 58.7 4.9	0.8 8.0 19.2 57.7 12.5	0.3 7.6 35.2 44.4 6.3	1.9 8.2 35.8 44.4 7.2	1.9 4.1 45.4 41.1 7.7	1.0 4.2 21.6 44.6 27.6	0.4 12.8 53.0 28.5 4.1	0.9 55.9 30.1 9.2 4.3	0.1 26.0 50.9 19.7 3.2												
Q8d		*NAを含む Confucius Teaching - Not to marry someone whom your parents object to	1)Strongly Agree 2)Agree 3)Disagree 4)Strongly Disagree 8)Other	1.2 6.1 21.4 54.1 16.9	1.9 8.6 25.1 49.6 14.6	0.4 2.0 8.8 76.9 11.3	1.1 3.9 11.8 63.9 19.0	0.5 2.6 11.5 60.9 24.5	2.2 2.4 7.2 60.4 27.7	2.2 8.5 40.7 39.7 8.2	0.6 3.2 16.1 60.5 19.4	0.9 1.6 6.6 48.7 9.1	0.1 6.6 56.9 9.8 3.7	0.1 0.4 12.7 30.3 46.5												
Q8e	correct 修正	*NAを含む Confucius Teaching - We should follow older people	1)Strongly Agree 2)Agree 3)Disagree 4)Strongly Disagree 8)Other	10.4 45.7 34.9 7.7	19.4 42.4 29.9 5.2	7.6 53.4 32.6 0.9	11.4 46.9 33.5 2.3	0.9 51.3 31.5 2.4	0.2 53.5 30.0 3.3	1.4 53.4 30.0 4.8	1.7 6.8 32.7 5.6	0.2 20.4 38.2 1.0	0.2 69.3 16.1 0.6	0.6 39.1 54.6 0.6												
Q8f		*NAを含む Confucius Teaching - It is important to have a son to keep the family line going	1)Strongly Agree 2)Agree 3)Disagree 4)Strongly Disagree 8)Other	0.8 8.6 24.1 47.9	1.7 19.5 31.5 37.3	0.3 4.7 26.0 61.5	2.0 5.7 20.9 62.6	0.8 8.8 29.5 55.7	2.2 5.2 26.0 53.5	1.7 4.7 31.0 49.7	0.9 1.0 23.2 52.7	1.0 10.7 36.5 42.5	0.1 47.5 26.8 16.6	0.2 30.1 43.3 22.0												
Q8g		*NAを含む Confucius Teaching - Men should work outside and women should tend to housekeeping	1)Strongly Agree 2)Agree 3)Disagree 4)Strongly Disagree 8)Other	0.2 0.6 6.2 18.1 50.2	0.4 1.8 6.1 16.4 44.7	1.2 4.8 25.5 61.8	1.8 6.7 20.9 59.3	0.4 6.8 24.1 58.1	1.5 3.2 23.6 53.5	1.5 0.8 30.9 47.8	1.1 0.5 2.5 5.9	0.5 1.2 3.4 24.3	0.0 0.2 39.0 27.0	0.0 0.3 13.0 30.9												
Q10a		*NAを含む The Most Respectable Occupation/ Occupation to Take	9)DK	0.4	1.0	1.5	1.1	0.1	0.2	1.8	0.5	0.2	1.3	0.2	0.5	0.2	0.5									
Q10b		*NAを含む The Least Trustworthy Occupation/ Occupation to Take	9)DK	1.1	1.1	0.1	1.1	0.2	1.8	0.5	0.2	1.3	0.2	0.5	0.2	0.5	0.2	0.5								

APVS	Comment code	Item	category	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	2014	2014	2014	2014	
				Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA-Omnibus					
Q11	#5.25	Leader's Qualifications	1) Technical competence 2) Fair in treating subordinate 3) Being liked and respected 4) Serious attitude toward work 5) Have many friends/acquaintances 6) Sincere in attitudes toward others 7) Decisive and determined 8) Good judgment 9) Ability to bring great benefit to others 10) Seniority 11) Income from good family business 88) Other 99) DK	24.4 45.4 36.2 45.9 14.7 38.5 28.9 47.3 7.0 2.2 0.2 0.6 1.3	35.4 52.4 18.0 45.4 8.1 34.2 27.1 58.4 16.7 5.0 4.7 1.5 0.6	51.9 49.8 22.2 28.7 19.1 35.6 17.4 26.3 39.6 1.1 1.4 0.1 -	46.3 49.8 22.6 27.6 20.5 39.6 17.4 30.8 34.5 1.6 1.5 0.5 -	19.7 52.0 32.2 20.9 16.0 46.1 15.7 37.1 50.0 1.4 0.4 0.3 1.2	25.1 51.2 28.2 33.1 16.0 35.1 17.7 41.4 23.2 1.7 1.2 0.3 3.4	36.6 52.7 52.0 22.8 30.2 43.7 25.6 32.5 12.7 4.2 1.6 0.1 -	27.4 44.9 22.0 29.2 41.0 45.2 27.5 58.9 22.4 4.1 4.0 0.4 0.4	39.3 31.2 32.3 38.5 27.0 35.0 22.8 28.0 14.9 1.8 7.3 -	76.8 31.9 17.7 36.0 24.4 25.0 29.1 24.0 22.2 6.1 6.3 -									
Q12	#2.3g	Health Satisfaction	1) Very Satisfied 2) Fairly Satisfied 3) Fairly Dissatisfied 4) Very Dissatisfied 8) Other 9) DK	17.0 58.8 18.5 5.5	45.0 40.7 9.5 4.5	18.2 62.1 14.3 5.2	17.3 58.8 17.0 6.3	10.0 67.8 18.3 4.8	8.2 67.7 17.0 4.8	15.0 58.3 24.6 2.0	39.7 48.8 8.5 3.0	34.4 58.9 5.9 0.9	51.8 42.0 4.8 1.3	28.2 55.9 13.4 2.5	25.2 47.0 23.8 3.7	25.2 47.0 23.8 3.7	25.2 47.0 23.8 3.7	25.2 47.0 23.8 3.7	25.2 47.0 23.8 3.7	25.2 47.0 23.8 3.7		
Q13	#1.8 corrected 修正	Social Stratification	1) Upper 2) Middle 3) Lower 8) Other 9) DK	0.1 10.9 57.4 24.9	1.5 12.5 52.3 23.6	2.5 11.3 50.9 26.4	0.2 15.6 51.2 22.2	0.4 15.8 59.4 18.6	0.4 9.1 45.6 32.2	0.6 6.2 47.7 36.5	0.1 1.6 9.0 3.4	0.1 6.2 17.0 2.8	0.0 10.1 56.8 12.6	0.0 11.6 70.0 6.4	0.1 2.3 70.9 11.9	0.1 2.3 70.9 11.9	0.1 2.3 70.9 11.9	0.1 2.3 70.9 11.9	0.1 2.3 70.9 11.9	0.1 2.3 70.9 11.9	0.1 2.3 70.9 11.9	
Q14	#7.81	Money or Free Time	1) More Money 2) More Free Time 8) Other 9) DK	0.8 39.6 2.0	0.5 25.8 1.7	0.5 27.0 0.5	1.6 23.7 0.4	1.6 28.6 0.5	1.6 39.0 1.9	1.4 38.4 0.4	0.3 40.3 1.1	0.4 44.1 0.5	0.1 30.2 7.8	0.1 29.1 1.2	0.2 70.7 0.2	0.1 30.2 1.2	0.1 30.2 1.2	0.1 30.2 1.2	0.1 30.2 1.2	0.1 30.2 1.2	0.1 30.2 1.2	0.1 30.2 1.2
Q15	#2.8	Continuing Work or Retire	1) Continue to Work 2) Stop Working 8) Other 9) DK	62.8 31.1 1.3 4.8	56.0 37.2 3.8 3.0	78.1 19.6 1.7 0.6	63.8 31.4 2.0 2.8	73.5 23.3 1.6 3.0	57.8 36.5 2.7 1.6	64.4 34.1 0.1 1.4	63.8 31.1 4.7 0.4	71.6 28.7 0.2 1.5	84.5 14.8 0.1 0.5	89.9 10.0 0.1 0.5	62.9 33.0 1.1 3.0	62.9 33.0 1.1 3.0	62.9 33.0 1.1 3.0	62.9 33.0 1.1 3.0	62.9 33.0 1.1 3.0	62.9 33.0 1.1 3.0	62.9 33.0 1.1 3.0	
Q16	#7.24	The First Condition for one's own Work	1) Good Salary 2) Safe Job 3) People You Like 4) Doing an Important Job 8) Other 9) DK	16.0 19.4 24.4 38.6 0.4	34.9 22.5 9.2 31.8 1.0	21.4 14.6 29.3 34.2 0.2	31.8 17.4 26.0 23.7 0.4	28.7 16.2 27.9 25.9 0.1	20.1 10.9 33.9 13.9 0.9	35.5 21.9 22.1 30.6 0.1	27.2 18.9 13.4 20.0 0.6	37.5 25.1 17.9 40.0 -	40.7 43.3 10.6 4.7 -	0.7 48.8 24.3 11.9 15.0 -	0.5 -	0.5 -	0.5 -	0.5 -	0.5 -	0.5 -	0.5 -	0.5 -
Q17a	#2.30 modified 変更	Anxiety - Serious illness	1) Very Much 2) Somewhat 3) Slightly 4) Not at All 8) Other 9) DK	2.12 24.4 43.7 10.3 0.1	36.1 35.4 18.4 9.9	45.3 17.3 23.0 14.1	44.1 20.6 22.7 11.0	36.5 33.7 19.9 9.6	48.8 29.9 13.9 6.5	48.8 16.7 50.8 28.5	3.5 30.7 16.4 6.9	46.1 19.7 11.2 6.3	46.7 25.9 9.9 17.0	0.7 69.7 4.6 0.2 -	31.4 19.9 38.9 20.8 0.4	31.4 19.9 38.9 20.8 0.4	31.4 19.9 38.9 20.8 0.4	31.4 19.9 38.9 20.8 0.4	31.4 19.9 38.9 20.8 0.4	31.4 19.9 38.9 20.8 0.4	31.4 19.9 38.9 20.8 0.4	

APVS	Comment code	Item	category	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	2014	2014	2014	2014	2014			
				Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA-Omnibus										
Q17b	#2.30a modified 変更	Anxiety — Car accident		21.6 25.5 44.2 8.5	22.2 27.8 29.8 19.7	52.5 17.6 15.6 13.5	40.4 23.8 21.8 10.1	35.2 33.1 22.8 8.8	49.1 31.0 11.3 7.5	2.0 31.0 54.3 30.1	29.7 11.6 26.1 13.1	50.0 22.0 16.0 11.9	39.5 23.1 15.3 20.3	57.4 36.4 5.7	19.0	10.3	25.6											
Q17c	#2.30a modified 変更	Anxiety — Unemployment		0.2 14.7 18.9 36.6 27.9	0.5 28.4 30.3 23.3 17.4	0.8 23.6 15.2 31.3	3.8 23.4 30.3 18.9	0.1 28.9 30.3 28.3	1.5 20.3 28.4 36.8	1.5 6.2 18.9 38.4	1.5 6.2 18.9 32.1	0.1 3.0 30.6 22.0	1.5 3.0 30.6 12.9	1.8 38.3 33.6 14.7	0.3	0.1	26.1											
Q17d	#2.30f modified 変更	Anxiety — War		0.1 1.8 21.4 20.5 39.2 18.7	0.2 0.4 23.7 24.6 24.7 26.5	0.3 0.2 44.8 11.3 15.6 27.5	0.4 0.2 34.0 17.9 21.6 22.2	0.1 3.0 30.7 19.2 16.1 28.5	0.1 1.6 43.1 25.0 15.8 13.8	1.1 2.7 4.2 5.1	0.1 0.1 2.4 3.7 3.4 5.0	0.1 0.1 32.5 23.6 28.3	0.1 0.3 20.0 24.4 23.4 26.7	0.0	0.0	2.1	26.1											
Q17e	#2.30g modified 変更	Anxiety — Nuclear power accident		0.2 0.7 1.3 0.7	0.6 0.7 1.3 0.4	0.7 37.6 16.0 22.7	3.9 37.6 16.0 19.9	0.5 34.6 21.4 18.4	2.2 40.0 24.2 18.4	2.2 30.0 13.2 14.0	2.7 20.7 12.7 35.3	0.1 0.1 1.7 4.2	0.1 0.8 2.1 2.8	5.4 18.9 27.4 24.9	0.6	0.9	16.3											
Q18a	#5.81a corrected 修正	Importance — Immediate family and children		0.7 0.7 0.8 5.0 6.0 10.1 75.9	1.3 0.3 0.3 1.2 1.0 3.4 88.3	0.4 0.4 0.9 2.9 3.1 4.1 87.7	1.3 0.4 0.9 2.0 2.5 6.4 85.5	0.3 0.2 0.9 2.2 5.3 12.8 77.7	1.1 0.3 1.1 4.2 7.4 18.7 65.8	3.0 4.2 4.2 5.3 7.4 22.1 70.5	0.2 0.2 0.5 0.7 3.2 8.4 85.0	1.1 0.1 0.1 0.5 10.1 23.0 77.3	7.2 0.4 0.2 0.3 3.2 33.7 63.5	1.7	0.4	0.2	15.4											
Q18b	#5.81b modified 変更	Importance — Career and job		0.7 4.1 1.9 2.2 12.7 19.2 20.9 35.9	3.5 5.9 1.8 2.6 10.1 22.7 17.5 36.2	0.2 4.4 1.8 3.4 11.0 14.6 20.0 44.7	0.1 3.3 1.0 3.0 7.0 15.9 25.4 43.6	0.6 1.6 1.6 3.7 8.5 20.9 25.4 39.0	0.6 2.6 3.4 4.2 14.0 24.7 22.3 28.5	0.6 2.0 3.2 4.9 10.1 30.6 27.1 46.2	0.3 2.0 2.0 4.9 10.1 30.6 27.1 46.2	0.2 0.1 0.1 0.1 1.9 13.3 31.0 38.4	0.1	0.7	1.5	1.8	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.6	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	

APVS Item code	Item	category	2010		2011		2011		2011		2012		2012		2013		2014	2014	2014							
			Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA-Omnibus										
Q18c	#5.81d	Importance – Free time and relaxation	0.6	2.1	6.7	3.9	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.2	0.9	0.2	3.3	–	–	–	–	–						
			1.4	1.9	3.9	2.5	0.9	1.6	0.4	1.6	0.3	3.7	0.6	–	–	–	–	–	–	–	–					
			4.9	5.2	8.0	6.9	3.0	4.7	0.8	4.6	1.5	5.0	1.2	–	–	–	–	–	–	–	–	–				
			20.5	15.1	17.4	15.0	11.5	13.3	6.7	15.7	7.1	10.1	10.6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
			26.2	25.8	20.6	17.8	24.6	22.2	23.8	31.7	22.8	20.3	24.9	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–		
			18.7	21.4	16.6	24.9	27.0	25.7	36.5	24.7	34.4	27.0	37.0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–		
			27.0	28.1	26.8	28.0	31.9	30.9	31.4	20.5	33.8	30.2	25.7	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–		
			–	0.2	–	–	0.2	–	–	–	0.1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
			0.7	0.2	–	1.0	0.1	0.8	0.2	0.1	–	0.2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
			0.2	0.8	2.3	1.8	0.6	1.3	0.1	0.1	0.4	0.3	0.4	0.2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
0.2	1.2	1.6	0.8	0.7	1.2	0.3	1.4	0.7	0.5	0.4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–				
3	3.8	2.3	5.5	3.3	3.3	3.4	0.7	3.9	2.7	1.2	0.9	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–				
4	15.0	9.4	11.9	12.7	14.8	15.0	6.5	12.1	7.3	5.4	14.5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–				
5	22.7	20.0	17.0	15.4	27.7	23.4	23.9	25.8	26.1	18.8	28.0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
6	22.5	26.6	22.6	30.8	31.3	27.3	40.0	32.6	34.4	36.2	35.3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
7 (Very important)	35.3	38.6	39.0	34.1	21.6	27.8	28.4	23.7	28.5	37.4	20.7	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
8/Other	–	0.6	–	–	0.1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
9/DK	0.2	0.5	0.1	1.0	–	–	0.6	0.2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
Q18e	#5.81e	Importance – Parents, brothers, sisters, and other relatives	0.5	1.4	0.6	0.9	0.3	1.5	–	0.9	0.1	0.2	0.1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–		
			0.5	0.2	1.0	0.7	0.1	0.6	0.2	1.2	–	0.7	0.1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
			2.3	1.7	0.8	1.4	0.8	1.8	1.3	2.1	0.5	0.8	0.3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
			8.2	2.1	2.7	2.4	3.5	4.0	3.4	5.0	2.9	2.1	2.6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
			13.7	5.9	4.8	6.4	9.2	10.2	11.9	12.2	7.3	11.4	10.9	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
			21.4	16.1	13.0	19.7	26.1	26.3	38.8	24.2	25.6	31.5	25.0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
			53.1	70.5	76.9	67.2	59.5	54.5	44.3	53.1	63.4	53.3	61.0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
			–	1.1	0.2	0.1	0.4	0.2	–	0.4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
			0.4	1.1	–	1.2	0.1	0.9	0.1	0.9	0.2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
			28.2	9.1	53.1	36.5	8.8	23.3	10.3	26.5	2.6	2.5	4.7	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
2	15.3	5.2	11.6	8.2	10.4	10.4	8.3	11.0	2.7	2.7	2.7	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
3	13.1	7.7	8.5	10.5	16.5	14.0	14.2	14.0	6.3	6.2	8.1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
4	21.9	11.1	9.2	15.7	22.2	16.1	25.5	13.4	17.6	7.1	26.1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
5	7.2	14.1	5.5	9.1	18.0	10.9	15.5	10.9	20.9	16.0	26.7	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
6	4.5	14.3	3.9	8.3	14.3	9.0	13.8	7.5	20.1	26.7	18.6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
7 (Very important)	8.9	37.5	7.5	9.2	9.6	13.7	10.0	16.5	29.7	38.8	12.9	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
8/Other	–	0.9	0.2	0.3	–	0.1	0.6	0.1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
9/DK	0.9	0.2	0.5	2.2	0.2	2.5	1.8	0.2	0.1	0.0	0.2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
0.2	20.7	22.3	20.5	27.4	19.6	4.3	26.2	5.9	20.5	2.1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
5.9	11.8	8.1	8.4	18.3	9.6	7.8	12.6	8.8	16.1	3.0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
3	10.1	16.4	9.4	12.1	16.0	14.9	16.4	20.0	15.3	12.5	11.4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
4	23.2	18.0	13.8	15.4	17.2	23.3	32.1	18.5	23.2	12.5	23.4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
5	20.2	16.2	11.3	13.2	10.3	13.6	18.8	13.6	22.3	12.8	22.3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
6	12.3	8.5	11.9	11.0	7.1	6.7	11.3	4.7	13.0	12.9	24.6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
7 (Very important)	22.1	8.0	23.0	17.0	3.4	8.7	6.5	4.0	6.3	12.2	13.1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
8/Other	–	–	–	–	0.2	0.1	0.1	0.9	0.2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
9/DK	0.9	0.6	0.2	2.2	0.2	3.5	1.9	0.1	0.2	0.4	0.1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			

APVS	Comment code	Item	category	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	2013	2014	2014	2014	2014
				Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (shinjoho)	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014
Q24d		Social Support - Highly appreciate and respect you		5.4	46.0	34.2	20.1	14.1	15.4	5.3	43.9	13.0	30.7	31.8												
				54.9	43.6	53.6	55.2	65.5	55.8	36.8	47.3	72.8	53.1	58.6												
				9.3	5.9	4.0	3.5	3.2	7.9	18.5	5.7	10.5	12.4	6.3												
				22.1	2.4	4.5	8.2	10.8	12.9	28.2	1.9	2.8	2.1	2.2												
				8.3	2.1	3.7	13.0	6.4	8.0	11.2	1.1	0.9	1.7	1.1												
Q25	#7.19 corrected 修正	Ability, Luck or Relationship?	1)Ability and Effort	63.1	62.2	58.2	50.7	61.1	57.4	63.1	68.0	68.7	64.3	55.7	58.9											
			2)Luck and Chance	21.1	12.3	28.4	37.8	29.0	28.9	12.5	12.9	16.5	31.9	28.0												
			3)Personal connections	12.2	22.4	11.5	9.5	8.0	10.2	23.5	17.4	11.7	3.5	16.2												
			8)Other	0.6	1.2	1.4	0.7	1.5	0.8	0.2	1.0	0.1	-	-												
			*NA含む	2.9	2.0	0.5	1.3	0.4	2.7	0.7	0.7	3.1	0.2	0.1												
Q26a			Supernatural Phenomena - Super natural power or psychokinesis	17.3	8.7	29.7	27.1	10.2	18.4	5.5	7.2	1.8	4.1	3.7												
			2)would like to be	13.5	5.9	9.7	12.5	11.2	12.4	16.1	9.2	4.4	8.3	7.9												
			3)Exist	17.3	23.5	24.6	18.3	39.0	19.2	15.6	21.6	31.0	20.0	22.4												
			4)Dreadful, Scary	1.5	2.7	1.1	1.5	1.5	1.6	5.3	1.7	2.7	12.4	2.5												
			5)Would not like to be	5.8	4.3	5.7	5.3	6.4	4.6	12.4	3.4	4.5	11.3	14.7												
			6)Interesting, amusing	21.1	21.2	6.0	6.5	7.7	10.9	15.5	24.2	9.8	8.2	15.0												
			7)Nonsense / Dose not exist	16.3	26.2	17.4	15.7	18.5	19.0	20.9	26.1	35.2	18.1	25.1												
			8)Not dreadful / Not scary	3.2	4.8	3.1	5.3	1.8	3.5	3.8	3.7	3.7	6.9	2.6												
			88)Other	0.4	0.1	0.1	-	0.1	0.4	0.1	1.4	-	-	-												
			99)DK	3.8	2.7	2.6	7.8	3.6	9.8	4.8	1.4	7.0	10.6	6.1												
Q26b			Supernatural Phenomena - UFO or alien	15.3	9.7	24.3	21.2	11.4	16.8	6.2	5.9	2.2	3.1	2.7												
			2)would like to be	14.1	2.2	6.8	8.4	13.5	7.5	8.4	8.9	3.4	6.8	6.9												
			3)Exist	16.0	22.0	25.5	22.1	28.8	23.2	16.2	17.4	17.8	14.2	14.9												
			4)Dreadful, Scary	3.4	3.4	2.2	2.5	1.8	3.9	5.3	1.5	2.6	9.1	2.4												
			5)Would not like to be	7.3	3.3	8.0	6.8	8.4	6.9	16.0	4.6	4.6	12.3	21.0												
			6)Interesting, amusing	18.4	21.7	4.9	6.3	6.6	7.2	16.6	23.2	14.3	11.5	16.7												
			7)Nonsense / Dose not exist	18.5	28.7	21.1	16.4	22.8	19.5	21.5	31.1	43.8	17.1	26.9												
			8)Not dreadful / Not scary	2.7	6.5	2.7	6.6	2.7	2.7	3.9	4.4	3.6	6.4	2.4												
			88)Other	0.2	-	0.3	-	0.1	0.3	0.2	1.4	-	0.1	-												
			99)DK	4.1	2.6	4.2	9.7	3.9	12.0	5.8	1.7	7.6	19.5	6.1												
Q26c			Supernatural Phenomena - Specter or ogre	16.5	12.4	28.5	31.6	8.9	13.6	5.8	9.9	2.7	3.1	4.3												
			2)would like to be	5.2	1.2	2.0	1.8	3.3	2.1	1.7	2.1	2.0	4.2	0.7												
			3)Exist	6.3	2.9	6.3	6.4	29.8	22.5	4.6	1.4	18.9	15.4	5.9												
			4)Dreadful, Scary	10.0	3.5	5.1	7.8	11.6	12.5	8.5	2.4	3.8	18.3	11.5												
			5)Would not like to be	14.0	3.8	10.3	12.3	20.2	14.4	20.3	4.5	6.7	11.8	27.7												
			6)Interesting, amusing	14.1	8.9	1.2	1.0	1.4	2.3	13.1	10.9	8.4	5.2	4.3												
			7)Nonsense / Dose not exist	25.9	56.6	40.0	27.0	18.5	19.2	37.7	63.9	47.4	22.7	38.7												
			8)Not dreadful / Not scary	4.1	7.4	4.4	4.9	3.8	3.8	4.6	2.6	2.7	8.9	4.0												
			88)Other	0.2	-	0.1	0.1	0.1	0.4	0.1	0.5	-	0.1	-												
			99)DK	3.6	3.4	2.1	7.1	2.4	9.2	3.7	1.9	7.3	10.2	2.9												

APVS	Comment code	Item	category	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	2014	2014	2014	2014	
				Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA-Omnibus					
Q26d		Supernatural Phenomena - Ghost or apparition, curse		11.9	7.9	29.0	27.4	9.5	14.5	4.1	5.5	1.8	2.2	4.3								
				2.9	1.1	1.5	1.7	2.6	1.5	2.1	3.4	1.8	4.4	0.9								
				16.5	25.3	9.9	11.7	27.0	18.5	12.5	23.0	40.3	16.7	7.5								
				17.4	6.8	5.1	5.3	11.5	13.7	13.8	5.6	5.9	11.3	10.9								
				22.2	4.4	9.6	13.6	25.3	16.2	23.8	6.0	8.9	11.8	30.4								
				4.0	15.4	0.8	0.8	0.9	2.5	5.2	16.6	6.8	4.2	3.3								
				17.8	30.4	38.0	25.6	16.7	20.0	31.2	33.6	27.7	22.9	35.2								
				4.0	6.3	3.6	5.6	3.7	3.2	4.0	4.2	2.5	9.3	4.7								
				0.2	0.1	0.1	0.1	-	0.3	0.3	1.0	-	-	-								
		*NA含む		3.1	2.3	2.4	8.2	2.8	9.6	3.0	1.1	4.4	9.3	2.8								
Q27	#7.1 correct	Science and Human Feeling/Humanity		38.3	46.4	64.6	64.2	74.1	72.6	68.9	52.8	65.8	56.1	48.5								
	修正			18.2	31.7	19.9	15.4	10.5	12.1	14.9	28.8	22.5	38.6	35.7								
				42.6	19.6	15.3	18.2	14.0	13.6	13.7	17.5	10.8	3.5	14.8								
				0.9	1.4	0.2	0.3	-	0.2	0.4	-	-	0.0	-								
				0.9	1.4	0.2	0.3	-	0.2	0.4	-	-	0.0	-								
Q28	#8.1b	Political Leaders		20.7	9.0	38.2	28.1	38.9	42.4	37.6	13.6	43.1	56.4	26.6								
				55.3	81.3	33.3	40.4	37.7	38.3	41.6	81.8	48.3	34.3	53.1								
				22.7	7.1	26.2	25.9	21.5	14.0	17.7	3.9	7.3	7.6	19.5								
				0.1	0.2	0.3	-	0.2	0.4	-	-	-	-	-								
				1.3	2.4	2.0	5.6	1.7	4.9	3.1	0.7	1.3	1.6	0.8								
Q29	#4.32	Marriage is Permanent		19.0	30.2	28.0	23.9	17.5	18.6	25.0	29.1	43.9	69.8	26.1								
				46.0	46.6	40.5	44.1	53.9	37.2	41.3	42.8	46.3	21.5	40.7								
				33.9	20.3	28.7	27.5	27.3	40.2	31.9	27.0	8.6	8.2	32.8								
				0.2	0.9	1.2	0.6	-	0.4	-	0.6	-	-	-								
				0.8	2.0	1.6	3.9	1.3	3.6	1.8	0.5	1.2	0.5	0.4								
Q30	#2.5	Man and Nature		44.4	26.1	52.5	52.0	59.8	42.8	50.7	41.3	50.7	54.9	37.9								
				46.1	60.8	28.2	28.9	23.4	36.0	38.1	52.7	42.1	37.8	17.9								
				5.5	6.1	18.6	15.5	14.2	14.6	8.9	2.6	4.8	6.8	43.7								
				0.7	1.9	0.2	0.6	0.1	1.0	0.1	1.7	0.1	-	-								
				3.3	5.1	0.5	3.0	2.5	5.6	2.2	1.6	2.3	0.5	0.5								
Q31	#7.4 corrected	Individuals or Country		24.5	23.3	8.1	18.8	17.8	19.0	40.0	26.6	23.3	43.2	40.1								
	修正			26.4	33.9	50.1	41.0	25.6	21.5	29.0	27.6	44.4	46.7	21.0								
				47.4	30.9	41.5	38.2	55.0	55.1	29.1	39.7	30.3	9.5	38.8								
				0.1	3.5	0.1	0.1	0.2	0.5	0.1	4.0	0.1	-	-								
				1.5	8.4	0.2	1.9	1.4	3.9	1.9	2.1	2.0	0.7	0.1								
Q32	#7.2	Mechanization and Human Feeling		25.4	32.9	37.5	36.6	63.9	40.8	64.5	27.1	38.1	47.2	39.3								
				34.0	45.8	41.4	33.5	17.3	33.7	18.9	56.1	50.6	44.9	46.4								
				39.4	17.0	20.3	24.7	17.7	20.7	14.7	16.0	10.5	6.1	13.1								
				-	0.6	0.1	0.6	-	-	-	-	0.2	-	-								
				1.2	3.7	0.7	4.6	1.1	4.8	1.9	0.6	0.8	1.8	1.1								
Q33a	correct	Spirituality - Buddha, God, or gods		39.4	80.8	17.8	17.5	50.0	43.8	19.6	48.3	71.6	80.1	24.6								
	修正			41.7	13.4	26.1	34.0	42.8	33.4	30.1	30.0	23.1	13.5	36.4								
				17.8	4.6	53.2	39.8	58	19.2	43.0	21.1	4.9	5.2	34.0								
				0.2	-	0.2	-	-	-	-	0.4	-	-	-								
				0.8	1.2	2.7	8.7	1.4	3.6	6.9	0.6	0.4	1.1	5.0								

Project Name, Item # and Notes for Omnibus Data

Shinjoho Q23

Shinjoho Q34a

ChuoChosa Q6a

			2010	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2012	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	2013	2013	2013	2013	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014
APVS	Comment code	Item	category	Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA-Omnibus																					
Q33b	correct 修正	Spirituality – Life after death		19.2	53.0	10.3	9.8	33.8	34.8	14.5	34.2	50.6	26.5	16.1	20.5	20.2																						
		1)Exists		46.0	28.3	17.8	29.2	49.9	33.5	32.9	36.3	28.2	38.7	37.9	43.2	43.2																						
		2)May exist		29.6	14.0	65.2	48.0	11.7	22.9	42.4	27.5	17.6	23.0	42.4	30.4	30.3																						
		3)Does not exist			0.2	0.2	0.2			0.2						6.0																						
		8)Other		5.2	4.5	6.5	12.8	4.6	8.8	10.0	2.0	3.5	11.8	3.6		0.1																						
		9)DK		35.4	69.7	16.9	15.1	42.5	40.1	17.8	49.6	58.8	29.1	22.5	30.7	32.3																						
Q33c	correct 修正	Spirituality – A soul or a spirit		43.3	21.5	21.3	30.4	46.3	32.9	42.2	32.7	32.6	35.1	44.7	43.1	42.2																						
		1)Exists		18.4	5.6	57.6	43.2	8.1	20.2	30.8	16.5	8.6	27.5	29.4	21.3	21.6																						
		2)May exist			0.1					0.2						0.1																						
		3)Does not exist		2.8	3.2	4.2	11.3	3.1	6.8	9.0	1.2	2.0	8.3	3.4		5.0																						
		8)Other		77.6	57.4	94.0	91.1	84.6	81.1	74.7	58.8	84.1	90.6	91.1		3.8																						
Q34	#5.1d	Social Values		72.2	42.2	70.5	66.1	65.0	54.8	58.3	34.7	56.4	48.4	41.9																								
		1)Filial piety/Love & respect		20.1	56.9	19.0	27.0	27.6	27.1	31.3	64.2	39.2	35.4	34.5																								
		2)Repaying obligations		28.4	40.5	16.2	20.6	22.7	34.0	34.9	43.9	20.3	25.7	32.4																								
		3)Individual rights			1.7	0.2				0.6	0.1	0.6																										
		4)Individual freedom		0.5	0.4		0.2	0.1	1.1	0.1	0.1	0.1																										
		8)Other		13.8	31.4	20.3	20.3	25.6	15.7	18.9	31.1	30.9	61.4	47.0																								
Q35	#5.6	Preferred Type of Boss		82.7	64.5	74.9	71.4	70.4	78.1	77.9	67.8	66.6	36.8	52.3																								
		1)Never Does Anything for Y		0.4	1.0	1.8	1.1	0.6	0.6	0.1	0.5																											
		2)Looks after You Personally		3.1	3.1	3.0	7.2	3.4	5.6	3.1	0.6	2.5	1.7	0.7																								
		8)Other		41.0	51.0	71.8	65.5	46.3	42.8	51.7	59.2	49.7	55.3	70.1																								
Q36	#2.12	People's Help		50.1	44.0	26.2	29.3	50.7	44.2	45.8	38.1	47.6	44.0	29.7																								
		1)Try to Be Helpful		1.5	2.6	0.9	0.8	0.9	6.1		1.1	0.1	0.0																									
		2)Look out for Themselves		7.4	2.4	1.1	4.4	2.1	6.9	2.5	1.6	2.6	0.6	0.2																								
		8)Other		36.2	42.4	31.5	24.8	39.2	45.9	42.9	33.8	48.1	65.1	78.8																								
Q37	#2.12c	People's Fairness		56.8	52.6	57.4	57.9	52.5	39.6	52.3	63.2	48.6	33.9	20.7																								
		1)Take Advantage		0.4	2.1	6.2	3.5	2.1	4.8		1.5			0.1																								
		2)Try to be Fair		6.7	2.9	4.9	13.8	6.2	9.7	4.8	1.5	3.3	0.9	0.4																								
		8)Other		43.9	31.4	42.4	36.4	20.5	21.0	32.0	45.7	34.0	45.0	23.2																								
Q38	#2.12d	General Interpersonal Trust		48.0	64.9	56.3	59.1	76.9	73.7	66.0	51.4	62.7	53.2	76.4																								
		1)Can Be Trusted		2.2	1.7	0.6	0.4	1.1	2.4	0.1	1.7		0.2																									
		2)Can't Be Too Careful		5.9	2.0	0.7	4.1	1.5	2.9	1.9	1.1	3.3	1.5	0.4																								
		8)Other		50.2	35.0	50.0	42.9	61.1	43.4	26.6	28.7	21.6	60.8	16.2																								
Q39a		Human Life and Death – Inevitable power		43.2	56.3	30.6	27.0	26.7	39.4	45.7	69.2	70.4	35.6	72.8																								
		1)Agree		4.5	5.7	16.3	21.2	8.6	7.4	21.8	1.0	5.2	1.4	6.3																								
		2)Disagree		2.1	3.0	3.1	8.9	3.6	9.8	6.0	1.1	2.7	2.2	4.7																								
		3)It Depends		59.2	42.7	60.4	49.5	68.9	58.9	34.9	41.4	54.9	64.3	48.7																								
Q39b		Human Life and Death – Destiny		36.6	48.7	31.5	28.2	22.9	30.9	43.3	55.1	36.9	29.5	39.2																								
		1)Agree		2.7	5.3	7.0	17.2	6.6	5.0	17.1	1.7	5.5	3.8	8.1																								
		2)Disagree		1.5	3.3	1.1	5.1	1.6	5.2	4.7	1.7	2.6	2.4	4.0																								
		3)It Depends		31.9	16.9	12.6	13.3	48.7	28.5	15.2	20.2	36.2	43.3	35.6																								
Q39c		Human Life and Death – Cycle of rebirths		57.3	69.7	64.9	49.4	26.2	45.8	49.4	71.3	47.1	40.5	49.1																								
		1)Agree		4.1	4.4	14.8	22.2	16.3	11.2	23.5	3.2	7.1	5.2	7.7																								
		2)Disagree		6.7	9.1	7.7	15.1	8.8	14.5	11.9	5.2	8.9	11.0	7.6																								
		3)It Depends		27.3	26.2	23.4	19.4	42.7	32.9	17.3	30.2	40.3	43.4	30.7																								
Q39d		Human Life and Death – Living as a part of nature		60.4	60.0	53.9	41.7	34.7	42.4	48.2	64.2	43.8	40.0	56.6																								
		1)Agree		5.5	5.0	13.8	20.8	14.0	9.5	21.8	2.4	10.9	5.9	6.0																								
		2)Disagree		6.7	8.8	8.9	18.1	8.6	15.2	12.7	3.2	5.1	10.6	6.7																								
		3)It Depends																																				

APVS	Common code	Item	category	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	2014	2014	2014	2014	
				Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA-Omnibus								
Q39e		Human Life and Death – Progress and happiness of all humanity	1)Agree 2)Disagree 3)It Depends 9)DK	72.3 20.9 4.3 2.5	68.5 17.7 10.9 3.0	90.1 5.4 3.6 0.9	75.9 8.4 10.1 5.6	82.2 11.9 3.9 2.0	74.2 16.1 3.8 5.9	39.6 36.4 16.8 7.2	76.7 16.2 6.0 1.1	71.9 25.4 11.9 1.9	66.7 26.4 4.6 3.4	63.4 26.4 7.5 2.7											
Q39f		Human Life and Death – Devote oneself to someone else	1)Agree 2)Disagree 3)It Depends 9)DK	5.5 1.6 20.2 74.2	6.1 4.0 50.1 35.1	7.4 2.1 42.2 45.5	19.0 7.5 24.2 48.2	7.4 3.7 17.8 22.6	19.0 7.5 17.8 22.6	7.2 3.7 19.1 45.4	17.3 6.8 19.1 45.4	5.2 2.2 3.3 37.8	13.0 2.5 46.2 37.8	7.4 2.5 46.2 37.8	10.3 2.5 46.2 37.8										
Q39g		Human Life and Death – Ideology or principles	1)Agree 2)Disagree 3)It Depends 9)DK	8.9 84.4 3.3 3.4	6.1 89.3 1.7 2.9	11.5 82.9 4.1 1.5	9.2 73.9 8.8 8.1	17.4 74.8 4.1 3.7	14.6 73.7 3.3 8.4	10.0 61.8 15.2 5.8	14.4 43.7 1.5 4.2	28.3 61.8 5.3 4.2	41.8 73.8 6.3 4.8	14.1 73.8 8.5 4.8											
Q39i		Human Life and Death – Lovers' suicide	1)Agree 2)Disagree 3)It Depends 9)DK	90.8 8.9 3.3 3.4	94.5 6.1 2.1 2.9	89.7 11.5 1.8 1.5	81.0 9.2 1.8 8.1	94.2 11.5 1.8 8.1	86.5 11.5 1.8 8.1	86.5 11.5 1.8 8.1	78.0 10.0 6.4 5.8	91.4 28.3 1.6 4.2	85.8 41.8 3.7 4.5	87.7 14.1 2.5 4.8											
Q40a		*Singaporeのみ、missing/件老 念心 Accept one's fate or improve one's life	1)Destiny cannot be changed 2)Life can be improved 8)Other 9)DK	0.7 35.4 59.6 1.3	0.8 19.0 74.9 4.0	0.9 21.4 77.8 0.5	3.5 23.2 72.5 0.6	0.6 24.5 74.8 0.6	0.6 33.2 63.1 1.5	1.4 56.4 36.4 1.0	1.9 23.8 73.5 2.0	0.2 2.7 71.1 2.0	0.5 0.9 68.3 0.0	0.9 0.5 68.3 0.0											
Q40b		Colorful or Long Life	1)Lead a short but colorful life 2)Lead a simple but long life 8)Other 9)DK	15.3 49.2 24.1 6.7	27.8 53.0 11.6 4.6	13.9 60.0 19.4 2.2	18.8 48.8 20.1 3.5	12.7 58.9 22.4 2.3	16.1 62.9 18.2 2.1	11.6 59.7 18.2 7.2	22.8 57.2 12.9 6.2	22.7 63.4 10.7 2.3	45.8 40.8 8.5 4.0	35.6 51.6 10.0 2.2											
Q41a	#7.83	Science and Technology – Illness treatment	1)Strongly Agree 2)Agree to Some Extent 3)Disagree to Some Extent 4)Strongly Disagree 8)Other 9)DK	4.7 3.1 14.0 54.3	3.0 20.8 44.4 18.8	3.5 6.5 45.3 39.0	8.5 11.7 35.8 35.7	3.5 8.7 55.8 27.8	3.5 14.1 54.6 19.0	5.6 5.6 33.8 39.0	3.3 3.3 49.4 39.0	0.9 1.0 50.0 25.4	0.9 0.9 48.3 9.5	0.6 0.5 48.3 11.5											
Q41b	#7.84	Science and Technology – Understanding the Human Mind	1)Strongly Agree 2)Agree to Some Extent 3)Disagree to Some Extent 4)Strongly Disagree 8)Other 9)DK	5.3 0.9 12.1 64.1	3.9 10.7 40.6 30.2	3.2 11.9 55.6 28.4	9.3 14.5 38.2 44.2	3.2 7.2 44.2 41.0	3.2 8.1 37.8 40.9	8.6 9.2 38.4 38.4	3.7 6.7 39.7 37.7	1.1 2.0 52.0 27.1	0.8 1.4 43.4 11.1	1.4 1.4 49.2 10.7											
Q41c	#7.85	Science and Technology – Social and Economic Problems	1)Strongly Agree 2)Agree to Some Extent 3)Disagree to Some Extent 4)Strongly Disagree 8)Other 9)DK	6.7 0.1 16.0 6.1	2.5 0.2 16.0 0.1	1.5 0.2 2.4 0.4	9.0 0.4 5.2 0.4	3.7 0.1 3.8 0.1	5.5 0.7 3.7 0.7	4.6 0.1 8.2 0.1	0.9 0.1 16.5 0.1	2.0 0.1 5.9 0.7	1.3 0.0 2.3 0.0	1.6 0.0 2.7 0.0											

APVS	Commo n code	Item	category	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	2014	2014	2014	2014		
				Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapo re	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA- Omnibus									
Q47		Style of Contract	1)A's Opinion(Flexibility) 2)B's Opinion(Clearly in Deta 8)Other 9)Don't Know	5.4 9.28 - 1.8	12.3 83.9 2.5 1.3	9.2 90.3 0.5 3.5	11.9 84.6 - 3.5	13.1 85.4 - 4.5	20.9 75.5 0.4 3.2	2.9 86.7 0.8 0.5	12.5 85.9 0.4 0.8	23.4 74.9 - 1.7	46.5 48.3 - 5.2	17.7 81.3 - 1.0												
Q48	correct 修正	Environment or Economy *環太平洋諸国から選択肢が修 正された(順序にも注意)	1)Economic Comfort 2)Pollution Control 8)Other 9)DK	37.4 57.3 0.8 4.5	22.7 67.7 3.6 6.1	31.3 66.1 1.6 1.0	40.0 55.2 1.0 3.8	44.7 50.8 0.8 3.7	39.8 51.7 2.2 6.3	47.7 46.7 0.6 5.1	25.8 70.9 1.1 2.1	28.0 67.4 - 4.6	55.0 43.1 - 1.9	31.9 66.6 - 1.4		12.4 84.7 - 2.9										
Q49		The Most Important Action for the country	1)Efforts on environmental is 2)Resolve regional conflicts 3)Scientific and technological 4)Extend economic support 5)Promote mutual understand 8)Other 9)DK	37.2 25.4 15.0 8.7 10.4 - 3.3	20.8 19.7 13.3 10.2 28.1 2.8 5.2	31.9 20.8 34.5 8.2 2.9 0.6 1.1	25.0 16.3 39.7 6.2 4.4 0.8 7.6	40.3 11.2 23.6 12.9 7.0 2.4 3.9	26.7 24.8 14.2 13.3 9.5 2.4 9.3	33.1 16.7 15.0 11.6 7.6 0.3 3.9	5.1 24.3 19.0 13.3 32.2 1.2 0.9	21.1 22.3 16.7 10.6 32.2 1.1 0.9	4.6 28.8 16.0 8.6 28.6 1.1 5.0	1.9 35.3 22.9 10.8 10.1 1.3 1.1												
Q50	#27	The Most Important Thing																								
Q51a		Feelings toward Your Daily Life - Belief system	1)Very much 2)Somewhat 3)Can't say one way or anoth 4)No 8)Other 9)DK	50.1 35.2 10.6 3.8 0.4	58.4 31.3 6.1 3.7 0.5	70.3 15.1 4.5 9.8 0.3	52.6 30.7 8.6 5.4 2.7	56.6 33.9 3.1 6.2 0.2	50.2 34.8 2.9 10.4 1.7	41.1 39.7 10.9 8.2 0.1	22.3 39.7 14.3 5.4 1.7	22.3 31.7 10.9 8.2 0.1	41.1 28.7 9.5 7.1 0.3	47.8 47.4 4.0 0.4 0.3	7.4 35.9 22.4 32.5 1.8											
Q51b		Feelings toward Your Daily Life - Feel like the challenges	1)Very much 2)Somewhat 3)Can't say one way or anoth 4)No 8)Other 9)DK	27.1 48.1 18.3 6.3 - 0.1	52.4 36.8 7.3 2.3 - 1.2	71.5 19.7 3.7 5.1 - 1.4	44.8 36.1 11.7 6.0 - 0.5	48.8 41.3 10.3 8.9 - 1.4	29.2 44.3 8.4 16.7 - 0.5	41.1 54.6 19.4 7.3 - 1.4	22.3 39.7 10.9 2.2 - 0.7	26.1 51.2 8.1 11.0 - 0.1	43.5 61.1 11.0 0.5 - 0.5	24.9 57.6 12.0 4.7 - 0.8												
Q51c		Feelings toward Your Daily Life - Doing something useful	1)Very much 2)Somewhat 3)Can't say one way or anoth 4)No 8)Other 9)DK	23.7 42.4 26.1 7.6 - 0.2	49.5 35.8 11.8 2.4 - 0.4	79.0 10.3 2.6 7.6 0.3	63.4 21.4 5.2 8.0 0.4	48.2 38.9 5.1 7.4 - 1.6	50.8 31.7 4.3 11.3 - 1.5	19.4 56.4 16.2 6.4 0.1	19.4 40.9 10.9 3.0 0.1	44.9 55.7 11.7 1.6 - 0.1	30.9 42.5 10.0 1.3 - 0.8	45.5 64.1 11.8 2.4 - 0.5	21.2											
Q51d		Feelings toward Your Daily Life - My family or others rely on me	1)Very much 2)Somewhat 3)Can't say one way or anoth 4)No 8)Other 9)DK	20.0 44.2 26.3 8.7 - 0.8	57.6 31.0 8.1 2.3 - 1.0	63.6 17.0 3.2 16.0 0.2	39.1 31.3 9.4 16.6 3.4	37.3 41.9 7.8 12.6 0.4	30.0 34.9 8.7 25.9 1.4	16.9 51.4 20.9 8.0 2.8	50.1 39.1 9.2 1.4 - 0.2	31.8 46.1 10.4 1.9 - 0.3	46.1 63.2 7.4 1.5 - 0.5	18.7 68.2 14.2 3.1 - 0.8												
Q52a	correct 修正	Confidence in Religious organization	1)Great deal 2)Quite a lot 3)Not very much 4)None at all 9)DK	0.8 2.0 11.3 45.7 39.3 1.8	1.0 23.8 34.7 29.7 9.7 2.1	0.2 7.0 19.7 31.9 36.5 4.9	0.2 10.4 25.8 31.6 21.0 11.2	0.4 14.4 60.6 21.0 2.8 4.9	1.4 7.5 47.8 24.9 14.0 3.6	1.4 2.8 33.3 42.0 14.7 2.5	0.2 7.5 33.2 34.0 21.2 0.5	0.3 23.9 58.0 15.1 17.1 1.4	0.8 47.6 53.3 8.7 4.1 0.5	0.8 25.8 16.6 16.6 2.2 2.1												

APVS	Comment code	Item	category	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	2014	2014	2014	2014
				Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA-Omnibus						
Q52b		Confidence in The law and the legal system		10.0 6.23 2.28 2.5 9/DK	11.2 45.2 36.0 6.8 0.8	52.9 32.4 10.6 3.1 1.0	35.3 46.4 13.6 1.8 2.9	6.6 55.4 37.3 8.1 1.5	30.2 5.4 8.1 3.7 2.6	5.7 45.2 39.4 5.4 2.0	14.6 63.0 17.0 0.8 -	40.5 43.0 5.5 4.2 -	35.3 46.9 16.8 0.1 0.2	46.9									
Q52c		Confidence in The press and television		6.5 6.33 25.6 4.0 0.7	3.5 17.3 57.8 20.5 1.0	24.1 43.5 26.6 5.8 -	16.5 47.8 28.9 4.2 2.6	3.2 41.2 47.2 7.7 0.7	6.9 29.8 34.9 6.5 2.4	5.8 31.4 46.3 4.5 1.0	2.9 60.1 19.8 21.0 -	17.6 55.2 19.8 6.3 -	26.3 18.7 22.5 1.2 0.2	24.7									
Q52d		Confidence in The police		9.7 60.4 25.5 3.3 1.1	15.9 49.3 27.0 7.2 0.6	37.1 38.0 18.3 6.1 0.5	23.7 48.6 20.2 5.3 2.2	5.3 53.6 34.2 6.6 0.3	16.6 52.8 21.9 8.2 1.9	3.4 42.9 44.9 8.2 0.7	24.5 53.7 8.7 2.5 0.2	38.6 52.6 6.7 0.5 0.1	22.2 36.6 23.6 1.2 0.1	32.2									
Q52e	correct 修正	Confidence in National government bureaucracy		2.7 35.7 49.8 10.1 1.8	4.7 21.2 52.5 18.1 3.6	47.7 35.4 12.1 3.9 0.9	31.9 45.4 14.3 10.4 5.3	3.9 42.2 33.2 10.9 6.0	7.5 42.4 32.2 13.8 1.5	2.3 32.0 50.3 15.7 0.9	3.2 60.6 8.9 1.0 1.1	28.4 33.0 28.5 16.0 6.6	47.4 45.1 6.6 0.7	53.1									
Q52f	correct 修正	Confidence in Congress / Diet		22.9 55.3 18.3 1.9	18.4 54.5 20.3 3.2	27.7 9.9 5.9 1.0	40.2 14.7 6.2 4.4	35.3 45.7 14.8 10.5	44.0 32.1 18.0 4.9	15.7 50.0 31.5 1.5	4.4 35.8 18.0 0.4	23.9 9.4 1.3 1.6	15.5 24.0 13.6 7.1	53.1									
Q52g		Confidence in NPO / NGO		3.9 44.7 37.7	8.8 42.2 36.2	13.2 27.6 34.0	9.3 35.2 29.0	8.0 48.0 32.4	12.9 51.5 22.9	3.9 38.6 41.1	3.9 63.0 19.7	11.0 45.8 17.3	16.2 48.2	37.5									
Q52h		Confidence in Social welfare facilities		8.6 6.2 65.1 23.6	4.7 9.9 38.5 40.7	5.7 35.2 42.6 16.2	18.6 17.8 51.7 19.3	5.2 9.0 59.8 22.7	5.3 23.5 57.0 12.6	4.8 5.7 64.3 32.9	1.5 14.7 59.6 17.6	1.5 8.9 50.3 14.9	3.0										
Q52i		Confidence in The United Nations		2.7 5.0 54.1 28.4	3.1 8.0 32.3 38.3	1.4 25.2 33.4 21.9	6.6 16.0 37.5 22.8	3.9 8.0 52.6 27.9	3.2 16.7 53.6 16.6	3.2 10.4 58.0 23.6	2.1 0.6 52.9 24.6	1.4 5.6 65.7 14.1	1.9										
Q52j		Confidence in Science and technology		8.8 15.1 67.6 11.0	6.2 23.8 51.9 18.6	6.9 74.0 21.4 2.2	6.9 49.0 40.4 4.4	17.6 20.4 65.4 10.1	5.7 28.5 65.9 7.6	7.7 11.4 59.8 18.9	5.0 1.2 32.1 6.5	2.7 15.2 51.3 68.2	4.0										
				0.6 5.6	4.2 1.6	1.0 1.4	1.1 5.1	1.2 2.9	2.8 4.2	1.7 4.5	1.0 0.6	0.5 1.5	0.1 3.5	0.1									

APVS	Commo n code	Item	category	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2012	2012	2013	2013	2013	2014	2014	2014	2014	
				USA	Japan	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapor e	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA- Omnibus							
Q53		Religions and the World	1)Spread one's own Religion 2)Make others Understand of 3)Understand Each Other's F 4)Respect Each Other's Reli 8)Other	4.9 3.2 22.3 66.5 0.1	1.5 4.4 7.1 9.3 7.1 1.1	2.5 4.4 8.5 16.1 59.1	4.9 9.3 13.5 71.8 0.2	1.5 4.4 9.3 18.1 57.8	4.4 7.1 8.5 16.1 59.1	4.5 8.5 23.2 46.8 1.1	9.5 2.1 6.1 8.5 7.2	6.1 22.7 13.5	22.7 13.5											
Q54	correct 修正	*NA含む Social Participation	Political organization or grou Industrial Association or Cha Group for volunteer activities Group for citizen's or consu Religious organization or grou Group or club for athletic or Association or club for hobbi Group existing on the Intern Other	7.2 2.0 5.8 9.6 2.2 6.2 17.6 25.6 6.1 2.9 0.5 50.4 30.2 12.3 4.3 1.8 0.4 0.2	12.4 14.9 12.3 3.3 2.5 1.5 3.2 1.1 11.6 6.3	14.9 12.3 3.3 2.5 1.5 3.2 1.1 11.6 6.3	12.3 3.3 2.5 1.5 3.2 1.1 11.6 6.3	12.3 3.3 2.5 1.5 3.2 1.1 11.6 6.3	10.4 6.1 0.7 0.9 2.9	10.4 6.1 0.7 0.9 2.9	6.1 0.7 0.9 2.9	6.1 0.7 0.9 2.9	6.1 0.7 0.9 2.9											
Q54		Social Participation:Numbers	DK 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 DK	0.5 50.4 24.2 41.1 40.8 55.0 51.9 15.0 24.7 75.7 57.5 50.5	0.8 0.2 0.4 7.8	0.8 0.2 0.4 7.8	0.8 0.2 0.4 7.8	0.8 0.2 0.4 7.8	0.8 0.2 0.4 7.8	0.8 0.2 0.4 7.8	0.8 0.2 0.4 7.8	0.8 0.2 0.4 7.8	0.8 0.2 0.4 7.8											
F1	modify 変更	Gender	1)Male 2)Female	43.5 56.5	47.6 52.4	50.6 49.4	49.6 50.4	49.5 50.5	47.1 52.9	48.8 51.2	48.8 52.9	47.1 52.9	48.9 51.1	49.2 50.8	48.4 51.6	45.2 54.8								
F2	correct 修正	Age	25~29yrs 30~34yrs 35~39yrs 40~44yrs 45~49yrs 50~54yrs 55~59yrs 60~64yrs 65~69yrs 70yrs & over	4.6 4.3 7.5 7.3 6.5 8.6 8.7 12.8 11.0 20.1	9.2 13.0 11.8 11.8 8.9 11.2 10.9 6.7 5.2 11.9	10.0 10.0 11.8 11.8 8.9 11.2 10.9 6.7 5.2 11.9	9.2 13.0 11.8 11.8 8.9 11.2 10.9 6.7 5.2 11.9	9.2 13.0 11.8 11.8 8.9 11.2 10.9 6.7 5.2 11.9	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	10.3 10.3 11.1 11.1 8.9 11.1 10.1 7.2 4.7 6.5	

APVS Comment code	Item	category	2010		2011		2011		2011		2012		2012		2013		2013		2014		2014	
			Japan	USA	Beijing	Shanghai	Taiwan	Hong Kong	South Korea	Australia	Singapore	India	Vietnam	JPN-Omnibus (shinjoho)	JPN-Omnibus (ChuoChosa)	USA-Omnibus						
F1xQ4 ※F1がmissingの者を除く	F1_Male	Q4_Boy	89.2	92.7	76.3	74.6	81.6	73.7	76.7	89.9	90.0	84.8	88.2	87.3								
		Q4_Girl	6.7	4.0	16.2	17.1	10.7	12.1	19.0	6.9	4.8	10.6	10.8	6.6								
		Other/DK...	4.0	3.4	7.5	8.3	7.7	14.2	4.3	4.2	5.2	4.6	1.0	6.2								
		Q4_Boy	21.0	13.5	37.9	40.7	39.8	31.8	39.2	25.2	29.4	34.5	39.2	22.1								
		Q4_Girl	74.8	83.4	56.3	50.4	51.3	55.6	57.7	72.6	65.6	60.6	70.8									
		Other/DK...	4.2	3.0	5.9	8.9	8.9	12.7	3.1	2.1	5.0	4.9	7.1									
	Q54xmale	Social Participation_Numbers ※Otherは1団体として計算	0	45.6	24.9	36.6	41.5	53.1	49.5	13.1	24.4	74.6	52.3	49.4								
			1	31.8	28.7	24.1	26.8	27.7	26.3	53.9	27.1	15.2	19.4	26.0								
			2	14.3	20.8	15.8	13.1	12.7	10.8	21.8	22.5	5.0	9.2	14.6								
			3	4.6	13.6	8.9	8.7	3.0	8.1	3.3	14.9	2.7	5.8	5.1								
			4	3.0	6.9	7.5	3.8	1.4	3.0	0.2	6.1	1.7	4.7	2.8								
			5	0.3	4.0	4.2	2.8	1.0	0.8	0.2	4.2	0.2	4.3	1.2								
			6	0.5	0.6	1.6	1.8	0.4	1.3	-	0.8	0.4	3.3	0.4								
7			-	0.2	1.4	0.2	0.2	0.2	-	-	-	0.8	0.4									
8			-	-	-	-	0.2	0.2	-	-	-	-	-									
9			-	0.2	-	-	0.2	-	-	-	-	-	-									
10			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
11			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
12			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-											
DK	-	-	-	-	0.8	0.2	-	7.6	-	0.2	0.3											
Q54xfemale	Social Participation_Numbers ※Otherは1団体として計算	0	54.1	23.4	45.7	40.1	56.8	54.1	16.9	25.0	76.7	62.5	51.6									
		1	28.9	26.5	21.9	32.3	27.5	23.8	51.7	29.2	14.4	14.5	25.2									
		2	10.8	22.9	15.2	13.3	10.5	12.9	18.6	21.9	4.3	8.0	14.2									
		3	4.2	11.4	7.1	7.9	2.6	6.2	4.3	14.2	2.8	4.1	4.5									
		4	0.8	8.2	5.3	2.8	1.6	1.1	0.6	8.0	0.6	3.9	3.1									
		5	0.4	5.1	2.0	2.2	0.4	0.8	-	1.4	0.2	4.1	1.2									
		6	-	1.3	1.4	0.2	0.2	-	-	0.2	-	2.3	0.2									
		7	-	0.4	1.0	0.4	-	0.2	-	0.4	0.5	-	-									
		8	-	0.4	0.4	-	0.2	0.2	-	0.2	0.0	-	-									
		9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
		10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
		11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
		12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-											
DK	0.8	0.4	-	0.8	0.2	0.8	8.0	0.6	0.9	-	-											

4b. 関連する国際比較調査との比較 Comparison with Some Related Surveys

比較表は各調査での対応する質問項目の回答分布(%)を示すが、対応する項目や回答カテゴリーは、それぞれの調査票において必ずしも厳密に同じ表現、数、順番ではないことがあるので注意する(3章の項目の履歴表を参照)。また、それらが同じ場合でも、各国の言語の違い、固有の標本抽出方法、データ収集法の差異のために、単純な数値の大小比較には十分な注意が必要である。(「国際比較データの解析」吉野他等を参照せよ。)

各調査のデータ数値は以下の統計数理研究所・研究レポート等に詳細が掲載されているので、利用する際は再確認していただきたい。(修正され、些少な数値の差が出ている可能性に注意。)

<http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html> 調査科学研究レポートのシリーズ

http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index_e.html (in English)

http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html 統計数理研究所・調査研究

http://www.ism.ac.jp/ism_info_e/kokuminsei_e.html (in English)

<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/ap2/index.htm> 国際比較

http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index_e.html (in English)

今後、本報告書を含め、過去の国際比較調査報告書に誤謬が見つかった場合は、以下の**正誤表 Corrigenda**でお知らせする。

<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/corrigenda.html> (和文)

http://www.ism.ac.jp/~yoshino/corrigenda_e.html (English)

- ・ハワイ調査 1978, 1983, 1988, 1999…研究レポート No.47, No.63, No.64, No.70, No.86
- ・ブラジル調査 1991…研究レポート No.72, No.74 にあるが、本表は再集計によった
- ・米国西海岸日本人調査 (JAWCS) 1998…研究レポート No.84
- ・日本人の国民性調査 1953-2013 のデータ…
 - <http://www.ism.ac.jp/kokuminsei/index.html> (和文)
 - http://www.ism.ac.jp/kokuminsei/ks_e/index_e.html (English)
- ・日, 米, 仏, 独, 英(1987-1988) 及び 伊(1992)、蘭(1993)調査…特別推進研究、及び試験研究による「国民性七か国比較」林, 吉野他(1998). 出光書店 及び 研究レポート No.71, No. 72, No. 73, No. 76, No. 77, No. 78, No. 79, No. 80, No. 81, No. 82
- ・アジア・太平洋価値観調査については前述の website、東アジア価値観調査、環太平洋価値観国際比較調査については以下の報告書を参照

東アジア価値観国際比較調査 2002 年日本調査。(吉野諒三編, 2004)

東アジア価値観国際比較調査 2002 - 3 年中国調査 [北京, 上海, 香港]. (吉野諒三編, 2004)

東アジア価値観国際比較調査 2003 年台湾調査。(吉野諒三編, 2005)

東アジア価値観国際比較調査 2003 年韓国調査。(吉野諒三編, 2005)

東アジア価値観国際比較調査 2004 年シンガポール調査。(吉野諒三編, 2005)

東アジア価値観国際比較調査 2004 年日本 A 調査。(吉野諒三編, 2005)

東アジア価値観国際比較調査 2004 年日本 B 調査。(吉野諒三編, 2005)

東アジア価値観国際比較調査 —— 「信頼感」の統計科学的解析——。(吉野諒三編, 2006)

環太平洋価値観国際比較調査 2005 年中国調査 [北京, 上海, 香港]. (吉野諒三編, 2007)

環太平洋価値観国際比較調査 2006 年台湾調査。(吉野諒三・裴岩晶編, 2007)

環太平洋価値観国際比較調査 2006 年韓国調査。(吉野諒三・松本渉編, 2007)

環太平洋価値観国際比較調査 2006 年 USA 調査。(吉野諒三編, 2007)

環太平洋価値観国際比較調査 2007 年シンガポール調査。(吉野諒三編, 2008)

【記号の説明】

- Japan(2010), USA(2010), Beijing(2011), Shanghai(2011), Hong Kong(2011), Taiwan(2011), South Korea(2012), Singapore(2012), Australia(2012), India(2013)…アジア・太平洋価値観国際比較調査のうち日本、USA、北京、上海、香港、台湾、USA、シンガポール、オーストラリア、インド、ベトナム
- Japan A(2004), Beijing(2005), Shanghai(2005), Hong Kong(2005), Taiwan(2006), USA(2006), South Korea(2006), Singapore(2007), Australia(2007), India(2008)…環太平洋価値観調査のうち日本、北京、上海、香港、台湾、USA、韓国、シンガポール、オーストラリア、インド
- Japan(2002), Beijing(2002), Shanghai(2002), Hong Kong(2002), Taiwan(2003), South Korea(2003), Singapore(2004)…東アジア価値観調査のうち日本、北京、上海、香港、台湾、韓国、シンガポール
- Kunming, Hangzhou…14 共研-2059 日中国民性データの統計的解析 (代表 鄭躍軍) の調査のうち昆明、杭州
- JAWCS…米国西海岸日系人調査 (Japanese American on the West Coast)
- JPN - A…特別推進研究による日本調査 A (国際比較用)
- HA - JA…ハワイ日系人 (Hawaii-Japanese) HA - NJ…ハワイ非日系人 (Hawaii-Non Japanese)
なお、78 - 88 は 1978 年, 1983 年, 1988 年の 3 回の調査データの平均値であるが、一部の年度の調査で用いられなかった項目については、* と表示した。
- USA, FRA, UK, FRG…特別推進研究 (1987-1988) の 5ヶ国調査のうち米、仏、英、独
- ITA, HOL…試験研究 A (2) (1992-1993) によるイタリア (Italy) とオランダ (The Netherlands)
- BRZ - JB…ブラジル日系人 (Japanese Brazilian)
「地点抽出」と「世帯から一人を抽出」するためのウェイトがかかっていることに注意。また、「世代不明」及び「性別不明」の回答が数名分含まれていた。
- JPN - B…特別推進研究による日本調査 B (本来の日本語らしい表現) (Japan B Survey)

【表中の記法】 Code of the Table

空白…… 該当する項目やカテゴリーがもともとたてられなかった場合

(Blank: No category in the original questionnaire)

— …… 0.0% (該当者が一人もいない) の意味

(-: No one choose the category)

0.0 …… 四捨五入の 0.0% の意味

(0.0: Rounded)

特別の場合を除き、DK には missing も含まれている

(DK [Don't Know] may include missing responses)

(この記法については、他の研究レポートとは必ずしも一致していないことに注意する。)

【その他】

- Q27 や Q32 のように、過去の多くの調査で再三用いてきたが、アジア太平洋のみカードを作成したものがあるので注意。カード作成の際に、中間回答まで、意図せずに表記してしまったミスもあり。
- 香港 2011 調査の報告書 p45 の Q13 (階層帰属意識) の集計表で、カテゴリー「8」(その他) となっている列に入っているのは、カテゴリー「9」(DK) の数値の誤りで、「8 (その他)」も該当者ゼロが正しい。

関連する国際比較調査との比較(環太平洋、東アジア、7ヶ国比較以外の比較表はWebsiteを参照)

<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index.html>

Cross tabulations of other past surveys are published on our website

http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index_e.html

APVS	Comm on code	Item	category	2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002
				Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing
			#sample	1053	1062	849	603	901	1030	1032	700	2002	1139	785	787	1062
Q1	#7.31	Living Conditions	1)Much better	26.6	35.6	4.5	2.3	32.7	3.1	19.4	24.4	44.5	0.3	0.5		
			2)Slightly better	61.3	54.4	53.5	24.4	32.7	36.6	32.1	31.3	36.6	12.7	12.2		
			3)About the same	6.3	5.4	19.6	28.2	25.3	30.1	23.0	30.4	11.5	48.2	46.0		
			4)Slightly worse	2.7	1.1	17.4	24.7	6.1	21.9	17.1	8.0	4.3	29.7	32.2		
			5)Much worse	0.7	0.4	3.1	13.6	1.1	5.4	6.5	4.0	2.0	5.4	6.1		
			8)Other	1.7	0.3	0.2	-	-	-	-	0.7	0.1	-	-		
		*NA含む	9)DK	0.9	*2.8	1.8	6.8	2.0	2.8	2.0	1.1	1.0	3.8	2.9		
Q2	corre 修正	Country for Friendship	USA	1)35.4	1)47.6	1)41.1	1)35.0		1)53.2	1)14.3	1)19.7	1)59.8	1)35.0		1)38.5	1) 53.1
			EU(European Union)	2)38.3	2)26.9	2)27.6	2) 8.3	1)12.7	2) 6.5	2) 3.5	2)15.7	2) 4.9	2) 6.3		2) 8.0	2) 31.6
		*【国別質問】	Japan	3) 2.8	3) 6.3	3) 7.8	4)11.3	3)10.4	4) 3.2	4) 6.4	3) 8.4	3) 9.8			3) 2.5	
			South Korea	4)10.7	4) 7.3	4) 6.1	5) 0.5	6)10.4		5) 1.5	6) 3.1	6)10.5	4) 5.4		4) 8.0	4) 4.0
			Mainland of China				6)23.2		3)22.1				3)28.3			
		*【中国と中国大陸は別回答肢】	China					4)30.3		3)36.2	4)27.7	5) 6.5			3)22.4	
			Australia				3) 2.2	2) 9.7	5) 2.1	6) 7.3		4) 0.6				
			India				7) 0.5	5) 4.6	6) 1.0	7) 5.8	5) 6.4					
			Singapore													
			Hong Kong													
			Taiwan													
			The Other Asian than China and South Korea										5)11.9		5) 6.7	
			The Other Asian than J	5) 7.2	5) 4.8	5) 9.8										5) 6.3
			Country other than China and Japan													
		*【ベトナムのその他には、3) Russia (14.4%)が含まれる。】	Asian country other than China, Japan and India						7) 6.5							
			Asian country other than China, India, Japan an	8) 5.3	7) 9.2					8)18.0	7)11.9	7) 1.4				
			Asian country other than China, Japan, India and Singapore													
			Asian country other than China, India, Japan, Singapore and South Korea													
			Asian country other than China, Japan, South Korea, and Singapore													
			Other	8) 3.4	8) 1.0	8) 1.5	8) 0.7	8) 2.7	8) 1.3	8) 0.6	8) 2.1	8) 2.1	8) 1.0		8) 1.4	8) 3.4
			DK	9) 2.2	9) 6.1	9) 6.1	9)13.1	9)10.1	9) 4.1	9) 6.4	9) 4.9	9)4.2	9)12.0		9)15.0	9) 3.6
Q3	corre 修正	Country to be Born again	Japan	1) 5.2	1) 8.3	1)24.1	1)42.1	2)12.9	1)10.7	2)12.5	1)26.6	2)15.2			1) 9.2	
			South Korea	2)11.4	2) 7.3	2) 4.9	2) 3.2	4) 1.1		3) 1.9	3) 1.9	3) 1.5	2) 9.4		2) 5.2	2) 7.4
			China												1)10.8	
		*【国別質問】	Mainland of China			4)28.5	3) 9.3	3) 4.6	2) 7.0	1)13.4	2) 5.1	4) 2.3	1) 9.7			
			Taiwan	3) 8.9	3) 5.8	3) 3.5		5) 0.9	3) 1.0	4) 4.7	4) 1.4	5) 0.4	3) 5.5		3) 5.6	3) 4.4
		*【中国と中国大陸は別回答肢】	Hong Kong	4)25.5	4)24.5		4) 2.0	6) 2.3	4) 2.2	5) 6.3	5) 9.1	6) 3.3	4)11.4		4)13.0	4)21.5
			India	5) 0.8	5) 0.8	5) 0.4	6) 0.2	7) 1.7	5) 1.4	6) 3.8	6) 7.6		5) 2.2		5) 2.7	5) 0.5
			Philippines	6) 0.6	6) 0.6	6) 0.4	7) -	8) 3.3	6) 0.6	7) 0.8	7) 5.3	7) 0.4	6) 0.5		6) 0.4	6) 0.6
		*【各国調査票での中国、中国大陸、香港、台湾の分類の違いに注意】	Singapore	7)33.0	7)39.2	7)30.7	8)10.1	9) 1.6	7)10.9		8)22.0	8)22.9	7)24.5		7)18.9	7)39.4
			Thailand													
			Australia				5)14.6	1)47.1	8)50.4	8)32.5		1)34.5				
			U.S.						9) 2.5							
			None					10)19.1	9) 1.8							
			Other	8)10.3	8) 1.8	8) 1.4	8) 3.2	8) 0.6	8) 2.5	8) 8.8	11.9	8) 8.2	8) 8.3		8)10.2	8) 8.8
		*NA含む	DK	9) 4.3	9)11.9	9) 6.0	9)15.4	9) 5.0	9) 9.0	9)15.3	9.3	9)11.0	9)28.5		9)33.3	9) 8.3
Q4	#6.2	Boy or Girl to be Born again	1)A Boy	53.4	53.4	52.4	59.7	53.4	63.2	56.0	56.1	54.3	54.8		52.1	60.9
			2)A Girl	33.4	34.2	35.8	28.4	45.3	32.8	37.6	39.9	41.8	40.7		38.5	26.6
			8)Other	10.7	4.0	8.6	3.2	-	0.8	-	1.9	0.6	1.1		1.3	8.3
		*NA含む	9)DK	2.5	*8.4	3.2	8.8	1.3	3.2	6.4	2.1	3.3	3.3		8.1	4.2
Q5	#4.11 corre 修正	Respect for Ancestors	1)More Than the Average	55.7	50.0	33.7	27.5	56.2	56.1	49.0	62.1	62.9	49.1	43.2	41.2	41.4
			2)Less Than the Average	3.3	4.0	6.7	6.1	5.7	9.9	16.0	7.6	11.9	8.0	9.3	9.3	3.8
			3)Average	39.9	43.7	58.5	66.3	37.4	33.2	33.8	28.7	24.2	41.3	45.4	47.6	54.0
			8)Other	0.6	-	-	-	-	-	-	0.1	0.0	0.1	-	0.1	-
			9)DK	0.5	2.3	1.1	-	0.8	0.8	1.2	1.4	0.9	1.6	2.2	1.8	0.8
Q6	#4.10 corre 修正	Child Adoption	1)Would Adopt	23.5	22.2	19.2	22.2	44.7	27.4	42.9	51.9	59.4	14.7		12.6	17.9
			2)Would Not Adopt	59.0	50.8	66.4	59.9	23.0	47.4	33.8	30.9	14.1	55.6		49.7	61.3
			3)Depends	15.4	22.5	13.0	16.7	28.6	23.6	22.8	15.3	22.6	24.7		32.0	18.5
			8)Other	1.0	0.3	-	-	0.3	0.2	-	1.3	0.3	0.3		0.3	-
			9)DK	1.1	4.2	1.4	1.2	3.3	1.5	0.5	0.7	3.5	4.7		5.4	2.4
Q7	#4.80	Ideal Number of Children	0	3.6	1.2	2.9	3.0	-	0.1	0.6	0.7	-	0.1		-	5.7
			1	22.1	29.8	10.5	8.1	3.2	3.9	4.1	2.7	15.2	1.4		2.2	38.5
			2	68.0	62.5	70.1	63.7	49.2	48.8	49.8	49.3	73.7	43.8		45.4	50.9
			3	4.7	3.6	10.2	17.6	27.0	36.9	29.7	29.0	5.1	48.1		45.1	3.4
			4	0.7	0.4	4.4	3.6	14.8	6.7	12.0	13.4	1.4	3.2		3.0	0.7
			5	0.2	0.3	0.7	0.3	1.4	2.5	2.1	2.0	0.7	0.5		0.6	-
			6 or Over	0.2	-	0.4	0.7	2.1	0.5	0.8	1.1	0.3	0.1		-	-
		*NA含む	9)DK	0.5	*2.3	0.8	3.0	2.3	0.6	0.9	1.7	3.9	2.8		3.7	0.8
			Others													

2002	2003	2002	2002	2003	2003	2004	1998	1999	1999	1988	1988	1988	1988	1987	1987	1987	1992	1993	1991
Shang- hai	Kunming	Hang- zhou	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singap- ore	JAWCS	HA JA	HA NJ	JPN-A	HA JA	HA NJ	USA	FRA	UK	FRG	ITA	HOL	BRZ JB
1053	1018	911	1057	732	1006	1037	344	206	294	2265	180	319	1563	1013	1043	1000	1048	1083	*492
								15.5	22.8	2.6	18.3	19.4	17.1	6.7	11.8	3.8	8.2	5.0	
								34.0	28.9	22.4	35.0	32.0	29.9	25.1	28.2	27.4	18.5	17.2	
								39.3	35.7	52.2	34.4	31.0	35.0	28.5	38.6	47.6	43.0	40.8	
								8.7	6.8	14.8	8.3	10.3	8.6	27.4	12.8	15.6	15.9	26.8	
								1.0	2.4	1.5	1.1	1.9	3.7	6.4	3.1	1.0	6.2	6.2	
								0.5	0.7	0.0	2.2	2.5	-	-	-	-	-	-	
								1.0	2.7	6.5	0.6	2.8	5.7	5.8	5.5	4.6	8.1	4.1	
1) 61.7	1) 34.9	1) 43.6	1) 49.1	1) 47.4	1) 55.9	1) 23.7													
2) 22.3	2) 22.1	2) 18.9	2) 24.6	2) 8.5	2) 7.9	2) 7.9													
3) 4.0	3) 1.5	3) 2.4	3) 3.7	3) 8.5	4) 3.9	4) 5.7													
4) 2.4	4) 3.6	4) 1.9	4) 1.4	4) 0.7		5) 1.1													
				6) 14.2															
					3) 21.8	3) 32.9													
5) 4.3	5) 7.4	5) 6.4	5) 9.0	5) 4.4															
					5) 5.4														
8) 1.2	8) 14.2	8) 3.7	8) 0.5	8) 0.4	8) 0.9	15.3													
9) 4.1	9) 16.3	9) 23.2	9) 11.7	9) 16.0	9) 4.4	9) 13.5													
1) 12.6	1) 6.7	1) 8.3	1) 24.5	1) 37.7	2) 29.4	2) 22.2													
2) 4.9	2) 5	2) 3.7	2) 3.1	2) 1.4		3) 3.3													
						1) 16.8													
						1) 13.9													
						4) 26.5													
						3) 8.9													
3) 4.1	3) 3.1	3) 2.7	3) 4.2			4) 3.1													
4) 24.3	4) 14.9	4) 19.4		4) 3.0	4) 7.7	5) 7.2													
5) 0.5	5) 0.3	5) 0.3	5) 0.6	5) 0.7	5) 1.5	6) 4.7													
6) 0.6	6) 0.5	6) 0.9	6) 0.2	6) 0.1	6) 1.1	7) 0.5													
7) 39.9	7) 28.2	7) 27.8	7) 30.4	7) 20.2	7) 20.9														
						3) 1.9													
8) 5.4	8) 26.6	8) 9.9	8) 0.8	8) 6.3	8) 2.0	8) 26.1													
9) 7.7	9) 14.6	9) 26.9	9) 9.8	9) 21.7	9) 18.8	9) 19.0													
58.1	49.5	48.6	55.3	53.1	63.8	48.2													
27.9	17.5	25.0	35.6	29.0	33.6	37.8													
9.5	21.1	10.6	2.2	5.5	0.2	3.1													
4.5	11.9	15.7	7.0	12.4	2.4	10.9													
43.5	43.2	37.7	27.4	27.3	59.6	54.4	84.0	49.0	44.6	47.5	51.7	45.5	73.1	29.0	41.9	9.1	36.5	40.9	55.3
2.8	4.1	3.0	9.1	4.2	11.1	12.0	2.6	10.2	16.3	8.4	14.4	20.1	8.1	16.5	8.7	15.7	9.2	4.2	6.1
52.8	49.8	56.6	61.1	68.0	28.8	31.1	11.9	38.8	36.4	42.5	31.7	29.2	17.0	49.8	45.7	64.7	49.5	44.5	34.4
0.1	0.7	0.2	0.1	-	-	-	0.6	1.5	1.4	0.0	0.6	2.5	0.2	1.4	0.3	0.4	-	1.7	2.1
0.8	2.2	2.5	2.3	0.4	0.4	2.5	0.9	0.5	1.4	1.5	1.7	2.8	1.7	3.4	3.4	10.1	4.8	8.8	2.2
28.1	20.4	21.4	16.7	17.9	28.2	36.0	25.9	34.0	38.4	19.1	32.8	44.5	52.3	63.9	34.3	39.5	59.3	14.4	51.9
54.0	51.1	49.5	69.9	66.8	49.5	38.8	55.2	47.6	39.1	42.4	44.4	35.4	34.5	21.1	44.6	28.8	14.6	63.0	26.7
15.4	19.5	23.5	9.4	11.1	19.8	20.8	11.6	8.7	12.6	30.5	13.3	13.2	8.2	9.6	11.9	24.0	22.1	10.7	12.6
0.7	2.4	0.5	-	-	0.3	-	6.1	6.3	9.2	0.2	4.4	5.6	1.8	2.7	5.8	1.0	0.1	5.0	2.6
1.8	6.6	5.0	4.0	4.2	2.2	4.4	1.2	3.4	0.7	7.8	5.0	1.3	3.1	2.8	3.4	6.7	3.9	6.9	6.1
1.4	2.0	1.1	1.6	1.8	0.8	0.7				-			0.8	-	1.3	4.2	0.2	1.8	
38.4	39.1	35.2	9.6	6.1	5.9	3.0				0.9			2.1	2.8	1.5	13.3	5.2	3.0	
56.1	53.7	57.3	75.8	60.1	55.5	51.4				35.6			49.6	45.7	60.8	60.4	55.6	49.7	
1.7	2.1	2.0	7.2	24.3	27.9	26.0				55.4			24.3	42.6	18.6	15.2	28.7	24.2	
0.6	0.2	0.2	2.3	5.1	6.7	13.7				3.6			13.2	5.2	9.6	2.2	3.9	8.3	
0.1	0.2	-	0.6	0.3	2.0	1.8				1.0			2.1	0.9	1.1	0.2	0.8	1.3	
-	0.1	0.1	0.6	0.7	0.5	1.6				0.1			2.3	0.2	0.9	0.1	0.3	0.8	
1.7	2.5	3.6	2.4	1.6	0.8	1.8				※DK&Other	3.4		5.6	2.6	6.2	4.4	5.3	11.0	
	0.2	0.4																	

APVS	Comm on code	Item	category	2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002				
				Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing				
Q8	#2.4 corre 修正	Attitudes towards Life ※1)の表現が修正された	1)Lead an honest and	31.0	38.7	26.9	39.6	8.8	41.3	11.3	12.9	27.5	46.2							
			2)Active in volunteer w	8.9	12.3	4.6	9.8	12.0	11.2	7.8	11.6	18.4	8.8							
			3)Work hard and get rid	8.0	14.1	8.5	15.8	14.7	16.4	22.9	9.4	27.8	5.4							
			4)Study earnestly and	3.3	4.8	4.4	6.0	8.0	2.2	5.9	3.3	8.8	0.8							
			5)Don't think about mo	29.7	17.4	20.1	15.1	25.6	10.1	19.5	30.9	5.7	23.0							
			6)Live each day as it c	17.5	10.6	34.6	12.8	28.4	17.9	29.8	30.4	11.0	14.3							
			8)Other	1.4	0.3	0.5	-	1.2	0.2	-	0.7	0.0	0.2							
			9)DK	0.2	*1.7	0.5	1.0	1.3	0.8	2.8	0.9	0.6	1.3							
			*NAを含む																	
Q9a		Confucius Teaching - We should respect our ancestors	1)Strongly Agree	51.9	54.2	41.2	39.8	54.8	24.5	41.0	49.4	84.5	40.5			34.7	41.1			
			2)Agree	44.6	42.3	57.6	58.2	41.6	59.9	55.7	46.4	15.1	50.4			57.3	54.8			
			3)Disagree	2.4	1.2	0.9	1.3	1.3	10.7	1.2	3.1	0.2	6.1			5.2	3.2			
			4)Strongly Disagree	0.3	-	0.1	0.3	0.4	1.8	0.8	0.3	0.0	1.4			1.4	0.2			
			8)Other	0.6	0.4	-	-	0.6	0.7	-	-	0.0	0.1			-	0.2			
			9)DK	*0.3	*1.9	0.1	0.3	1.2	2.4	1.2	0.7	0.1	1.6			1.4	0.6			
			*NAを含む																	
			Q9b	corre 修正	Confucius Teaching - The eldest son should look after his aging parents	1)Strongly Agree	28.9	18.5	26.9	18.2	12.7	11.3	2.0	14.3	55.5	8.1			6.6	13.2
						2)Agree	41.3	42.6	48.6	47.4	31.9	33.7	25.8	29.9	21.7	24.2			24.7	36.3
3)Disagree	25.4	32.6				20.8	31.0	38.3	46.0	62.0	43.6	10.2	54.0			54.6	45.5			
4)Strongly Disagree	1.3	1.2				1.5	2.5	7.1	7.9	7.5	10.3	11.9	12.2			11.9	3.6			
8)Other	2.8	2.6				0.8	0.3	4.7	0.3	1.3	0.7	0.4	0.4			0.4	0.9			
9)DK	*0.3	*2.5				1.3	0.5	5.4	0.9	1.5	1.3	0.2	1.1			1.8	0.5			
*NAを含む																				
Q9c	corre 修正	Confucius Teaching - A wife should follow her husband				1)Strongly Agree	4.6	3.8	6.1	9.1	12.4	11.6	10.6	6.3	50.6	6.1			5.1	1.9
						2)Agree	16.5	16.2	35.0	35.5	39.4	48.3	49.5	22.7	31.6	29.4			27.1	10.4
			3)Disagree	61.8	60.5	47.3	45.9	28.7	33.4	34.8	37.1	10.8	46.4			51.5	66.0			
			4)Strongly Disagree	13.2	14.3	8.1	8.5	15.2	5.2	3.0	30.7	6.3	15.5			14.4	20.8			
			8)Other	3.3	2.3	0.9	0.8	2.1	0.8	1.6	1.0	0.3	1.0			0.4	0.8			
			9)DK	*0.6	*2.9	2.5	0.2	2.1	0.7	0.6	2.1	0.3	1.7			1.7	0.2			
			*NAを含む																	
			Q9d		Confucius Teaching - Not to marry someone whom your parents object to	1)Strongly Agree	0.7	2.2	1.3	2.0	6.2	7.0	2.0	2.9	51.0	3.5			3.0	0.4
						2)Agree	6.2	10.0	6.0	9.6	30.3	36.6	25.8	14.9	24.9	24.0			19.1	2.9
3)Disagree	74.4	66.2				62.3	63.2	47.1	45.0	62.0	57.1	15.9	53.3			57.1	68.1			
4)Strongly Disagree	17.3	16.8				29.4	24.9	10.4	8.2	7.5	22.6	7.1	15.4			15.9	28.4			
8)Other	1.1	1.9				-	0.2	2.1	0.8	1.3	0.4	0.3	0.6			0.4	0.2			
9)DK	*0.4	*3.0				0.9	0.2	3.9	2.5	1.5	2.1	0.7	3.2			4.6	-			
*NAを含む																				
Q9e	corre 修正	Confucius Teaching - We should follow older people				1)Strongly Agree	3.5	8.0	4.5	8.8	14.5	9.0	4.1	8.0	72.4	6.7			3.7	2.8
						2)Agree	39.5	42.0	49.4	56.9	42.0	62.5	46.9	35.9	24.0	47.4			39.0	34.0
			3)Disagree	46.0	38.2	36.5	31.2	29.2	23.2	42.9	45.4	2.8	32.8			45.4	57.0			
			4)Strongly Disagree	1.7	1.7	2.1	2.8	4.3	2.6	2.1	8.0	0.7	9.1			7.6	3.3			
			8)Other	8.2	5.5	2.5	0.3	4.2	1.0	2.9	1.1	0.0	1.8			0.6	2.0			
			9)DK	*1.1	*4.6	5.1	-	5.8	1.7	1.1	1.6	0.0	2.2			3.7	0.9			
			*NAを含む																	
			Q9f		Confucius Teaching - It is important to have a son to keep the family line going	1)Strongly Agree	3.1	4.1	4.5	6.5	10.2	8.6	7.7	7.9	46.8	5.9			4.8	1.6
						2)Agree	17.5	20.7	29.8	32.8	34.5	25.6	35.0	27.3	27.4	24.1			23.3	13.0
3)Disagree	64.8	60.3				56.5	51.1	41.3	51.3	49.8	45.9	13.6	52.9			54.3	68.4			
4)Strongly Disagree	9.8	7.8				7.7	8.8	9.8	12.5	6.3	17.6	11.5	14.7			15.4	15.5			
8)Other	4.2	2.1				0.2	0.2	2.0	0.5	0.6	0.1	0.3	0.8			0.1	0.7			
9)DK	*0.7	*5.0				1.3	0.7	2.2	1.5	0.7	1.3	0.3	1.8			2.1	0.9			
*NAを含む																				
Q9g		Confucius Teaching - Men should work outside and woman should tend to housekeeping				1)Strongly Agree	3.4	4.2	3.4	6.0	3.9	7.7	3.3	4.0	36.1	6.1			3.7	1.6
						2)Agree	18.0	15.8	25.4	34.2	12.7	18.3	24.4	11.3	20.2	20.1			19.4	10.7
			3)Disagree	62.9	60.2	58.9	48.4	51.5	54.3	55.8	47.6	22.1	50.4			55.1	63.7			
			4)Strongly Disagree	13.2	13.7	10.4	10.6	27.7	19.3	14.8	35.9	20.7	21.4			20.2	22.7			
			8)Other	2.2	2.5	0.5	0.3	2.2	0.3	0.9	0.3	0.6	0.4			-	0.9			
			9)DK	0.3	*3.6	1.4	0.5	2.0	0.1	0.8	1.0	0.2	1.6			1.5	0.4			
			*NAを含む																	
			Q10a		The Most Respectable Occupation/ Occupation to Take															
			Q10b		The Least Trustworthy Occupation/ Occupation to Take															
Q11	#5.25	Leader's Qualifications	1)Technical competenc	54.7	62.8	26.6	38.1	35.5	29.9	23.8	32.6	36.0	23.4	17.7		21.7	64.7			
			2)Fair in treating subor	48.3	45.9	55.8	40.1	52.9	38.2	46.9	49.4	37.3	49.3	52.9		49.0	48.6			
			3)Being liked and respe	19.8	20.8	25.0	33.0	24.2	55.0	22.2	23.6	29.0	42.5	44.2		41.7	17.0			
			4)Serious attitude toward	29.7	29.1	29.0	30.3	43.7	18.9	35.7	35.7	42.4	44.3	46.8		48.0	31.4			
			5)Have many friends/a	14.1	22.4	10.8	22.4	10.7	36.6	38.7	5.3	18.1	18.7	13.5		14.4	9.0			
			6)Sincere in attitudes t	33.0	34.0	35.3	38.5	35.5	38.4	35.9	47.3	31.0	37.3	42.5		36.5	31.8			
			7)Decisive and determi	26.5	22.0	33.0	15.3	37.0	34.1	24.9	20.3	26.6	24.4	23.3		23.5	29.5			
			8)Good judgment	34.4	26.0	42.5	33.5	62.0	35.7	43.2	61.1	33.1	45.1	47.6		49.2	33.4			
			9)Ability to bring great	36.6	30.8	28.5	38.5	21.9	12.4	18)20.2	14.4	15.2	5.4	5.2		5.7	32.6			
			10)Seniority	1.0	1.5	9.9	1.2	7.5	3.0	9)20.2	3.1	8.8	1.8	1.1		0.8	0.8			
			11)come from good fan	0.8	0.9	1.4	1.3	4.7	0.8	10) 5.4	6.0	4.3	0.4	0.4		0.3	0.4			
			88)Other																	
			99)DK		*0.3	*0.4	12) 1.7	0.3	0.3				0.2							
*NA												99) 0.4	12) 0.3	0.8	0.1					
Q12	#2.3g	Health Satisfaction	1)Very Satisfied	14.3	14.7	11.1	12.6	40.6	14.2	37.3	34.9	63.3	15.3	11.6		13.5	11.9			
			2)Fairly Satisfied	56.5	56.3	67.3	68.0	45.6	54.2	55.8	50.7	32.1	57.8	60.4		62.6	62.1			
			3)Fairly Dissatisfied	20.8	18.9	15.8	13.1	9.1	25.3	4.7	9.3	2.8	20.0	21.7		16.1	19.3			
			4)Very Dissatisfied	8.1	7.3	5.4	6.0	4.6	5.8	2.0	4.9	1.7	5.7	5.6		6.0	6.7			
			8)Other	0.2	1.1	-	-	-	-	0.1	-	-	-	0.1	-	-	0.5	-		
			9)DK	0.1	*1.6	0.5	0.3	0.1	0.5	-	0.3	0.0	1.1	0.8		1.3	0.1			
			*NAを含む																	

APVS	Comm on code	Item	category	2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002		
				Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing		
Q13	#1.8 corre 修正	Social Stratification	1)Upper	1.7	1.3	0.7	1.3	2.2	0.6	0.8	1.9	11.0	1.1	1.1	1.3	2.3		
			2)Upper Middle	9.4	10.6	6.7	11.9	17.9	6.4	11.0	18.0	24.8	9.2	8.5	10.4	10.6		
			3)Middle	49.6	47.4	46.5	66.0	56.9	48.7	72.8	58.1	57.9	55.2	56.7	56.2	51.2		
			4)Lower Middle	27.5	26.9	34.0	16.3	19.3	29.6	12.3	15.9	5.3	27.0	26.2	23.3	25.7		
			5)Lower	11.0	10.9	11.3	1.7	3.4	14.3	2.7	5.7	0.8	5.4	4.5	5.7	9.0		
			8)Other	0.4	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	-	
			9)DK	0.4	*2.7	0.7	2.8	0.2	0.4	0.4	0.4	0.1	2.1	2.9	3.0	1.1		
			*NA含む															
Q14	#7.81	Money or Free Time	1)More Money	69.6	75.6	61.4	72.8	61.4	63.0	46.0	54.4	75.2	52.5			55.1	72.3	
			2)More Free Time	27.9	17.3	35.7	24.5	36.6	34.7	40.5	41.6	21.9	41.1			33.8	24.0	
			8)Other	1.8	1.6	0.7	0.5	0.4	0.7	-	2.9	1.7	1.6			4.7	1.7	
			9)DK	0.7	*5.5	2.2	2.2	1.6	1.7	13.5	1.1	1.2	4.8			6.4	2.0	
			*NA含む															
			9)DK	0.9	*4.3	1.1	0.8	3.1	0.6	1.5	1.1	0.5	7.4			9.2	2.2	
			*NA含む															
			9)DK	0.9	*4.3	1.1	0.8	3.1	0.6	1.5	1.1	0.5	7.4			9.2	2.2	
Q15	#2.8	Continuing Work or Retire	1)Continue to Work	72.1	66.7	67.7	75.8	51.6	77.7	73.4	61.7	87.2	57.1			54.3	72.3	
			2)Stop Working	24.4	26.8	31.0	22.9	44.7	21.0	25.1	30.1	12.2	33.6			34.8	25.1	
			8)Other	2.7	2.2	0.2	0.5	0.6	0.8	-	7.0	0.1	1.9			1.7	0.4	
			9)DK	0.9	*4.3	1.1	0.8	3.1	0.6	1.5	1.1	0.5	7.4			9.2	2.2	
			*NA含む															
			9)DK	0.9	*4.3	1.1	0.8	3.1	0.6	1.5	1.1	0.5	7.4			9.2	2.2	
			*NA含む															
			9)DK	0.9	*4.3	1.1	0.8	3.1	0.6	1.5	1.1	0.5	7.4			9.2	2.2	
Q16	#7.24	The First Condition for one's own Work	1)Good Salary	14.7	35.3	18.5	35.0	37.7	33.8	31.5	23.9	41.1	15.4			14.9	17.9	
			2)Safe Job	16.6	17.5	13.3	18.4	14.8	23.1	25.8	17.7	30.1	18.8			23.6	18.6	
			3)People You Like	27.5	23.2	36.5	20.6	10.9	21.3	18.8	12.3	10.0	26.3			27.7	26.8	
			4)Doing an Important J	40.4	21.1	30.7	25.4	35.2	21.6	22.1	44.7	18.4	36.0			25.7	33.5	
			8)Other	0.8	0.2	-	-	0.2	-	-	0.7	0.1	0.2			1.8	1.4	
			9)DK	-	*2.7	0.9	0.7	1.2	0.3	1.8	0.7	0.3	3.3			6.4	1.7	
			*NA含む															
			9)DK	-	*2.7	0.9	0.7	1.2	0.3	1.8	0.7	0.3	3.3			6.4	1.7	
Q17a	#2.30 modif 変更	Anxiety - Serious illness	1)Very Much	44.5	43.9	65.7	32.8	35.3	3.7	72.1	43.7	71.2	17.8	13.0	12.8	34.6		
			2)Somewhat	22.7	19.9	21.2	31.7	29.9	14.7	17.6	29.3	14.8	24.2	24.6	22.7	23.2		
			3)Slightly	21.8	23.4	9.9	21.7	24.4	50.9	5.1	19.7	3.5	45.7	47.9	47.1	24.0		
			4)Not at All	10.5	10.3	2.9	13.4	10.3	30.0	5.0	7.1	10.3	11.6	14.1	16.6	17.3		
			8)Other	0.1	0.5	-	-	-	0.1	0.1	0.1	-	0.2	-	-	0.1		
			9)DK	0.3	*2.1	0.2	0.3	0.1	0.7	-	-	0.1	0.5	0.4	0.6	0.9		
			*NA含む															
			9)DK	0.3	*2.1	0.2	0.3	0.1	0.7	-	-	0.1	0.5	0.4	0.6	0.9		
Q17b	#2.30 modif 変更	Anxiety - Car accident	1)Very Much	48.4	39.1	71.8	37.3	19.5	4.5	59.3	31.6	66.9	12.6	11.2	14.9	28.2		
			2)Somewhat	20.3	22.4	18.3	29.2	26.9	16.5	18.6	26.6	16.8	27.9	26.1	26.9	21.3		
			3)Slightly	16.7	22.4	6.9	20.9	32.1	48.2	11.6	27.7	3.8	49.1	51.3	48.0	23.8		
			4)Not at All	12.4	11.5	2.1	12.6	21.4	29.2	10.3	14.1	12.1	9.3	11.0	8.9	25.4		
			8)Other	1.2	0.5	0.1	-	0.1	0.2	0.2	-	-	0.3	-	-	0.5		
			9)DK	0.9	*4.1	0.7	-	-	1.5	-	-	0.3	0.9	0.4	1.3	0.8		
			*NA含む															
			9)DK	0.9	*4.1	0.7	-	-	1.5	-	-	0.3	0.9	0.4	1.3	0.8		
Q17c	#2.30 modif 変更	Anxiety - Unemployment	1)Very Much	20.9	29.8	32.7	28.7	16.5	9.2	48.2	21.6	53.0	8.6	11.6				
			2)Somewhat	17.6	22.1	25.4	27.9	25.1	19.8	29.5	24.3	24.1	18.7	15.3				
			3)Slightly	32.4	26.5	34.9	26.4	30.6	34.7	13.8	27.3	9.6	37.9	40.4				
			4)Not at All	26.8	17.1	6.2	16.7	27.2	32.6	8.5	26.7	12.8	30.3	29.0				
			8)Other	1.5	0.8	-	-	0.4	0.7	0.1	-	-	1.4	0.5				
			9)DK	0.9	*3.7	0.7	0.3	0.1	3.0	-	0.1	0.4	3.1	3.2				
			*NA含む															
			9)DK	0.9	*3.7	0.7	0.3	0.1	3.0	-	0.1	0.4	3.1	3.2				
Q17d	#2.30 modif 変更	Anxiety - War	1)Very Much	35.6	37.2	67.4	29.5	20.4	4.7	57.2	32.6	51.6	17.6	15.5	10.7	19.9		
			2)Somewhat	11.6	14.8	16.0	19.6	22.5	10.2	9.9	19.9	22.7	22.2	21.1	16.5	12.7		
			3)Slightly	16.3	16.1	9.9	18.7	29.3	37.0	11.0	23.0	8.6	39.9	41.3	41.9	18.9		
			4)Not at All	34.1	23.4	6.0	31.2	26.7	43.5	21.2	24.0	16.3	17.0	19.0	25.4	46.0		
			8)Other	1.3	1.0	-	-	0.1	0.6	0.2	-	-	0.4	-	0.4	0.3		
			9)DK	1.0	*7.4	0.7	1.0	0.9	4.1	0.5	0.6	0.7	3.0	3.1	5.1	2.3		
			*NA含む															
			9)DK	1.0	*7.4	0.7	1.0	0.9	4.1	0.5	0.6	0.7	3.0	3.1	5.1	2.3		
Q17e	#2.30	Anxiety - Nuclear power accident	1)Very Much															
			2)Somewhat															
			3)Slightly															
			4)Not at All															
			8)Other															
			9)DK															
			*NA含む															
			9)DK															
Q18a	#5.81 corre 修正	Importance - Immediate family and children	1 (Not important at all)	1.2	1.5	0.7	0.2	0.3	0.1	-	0.9	0.9			1.1	0.9		
			2	0.6	1.0	0.5	-	0.2	0.4	0.3	0.1	0.3	0.3			0.4	0.5	
			3	1.1	1.0	0.6	0.2	0.3	0.6	0.3	1.0	0.4	0.7			0.5	0.4	
			4	3.6	1.7	5.2	2.7	1.3	1.7	0.7	1.0	1.6	4.0			3.6	2.3	
			5	5.9	4.4	7.1	5.6	1.2	3.8	2.0	1.4	6.2	6.2			4.7	4.5	
			6	9.2	7.7	13.2	15.9	4.4	20.7	7.4	5.3	17.9	12.6			9.1	6.4	
			7 (Very important)	77.5	79.9	71.6	75.1	85.3	72.6	86.3	85.4	71.7	74.0			80.1	84.5	
			8)Other	0.6	0.3	-	-	0.4	0.1	0.6	0.1	-	-			-	0.1	
9)DK	0.3	*2.4	1.2	0.3	6.3	0.1	2.4	4.7	0.9	1.3			0.5	0.5				
Q18b	#5.81	Importance - Career and job	1 (Not important at all)	5.2	2.3	2.5	1.0	1.9	-	1.5	4.6	1.7	2.7			1.7	3.5	
			2	2.5	1.0	1.4	0.2	3.4	0.4	1.6	3.0	0.8	2.4			1.4	1.1	
			3	3.8	2.4	2.9	2.5	3.7	0.1	2.5	5.6	0.7	2.8			2.0	2.0	
			4	10.4	6.5	11.7	7.0	12.2	3.6	7.6	15.7	3.3	16.3			12.6	6.1	
			5	14.4	10.1	26.7	15.8	23.1	9.5	14.8	29.0	10.3	20.1			16.1	12.9	
			6	26.1	24.3	23.0	32.0	23.1	30.9	23.0	17.1	29.9	17.5			17.2	26.6	
			7 (Very important)	36.6	50.7	30.4	41.5	30.5	55.1	48.2	20.0	52.7	34.9			44.9	47.0	
			8)Other	0.7	0.8	-	-	0.6	0.1	0.3	-	0.0	0.3			0.3	0.4	
9)DK	0.4	*2.1	1.4	0.2	1.6	0.3	0.7	5.0	0.3	3.1			3.9	0.5				

APVS	Comm on code	Item	category	2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002				
				Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing				
Q18c	#5.81	Importance – Free time and relaxation	1 (Not important at all)	6.6	6.2	2.5	0.2	0.7	0.2	0.1	0.9	7.8	0.6			0.8	4.6			
			2	5.0	2.7	1.5	1.0	1.2	0.1	0.7	1.4	4.9	1.1			0.9	3.2			
			3	7.5	5.2	5.8	3.0	3.6	1.0	1.4	4.6	5.7	4.0			2.2	7.1			
			4	21.2	13.3	17.3	10.4	11.8	4.7	10.6	12.7	12.6	22.9				18.7	16.3		
			5	21.3	19.2	29.2	22.1	23.4	19.1	18.0	28.4	18.9	23.8				20.5	24.9		
			6	17.9	22.3	23.3	34.7	24.8	38.4	29.7	25.6	22.1	23.5				20.3	20.8		
			7 (Very important)	19.5	28.0	20.1	28.7	34.1	36.3	39.3	26.3	27.1	23.1				36.2	22.5		
			8)Other	0.8	1.4	--	--	0.2	--	0.1	--	0.0	--				--	0.2		
			9)DK	0.4	*1.7	0.2	--	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.8	1.1			0.5	0.5		
Q18d	#5.81	Importance – Friends and people you know	1 (Not important at all)	2.9	2.5	1.6	0.2	0.1	0.1	0.7	0.9	1.9	0.5			0.8	1.9			
			2	2.8	1.2	0.9	0.2	1.0	0.2	0.9	1.3	1.3	0.9			0.5	1.5			
			3	8.8	3.7	5.3	4.3	2.1	1.5	1.7	4.0	3.1	1.9			2.2	5.0			
			4	17.2	10.5	17.6	15.3	8.4	7.4	10.5	11.1	11.3	15.4				10.9	16.0		
			5	24.2	17.5	30.4	31.3	15.5	21.8	18.0	21.3	21.0	25.0				18.2	24.9		
			6	22.9	27.6	24.3	30.5	28.3	40.3	36.1	28.1	30.2	27.8				27.7	26.2		
			7 (Very important)	20.3	34.5	19.8	18.2	44.1	28.5	32.0	33.1	30.6	27.8				38.8	24.5		
			8)Other	0.6	0.8	--	--	0.4	--	0.1	--	--	--				--	--		
			9)DK	0.3	*1.8	0.1	--	--	0.2	--	0.1	0.5	0.6				1.0	0.1		
Q18e	#5.81	Importance – Parents, brothers, sisters, and other relatives	1 (Not important at all)	1.4	1.3	1.2	--	0.4	0.2	0.1	1.6	0.7	0.4			1.3	0.7			
			2	0.8	0.9	0.7	--	1.2	0.2	0.5	1.7	0.6	0.6			0.5	0.8			
			3	2.0	2.1	1.4	0.7	1.1	0.4	0.4	1.9	2.7	1.2			0.3	2.3			
			4	5.9	3.7	6.5	4.1	3.6	3.1	2.2	5.1	2.7	8.6				5.8	4.3		
			5	9.6	8.0	11.2	12.4	6.3	9.4	7.4	8.4	10.2	14.0				11.8	10.5		
			6	22.7	20.5	24.7	34.7	16.3	30.5	19.3	22.7	29.9	27.0				22.6	23.4		
			7 (Very important)	57.0	60.8	53.9	47.9	70.7	56.1	70.1	58.1	53.0	47.7				57.2	57.3		
			8)Other	0.6	0.9	--	--	0.2	--	0.1	--	--	--				--	0.5		
			9)DK	0.1	*1.7	0.4	0.2	0.1	0.1	--	0.4	0.2	0.4				0.5	0.2		
Q18f	#5.81	Importance – Religion	1 (Not important at all)	56.6	29.6	21.4	6.5	4.9	10.6	4.7	28.0	3.0	25.7			20.8	56.7			
			2	12.1	12.3	10.6	10.6	6.8	8.8	3.7	12.4	3.1	14.6			12.3	11.9			
			3	9.4	9.6	14.7	13.9	7.3	10.9	4.5	9.0	6.5	14.2			13.3	11.1			
			4	6.5	13.7	17.1	30.5	12.4	21.6	17.6	13.7	6.1	21.1			24.5	7.5			
			5	4.9	7.8	11.5	19.7	16.2	13.3	13.1	10.9	14.4	9.1			11.1	4.6			
			6	4.2	7.8	8.4	11.6	17.9	15.7	20.0	7.7	25.7	5.8			5.3	3.7			
			7 (Very important)	4.9	12.0	10.8	7.0	33.9	18.0	35.8	17.6	40.8	6.5			8.0	2.6			
			8)Other	0.6	1.5	--	--	0.6	0.1	0.2	--	--	--			0.3	--			
			9)DK	0.9	5.6	5.4	0.2	0.1	1.1	0.5	0.7	0.3	2.9			4.3	1.9			
Q18g	#5.81	Importance – Politics	1 (Not important at all)	20.3	10.5	24.0	19.7	11.1	8.7	10.9	24.6	21.7	4.8			4.4	17.5			
			2	11.5	6.8	10.7	17.2	12.0	9.5	8.6	15.6	10.7	5.6			4.8	10.5			
			3	10.2	10.3	18.1	21.1	18.6	13.0	13.2	14.0	15.7	11.4			9.5	12.4			
			4	14.5	15.7	21.4	22.1	22.4	23.7	27.5	16.6	13.9	26.6			29.2	17.3			
			5	14.6	14.3	14.0	10.8	18.6	16.6	17.2	15.1	11.7	21.3			19.6	14.3			
			6	10.3	12.5	4.9	5.5	9.2	14.7	13.5	6.4	12.9	11.9			12.6	11.7			
			7 (Very important)	17.8	23.8	4.2	3.2	7.3	12.0	8.2	7.1	12.3	15.4			16.0	15.3			
			8)Other	0.3	1.0	--	--	0.2	--	0.1	--	--	--			0.1	0.1			
			9)DK	0.6	*5.0	2.5	0.5	0.4	1.7	0.7	0.6	1.0	2.9			3.7	0.8			
Q19	#2.3c	Family Life Satisfaction	1)Satisfied	73.5	61.1	61.2	49.3	50.3	35.3	38.8	55.3	73.1	43.4	38.1		47.9	73.2			
			2)Somewhat Satisfied	15.1	26.7	27.6	43.3	33.2	32.9	48.5	27.6	24.4	36.1	45.5		33.5	17.0			
			3)Neutral	5.1	6.5	4.9	3.6	8.5	24.1	9.8	9.0	1.5	14.2	肢無し		11.2	4.9			
			4)Somewhat Dissatisfied	2.8	2.6	4.1	2.3	5.1	5.9	2.3	6.1	0.5	4.7	12.5		5.6	2.9			
			5)Dissatisfied	2.8	1.6	1.6	0.8	2.2	1.4	0.3	1.7	0.3	1.1	2.9		1.4	1.7			
			8)Other	0.4	0.2	--	--	--	--	--	0.1	--	--	--		0.1	--			
			9)DK	*0.3	*1.2	0.5	0.7	0.7	0.4	0.3	0.1	0.2	0.5	1.0		0.3	0.3			
			Q20	#2.82	Life Satisfaction	1)Satisfied	41.6	38.7	39.8	40.0	43.0	24.7	31.6	46.7	67.7	27.5	15.7		33.7	37.1
						2)Somewhat Satisfied	27.7	35.8	36.7	50.1	39.8	32.2	52.1	37.1	29.1	43.1	44.7		40.5	28.5
3)Neutral	7.7	9.4				4.8	4.1	7.7	27.7	11.9	9.7	2.0	17.5	肢無し		14.9	7.0			
4)Somewhat Dissatisfied	13.5	7.6				13.9	4.3	6.4	12.1	3.4	4.0	0.7	8.8	29.0		8.3	14.5			
5)Dissatisfied	9.5	7.0				4.6	1.3	2.8	2.8	0.6	2.4	0.2	2.9	10.1		2.4	12.8			
8)Other	--	0.2				--	--	--	--	--	--	--	--	--		0.1	--			
9)DK	--	1.3				0.1	0.2	0.3	0.5	0.4	--	0.1	0.3	0.5		0.1	0.1			
Q21a	#2.80 corre 修正	Health Problems – Headaches/migraines ※問の最後にまとめて回答 (Singaporeは各問毎) *NA、missing含む				1)Yes	28.6	34.6	32.0	29.5	34.5	41.4	20.7	32.3	43.5	25.4	25.0		20.5	30.4
						2)No	71.4	63.3	68.0	70.5	65.5	58.6	79.2	67.7	55.6	74.5	74.9		79.0	69.6
			8)Other	--	--	--	*1.6	*0.3	--	--	--	*0.7	--	--		0.3	0.5			
			9)DK	--	*2.2	--	--	*32.6	--	*0.1	--	*0.9	0.1	*0.1		0.9	--			
Q21b	#2.80 corre 修正	Health Problems – Backaches ※問の最後にまとめて回答 (Singaporeは各問毎) *NA、missing含む	1)Yes	43.0	42.9	46.3	41.8	42.6	45.9	23.7	39.9	26.7	45.8	38.2		33.8	41.9			
			2)No	57.0	54.8	53.7	58.2	57.4	54.1	76.2	60.1	72.4	54.1	61.7		65.7	58.1			
			8)Other	--	--	--	*1.6	*0.3	--	--	--	*0.7	--	--		0.3	0.5			
			9)DK	--	*2.3	--	--	*32.6	--	*0.1	--	#0.9	0.1	*0.1		0.9	--			
Q21c	#2.80 corre 修正	Health Problems – Nervousness ※問の最後にまとめて回答 (Singaporeは各問毎) *NA、missing含む	1)Yes	39.6	28.4	33.5	16.3	25.2	20.6	10.4	22.0	16.1	33.6	26.5		20.6	30.4			
			2)No	60.4	69.1	66.5	83.7	74.8	79.4	89.5	78.0	83.0	66.3	73.4		78.9	69.6			
			8)Other	--	--	--	*1.6	*0.3	--	--	--	*0.7	--	--		0.3	0.5			
			9)DK	--	*2.4	--	--	*32.6	--	*0.1	--	#0.9	0.1	*0.1		0.9	--			

2002	2003	2002	2002	2003	2003	2004	1998	1999	1999	1988	1988	1988	1988	1987	1987	1987	1992	1993	1991
Shang-hai	Kunming	Hang-zhou	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	JAWCS	HA JA	HA NJ	JPN-A	HA JA	HA NJ	USA	FRA	UK	FRG	ITA	HOL	BRZ JB
1.5	3.7	1.5	1.2	0.3	0.5	0.4	0.6	1.0	0.7	0.6	0.6	1.9	1.9	1.5	3.4	0.3	2.1	0.6	4.1
1.9	2.9	2.0	1.1	0.8	0.8	0.7	1.5	1.0	2.4	1.1	0.6	2.8	2.4	2.0	3.1	1.5	3.5	1.4	2.8
6.3	4.6	6.0	5.5	2.3	0.5	2.6	3.2	4.4	5.4	3.1	3.9	5.0	5.7	6.5	6.8	2.7	7.1	2.2	8.8
16.3	17.7	11.7	18.0	12.3	4.6	8.2	11.6	13.1	11.2	17.0	16.7	14.4	15.0	16.2	19.0	11.8	16.1	10.7	20.9
26.0	16.1	18.6	28.9	23.1	15.1	18.7	21.5	27.2	28.2	24.2	26.1	22.9	24.6	23.6	25.9	25.4	25.0	23.9	12.6
30.8	22.7	27.2	20.2	25.7	23.2	28.4	22.4	27.2	23.5	20.8	20.6	19.7	22.5	23.9	19.0	30.1	23.1	30.0	17.9
16.8	30.9	32.5	24.4	35.5	55.1	40.8	39.0	25.7	27.9	31.2	31.1	32.6	27.0	25.8	21.5	27.0	21.9	29.2	32.8
0.1	0.5	0.1	0.2	-	0.2	0.1	0.3	-	-	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.3	0.8	0.3	0.6	-	0.1	0.2	-	0.5	0.7	1.9	0.6	0.6	0.8	0.6	1.4	1.2	1.2	1.9	0.1
0.2	1.3	0.5	0.5	0.1	0.4	0.6	-	0.5	1.0	0.4	0.6	0.9	1.0	1.7	1.2	0.4	1.2	0.8	1.9
1.1	1.9	1.6	0.9	0.4	0.3	1.2	-	1.0	1.4	0.7	0.6	1.9	1.7	3.5	1.9	0.5	2.0	1.1	1.3
3.6	4.9	2.9	5.2	4.4	1.4	2.3	2.3	2.4	3.4	1.5	0.6	3.8	4.0	7.0	5.8	4.2	4.4	1.9	1.2
12.6	13.9	10.2	17.2	19.0	5.1	8.3	5.8	4.9	11.2	8.7	10.6	12.5	10.4	14.7	15.3	9.4	12.0	7.8	8.1
26.1	17.1	16.9	30.7	28.0	14.3	18.5	20.1	25.2	25.2	20.4	22.2	22.3	20.0	23.7	21.7	21.2	22.5	18.1	9.4
36.7	24.1	31.7	25.3	23.4	23.5	28.2	29.1	28.6	26.5	27.5	30.0	25.7	26.6	24.7	27.1	34.2	29.9	35.1	18.3
19.6	36.0	35.8	20.0	24.7	54.8	40.8	42.7	36.9	31.0	39.4	35.0	32.0	36.0	24.7	26.7	29.0	27.7	34.4	59.8
-	0.5	0.2	0.1	-	0.2	0.1	-	-	-	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.1	0.4	0.1	0.3	-	0.1	0.1	-	0.5	0.3	1.5	0.6	0.9	0.3	0.1	0.3	1.1	0.3	0.6	-
0.5	1.3	0.7	0.4	-	0.6	0.1	-	-	2.0	0.5	0.6	2.5	1.2	1.8	3.3	1.7	0.6	1.4	1.7
0.6	0.3	0.4	0.4	0.1	0.4	0.6	-	-	2.0	0.4	0.6	1.6	0.8	2.0	2.4	2.1	0.7	1.6	0.6
0.8	1.9	1.3	0.9	0.7	0.4	0.6	1.5	1.0	1.7	1.0	2.2	1.6	2.4	4.2	3.4	4.9	1.4	3.0	0.2
4.1	4.3	3.0	6.1	5.2	1.5	1.4	1.7	1.5	4.8	5.1	0.6	7.8	4.2	8.5	6.5	9.3	3.3	5.7	1.6
10.5	8.6	9.9	14.4	15.4	5.5	8.3	4.7	5.8	6.8	10.6	9.4	7.5	9.5	14.4	10.6	17.1	8.7	13.7	1.4
28.5	19.2	20.7	26.5	24.9	15.3	16.4	16.6	17.0	21.4	22.6	18.3	16.9	18.0	24.1	19.4	29.9	20.9	25.7	7.4
54.8	63.7	63.8	51.1	53.7	76.2	72.5	75.0	74.3	60.2	58.1	66.1	60.2	62.3	44.1	52.6	33.6	63.8	46.5	86.8
0.2	0.3	0.1	0.2	-	0.1	0.1	0.6	-	-	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.1	0.5	0.1	-	-	-	-	-	0.5	1.0	1.6	2.2	1.9	1.6	0.9	1.8	1.4	0.6	2.4	0.2
40.1	47.6	35.0	23.6	5.5	12.7	4.7	10.5	6.3	12.2	12.4	11.1	12.9	5.7	25.8	20.4	15.6	10.1	33.0	5.9
17.5	12.1	13.3	11.4	8.6	8.1	4.9	9.0	8.3	8.8	8.7	3.9	6.3	4.2	11.8	12.8	13.8	6.5	11.4	3.7
11.8	8.6	11.4	13.9	15.4	11.1	4.6	11.9	8.7	8.8	13.1	6.1	7.8	5.3	12.2	15.0	15.3	8.2	9.8	5.4
12.3	10.3	13.2	21.2	26.4	17.2	12.9	18.6	16.5	13.9	24.5	17.8	14.4	8.8	14.7	15.5	16.6	11.1	11.7	10.9
8.8	4.1	8.5	10.7	19.1	13.6	14.6	16.3	18.0	11.6	15.9	23.3	11.6	13.5	12.2	11.8	16.4	18.3	9.0	9.4
5.4	5.1	7.4	8.1	11.9	12.2	17.4	13.1	12.1	13.9	7.8	13.3	11.9	15.0	11.1	10.5	11.9	19.5	8.9	12.9
3.5	7.8	7.8	9.5	12.3	22.7	40.1	17.4	28.2	29.9	13.8	24.4	34.8	47.2	11.9	13.8	9.4	25.8	14.8	51.9
0.1	0.5	0.5	0.1	-	0.5	0.1	3.2	-	-	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.6	3.8	3.0	1.5	0.8	1.9	0.7	-	1.9	0.7	3.6	-	0.3	0.3	0.2	0.2	1.0	0.6	1.4	0.0
11.5	17.7	13.7	21.9	19.8	8.0	12.7	13.1	14.6	15.0	2.8	8.3	8.8	11.5	36.2	24.2	9.8	25.1	14.8	14.2
10.1	8.9	8.9	12.8	16.1	9.1	14.0	13.1	12.1	15.6	5.3	8.3	8.5	8.0	14.7	13.6	11.1	14.0	10.4	10.5
12.3	7.6	12.4	18.0	20.2	12.6	12.9	20.1	18.4	15.3	8.9	13.9	14.4	12.2	13.5	16.9	17.0	14.3	16.8	8.5
21.6	16.9	17.5	25.8	20.5	19.0	22.2	26.5	18.9	22.4	24.5	30.6	29.2	21.9	12.0	19.3	21.3	17.1	24.1	15.5
21.5	12.2	15.0	11.7	11.2	12.1	17.8	18.9	21.8	13.9	20.9	20.6	16.9	21.2	11.7	13.9	21.2	12.3	16.8	12.8
14.5	13.0	14.6	4.9	5.1	12.0	9.5	4.1	6.8	10.5	15.0	11.1	9.4	12.3	6.3	5.8	12.9	9.4	9.6	12.2
8.3	20.5	15.6	3.0	5.3	21.0	9.3	2.9	5.8	6.8	18.2	7.2	12.2	12.2	5.0	6.0	5.9	6.1	5.6	24.2
0.1	0.5	0.4	0.1	-	0.7	0.1	1.2	-	-	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.3	2.8	1.9	1.8	1.8	5.5	1.5	0.3	1.5	0.3	4.4	-	0.6	0.7	0.4	0.4	0.8	1.7	1.8	2.2
64.4	70.8	65.4	55.9	55.2	45.2	42.7	46.2	49.5	38.8	43.5	45.0	43.3	42.8	40.7	50.1	30.2	38.1	48.3	-
26.6	11.5	21.0	31.0	38.4	29.6	47.9	42.7	38.3	43.5	38.7	47.8	41.7	38.3	26.9	39.2	51.2	50.5	39.3	-
5.0	8.8	8.0	6.5	2.9	11.2	6.1	7.0	6.3	8.2	10.4	5.6	7.2	11.2	16.6	6.1	12.7	8.2	4.8	-
2.4	4.3	3.0	5.3	2.3	9.9	2.7	3.5	3.9	4.8	4.6	0.6	4.4	6.0	7.5	2.4	2.9	2.1	2.1	-
1.3	3.2	1.6	1.1	1.1	3.7	0.6	0.6	0.5	0.7	1.2	-	1.6	1.2	7.2	0.9	0.3	0.7	0.9	-
0.1	0.4	0.1	-	-	-	-	-	0.5	1.7	0.1	-	1.9	0.1	-	-	-	-	-	-
0.2	0.9	0.9	0.1	0.1	0.3	-	-	1.0	2.4	1.4	1.1	-	0.5	1.1	1.2	2.7	0.5	4.5	-
34.4	32.5	38.2	37.7	48.1	29.9	34.7	-	-	-	32.8	30.0	31.7	31.2	21.0	31.1	17.2	16.6	34.4	63.5
36.8	23.8	32.8	38.7	42.1	35.5	53.6	-	-	-	41.4	57.8	55.8	48.6	30.8	54.5	59.3	55.4	52.5	17.7
7.3	8.1	9.4	6.5	3.3	9.4	6.4	-	-	-	13.2	9.4	8.2	12.3	31.5	7.5	16.5	18.4	6.8	11.0
11.4	14.8	9.8	12.9	3.8	18.4	4.2	-	-	-	9.6	1.7	3.4	6.7	10.3	4.7	4.3	6.9	4.1	6.1
10.0	20.0	7.9	4.0	2.6	6.6	1.0	-	-	-	2.7	0.6	0.8	5.8	1.8	0.8	2.4	1.0	1.8	-
-	0.5	0.4	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	0.3	0.1	-	-	-	-	-	0.0
0.1	0.3	1.4	0.1	0.1	0.2	0.1	-	-	-	0.3	0.6	-	0.4	0.6	0.5	1.9	0.3	1.1	-
29.2	24.8	22.5	32.1	25.0	45.2	24.1	26.2	27.7	32.7	21.9	-	-	34.6	35.8	36.1	40.6	44.7	40.4	-
70.7	73.6	73.9	67.9	74.9	54.8	75.1	73.8	71.8	67.0	76.9	-	-	64.8	63.9	63.5	58.3	54.5	58.0	-
0.4	0.7	-	1.1	1.0	0.8	3.0	-	-	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.4	1.0	3.6	0.2	0.3	-	0.8	-	0.5	0.3	-	-	-	0.6	0.3	0.4	1.1	0.9	1.7	-
34.2	32.0	29.4	36.1	36.2	49.2	20.6	36.0	39.3	44.2	19.1	-	-	37.8	46.3	35.5	32.9	45.8	34.0	-
65.5	66.3	67.0	63.9	63.7	50.8	78.6	63.7	60.7	55.4	79.8	-	-	61.7	53.6	64.0	65.8	53.1	64.5	-
0.4	0.7	-	1.1	1.0	0.8	3.0	-	-	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.5	1.0	3.6	0.2	0.3	-	0.8	0.3	-	0.3	-	-	-	0.5	0.1	0.6	1.3	1.0	1.5	-
20.8	26.5	18.0	29.4	12.6	24.7	7.2	20.1	11.7	20.7	25.7	-	-	30.3	55.8	19.7	25.1	55.0	34.3	-
79.0	71.8	78.4	70.6	87.3	75.2	92.0	79.4	88.3	77.9	73.2	-	-	69.0	44.0	79.7	72.7	43.9	64.1	-
0.4	0.7	-	1.1	1.0	0.8	3.0	-	-	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.4	1.0	3.6	0.2	0.3	0.1	0.8	0.6	-	1.4	-	-	-	0.8	0.2	0.7	2.2	1.1	1.7	-

APVS	Comm on code	Item	category	2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002	
				Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing	
Q21d	#2.80 corre 修正	Health Problems – Depression ※問の最後にまとめて回答 (Singaporeは各問毎) *NA、missing含む	1)Yes	35.3	25.7	28.9	14.4	25.5	23.0	10.3	20.7	16.5	12.5	9.9	6.9	29.0	
			2)No	64.6	71.6	71.1	85.6	74.5	77.0	89.6	79.3	82.5	87.4	89.9	92.5	71.0	
			8)Other				※1.6	※0.3				※0.7				0.3	0.5
			9)DK	0.1	*2.7			※32.6		※0.1		#0.9	0.1	*0.1	1.0		
Q21e	#2.80 corre 修正	Health Problems – Insomnia ※問の最後にまとめて回答 (Singaporeは各問毎) *NA、missing含む	1)Yes	31.5	31.2	36.3	25.7	26.9	18.6	14.0	26.3	16.2	14.6	15.2	11.1	33.8	
			2)No	68.5	65.9	63.7	74.3	73.1	81.4	85.9	73.7	82.9	85.3	84.7	88.1	66.2	
			8)Other				※1.6	※0.3				※0.7				0.3	0.5
			9)DK		*2.9			※32.6		※0.1		#0.9	0.2	*0.1	1.3		
Q21f		Health Problems – Lassitude ※問の最後にまとめて回答 (Singaporeは各問毎) *NA、missing含む	1)Yes														
			2)No														
			8)Other														
			9)DK														
Q21g		Health Problems – Chest pains or heart ※問の最後にまとめて回答 (Singaporeは各問毎) *NA、missing含む	1)Yes														
			2)No														
			8)Other														
			9)DK														
Q21h		Health Problems – Stomachache or digestive distress ※問の最後にまとめて回答 (Singaporeは各問毎) *NA、missing含む	1)Yes														
			2)No														
			8)Other														
			9)DK														
Q21i		Health Problems – Allergy ※問の最後にまとめて回答 (Singaporeは各問毎) *NA、missing含む	1)Yes														
			2)No														
			8)Other														
			9)DK														
Q21j		Health Problems – Asthma, coughing or breathing difficulties ※問の最後にまとめて回答 (Singaporeは各問毎) *NA、missing含む	1)Yes														
			2)No														
			8)Other														
			9)DK														
Q22	corre 修正	Adviser (*Australiaのみ、多重回答となっているため、合計が100%を超える。多重回答は122件と多い。 (*Singaporeの「Other」には「God/Religion」(24件)が含まれる。 *NA含む	Father	1) 6.3	1) 8.0	1) 2.2	1) 4.0	1) 7.7	1) 2.3	1) 3.4	1) 5.9	1)12.3	1) 1.9	※選	1) 3.6	9.6	
			Mother	2) 8.1	2) 8.6	2) 4.9	2) 9.8	2)14.5	2) 6.5	2)11.2	2)15.7	2)19.9	2) 7.3	※選	2) 8.5	12.1	
			Brother or Sister	3) 6.6	3) 8.8	3)10.0	3) 7.0	3) 9.4	3) 7.5	3) 8.4	3) 9.9	3) 6.3	3) 7.4	※選	3)14.2	15.7	
			Spouse or partner	4)44.3	4)46.8	4)43.6	4)47.3	4)40.1	4)44.6	4)44.1	4)43.7	4)43.3	4)60.4	※選	4)44.0	25.8	
			The Other Family Mem	5) 6.0	5) 3.2	5) 9.0	5) 4.8	5) 7.9	5) 5.8	5) 7.6	5) 6.3	5) 7.1	5) 5.9	※選	5) 0.4	0.3	
			Teacher of Your School				6) 0.5							※選	6)18.3	29.8	
			Friend	6)17.5	6)14.1	6)20.8	7)16.7	6)14.7	6)23.6	6)15.5	6)12.7	6) 8.1	6)10.4				
			Person to consult anor	7) 0.9	7) 1.1	7) 0.5		7) 0.6	7) –	7) 0.2	7) 1.9	7) 0.3	7) 0.6				
			Specialists with expertise														
			Other	8) 4.7	8) 1.8	8) 0.5	8) 0.5	8) 2.0	8) 1.2	8) 2.8	8) 2.4	8) 1.3	8) 0.9	※0.5	7) 1.7	1.0	
			I don't have anyone	9) 3.8	9)*3.5	9) 6.8	9) 6.5	9) 2.3	9) 7.0	9) 5.3	9) 1.3	9) 0.5	9) 2.4	※2.9	8) 3.3	4.5	
			I don't have any proble	10)1.7	10)4.0	10) 1.6	10) 3.0	10) 0.9	10) 1.6	10) 1.5	10) 0.3	10) 0.6	10) 2.8	※	9) 6.1	1.1	
						DK											
Q23		Informing Patients of Disease (*「99 Not Asked」は、JapanとSingaporeのみ該当。	1)Would like to be informed under all circumstances														
			2)Depends on chances of recovery														
			3)Depends on other conditions and situations														
			4)Do not wish to be informed under any circumstances														
			7)Decline to answer														
			99)Not Asked														
Q24a		Social Support – Lend you money, a helping hand, or anything you might need	1)A Lot														
			2)Some														
			3)One														
			4)None														
			9)DK														
Q24b		Social Support – Understand your feelings and situation	1)A Lot														
			2)Some														
			3)One														
			4)None														
			9)DK														
Q24c		Social Support – Let you call or see them any time to speak freely or seek advice	1)A Lot														
			2)Some														
			3)One														
			4)None														
			9)DK														
Q24d		Social Support – Higly appreciate and respect you	1)A Lot														
			2)Some														
			3)One														
			4)None														
			9)DK														

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002		
APVS	Comm on code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing			
Q25	#7.19 corre 修正	Ability, Luck or Relationship?	1)Ability and Effort	52.2	50.5	64.2	67.0	67.5	66.0	71.1	69.6	63.4	62.6			60.1	52.8		
			2)Luck and Chance	36.3	36.6	23.4	24.4	11.4	12.8	15.5	11.9	30.3	22.1			23.1	34.3		
			3)Personal connections	8.3	8.3	10.6	5.5	19.2	20.4	9.4	15.1	4.6	11.6			10.3	7.7		
			8)Other	2.8	1.5	1.1	1.0	0.6	0.1	-	1.9	0.1	0.6			1.1	4.5		
			*NA含む	9)DK	0.5	*3.1	0.7	2.2	1.3	0.7	4.0	1.6	1.4	3.1			5.4	0.7	
Q26a		Supernatural Phenomena - Super natural power or psychokinesis	1)Boring	23.5	23.0	19.7	9.6	9.8	7.7	3.1	11.0	9.6	15.2	13.2					
			2)would like to be	9.8	14.0	10.2	11.8	4.6	19.7	5.1	4.3	18.4	12.9	14.1					
			3)Exist	26.2	18.5	28.3	35.8	18.8	14.7	32.0	20.9	25.9	16.4	17.2					
			4)Dreadful, Scary	0.6	0.8	2.1	1.3	1.3	2.5	2.9	1.0	8.1	1.9	2.0					
			5)Would not like to be	4.4	5.0	3.3	9.0	2.2	4.9	3.9	2.4	8.2	4.3	4.5					
			6)Interesting, amusing	9.0	5.1	11.3	8.0	21.5	7)16.1	17.6	30.1	10.0	21.7	21.3					
			7)Nonsense / Dose not	16.3	13.4	18.5	9.8	29.0	6)23.4	30.0	22.6	9.2	15.9	17.8					
			8)Not dreadful / Not sd	6.0	2.8	3.2	7.5	4.8	1.3	2.1	4.0	3.3	3.7	2.3					
			88)Other	0.8	0.9	0.2	0.2	0.8	9) 0.4	0.7	0.6	98)	-	0.4	0.3				
			*NA含む	99)DK	*3.5	*16.6	3.2	7.1	7.3	0) 9.4	2.5	3.1	7.1	7.6	7.3				
Q26b		Supernatural Phenomena - UFO or alien	1)Boring	13.1	16.3	18.4	12.6	8.7	8.3	4.9	9.7	7.0	13.1	12.4					
			2)would like to be	14.3	18.3	9.9	12.1	1.0	9.5	1.4	2.0	18.5	9.0	10.2					
			3)Exist	24.4	15.9	20.8	22.6	17.1	10.7	14.1	15.9	14.5	12.3	12.4					
			4)Dreadful, Scary	1.6	1.7	2.9	3.3	2.1	2.5	2.5	1.3	7.7	3.4	3.6					
			5)Would not like to be	6.1	7.0	5.3	15.6	1.4	8.0	4.9	2.7	10.5	9.1	9.3					
			6)Interesting, amusing	11.4	6.7	8.4	5.0	19.9	7)14.4	20.5	29.6	14.4	19.5	21.3					
			7)Nonsense / Dose not	18.2	13.1	25.7	10.6	36.7	6)31.3	43.6	28.3	13.9	22.3	21.8					
			8)Not dreadful / Not sd	5.7	3.2	3.4	8.5	4.8	1.1	2.8	6.0	3.1	3.0	1.8					
			88)Other	0.9	0.9	0.1	0.3	0.6	9) 0.9	0.5	0.4	98)0.2	0.1						
			*NA含む	99)DK	*4.2	*16.9	5.1	9.5	7.8	0)13.5	4.7	4.1	10.2	8.1	7.3				
Q26c		Supernatural Phenomena - Specter or ogre	1)Boring	31.7	25.3	14.0	9.0	10.5	8.0	4.7	11.3	6.7	14.3	10.7					
			2)would like to be	2.0	2.6	1.4	1.5	0.9	3.3	0.9	1.0	6.0	3.2	3.4					
			3)Exist	4.7	5.2	24.5	24.2	6.0	3.7	20.2	2.4	10.7	3.8	2.4					
			4)Dreadful, Scary	6.4	8.2	11.8	19.1	2.8	4.7	11.0	1.0	18.8	11.9	9.3					
			5)Would not like to be	8.4	13.4	16.6	25.4	5.1	9.2	5.1	3.1	14.5	18.3	22.2					
			6)Interesting, amusing	3.3	1.4	0.9	0.3	8.3	7)12.7	9.4	13.9	6.2	9.7	10.2					
			7)Nonsense / Dose not	35.8	26.2	23.8	7.6	45.4	6)48.0	39.4	56.9	23.1	29.3	31.7					
			8)Not dreadful / Not sd	5.1	4.0	4.0	8.8	5.0	2.3	3.0	5.1	6.2	4.0	3.9					
			88)Other	0.7	0.6	0.1	0.3	1.0	9) 0.5	0.7	0.4	98)0.2	-	0.1					
			*NA含む	99)DK	*1.9	*13.1	2.8	3.8	15.0	0) 7.7	5.5	4.9	7.4	5.4	6.0				
Q26d		Supernatural Phenomena - Ghost or apparition, curse	1)Boring	33.8	27.1	14.7	10.4	7.4	6.1	2.8	5.9	6.5	10.5	6.5					
			2)would like to be	1.5	1.9	1.4	0.8	0.8	2.0	0.6	1.3	6.7	2.7	1.4					
			3)Exist	7.6	5.1	23.8	23.9	23.0	11.9	45.9	26.0	10.7	14.0	13.1					
			4)Dreadful, Scary	5.1	8.7	10.7	18.4	3.1	8.5	12.5	3.7	18.5	14.8	16.3					
			5)Would not like to be	7.7	12.6	18.0	27.2	3.7	12.1	2.9	1.4	15.7	28.4	34.3					
			6)Interesting, amusing	2.6	1.0	0.8	0.3	14.9	7) 7.2	6.9	24.6	4.5	2.4	2.8					
			7)Nonsense / Dose not	33.4	24.8	22.7	6.3	34.0	6)38.6	22.6	30.3	22.7	18.3	16.4					
			8)Not dreadful / Not sd	5.7	3.7	4.6	7.8	5.9	3.7	1.7	4.9	7.4	3.5	3.3					
			88)Other	0.7	0.9	0.1	0.5	1.2	9) 0.6	0.6	0.4	98)0.2	0.4	0.1					
			*NA含む	99)DK	*1.9	*14.2	3.1	4.3	6.1	0) 9.1	3.5	1.6	7.0	5.0	5.7				
Q27	#7.1 corre 修正	Science and Human Feeling/ Humanity	1)Agree	58.2	45.1	71.4	81.1	66.4	74.8	57.0	66.9	65.7	52.0			53.2	54.9		
			2)Disagree	17.7	17.0	12.8	13.4	20.0	13.4	27.1	26.0	28.8	23.2			18.3	23.2		
			3)Undecided/It Depend	23.6	34.7	15.3	5.1	11.9	10.2	12.4	6.1	4.7	20.6			23.6	21.7		
			8)Other	0.5	0.1	-	-	-	-	-	-	0.0	-			0.1	-		
			*NA含む	9)DK	-	*3.0	0.5	0.3	1.8	1.7	3.5	1.0	0.7	4.2			4.7	0.3	
Q28	#8.1b	Political Leaders	1)Agree	32.4	24.5	38.4	33.8	11.8	35.2	27.7	12.6	56.2	16.2	16.7		13.5	34.2		
			2)Disagree	44.3	31.6	41.6	42.5	77.1	45.1	50.5	82.1	37.9	61.5	56.4		60.1	32.1		
			3)Undecided/It Depend	20.0	35.7	17.0	19.1	8.9	17.8	18.9	4.6	4.9	18.4	21.9		20.8	31.3		
			8)Other	1.5	0.2	-	0.3	0.1	-	-	-	-	-	0.1		-	-		
			*NA含む	9)DK	1.7	*8.0	3.1	4.3	2.1	1.8	2.9	0.7	1.0	3.9	4.8		5.6	2.4	
Q29	#4.32	Marriage is Permanent	1)Permanent	22.8	23.9	16.7	17.7	30.3	38.7	51.7	34.3	79.4	24.3			23.5	16.7		
			2)Broken only under Se	42.3	43.0	46.2	56.7	50.1	38.1	35.7	42.4	12.8	44.7			43.3	50.1		
			3)Broken by simple Ag	32.5	25.9	34.7	23.2	17.6	21.7	10.0	22.6	6.9	26.9			26.8	30.6		
			8)Other	1.5	0.7	-	0.2	0.2	0.1	-	0.4	-	0.3			0.9	0.8		
			*NA含む	9)DK	0.9	*6.5	2.4	2.2	1.8	1.4	2.6	0.3	0.8	3.9			5.5	1.8	
Q30	#2.5	Man and Nature	1)Follow Nature	39.3	41.3	43.6	48.9	29.5	58.9	48.1	42.0	64.1	46.1			40.3	34.8		
			2)Make Use of Nature	35.3	32.7	39.0	30.7	56.6	32.7	36.5	52.7	27.8	40.2			38.9	38.5		
			3)Conquer Nature	24.2	20.9	13.8	18.1	5.7	5.8	10.0	3.0	7.3	5.6			5.7	24.5		
			8)Other	0.9	1.0	0.8	0.2	1.3	0.3	-	0.9	-	0.5			1.9	1.1		
			*NA含む	9)DK	0.3	4.0	2.8	2.2	6.9	2.2	5.4	1.4	0.7	7.6			13.2	1.0	
Q31	#7.4 corre 修正	Individuals or Country	1)Making Individuals Ha	4.7	11.5	8.2	12.8	29.4	37.1	24.6	30.4	44.8	26.1			30.1	4.7		
			2)Improving the Countr	45.5	52.6	22.4	27.9	32.0	28.0	32.0	24.3	38.3	23.7			19.8	49.2		
			3)Same Thing	49.8	33.4	68.1	57.2	28.5	33.9	38.2	38.6	15.9	45.5			41.6	45.4		
			8)Other	-	0.2	0.4	0.2	0.7	0.1	-	2.1	0.0	-			0.4	0.4		
			*NA含む	9)DK	0.1	*2.3	0.9	2.0	9.4	1.0	5.2	4.6	0.9	4.7			8.1	0.4	
Q32	#7.2	Mechanization and Human Feeling ※他の質問とはAgreeと Disagreeの順序が逆であることに注意。	1)Disagree	28.8	30.1	36.6	72.5	33.7	71.0	38.8	27.4	47.8	32.6	東アジア以前は	2)33.4	36.5			
			2)Agree	42.5	31.4	45.9	17.2	48.7	18.8	45.3	65.3	46.6	43.6	13)6.5	37.0				
			3)Can't say one way or	27.7	33.1	17.0	8.1	15.3	8.8	12.9	6.4	4.9	18.5	Japan2 002と同じ	25.2	25.6			
			8)Other	0.4	0.1	-	0.2	0.1	-	-	-	-	-			0.1	-		
			*NA含む	9)DK	*0.7	*5.4	0.5	2.0	2.1	1.4	3.1	0.9	0.7	5.3		4.8	0.9		

APVS	Comm on code	Item	category	2005	2005	2005	2006	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002
				Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing	
Q33a	corre 修正	Spirituality – Buddha, God, or gods	1)Exists	17.9	17.8	43.0	47.4	70.7	25.5	72.1	48.9	86.5	40.5	36.9	30.7	12.1	
			2)May exist	24.7	37.9	33.5	42.5	20.8	28.4	20.0	28.9	9.4	40.9	43.1	43.6	20.3	
			3)Dose not exist	54.8	31.6	22.0	8.6	5.4	35.5		6.2	19.0	2.6	14.8	17.2	20.8	65.7
			8)Other	0.8	0.1						1.2	0.3		0.4	0.3		
		*NA含む	9)DK	1.9	*12.6	1.5	1.5	3.1	10.5	0.6	3.0	1.4	3.4	2.5	4.8	1.8	
Q33b	corre 修正	Spirituality – Life after death	1)Exists	9.1	7.0	32.2	35.3	50.3	23.4	52.8	37.0	30.4	18.8	17.3	15.5	5.9	
			2)May exist	21.3	30.7	32.5	45.4	32.6	27.7	27.5	35.6	34.8	44.9	40.5	39.3	14.8	
			3)Dose not exist	64.4	41.9	29.3	14.1	13.2	35.7	16.5	23.4	24.9	26.2	33.9	33.2	76.8	
			8)Other	0.6						1.4	0.3	0.2	0.2				
		*NA含む	9)DK	4.7	*20.4	6.0	5.1	3.9	13.2	1.8	3.7	9.8	10.0	8.3	12.1	2.5	
Q33c	corre 修正	Spirituality – A soul or a spirit	1)Exists	17.0	10.0	41.8	40.6	64.4	26.3	56.5	53.0	43.8	32.4	27.0	27.1	13.1	
			2)May exist	23.4	34.2	28.7	45.4	27.4	33.7	29.4	30.7	29.0	43.2	44.5	42.3	19.0	
			3)Dose not exist	56.3	36.2	25.0	9.3	5.9	28.7	10.7	13.1	21.0	17.9	21.3	21.9	66.0	
			8)Other	0.7	0.1					1.4	0.4	0.1	0.2				
		*NA含む	9)DK	*2.7	*19.6	4.5	4.6	2.3	11.3	2.1	2.7	6.2	6.3	7.3	8.8	1.9	
Q34	#5.1d	Social Values	1)Filial piety/Love & re	86.7	88.8	83.5	82.4	58.0	83.7	86.3	60.9	88.1	73.5		77.4	87.9	
			2)Repaying obligations	62.5	65.0	53.1	64.5	43.7	63.1	53.4	28.3	44.1	66.1		58.6	56.5	
			3)Individual rights	28.5	26.6	23.4	27.7	56.2	29.2	39.3	65.7	27.8	26.0		25.5	32.2	
			4)Individual freedom	21.7	19.1	39.8	24.7	39.5	24.1	18.6	41.4	15.6	33.1		33.9	23.4	
		*NA含む	8)Other	0.4	0.1						0.4		0.3	0.3			
			9)DK		*0.5		0.3	1.1		1.2	0.3	0.2	1.3		4.6	0.1	
Q35	#5.6	Preferred Type of Boss	1)Never Does Anything	21.7	19.1	10.1	22.9	28.6	11.1	31.3	30.0	58.9	13.6	13.5	14.2	21.8	
			2)Looks after You Pers	74.2	64.6	87.2	69.8	68.9	85.3	61.9	67.6	40.1	79.0	81.5	75.9	72.4	
			8)Other	2.8	2.4	0.8	0.3	0.6				0.4	0.1	0.4	0.4	0.5	2.8
			9)DK	1.4	*13.9	1.9	7.0	1.9	3.6	6.8	2.0	0.9	7.0	4.6	9.4	2.9	
		*NA含む	1)Try to Be Helpful	67.3	65.3	41.0	45.9	56.4	56.7	50.4	54.0	61.1	34.8	36.7	35.8	61.6	
Q36	#2.12	People's Help	2)Look out for Themse	29.2	26.8	53.1	51.2	41.1	40.7	44.4	42.6	37.6	53.6	55.2	45.7	36.1	
			8)Other	2.8	1.5	2.2	0.3	0.2				1.7	0.1	1.4	0.9	2.4	0.7
			9)DK	0.7	*6.4	3.7	2.5	2.3	2.6	5.2	1.7	1.2	10.2	7.3	16.0	1.7	
Q37	#2.12	People's Fairness	1)Take Advantage	34.6	23.5	52.2	35.0	41.0	47.6	44.7	37.4	69.5	29.9		30.5	33.5	
			2)Try to be Fair	51.4	53.4	42.3	61.0	56.5	45.0	50.6	59.0	29.4	58.6		54.5	53.0	
			8)Other	9.5	3.5	1.1		0.4	0.5		2.1	0.0	0.9		1.4	8.2	
			9)DK	4.6	*19.6	4.5	4.0	2.1	7.0	4.7	1.4	1.0	10.5		13.6	5.3	
Q38	#2.12	General Interpersonal Trust	1)Can Be Trusted	36.6	34.4	18.8	18.7	41.2	30.4	25.8	42.9	51.4	37.4		40.5	35.5	
			2)Can't Be Too Carefu	61.3	59.9	79.7	80.6	55.8	65.6	67.3	53.9	46.9	51.9		44.5	62.5	
			8)Other	1.6	1.5	0.8		0.4	0.3		1.9	0.1	2.2		2.8	1.0	
			9)DK	0.6	*4.2	0.6	0.7	2.6	3.7	6.9	1.4	1.5	8.5		12.2	0.9	
Q39a		Human Life and Death – Invisible power	1)Agree														
			2)Disagree														
			3)It Depends														
			9)DK														
Q39b		Human Life and Death – Destiny	1)Agree														
			2)Disagree														
			3)It Depends														
			9)DK														
Q39c		Human Life and Death – Cycle of rebirths	1)Agree														
			2)Disagree														
			3)It Depends														
			9)DK														
Q39d		Human Life and Death – Keep living as a part of nature	1)Agree														
			2)Disagree														
			3)It Depends														
			9)DK														
Q39e		Human Life and Death – Progress and happiness of all humanity	1)Agree														
			2)Disagree														
			3)It Depends														
			9)DK														
Q39f		Human Life and Death – Devote oneself to someone else	1)Agree														
			2)Disagree														
			3)It Depends														
			9)DK														
Q39g		Human Life and Death – Ideology or principles	1)Agree														
			2)Disagree														
			3)It Depends														
			9)DK														
Q39h		Human Life and Death – Involve one's children when they commit suicide	1)Agree														
			2)Disagree														
			3)It Depends														
			9)DK														
Q39i		Human Life and Death – Lovers' suicide	1)Agree														
			2)Disagree														
			3)It Depends														
			9)DK*														

APVS	Comm on code	Item	category	2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002	
				Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing	
Q40a		Accept one's fate or improve one's life	1)Destiny cannot be changed														
			2)Life can be improved														
			8)Other														
			9)DK														
Q40b		Colorful or Long Life	1)Lead a short but colorful life														
			2)Lead a simple but long life														
			8)Other														
			9)DK														
Q41a	#7.83	Science and Technology - Illness treatment	1)Strongly Agree	10.1	16.4	10.1	12.9	24.0	9.1	17.1	26.9	59.3	17.7	12.1	18.4	11.8	
			2)Agree to Some Exter	58.0	46.6	64.4	59.2	57.7	61.7	68.0	54.9	32.8	54.0	51.3	49.3	56.0	
			3)Disagree to Some Ex	25.3	20.7	18.3	19.1	11.8	19.5	11.9	8.9	4.7	15.1	20.6	16.8	26.3	
			4)Strongly Disagree	3.5	4.2	4.2	3.2	3.1	5.7	1.4	6.9	2.1	5.8	7.8	6.5	4.0	
			8)Other	1.2	1.3	-	0.2	-	0.1	-	-	-	0.1	-	1.1	-	
			9)DK	1.9	10.7	2.9	5.5	3.4	3.9	1.6	2.6	0.9	7.3	8.2	7.9	2.0	
Q41b	#7.84	Science and Technology - Understanding the Human Mind	1)Strongly Agree	4.4	8.3	3.1	4.5	16.8	3.7	9.8	18.7	50.8	1.5	1.0	1.9	4.3	
			2)Agree to Some Exter	36.1	28.5	31.8	37.5	46.5	24.9	54.9	46.6	37.7	9.5	10.1	9.5	35.0	
			3)Disagree to Some Ex	44.0	34.3	46.8	37.8	22.4	45.0	26.0	20.1	6.2	56.5	54.0	52.9	45.7	
			4)Strongly Disagree	11.7	12.0	15.0	12.9	8.0	21.7	6.8	12.0	4.0	26.1	27.3	28.6	12.1	
			8)Other	1.3	0.8	-	-	0.2	-	-	-	-	-	0.1	0.1	0.1	
			9)DK	2.6	16.2	3.4	7.3	6.1	4.9	2.5	2.6	1.2	6.5	7.5	7.0	2.8	
Q41c	#7.85	Science and Technology - Social and Economic Problems	1)Strongly Agree	9.3	9.5	3.7	6.0	9.4	4.6	8.6	7.3	50.2	0.9	0.6	1.4	7.3	
			2)Agree to Some Exter	46.2	39.7	36.3	47.4	38.5	38.4	52.4	33.6	37.2	10.3	11.3	9.1	47.7	
			3)Disagree to Some Ex	34.9	30.0	46.5	37.1	31.7	42.0	31.1	33.9	6.4	59.9	59.5	59.6	38.7	
			4)Strongly Disagree	7.2	7.8	11.3	4.5	13.2	10.2	5.0	23.0	4.7	21.0	20.5	21.9	4.9	
			8)Other	1.2	0.8	-	-	-	-	-	-	-	0.1	-	0.4	0.3	
			9)DK	1.1	12.1	2.2	5.0	7.1	4.8	2.8	2.3	1.4	7.9	8.0	7.6	1.0	
Q41d		Science and Technology - Living on the Mars	1)Strongly Agree	6.5	8.9	3.1	4.0	5.5	3.0	4.7	3.3	37.2	1.6	0.9	1.9	5.1	
			2)Agree to Some Exter	42.4	37.7	44.2	42.3	19.3	41.4	41.1	28.0	34.1	23.8	13.0	18.9	45.3	
			3)Disagree to Some Ex	37.1	21.4	34.2	33.2	22.6	33.8	31.7	26.1	12.3	41.6	55.0	41.8	35.6	
			4)Strongly Disagree	7.7	4.9	10.4	9.5	39.7	10.9	17.0	35.7	12.0	16.3	23.4	18.7	7.6	
			8)Other	1.2	0.9	-	-	0.1	-	-	-	-	0.3	-	0.3	0.1	
			9)DK	5.1	26.2	8.2	11.1	12.7	11.0	5.6	6.9	4.3	16.4	7.6	18.4	6.3	
Q42	#9.8	Regional Culture															
Q43a	#3.1a	Religious Faith ベトナムはreligion (28.3%)とReligious faith (47.1%)の回答の合計 *NA 9)DK	1)Yes	13.8	27.8	38.4	64.8	79.5	53.6	78.9	54.3	92.4	28.4		24.4	9.2	
			2)No	86.2	72.1	61.6	35.2	20.0	46.4	21.1	45.7	7.6	71.6		75.6	90.7	
			8)Other														
			*NA						0.6								0.1
			9)DK		*0.1												
Q43b	#3.1b	Religions ※【国別質問】 ※ブランクは、各調査票で設定されていない回答肢 ※日本はキリスト教は一回答肢、その他はカトリックとプロテスタント(キリスト教)は二回答肢 ベトナムのotherは、カオダイ(2.3%)、先祖崇拜(21.1%)、the divine(0.3%)。	Buddhism	1) 8.5	1)20.4	1)16.8	1) 27.6	1) 0.7	1)21.9	1)39.4	8) 2.9	4) 0.8	1)22.9		1)20.5	1) 5.3	
			Shintoism										2) 1.8		2) 1.1		
			Christianity								3)19.9		3) 3.7	3) 1.3		3) 1.0	
			Catholic	4) 0.5	4) 0.8	2) 4.0	2) 1.5	3)36.7	3) 6.7	※1.4	1)18.4						2) 0.6
			Protestant	3) 2.1	3) 2.5	3)12.2	3) 6.9	2)50.3	2)22.9								3) 1.3
			Islam	5) 1.1	5) 0.1	4) -	4) -	5) 0.3			4)16.5	6) 3.4	2) 2.8				4) 1.5
			Taoism	2) 0.8	2) 0.5			5)42.2			2)14.9						
			I-Kuan-Tao					6) 2.0									
			Confucianism							4) 0.2							
			Folk religion				7)17.6										
			Chondo-Gyo							5) 0.1							
			Won-Buddism							6) 0.5							
			Judaism						4) 4.5								
			Hinduism						6) 0.3		5) 7.6		1)85.1				
			Anglican									2) 8.6					
			United Church									3) 4.0					
			Presbyterian									4) 1.6					
			Baptist									5) 1.1					
			Greek Orthodox									7) 1.0					
			Lutheran									9) 0.4					
			Other	8) 0.5	8) 1.2	8) 5.3	8) 1.8	8) 5.9	8) 0.8	8) 0.5	9)12.9		2.5	8) 1.8		8) 1.4	8) 0.4
			DK	*0.3	9) 2.5		9) 0.3	9) 1.4	9) 0.5				99)4.8	9) 0.5		9) 0.4	9) 0.2
			missing	99)86.2	99)71.9	99)61.6				46.4				99)71.6		75.6	90.8
Q44	#3.2b	Religious Mind/ Heart *NA含む	1)Important	39.4	32.7	63.6	78.4	76.2	78.1	74.4	53.1	78.5	72.2		66.5	34.6	
			2)Not Important	50.4	40.3	26.6	17.9	19.0	15.0	20.4	40.7	19.8	15.8		16.8	58.9	
			8)Other	4.8	3.8	1.3	0.3	0.2	-	0.1	3.7	-	1.7		2.3	1.0	
			9)DK	*5.3	*23.3	8.5	3.3	4.6	7.0	5.0	2.4	1.7	10.4		14.5	5.6	
			*NA含む														
Q45		Observation of Law *NA含む	1)Always Obey	64.5	70.6	59.7	57.0	65.8	55.0	72.8	59.7	73.8	37.0		32.5	65.9	
			2)Excusable to Break	33.4	22.6	37.6	39.3	29.3	43.0	22.2	37.3	26.0	50.9		52.6	33.1	
			8)Other	1.2	0.8	0.1	-	1.3	-	-	-	-	1.7		1.0	0.1	
			9)DK	0.9	*5.9	2.6	3.6	3.6	2.0	5.0	1.3	0.2	11.0		13.9	0.9	
Q46		Written Contract and Trust *NA含む	1)A's Opinion(Trust)	5.2	12.2	7.8	12.3	9.3	6.9	14.1	10.4	35.3	2.9		3.8	5.2	
			2)B's Opinion(Contract)	93.9	81.3	91.2	86.6	86.6	92.1	83.8	88.4	61.7	94.0		92.8	93.9	
			8)Other	0.4	0.2	-	-	0.1	0.2	-	0.6	-	0.2		0.3	-	
			9)DK	0.5	*6.3	1.1	1.2	4.0	0.8	2.1	0.6	2.9	2.9		3.2	0.9	
Q47		Style of Contract	1)A's Opinion(Flexibility)	4.7	11.9	11.2	13.3	12.3	8.1	14.4	12.0	37.4	5.4		5.8	3.4	
			2)B's Opinion(Clearly ir	94.3	82.3	88.1	85.6	83.8	91.5	83.4	86.4	60.7	90.8		90.2	95.7	
			8)Other	0.7	0.4	-	-	0.4	-	-	-	0.6	-		0.4	-	
			9)Don't Know	0.3	5.5	0.7	1.2	3.4	0.5	2.1	1.0	1.9	3.5		3.5	0.9	

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002	
APVS	Comm on code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing	
		Environment or Economy (環太平洋調査以前の調査で使用) *NA含む	1)Protecting the Envir 2)Economic Growth 8)Other 9)DK	89.0 8.7 1.8 0.5	70.6 17.7 2.4 *9.2	60.7 33.0 2.7 3.7	54.9 36.0 1.3 7.8	69.9 22.4 2.2 5.4	53.3 38.3 1.2 7.3	73.4 20.6 - 6.0	86.0 11.4 0.4 2.1	74.0 23.8 0.2 2.0	67.9 17.2 1.7 13.3		63.4 16.0 3.6 17.0	87.8 10.0 1.7 0.6	
Q48	corre 修正	Environment or Economy *環太平洋調査から選択肢が修正された(順序にも注意)	1)Economic Comfort 2)Pollution Control 8)Other 9)DK														
Q49		The Most Important Action for the country	1)Efforts on environmental issues 2)Resolve regional conflicts 3)Scientific and technological development 4)Extend economic support 5)Promote mutual understanding 8)Other 9)DK														
Q50	#2.7	The Most Important Thing															
Q51a		Feelings toward Your Daily Life - Belief system	1)Very much 2)Somewhat 3)Can't say one way or another 4)No 8)Other 9)DK														
Q51b		Feelings toward Your Daily Life - Feel like the challenges	1)Very much 2)Somewhat 3)Can't say one way or another 4)No 8)Other 9)DK														
Q51c		Feelings toward Your Daily Life - Doing something useful	1)Very much 2)Somewhat 3)Can't say one way or another 4)No 8)Other 9)DK														
Q51d		Feelings toward Your Daily Life - My family or others rely on me	1)Very much 2)Somewhat 3)Can't say one way or another 4)No 8)Other 9)DK														
Q52a	corre 修正	Confidence in Religious organization *NA含む	1)Great deal 2)Quite a lot 3)Not very much 4)None at all 9)DK	5.6 18.7 40.3 30.9 *4.6	9.0 23.0 34.3 20.7 *13.0	11.7 48.4 27.2 9.7 3.1	9.3 56.6 24.5 7.1 2.5	23.2 46.1 19.4 9.5 1.8	9.0 36.9 37.5 13.2 3.4	25.4 58.1 13.8 1.6 1.1	9.9 38.1 31.6 18.3 2.1	60.7 29.4 5.1 4.5 5.6	2.4 12.4 47.8 31.9 2.4		2.8 9.4 45.0 35.1 7.8	3.1 16.9 42.3 33.7 4.0	
Q52b		Confidence in The law and the legal system	1)Great deal 2)Quite a lot 3)Not very much 4)None at all 9)DK	36.8 46.8 14.1 1.6 0.8	41.2 44.4 11.4 0.7 2.4	36.5 50.5 11.1 1.4 0.5	5.8 57.2 30.3 3.0 1.5	15.3 63.3 17.6 5.2 0.8	3.0 53.5 37.1 1.2 1.2	47.1 48.9 3.8 - 0.2	11.6 60.4 20.3 7.6 0.1	42.0 48.2 6.5 3.1 0.2	8.9 69.9 16.4 1.5 3.3		11.1 62.5 18.3 3.3 4.8	34.9 47.5 14.7 2.1 0.9	
Q52c		Confidence in The press and television *NA含む	1)Great deal 2)Quite a lot 3)Not very much 4)None at all 9)DK	11.0 50.1 32.0 6.4 0.5	14.6 51.4 27.9 4.0 *2.2	4.9 41.1 45.7 7.8 0.5	1.5 30.8 54.4 11.9 1.3	3.6 40.1 43.2 12.3 0.9	3.2 55.8 36.4 4.0 0.6	18.8 62.7 17.4 0.7 0.4	2.7 28.9 44.0 23.6 0.9	31.7 49.8 14.3 3.8 0.3	6.6 67.5 23.8 0.9 1.2		6.5 67.6 22.7 1.7 1.5	8.3 48.8 37.2 5.0 0.8	
Q52d		Confidence in The police *NA含む	1)Great deal 2)Quite a lot 3)Not very much 4)None at all 9)DK	20.5 51.6 23.4 3.8 0.8	28.4 48.1 18.5 2.1 *2.8	16.4 61.5 19.3 2.6 0.2	3.2 53.9 36.0 5.8 1.2	17.8 62.0 16.1 3.3 0.8	1.7 48.6 39.8 9.1 0.8	40.5 54.3 4.8 0.1 0.3	20.9 61.9 10.4 6.9 -	20.1 43.7 22.0 13.3 0.9	7.6 61.7 27.2 2.2 1.3		7.5 56.8 30.2 3.4 2.0	18.6 52.5 22.6 5.5 0.8	
Q52e	corre 修正	Confidence in National government bureaucracy *NA含む	1)Great deal 2)Quite a lot 3)Not very much 4)None at all 9)DK	34.5 47.0 14.7 2.4 *1.4	42.4 42.9 10.0 1.1 *3.6	12.8 49.9 29.3 4.4 3.5	3.5 38.1 43.1 10.8 4.5	5.3 39.7 39.8 12.8 2.3	0.9 27.7 49.8 20.5 1.2	38.5 53.3 6.3 0.7 1.3	4.7 41.3 32.9 18.4 2.7	18.0 40.2 25.3 12.5 4.0	2.4 38.2 48.5 6.3 4.7		2.9 38.5 45.7 7.6 5.3	36.9 47.1 12.4 2.5 1.0	
Q52f	corre 修正	Confidence in Congress / Diet *NA含む	1)Great deal 2)Quite a lot 3)Not very much 4)None at all 9)DK	42.5 39.4 13.6 3.1 *1.4	49.8 36.3 9.2 1.4 *3.2	11.3 49.5 30.9 5.8 2.6	2.3 22.7 50.2 19.9 4.8	5.0 45.8 36.3 10.2 2.7	0.3 10.8 45.0 42.2 1.7	36.3 53.4 6.7 1.3 2.3	5.0 45.9 30.4 17.1 1.6	23.3 41.1 21.2 10.9 3.5	1.9 29.8 51.8 11.0 5.5		1.9 31.8 48.7 11.9 5.7	45.8 38.7 11.0 3.6 0.9	
Q52g	corre 修正	Confidence in NPO / NGO *NA含む	1)Great deal 2)Quite a lot 3)Not very much 4)None at all 9)DK	7.3 32.4 36.1 18.5 *5.7	13.8 32.5 28.1 8.3 *17.3	11.1 52.9 27.2 5.5 3.3	1.8 38.5 37.6 13.6 8.5	6.5 58.6 23.1 7.1 4.7	0.9 29.9 48.5 13.6 7.1	11.6 58.1 24.4 2.0 3.8	12.3 62.0 18.6 4.3 2.9	25.8 43.1 18.6 9.7 2.9	2.7 42.3 34.8 5.4 14.7		6.2 48.5 24.7 3.6 17.1	5.7 30.7 42.5 14.3 6.8	

APVS	Comm on code	Item	category	2005		2006		2007		2008		2004		2002		2002		
				Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing		
Q52h		Confidence in Social welfare facilities	1)Great deal	19.9	25.4	19.0	4.8	5.3	4.1	15.6	10.4	38.4	6.7			5.6	17.1	
			2)Quite a lot	52.6	49.1	61.8	50.7	56.4	54.7	62.7	63.4	44.4	63.5			62.0	52.4	
			3)Not very much	22.4	17.6	17.7	28.0	28.3	34.0	18.7	18.9	10.9	23.0			21.1	23.7	
			4)None at all	2.8	2.1	1.1	9.8	6.3	4.9	1.3	5.7	5.3	1.1			2.3	3.6	
		*NA含む	9)DK	2.2	*5.8	0.5	6.6	3.7	2.4	1.7	1.6	0.9	5.7		9.1	3.1		
Q52i		Confidence in The United Nations	1)Great deal	17.9	23.1	18.0	4.5	7.0	5.6	12.5	8.6	34.0	5.7			6.9	19.0	
			2)Quite a lot	40.9	36.3	46.8	42.0	47.7	52.0	61.0	50.4	40.7	50.0			55.1	39.5	
			3)Not very much	27.9	21.6	24.4	28.9	28.0	31.1	17.9	24.7	15.4	27.9			19.9	27.2	
			4)None at all	7.5	4.5	5.5	12.8	13.2	5.4	2.5	12.3	5.7	2.1			2.0	7.5	
		*NA含む	9)DK	5.7	*14.5	5.3	11.9	4.1	5.8	6.0	4.0	4.2	14.3		16.0	6.8		
Q52j		Confidence in Science and technology	1)Great deal	73.0	58.8	30.3	15.1	16.9	10.1	27.7	21.1	58.1	12.5			11.8	78.4	
			2)Quite a lot	23.4	34.7	57.6	58.4	69.7	65.0	64.8	67.1	34.8	63.8			61.6	18.7	
			3)Not very much	2.2	2.1	8.6	17.6	9.0	19.4	4.8	8.9	4.6	13.2			11.9	1.6	
			4)None at all	0.8	0.3	1.1	4.3	1.8	2.0	0.6	2.0	1.8	0.8			0.4	0.3	
		*NA含む	9)DK	0.7	*4.1	2.5	4.6	2.7	3.4	2.0	0.9	0.9	9.7		14.2	0.9		
Q53		Religions and the World	1)Spread one's own Religion	1.2	1.6	1.6	13.3	5.5	4.9	5.7	3.4	29.9	0.6			1.1	0.2	
			2)Make others Understand	4.1	7.5	5.3	11.1	6.4	15.2	8.3	3.3	26.1	3.4			3.7	7.0	
			3)Understand Each Other	16.9	17.4	8.5	11.9	20.1	16.6	15.9	14.9	21.1	21.1			18.0	11.6	
			4)Respect Each Other	74.1	50.8	82.1	62.0	64.3	56.9	66.6	76.4	22.2	58.9			57.9	76.2	
		*NA含む	9)DK	1.2	1.1	0.5	-	0.8	0.5	-	0.6	0.1	1.1		1.3	0.3		
			9)DK	*2.5	*21.6	2.0	1.7	2.9	5.9	3.5	1.4	0.5	14.9		18.0	4.8		
		Social Participation(*) (環太平洋調査で使用)	Neighborhood organization					1)17.1	1) 6.2	1) 4.9	1)15.6	1)26.6	1)53.6					
			PTA					2)13.8	2) 5.3	2) 2.6	2) 6.4	2)19.9	2)12.6					
			Women's club, Seniors' club, young people's club					3)11.7	3) 5.1	3) 2.0	3) 8.7	3)17.7	3)11.7					
			Fire-fighters' association, voluntary neighborhood watch					4) 6.1	4) 2.1		4) 4.1	4)15.3	4) 2.5					
			Farmers' association, fishermen's association, forester's					5) 4.9	5) 1.2	5) 0.3	5) 1.4	5)16.9	5) 4.6					
			Chamber of commerce	6) 7.1	6) 2.6	6) 4.4	6) 0.5	6) 6.5	6) 1.7	6) 1.7	6) 3.7	6)14.1	6) 4.1					
			Labor Union					7) 8.4	7) 1.5	7) 6.5	7)12.6	7)12.9	7) 5.7					
			Club for sports, recreation, hobby or cultural activities					8)28.9	8)18.4	8)11.2	8)40.6	8)20.1	8)22.1					
			Regional association, class reunion association, alumni a					9)15.6	9)20.0	9) 3.0	9) 6.6	9)11.9	9)12.5					
			Religious organization	7) 2.1	7) 3.8	7)14.3	7) 9.0	10)36.1	10)19.2	10) 9.5	10)15.1	10)28.5	10) 5.7					
			Coops, consumer union					11) 4.4	11) 0.4	11) 0.5	11) 1.4	11) 6.5	11)10.5					
			Political group, election	8)11.6	8)11.1	8) 0.5	8) 1.3	12) 9.3	12) 3.0	12) 0.5	12) 2.0	12) 5.6	12) 2.4					
			Citizen group, resident movement group, environment p					13) 7.2	13) 3.6	13) 1.3	13) 7.1	13)10.1	13) 2.5					
			Civil defence volunteer group, neighbourhood watch								4) 0.8							
			Family service centres								14) 1.3							
			Sports club	1)15.8	1) 7.6	1) 8.6	1) 3.8											
			Cultural club	2)13.4	2)10.6	2) 3.8	2) 3.0											
			Leisure club	3)11.2	3) 5.6	3) 5.3	3) 2.5											
			Country men club	4) 4.2	4) 2.4	4) 0.9	4) 1.0											
			Alumni association	5)17.3	5)10.1	5) 9.1	5) 2.7											
			Environment protection	9) 5.1	9) 1.6	9) 1.9	9) 1.8											
			Student organization	10) 6.9	10) 4.7	10) 3.9	10) 1.0											
			Women's club				11) 2.8											
			Academic association				12) 1.8											
			Medical association				13) 1.2											
			Philanthropic association				14) 7.0											
			Financial association				15) 0.7											
			Other	88) 1.5	88) 1.1	88)3.4	88) 1.2	-	88) 1.9	88) 0.5	88) 2.1	88) 3.9	88) 1.1					
			None	99)48.1	99)58.1	99)65.0	99)70.1	99)32.3	99)45.2	99)70.7	99)33.3	99)13.1	99)27.7					
			DK				99) 3.3						99)18.3					
Q54	correction	Social Participation ※環太平洋調査では上段のSocial Participation(*)の表現をもちいた。東アジア調査でも別の表現を用いて調査している。ただし、さらに各調査で国による違いもあるので要注意。	Political organization or group															
			Industrial Association or Chamber of Commerce															
			Group for volunteer activities															
			Group for citizen's or consumer's movements															
			Religious organization or group															
			Group or club for athletic or sporting activities															
			Association or club for hobbies and pastimes (alumni club, senior citizen's)															
			Group existing on the Internet															
			Other															
			DK															
Q54		Social Participation_Numbers ※Otherは1団体として計算	0	48.1	58.1	65.0	70.1	32.3	45.2	70.7	33.3	13.1	27.7			21.3	9.2	
			1	25.5	28.6	21.1	18.7	23.8	33.1	19.4	31.4	20.3	30.1			34.2	69.2	
			2	14.8	9.2	9.3	5.0	18.9	13.8	6.1	19.3	15.7	21.2			21.2	14.4	
			3	7.1	2.8	3.2	1.2	11.2	4.5	1.9	9.4	11.4	10.6			13.1	5.3	
			4	3.1	0.8	0.6	0.7	6.5	2.0	1.1	5.1	6.5	7.0			6.0	1.3	
			5	1.3	0.2	0.6	0.3	2.9	0.9	0.3	0.9	5.0	1.8			3.0	0.3	
			6	0.1	0.2	0.2	0.5	1.7	0.3	0.3	0.1	2.1	1.0			0.8	0.2	
			7	-	0.1	-	-	1.6	0.1	0.1	0.3	1.5	0.4			0.1	-	
			8	-	-	-	-	0.2	0.1	-	-	4.8	0.2			-	-	
			9	-	-	-	-	0.2	-	-	-	0.8	-			-	-	
			10	-	-	-	0.2	-	-	-	-	0.3	-			-	-	
			11	-	-	-	-	0.1	-	-	0.1	0.0	-			-	-	
			12	-	-	-	-	0.2	-	-	-	0.0	-			-	-	
			13	-	-	-	-	0.4	-	-	-	-	-			-	-	
DK	-	-	-	3.3	-	-	-	-	18.3	-			-	0.3	0.1			

APVS	Comm on code	Item	category	2005		2006		2007		2008		2004		2002				
				Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing		
F1	modif 変更	Gender	1)Male	48.8	41.7	47.5	44.4	49.8	49.5	47.0	48.1	39.1	47.1	47.4	47.5	46.1		
			2)Female	51.2	58.3	52.5	55.6	50.2	50.5	53.0	51.9	60.9	52.9	52.6	52.5	53.4		
F2	corre 修正	Age ※【国別質問】 ※成人年齢が各国で異なるため、調査対象の開始年齢も国によって異なっている。調査対象者はJapanは20歳、South Koreaは19歳(満年齢)、Singaporeは21歳、それ以外の国は18歳以上である。ただし台湾については成人年齢の20歳ではなく、北京・上海・香港に合わせる形で18歳以上を調査対象とした。Vietnamの60~64には65歳も含む(60~65)。	missing													0.5		
			18~24yrs	13.8	10.8	12.8	7.6	12.3	11.7	10.7	13.5	22.1	1) 4.1	1) 3.7	1) 2.9	1) 14.4		
			25~29yrs	12.2	5.6	5.9	10.0	9.9	10.1	10.7	8.7	14.2	2) 5.6	2) 5.2	2) 5.5	3) 7.8		
			30~34yrs	7.2	4.4	7.9	11.3	12.4	9.7	11.9	8.4	13.3	3) 7.7	3) 9.3	3) 9.5	4) 8.6		
			35~39yrs	8.5	3.4	12.4	17.2	7.8	14.4	13.3	10.7	13.4	4) 8.1	4) 7.0	4) 6.9	5) 9.5		
			40~44yrs	10.7	8.9	12.8	14.3	11.1	11.4	13.9	11.6	10.0	5) 7.6	5) 9.2	5) 9.5	6) 12.1		
			45~49yrs	8.5	17.1	13.3	12.8	9.5	11.0	12.4	9.7	8.0	6) 8.5	6) 7.9	6) 8.1	7) 13.0		
			50~54yrs	8.7	18.9	11.4	9.3	8.3	8.6	10.0	7.7	6.8	7) 9.2	7) 9.0	7) 13.7	8) 7.9		
			55~59yrs	7.4	11.7	7.1	6.3	7.2	6.1	7.9	8.9	4.2	8) 12.6	8) 12.2	8) 10.3	9) 5.1		
			60~64yrs	4.2	7.2	3.9	3.5	9.3	8.6	5.4	10.4	4.6	9) 11.9	9) 13.6	9) 11.7	10) 7.3		
			65~69yrs	8.3	4.0	3.3	2.7	5.8	8.0	3.9	10.3	3.1	10) 9.2	10) 8.2	10) 9.4	11) 6.2		
			70yrs & over	10.5	8.0	9.0	5.1	6.3	0.4				11) 15.4	11) 14.6	11) 12.5	12) 7.5		
																		0.2
			F1xQ4 ※F1がmissingの者を除く	F1_Male	Q4 Boy	71.2	68.6	74.4	83.2	93.1	83.5	89.5	86.6	85.5	90.3		96.5	※91.4
Q4 Girl	14.2	16.3			11.4	4.5	5.8	13.7	3.9	9.8	9.0	5.6		3.5	8.6			
Other/DK...	14.6	15.1			14.1	12.3	1.1	2.7	6.6	3.6	5.5	4.1						
F1_Female	Q4 Boy	36.4			42.5	32.5	40.9	13.9	43.3	26.3	27.8	34.3	23.1		21.1	※51.4		
Q4 Girl	51.8	47.0			57.8	47.5	84.5	51.5	67.5	67.8	62.8	72.1		78.9	48.6			
Other/DK...	11.9	10.5			9.6	11.6	1.5	5.2	6.2	4.4	3.0	4.8						
Q54xmale	Social Participation_Numbers ※Otherは1団体として計算	0	45.5	57.8	63.8	66.8	35.2	39.0	70.1	32.3	10.2	29.6		27.0	9.4			
		1	25.9	29.1	23.1	19.8	23.4	34.9	19.6	36.8	24.6	31.8		33.7	67.3			
		2	15.6	9.7	8.7	5.2	17.6	16.3	7.2	17.5	16.6	19.6		19.0	16.5			
		3	8.0	2.5	3.0	2.2	10.9	5.3	1.9	8.6	11.0	9.1		12.0	5.3			
		4	3.9	0.7	0.2	0.7	5.6	2.7	0.4	4.5	7.3	6.1		3.7	0.8			
		5	1.2	0.2	1.0	0.4	2.7	1.0	0.2	0.3	5.8	2.0		3.5	0.4			
		6			0.2	0.7	2.4	0.6	0.2		1.4	0.9		0.8	0.2			
		7			0.0	0.7	0.2	0.2			1.0	0.4						
		8			0.0	0.4					3.8	0.4						
		9			0.0	0.2					0.6							
		10			0.4						0.4							
		11				0.2					0.1							
		12				0.2												
		13				0.4												
		DK			3.7						17.1				0.3			
		Q54xfemale	Social Participation_Numbers ※Otherは1団体として計算	0	50.5	58.3	66.1	72.8	29.4	51.3	71.3	34.2	14.9	26.1		16.2	9.2	
1	25.0			28.3	19.3	17.9	24.1	31.3	19.2	26.4	17.6	28.6		34.6	70.7			
2	14.1			8.9	9.9	4.8	20.1	11.3	5.1	20.9	15.1	22.6		23.2	12.7			
3	6.3			3.1	3.4	0.3	11.5	3.7	2.0	10.2	11.6	12.0		14.0	5.1			
4	2.4			0.8	0.9	0.6	7.5	1.3	1.6	5.8	6.1	7.8		8.0	1.8			
5	1.5			0.2	0.2	0.3	3.1	0.8	0.4	1.4	4.5	1.5		2.7	0.2			
6	0.2			0.3	0.2	0.3	0.9		0.4	0.3	2.5	1.0		0.7	0.2			
7				0.2			2.4			0.6	1.8	0.5		0.2				
8								0.2			5.5							
9							0.2				0.9							
10											0.2							
11										0.3								
12						0.2					0.1							
13						0.4												
DK						3.0					19.1				0.2	0.2		

2002	2003	2002	2002	2003	2003	2004	1998	1999	1999	1988	1988	1988	1988	1987	1987	1992	1993	1991	
Shang-hai	Kunming	Hang-zhou	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	JAWCS	HA JA	HA NJ	JPN-A	HA JA	HA NJ	USA	FRA	UK	FRG	ITA	HOL	BRZ JB
49.9	51.8	50.4	47.4	46.3	50.4	43.4	56.4	53.2	52.9	46.2	47.2	48.6	50.5	46.6	47.6	44.4	47.8	44.7	53.6
50.1	48.2	49.6	52.6	53.7	49.6	56.6	43.6	46.8	47.1	53.8	52.8	51.4	49.5	53.4	52.4	55.6	52.2	55.3	46.0
																			0.4
1.2)14.	1.2)9.9	1.2)11.	1.2)12.	1.2)6.6	1) 9.6	1) 9.4	4.4	2.4	4.1	9.8	5.0	4.4	10.1	15.2	14.0	13.6	15.0	11.5	14.4
3) 6.8	3) 12.7	3) 8.3	3) 7.6	3) 9.0	2) 7.8	2) 9.9	3.8	7.3	6.1	6.1	3.3	7.5	10.0	11.6	9.4	12.6	9.3	11.1	5.5
4) 6.1	4) 13.7	4) 9.9	4) 12.4	4) 14.1	3) 16.3	3) 12.7	5.5	3.9	5.4	9.0	7.8	8.2	9.9	12.5	10.0	9.7	9.2	11.9	8.8
5) 6.1	5) 10.1	5) 11.3	5) 15.1	5) 13.3	4) 14.4	4) 15.4	9.0	5.3	8.8	10.4	6.7	12.5	10.3	10.8	8.9	11.4	8.4	11.1	11.3
6) 13.7	6) 9.2	6) 9.3	6) 17.9	6) 13.5	5) 14.3	5) 14.4	17.2	6.3	8.2	10.9	10.0	11.3	9.0	8.4	8.9	8.4	8.0	11.3	11.3
7) 18.8	7) 9.2	7) 8.8	7) 10.5	7) 11.6	6) 8.3	6) 11.7	10.8	12.1	9.5	10.9	7.2	7.5	7.5	5.8	8.6	9.9	8.7	9.1	8.6
8) 10.2	8) 7.7	8) 9.4	8) 7.9	8) 10.5	7) 7.6	7) 8.4	9.0	8.3	12.2	9.9	5.6	6.0	6.1	7.1	7.5	8.6	8.9	6.1	10.7
9) 6.6	9) 5.4	9) 7.7	9) 3.2	9) 6.8	8) 6.5	8) 5.4	7.0	7.3	12.9	10.1	10.6	5.6	7.0	7.1	6.3	7.0	7.4	6.0	9.1
10) 6.1	10) 6.8	10) 6.4	10) 3.8	10) 5.4	9) 6.1	9) 3.8	6.4	6.8	9.2	8.3	13.3	10.3	6.8	6.7	7.4	6.5	8.1	6.5	4.6
11) 3.2	11) 5.3	11) 6.1	11) 2.8	11) 4.5	10) 5.9	10) 3.9	8.4	10.7	8.2	6.1	11.1	9.7	8.3	5.2	5.8	5.2	7.4	5.2	4.7
12) 8.4	12) 10.1	12) 11.3	12) 6.2	12) 4.4	11) 3.4	11) 5.1	18.6	29.6	15.3	8.6	19.4	16.3	15.0	9.5	13.2	7.1	9.6	10.2	11.1
			0.1	0.1									0.6						0.1
85.0	88.7	83.5	90.8	84.2	84.9	91.2													
15.0	11.3	16.5	9.2	15.8	15.1	8.8													
50.7	59.4	48.2	33.8	48.0	45.7	29.4													
49.3	40.6	51.8	66.0	52.0	54.3	70.6													
			0.2																
52.6	53.5	22.9	70.1	66.4	36.1	71.8													
33.1	30.4	61.9	19.4	23.0	38.3	19.1													
9.0	11.4	10.2	7.0	7.4	16.0	5.8													
4.0	2.8	2.4	2.8	1.8	6.3	1.1													
0.6	0.9	2.0	0.2	1.2	2.2	0.7													
0.6	0.8	0.4	0.6	0.3	0.4	0.2													
0.2	0.2				0.4	0.4													
		0.2			0.2														
					0.2	0.4													
						0.2													
54.5	60.5	28.8	67.6	79.1	47.5	77.0													
36.2	27.9	61.3	21.9	15.8	29.7	17.0													
5.9	4.9	4.2	7.2	3.6	15.0	4.1													
2.3	4.3	4.0	2.7	1.0	5.6	0.9													
0.4	1.2	0.7	0.4	0.3	1.6	0.3													
0.4	1.0	0.9	0.2	0.3	0.4	0.3													
0.2	0.2	0.2			0.2	0.2													
0.2						0.2													

*BRZ JB1991のクロス集

XVIII ISA World Congress of Sociology 13-19 July 2014
2014 July 14 at ISA Yokohama

Cultural Manifold Analysis (CULMAN) for Cross-National Comparative Survey

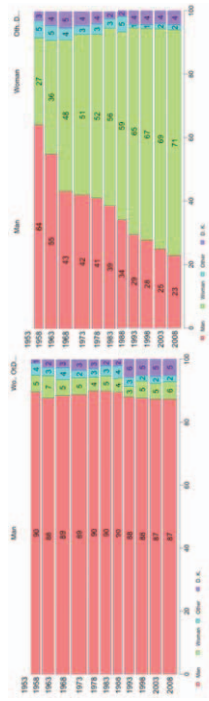
Ryozo Yoshino

Director, Professor
Survey Science Center
The Institute of Statistical Mathematics
Tokyo, JAPAN

Japanese National Character Survey (1953-present)

Q. “If you were born again, would you like to be born as boy or girl?”

The past a half century has shown the **stability** of Japanese men’s response “boy”(some 90%) as well as the significant **change** of the Japanese **women’s** response from “boy” to “girl”. This may symbolize the rapid change of social institutions in the postwar Japan.



5. 論文・学会発表抄録等

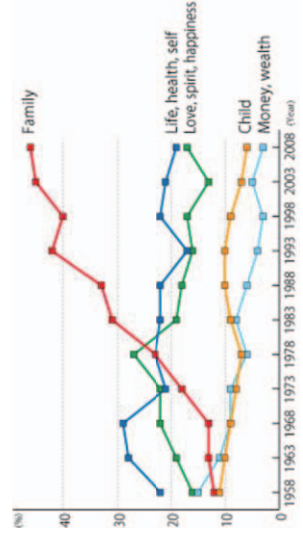
Articles and Conference Papers

Partial List of Past Surveys by ISM.

- **1953 - present Japanese National Character Survey** (every 5 years)
- **Surveys on Japanese Americans of Hawaii & of the West Coast, and Japanese Brazilian**
- **1971 Honolulu Residents with Japanese ancestry.**
- **1978 Honolulu Residents, Americans in the Mainland**
- **1983 Honolulu Residents**
- **1988 Honolulu Residents**
- **1991 Japanese Brazilians (JB) in Brazil**
- **1998 Japanese ancestry Americans in the West coast of U.S.A.**
- **1999 Japanese Americans in Hawaii**
- **1987-1993 Seven Country Survey** (Japan, USA, & 5 European Nations)
- **1987 Britain, Germany & France**
- **1988 Americans in the mainland of U.S.A, the Japanese in Japan**
- **1992 Italy**
- **1993 The Netherlands**
- **2002-2005 East Asia Values Survey (EAVS)**
(Japan, China (Beijing, Shanghai), Hong Kong, Taiwan, South Korea, & Singapore)
- **2004-2009 Pacific-Rim Values Survey (PRVS)**
(Japan, China (Beijing, Shanghai), Hong Kong, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia & India)
- **2010-2014 Asia-Pacific Values Survey (APVS)**
(Japan, China (Beijing, Shanghai), Hong Kong, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia, India, & Vietnam.)

Q. What is the most important thing for you?
(Open-ended question)

The response rates of “life”, “health”, “oneself”, “love”, and “child(ren)” show relative stability; the rate of “family” shows the rapid increase.



Our Task

- **Cross-National Comparability**

One of our main tasks is to investigate those conditions to guarantee **cross-national comparability** under different sampling methods, different languages, general response tendencies particular to each nation, etc.

Methodology for Cross-National Comparison

In our search of the cross-national comparability, we decided that beginning our study by a comparison of two nations (or races) which have some similarity or dissimilarity, e.g., in their racial origin or language, would have more meaning than attempting to begin from a comparison of two totally different nations (or races). Therefore, **our task is to investigate in what aspects and to what degree the peoples of the nations (or races) involved are similar or dissimilar to each other.**

6

Methodology

From **CLA** (Cultural Link Analysis) to **CULMAN** (Cultural Manifold Analysis)

Our cross-national survey was started with the comparison of the Japanese in Japan, Americans of Japanese ancestry and of non-Japanese ancestry in Hawaii in 1971.

Some of those nations or areas which we have surveyed share certain common features such as race or language. Therefore, they provide **meaningful links for comparison**. Extending the chain of links, eventually we will be able to obtain a chain of **global comparison**. Therefore we call our research methodology **CLA** (Cultural Linkage Analysis).

7

CLA (Cultural Link Analysis)

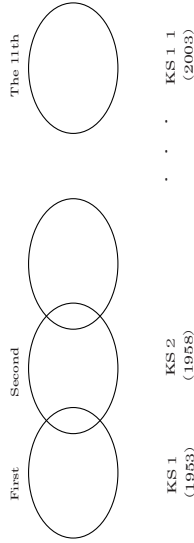
More precisely, CLA includes the following three subjects:

- 1) a **spatial link** as cross-national comparison;
- 2) a **temporal link** inherent in longitudinal analysis (time-series data analysis) and
- 3) an **item-structure link** inherent in the commonalities and the differences in item response patterns within and across different cultures. (cf. Guttman's idea of sampling theory of "items")

8

A Temporal Linkage

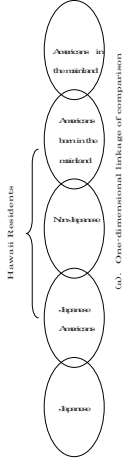
a Longitudinal Survey on "Japanese National Character"



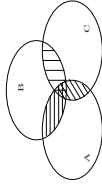
Each temporal chart covers each time, and all charts make a longitudinal linkage of time series comparison.

A Spatial Linkage of Comparison

Extension of local paired-comparisons will leads to a global comparison.



(a) One-dimensional linkage of comparison.



Relationships of similarities (commonities) and dissimilarities are multidimensional. The flow of cultural comparison corresponds to the size of questionnaire items to ask.

(b) Multidimensional linkage of comparison.

CULMAN (Cultural Manifold Analysis)

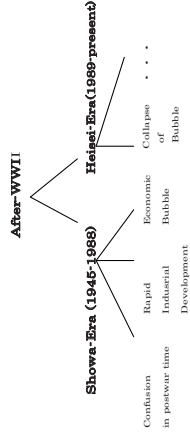
These linkage structures make a sort of hierarchical structure where each link (or chart) covers a local region, or a time-interval, or an item set on a certain topic on varieties of cultures. We will develop our methodology of data analyses on peoples' responses in questionnaire surveys, called **CULMAN** (Cultural Manifold Analysis).

CULTURAL MANIFOLD

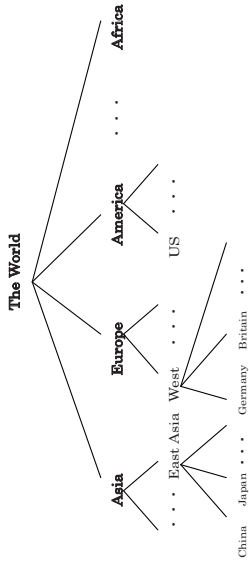
(Some charts may overlap each other in the hierarchy, and the structure may show dynamic changes over many decades.)

An illustration of **hierarchy** of charts (links) in a **CULTURAL MANIFOLD** (Some charts may overlap each other in the hierarchy, and the structure may show dynamic changes over many decades.)

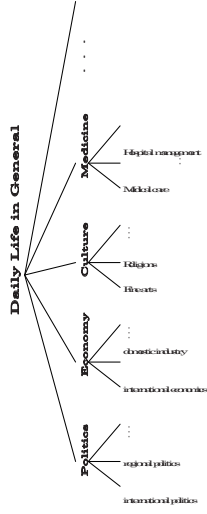
(a) At Hierarchy of Temporal Charts



(b) A Hierarchy of Spatial Charts



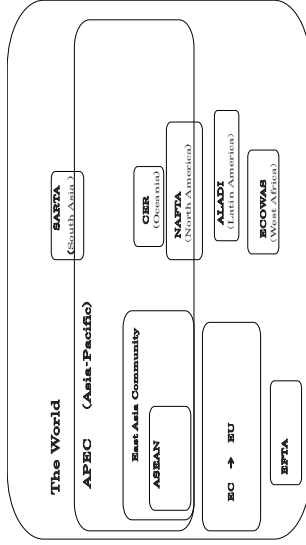
(c) A Hierarchy of Item Charts.



For Our Future Study

- We may be able to utilize the idea of CULMAN also for **policy-making** in the balancing between depth and coverage: e.g., an international or regional regulation or rules in the larger coverage should be the less restrictive or at a multi-level speed, adapting to each local conditions.
- It seems to me that the current political confusions in the world are due to the insufficient scientific data analyses and the inadequate way to study the cultural diversity in the time of globalization. I hope that the world policy-making should be based on the empirical data and scientific data analyses for the world peace and economic development.

A Manifold of Local Communities



Some pairs of these local communities may overlap each other and the total set may make a sort of hierarchy as a global manifold. In order to have a steady peaceful and prosperous development, we may need a set of “soft” regulations to connect pairs of communities, rather than a single restrictive global standard.

For Cross-National Comparison, we need “**a sort of gauge**(measure or scale) **transformation**” between different cultures, social groups, nations, etc.

Although it is not easy to construct such gauge transformation quantitatively, let’s make **some trials and errors** on empirical data analyses in order to see how we should think about this task .

Religious Faith and Religious Heart/Mind

The translation of the idea concerning “religion” may be fairly problematic in the context of cross cultural survey. But the meaning of word(s) may be more clarified in data analyses on the relationships between several social attitudes.

For example, although only one third of the Japanese have personal religious faiths, most Japanese tend to think that religious attitudes or hearts/minds are important. This may puzzle the western people or people of monotheism (Christian or Muslim).

Questions on Religion and “Religious Heart/Mind”

- Q1 Do you have any personal religious faith?
(1. Yes 2.No)
- Q2 Without reference to any of the established religions, do you think a **religious heart/mind** is important, or not important?
(1. Important 2. Not important)

Religious Heart/mind
宗教のな心 “Shukyotekina KOKORO”
 heart?
 mind?
 attitude?

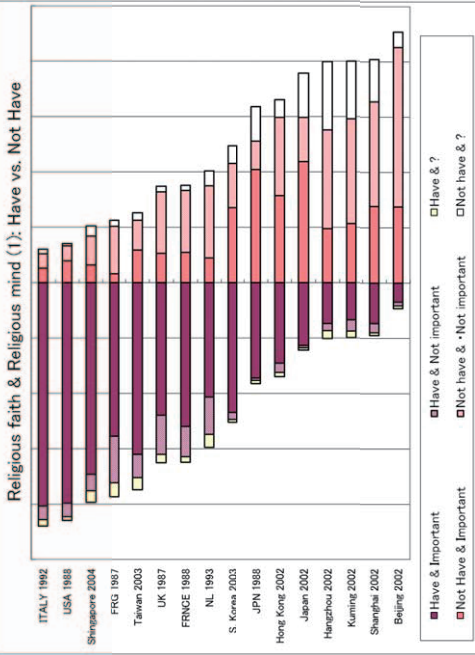
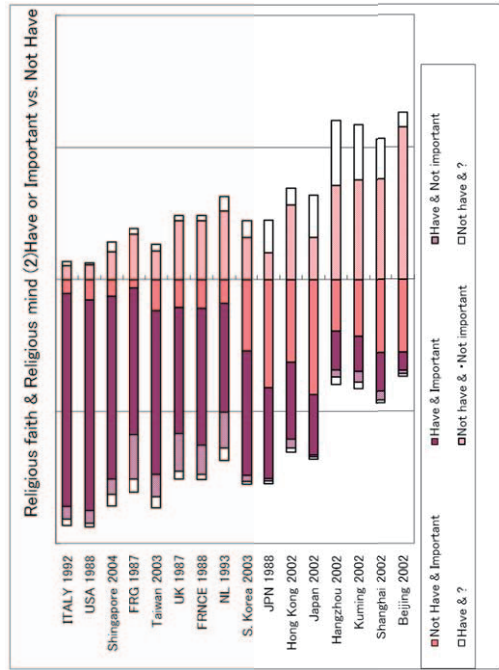
As our research methodology, we may be able to investigate the mutual dependency between definitions (or concepts) and response patterns in social surveys.

Definitions ↔ Response patterns
 in Surveys
 mutually dependent

In our surveys in the 1980s, we found, for example, that the Catholic in the USA and the Protestant in the West Germany were similar in their attitudes or opinions, and so were the Protestant in the USA and Catholic in the West Germany .

(Note: After the unification of th East and the West, the religious distribution has been tottaly changed in Germany. So it may be interesting to study such a correspondence now again.)

Fumi Hayashi and Tatsuzo Suzuki (1995): Data analytic Representation of Characteristics of Various Breakdowns on Cross-cultural Survey',
Data Science and its Applications (eds. Y. Escoufier, C. Hayashi, etc.), Academic press, Tokyo).



- Thus, Fumi Hayashi suggests that a possible way to look at religious attitudes/minds in cross-national comparison, including both Asian and Western countries, is compare
 - 1) the figures of those who have religions in western countries (or **monotheism**) with
 - 2) the figures of those who have religions and/or those who think “religious attitudes or hearts/minds are important” in Asian countries (or **polytheism**).

Honne vs. Tatemae (True opinion & feeling in one's minds versus Public Opinion) Shown in Some Data on International Relationships

Q.2 Which one of the following countries or regions would you like to see develop friendliest relationship for our own national interest?

- 1 EU (European Union)
- 2 Australia
- 3 Japan
- 4 China
- 5 India
- 6 South Korea
- 7 Asian Country other than China, India, Japan and South Korea
- 8 Other (Please specify)
- 9 DK

Note: Categories are slightly different in different survey countries because the country under survey itself must be excluded in the categories.

26

Friendliest Relationships (Pacific-Rim Values Survey)

The data confirm the bilateral relationships between one's own country and USA. The 2nd choice may be "China".

	CHOICES									
	U.S	EU	Japan	South Korea	Mainland China	Australia	India	Other	DK/NA	
Japan	35	6	-	5	28	-	-	13	12	
Beijing	35	38	3	11	-	-	-	10	2	
Shanghai	48	27	6	7	-	-	-	6	6	
Hongkong	41	28	8	6	-	-	-	12	6	
Taiwan	35	8	11	1	23	2	1	6	13	
South Korea	53	7	3	22	2	1	8	4		
USA	-	13	10	10	30	10	5	12	10	
Singapore	14	4	6	2	36	7	6	19	6	
Australia	20	16	9	3	28	-	6	13	12	

27

Friendliest Relationships (Asia-Pacific Values Survey)

The data confirm the bilateral relationships between one's own country and USA. The 2nd choice may be "China".

	CHOICES									
	U.S	EU	Japan	South Korea	Mainland China	Australia	India	Singapore	Other	DK/NA
Japan	50	4	-	4	26	1	8	1	1	5
Beijing	47	20	3	7	-	7	2	7	4	3
Shanghai	54	15	4	3	-	6	1	8	2	8
Hongkong	37	16	7	3	-	5	5	7	14	8
Taiwan	34	11	14	1	32	1	1	1	1	4
South Korea	56	7	3	-	21	3	1	1	5	3
USA	-	14	10	10	33	12	5	1	6	10
Singapore	14	5	4	2	24	8	4	-	32	8
Australia	18	12	5	4	35	-	10	4	9	3

Q.3 If you could be born again, which one of the following Asian or Pacific countries or area(s) would you like to be born in, with the exception of your country?

- 1 Australia
- 2 Japan
- 3 China (Mainland)
- 4 South Korea
- 5 Taiwan
- 6 Hong Kong
- 7 India
- 8 Philippines
- 9 Singapore

Note: Categories are different in the survey countries because the country under survey must be excluded.

29

Country to be Born in the Asia-Pacific Area (Asia-Pacific Value Survey)

The Anti-Attitudes towards Japan are reduced in the responses. Generally Australia or Singapore is the 1st choice for most of the countries whereas "Japan" is the 1st choice for the peoples of Australia and Singapore. (Note: the choice categories are different across the survey countries. "-" shows a missing category in the choices.

	CHOICES												
	Japan	EU	USA	China (Mainland)	S Korea	India	Singapore	Australia	Hong Kong	Taiwan	Other Asian Country	Russia	Other
Japan	-	4	50	26	4	8	1	1	-	-	-	1	5
USA	10	14	-	33	9	5	1	12	-	-	-	6	9
Beijing	3	19	47	-	7	2	8	7	-	-	-	4	3
Shanghai	4	14	54	-	3	1	8	6	-	-	-	2	7
Taiwan	14	11	34	32	1	1	1	1	0	-	-	0	4
Hong Kong	7	16	56	-	3	5	7	5	-	11	-	3	8
South Korea	3	7	18	21	-	1	1	3	-	-	5	-	1
Australia	5	12	14	35	4	10	4	-	-	-	8	-	1
Singapore	4	5	50	24	2	4	-	8	0	-	31	-	1
India	11	4	29	6	0	-	6	8	-	-	2	-	2
Vietnam	19	13	35	4	8	1	3	2	-	-	3	14	0

Country to be Born in the Asia-Pacific Area (Pacific-Rim Value Survey)

The Anti-Attitudes towards Japan are reduced in the responses. Generally Australia or Singapore is the 1st choice for most of the countries whereas "Japan" is the 1st choice for the peoples of Australia and the 2nd for Singapore. (Note: the choice categories are different across the survey countries. "-" shows a missing category in the choices.

CHOICES

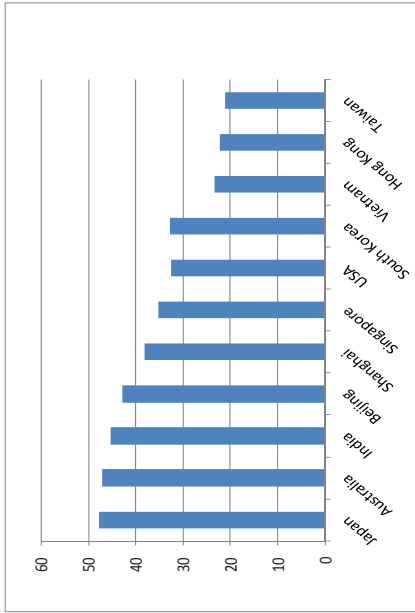
	CHOICES									
	Japan	South Korea	Mainland China	Taiwan	Hong Kong	India	Philippines	Singapore	Australia	U.S.
Japan	-	9	10	6	11	2	1	25	-	-
Beijing	5	11	-	9	26	1	1	33	-	-
Shanghai	8	7	-	6	25	1	1	39	-	-
Hong Kong	24	5	29	4	-	0	0	31	-	-
Taiwan	42	3	9	-	2	0	-	10	15	-
South Korea	11	-	7	1	2	1	1	11	50	3
USA	13	1	5	1	2	2	3	2	47	-
Singapore	13	2	13	5	6	4	1	-	32	-
Australia	26	2	5	1	9	8	5	22	-	-

30

3 items on Trust of GSS (General Social Survey)

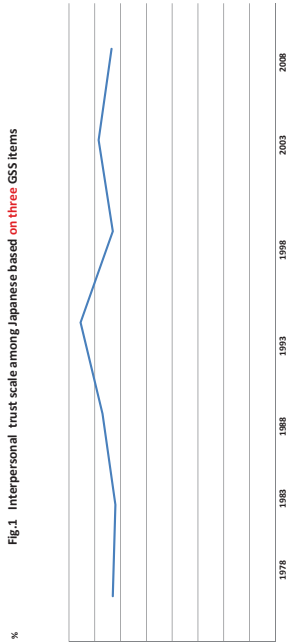
- A Would you say that most of the time, people try to be helpful, or that they are mostly just looking out for themselves?
 - Try to be helpful-----1
 - Look out for themselves-----2
- B Do you think that most people would try to take advantage of you if they got the chance, or would they try to be fair?
 - Take advantage-----2
 - Try to be fair-----2
- C Generally speaking, would you say that most people can be trusted or that you can't be too careful in dealing with people?
 - Can be trusted-----1
 - Can't be too careful-----2

Fig.. C. The Rate of Positive Response on the Generalized Trust



JAPAN: the rate of people who choose all the positive answer categories seems stable over years, regardless of the economic condition of Japan. (Note on a possible effect of decreasing response rate.)

Fig-1. Interpersonal trust scale among Japanese based on three GSS items



USA: The rate of people who choose the positive answer categories to all the 3 items of GSS seems closely linked to the economic or political condition of USA.

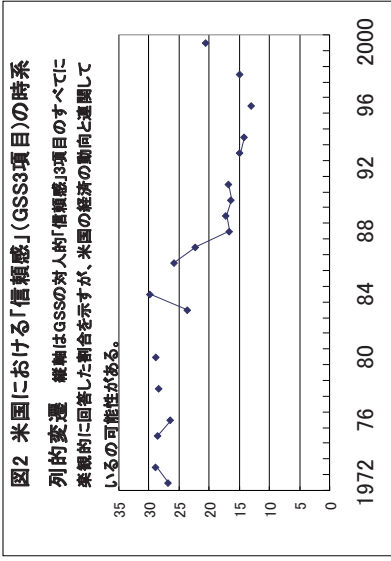
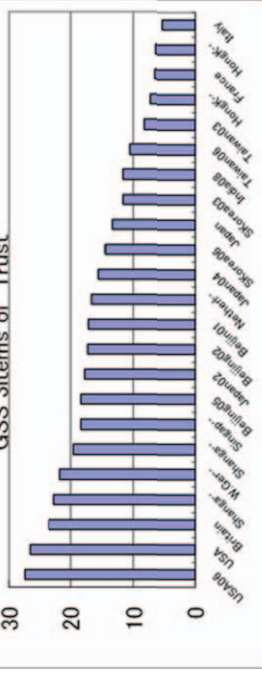
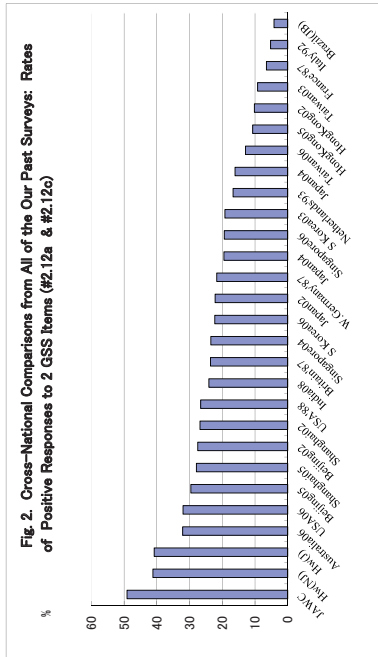


Fig.1 Rates of Positive Repondents to all of the GSS 3items of Trust



Cross-National Comparison: the positive rates of A & C of GSS 3 items.

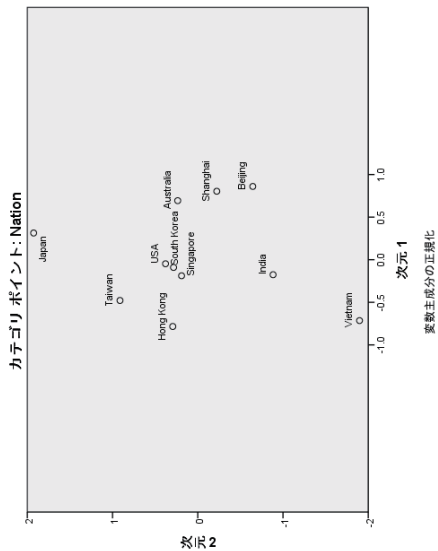


Correlations of GSS3items on Trust (Spearman Correlation)

Asia-Pacific Values Survey

Year	2010	2010	2011	2011	2011	2012	2012	2013	2013		
Japan	USA	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	Australia	India	Vietnam	
$a \times b$	0.14	0.49	0.19	0.26	0.31	0.28	0.00	0.31	0.43	0.04	0.10
$a \times c$	0.24	0.44	0.21	0.21	0.28	0.27	0.23	0.29	0.36	0.25	0.21
$b \times c$	0.28	0.39	0.21	0.24	0.26	0.22	0.02	0.32	0.35	0.01	0.35

The similarity of Structure of Peoples' Opinions on GSS 3items of Trust (Optimal Scaling)



Cross-National Comparison of Life Expectancy
Although many studies of USA show the positive correlation between "Trust" and Health conditions, it does not seem to be the case in the cross-national comparative context.

国	平均寿命 (年)	順位	男	平均寿命 (年)	順位	女	平均寿命 (年)	順位	
フランス	81	21	74	19	France	76	12	83	3
カナダ	78	2	85	3	Germany	76	12	82	9
USA	75	15	80	17	Holy	78	2	84	2
China	70	19	74	19	オランダ	77	8	81	14
インド	61	23	63	23	ノルウェー	77	8	82	9
イスラエル	78	2	82	9	ポルトガル	74	17	81	14
Japan	79	1	86	1	ロシア	59	24	72	22
South Korea	73	18	80	17	スウェーデン	77	8	83	3
マレーシア	69	20	74	19	スウェーデン	78	2	83	3
シンガポール	77	8	82	9	スイス	78	2	83	3
パキスタン	62	22	63	23	イギリス	76	12	81	14
ロシア	75	15	82	9	オーストラリア	78	2	83	3

資料: WHO/The World Health Report 2009
(注) 順位はここにおける平均寿命の長さ順
出處: 厚生労働省HP: <http://www.hakusyo.nishw.go.jp/pep/doi/04pac200801b/0003.html>

Q.52 How much confidence do you have in the following? For each one, could you tell me how much confidence you have in them? Is it a great of confidence, quite a lot of confidence, not very much confidence or none at all?

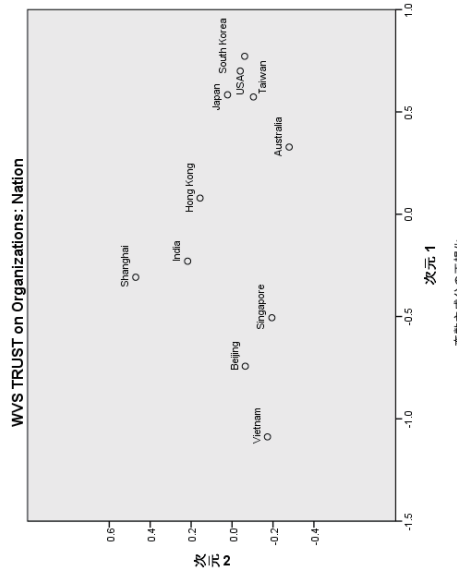
- a. Religious organizations-----
- b. The law and the legal system-----
- c. The press and television-----
- d. The police-----
- e. Federal bureaucracy-----
- f. Congress
- g. NPO/NGO (Non-Profit and Non-Governmental Organization)
- h. Social welfare facilities-----
- i. The United Nations-----
- j. Science and technology-----

Table 3. Items on Institutional Trust from World Values Survey

Figures show percentages of sum of positive categories "1, very much confident" and "2, confident some what".

APVS	Item	EAVS																		
		2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016							
Q50a	Religious organization	24	32	60	66	69	46	84	48	90	15	12	20	29	24	24	59	64	49	82
Q50b	Law and the legal system	84	86	87	63	79	57	96	72	90	79	74	82	92	78	80	86	65	59	93
Q50c	Press and television	61	66	46	32	44	59	81	32	82	74	74	57	71	55	60	41	37	66	82
Q50d	Police	72	77	78	57	80	50	95	83	64	69	64	71	74	64	73	75	50	49	93
Q50e	National government bureaucracy	81	85	63	42	45	29	92	46	58	41	41	84	88	71	81	56	42	30	89
Q50f	Congress / diet	82	86	61	25	51	11	90	51	64	32	34	85	87	72	82	55	30	14	86
Q50g	NPO / NGO	40	46	64	40	65	31	70	74	69	45	55	36	53	39	48	39	38	41	76
Q50h	Social welfare facilities	73	74	81	56	62	59	78	74	83	70	68	70	80	61	69	77	52	62	84
Q50i	United Nations	59	59	65	46	55	58	74	59	75	56	62	59	62	45	56	63	50	50	71
Q50j	Science and technology	96	94	88	73	87	75	93	88	93	76	73	97	97	95	90	84	76	78	87

Optimal Scaling (Correspondence Analysis or Hayashi's Quantification Method III)



- It looks that most of people in these countries are skeptical to religious groups, although many people seem to respect religions or religious hearts/minds.
 - Probably, some established religious groups are occasionally causing some social problems and some regional conflicts in the world are closely related to, at least superficially, religious differences, people tend to be skeptical to religious groups.
- Cf. In Vietnam, they distinguish between "religion" and "faith" in their national registration.

Although the items of GSS3 and the WVS have been used as a **scale** of interpersonal trust or that of institutional trust, we need to be careful of what the items are really measuring.

- Dogan (2000, p. 258) states “... Erosion of confidence is first of all a sign of political maturity. It is not so much that democracy has deteriorated, but rather the critical spirit of most citizens has improved. ...”

→ **We always must be sensitive to the distinction between the face value of a scale and its semantics.**
Trust and distrust may not be opposite in a superficial uni-dimensional scale, but they **may be closely related in one’s mind**. Also, we may need to **invent a new scale to measure “trust” in the deep structure of people’s heart and mind from a viewpoint of non-Western cultures.**

- Reconsidering our past studies, we may need different measurements of “social capital” or “well-being”, rather than superficial responses on the GSS items or the WVS items.

→ “Asian Social Values”
 “The Reason to Live”
 “Views on Life & Death”
 “Basic Structure of Hearts & Minds”
Under Trials & Errors!!!

Q.33 [SHOW CARD 22] If you were asked to choose the two most important items listed on the card, which two would you choose? (Select two)

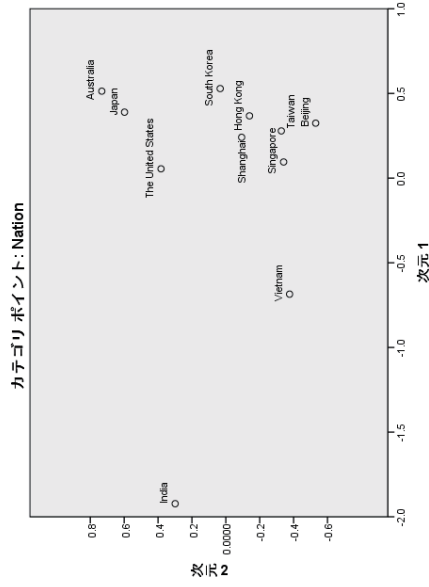
- a. Filial piety/ Love and respect for parents**
- b. Repaying people who have helped you in the past**
- c. Respect for the rights of the individual**
- d. Respect for the freedom of the individual**

The back-translation showed different Japanese wordings for a & b, but not for c & d.

Two Choices from Asian Social Values (A & B) and Western Social Values (C & D)

(EASV 2002-05)	A	B	C	D	E	F
Pattern	per&ben	per&right	per&free	ben&right	ben&free	right&free
Japan(2002)	47.2	13.5	18.8	4.8	8.1	7.6
Beijing	51.0	21.8	14.9	3.8	1.8	6.6
Shanghai	51.5	25.7	12.3	3.3	1.3	5.8
Hong Kong	35.6	16.3	29.1	4.1	5.7	9.2
Konming	49.8	20.6	17.1	4.4	2.9	5.1
Hanguh	48.6	16.1	16.1	4.5	2.6	5.8
Taiwan	58.7	19.5	14.2	3.2	2.8	3.6
S.Korea	45.2	21.7	19.2	4.0	3.4	6.5
Singapore	50.3	25.5	15.2	2.9	1.2	4.8
(7 Countries 1987-93)	per&ben	per&right	per&free	ben&right	ben&free	right&free
Italy	23.7	29.2	26.3	4.4	2.5	14.0
France	19.3	13.7	20.4	8.4	11.4	26.8
W.Germany	8.8	28.0	19.3	3.6	3.4	37.0
Holland	11.6	30.1	26.3	2.7	1.1	28.2
UK	31.8	20.4	12.5	11.3	8.0	16.1
USA	19.5	38.4	12.5	6.3	2.8	19.6
Japan(1988)	47.4	13.7	19.5	4.8	6.9	7.8

Correspondence Analysis on Confucious Teachings



- The right of individual and the right of freedom are important social values which we have acquired in our modern history.
- The importance of **family** may be, however, **more universal values** which is fundamental to human beings all through the history and the world, although the mode of family may be dependent on time and place.

Special Issues of our Cross-National Studies(Free download)

•Behaviormetrika

https://www.istage.ist.go.jp/browse/bhmk/36/2/_contents
https://www.istage.ist.go.jp/browse/bhmk/37/1/_contents

•Japanese Journal of Behaviormetrika

https://www.istage.ist.go.jp/browse/bhmk/32/2/_contents/_char/ia/
https://www.istage.ist.go.jp/browse/bhmk/33/1/_contents/_char/ia/

Books Yoshino, R. (ed.) (2007). Comparison of National Character of East Asia (in Japanese) [Higashi Ajia no Kokuminsei Hikaku]. Bensei-syuppan Co. Hayashi, C. & Yoshino, R.(1996). Comparison of Seven Country's National Character(in Japanese). [Kokuminsei Nanaka-koku Hikaku]. Idemitsu.syotenn. Hayashi, C., Mizuno, K., Yoshino, R. et al. (1992). Japanese National Character Volume 5 (in Japanese) [Nihonjin no Kokuminsei, Dai 5]. Idemitsu-syoten.

See the following related websites for survey reports and data.

- Website for Cross-National Survey: <http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index.htm>
- The ISM Survey Research Report: <http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html> (free download for recent issues)
- The Japanese National Character Survey: <http://www.ism.ac.jp/kokuminsei/index.html>

Survey Methods of APVS 東アジア地域の調査の実際

吉野 諒三（統計数理研究所）

1. アジアの調査はアジアの人々の手で

統計数理研究所では1953年以來の「日本人の国民性調査」の延長上に、この40数年ほど「意識の国際比較調査」を展開してきた。これらは戦後民主主義の基盤としての世論調査の方法論発展と緊密に結びつき、「連鎖的調査分析」、さらに「文化多様体解析（CULMAN）」という paradigm 研究の一環となった。国際比較を遂行する中で日本の調査方法の品質の良さが再認識されることが多々ある一方で、国内調査で見過ごされてきた問題点が浮かび上がってくることもあ

る。「国際比較は調査研究の宝庫」という林知己夫（1984）の言葉が思い起こされる。

国際比較における方法論の課題は種々あるが、各国の調査票の翻訳と標本抽出法の違いを越えた比較可能性の追求が主であろう（吉野他、2010）。どちらも本稿で語りつくせぬ大問題であるが、本稿では、われわれがこの10数年ほどの「東アジア価値観国際比較」「環太平洋価値観国際比較」「アジア・太平洋価値観国際比較」（表1参照）で直面した翻訳の問題、次に標本抽出の実践について、断片的であるが概観してみよう。われわ

表1 統計数理研究所による近年のアジアにおける意識の国際比較調査

・2000-2001 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査— 日本・中国の国民性比較の基礎研究(2)—中国上海市における意識調査—	
・2002-2005 東アジア価値観国際比較 East Asia Values Survey (EAVS) (日本, 中国[北京, 上海], 香港, 台湾, 韓国, シンガポール)	
・2004-2009 環太平洋価値観国際比較 Pacific Rim Values Survey (PRVS) (日本, 中国[北京, 上海], 香港, 台湾, 韓国, シンガポール, 米国, オーストラリア, インド)	
・2010-2014 アジア・太平洋価値観国際比較 Asia-Pacific Values Survey (APVS) (日本, 中国[北京, 上海], 香港, 台湾, 韓国, シンガポール, 米国, オーストラリア, インド, ベトナム)	
統計数理研究所の Web ページ	
http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html	調査科学研究リポートのシリーズ
http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index_e.html	(in English)
http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html	統計数理研究所・調査研究
http://www.ism.ac.jp/ism_info_e/kokuminsei_e.html	(in English)
http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index.htm	統計数理研究所・国際比較

れの知見の及ばぬこともあろうが、国際比較のみならず、国内調査で種々の課題を抱えている方々の参考になれば幸いである。

2. 調査票の作成や翻訳における注意

近年、東アジアの政治や経済の重要性が急速に増してきたが、各国の政治状況から、多くのアジア諸国では政治や宗教に関して深く尋ねることはできない。そのため、その種の質問は外すか、かなり表面的な質問に限るか、あるいは婉曲的な質問群で解析の仕方によって深層を浮かび上がらせる工夫をするかという選択になる。われわれの場合、政治や宗教は最小限の項目に絞り、当時から話題となってきたソーシャル・キャピタル研究との関連で「信頼感」や「生命観」を調査の主テーマとした。「生命観」については、「環太平洋価値観国際比較調査」日本 2004B では「オバケ調査」(吉野他、2010) というニックネームの意識の基底構造を探る項目を導入したが、その翻訳や調査費用の問題があり、これに関する国際比較は 2010 年以降の「アジア・太平洋価値観国際比較」に持ち越された。しかし、オバケ調査の関連項目については、多様な宗教や精霊信仰に関わり、表面上の翻訳等価性を超え、奥深い文化的な相違を考慮に入れた翻訳の課題はあまりにも大きく、現時点でも試行錯誤というしかない。

一方、伝統的に東アジアは儒教文化圏といわれ、これに関する興味も広く持たれているが、「儒教に関する項目」は、東アジア地域

では翻訳にはほぼ問題がなかった。むしろ、日欧米の比較では翻訳に苦労したが、欧米との国際比較版の日本語質問が中国語などアジア言語への翻訳・再翻訳で、本来の日本語に戻った言葉もある。

例えば日本調査での「親孝行」という表現は、われわれの 1980 年代後半の日米欧 7ヶ国比較の際の翻訳・再翻訳の確認で、米国において「Filial piety(親孝行)」だけでは通じないので、「Love and respect for parents(親に対する愛情と尊敬)」を補ったという経緯があり、その後の国際比較における日本語調査票では「親孝行、親に対する愛情と尊敬」、英語版調査票では「Filial piety/Love and respect for parents」を用いてきた。多方面からの考察で、認知レベルで親に対する尊敬の念や愛情は洋の東西を問わずあるが、感情のみならず、一種の義務感を帯びた行動レベルの「親孝行」に匹たりする価値観は欧米にはないらしいということが浮かび上がってきた。piety はキリスト教で神への敬虔さを表わし、それに filial を付けて親への敬虔さを意味しようとしたらしい。しかし、その造語は米国調査では「Filial piety/Love and respect for parents」とあれば、先頭の Filial piety が理解できなくともそのあとの Love and respect for parents で了解されるので問題なしとされた。しかし、「環太平洋価値観国際比較」オーストラリア 2006 調査では冒頭に「Filial piety」という難語があると回答者が回答しがたいと外すことを強く示

唆され、それに従った。他方で、「親孝行、親に対する愛情と尊敬」は日本語から中国語それから日本語という翻訳・再翻訳で、もとの「親孝行」に戻ったということもあった。

このように翻訳・再翻訳の過程から現実が浮かび上がり貴重な知見となったが、データ解析においてこのような本質的な差違を無視し、数字の大小比較に墮することは避けねばならないという教訓ともなった。

3. 韓国、中国本土、ベトナムでの統計的標本抽出法

われわれのこの10数年ほどの経験で、机上の調査計画のみでは伺い知れぬ調査現場の複雑な状況があり、同じ国の同じ機関で3回調査させ、最近になってようやく現場で実際に遂行されているオペレーションが理解できたこともある。政治や経済や歴史的背景の異なる国での民主主義や市場調査の考え方による違い、同じ機関でも調査担当責任者の個人的資質や経験のレベルなどが大きく左右していることも、深く認識されてきた。

比較的整備された住民基本台帳等が世論調査に活用でき、少なくとも計画では理想的な統計的標本抽出法が採れる日本と他の国々では、調査環境があまりにも違いすぎる。また、日本では戦後の民主主義発展を標榜して科学的世論調査の方法論が確立されてきたが、多くの場合、他の国では市場調査の目的が主体で世論調査も開始され、世論調査の価値判断の基準が自ずと異ならざるを得

ない側面がある。これが、その方法論にも強い影響を見せていると思われる。

単に統計的推測理論の観点だけで調査データの質の向上を優先するのであれば、各種の工夫をして日本のような統計的標本抽出法に近づけるという考え方もあろう。しかし、統計数理研究所の国際比較調査の主要な目的の1つは、各国で通常遂行されている「世論調査」の方法の詳細を理解し、各国の政治・経済・社会の状況を浮かび上がらせるように努めることである。たとえ、バイアスのある調査法であっても、通常、その方法で世論調査がなされ、その結果がその国の政治や経済に反映されているとすれば、その意味で重要な実態を持っているのである。その主旨で、各国の調査方法を尊重した。

同様の名称の調査方法でも各国、各機関で内実は異なる場合もある。あるいは、さらに重要なのは、机上の標本抽出計画と実践で乖離があることに留意すべきである。現実の社会状況を考えると、厳格な統計的標本抽出法はどの国でも遂行がかなり困難であることは理解し、困難な調査法を強要し隠れた不正を助長することになるのは避けねばならない。他方で実践の詳細を理解し、標本抽出計画と実践との乖離の効果を評価することは、データ解析のリテラシーとして肝要である。

以下では、性別・年齢層別の割り当て表を用いたランダム・ルート法である韓国2012調査、当時、典型的な統計的標本抽出法の前

例がなく、われわれが新たに調査方法を工夫した中国本土調査、今回が初めてであるベトナム 2013 調査の方法について触れよう。

3.1 韓国 2012 調査の標本抽出計画

韓国 GALLUP の朴会長は、統計数理研究所の西平名誉所員が現役の時代に指導を受けた経験があるという。韓国では、政府機関の調査でない場合、標本抽出の際に住民基本台帳を利用できない。そのため、世論調査を行う際には、国勢調査の人口分布に基づいて地域を層別し、以下の手順で地点と個人を抽出する「多段・層化無作為抽出法」が用いられている。各抽出地点では、ランダム・ウォークにより性別・年齢層別(10歳刻み)の割り当て表に沿って回答協力者を求めた。

割り当て法であるが、予備地点が用いられていることには韓国調査3回目になってようやく気が付いた(先方からのあらかじめの説明はなく、こちらがデータの不整合に気が付き判明した)。一般に、割り当て法は計画標本リストに基づく統計的無作為標本抽出法よりも協力者は得られ易いと考えられがちである。しかし、計画標本が回答拒否の場合はその代替を調査しない後者に比べ、例えば男性若年層等に関して、むしろ割り当て表の回収目標数を達成するのが困難な地域がでて、あらかじめ設定された代替地に移動するらしい。その予備の運用はリアルタイムに決定されるので、あらかじめ計画された通りの予備地点すべてが用いられるというわけで

はない。このような事情で、割り当て法にもかかわらず、計画標本数 1000 名丁度ではなく、それをわずかに上回った時点で調査完了となるらしい。基本的な手続きは以下のとおりである。

- (1) 母集団:韓国に居住する韓国籍の成人男女(満 19 歳以上)
- (2) 調査地域:大韓民国全土(ただし、済州特別自治道:Jeju を除く)
- (3) 標本サイズ:計画標本 1000 名、有効回収標本 1005 名
- (4) 調査時期:2012 年 10 月 22 日～ 11 月 16 日
- (5) 地点数:計画 101 地点 回収結果 108 地点(広域市 51 地点、道 57 地点)

地点の抽出方法

- ①韓国全土の行政区域別は、1つの「特別市」、6つの「広域市」および8つの「道」、1つの特別自治道、計16地域に区別されている。本調査では、済州島を除外した15地域にした。通常の全国調査においても、済州特別自治道を対象外とすることが多い。本調査では、2010年の韓国国勢調査結果(韓国統計庁、2010)における19歳以上の人口分布に基づき、計画標本サイズ1000名を15地域の人口規模に比例して割り当てる。さらに、各15地域に割り当てられた標本サイズを、各地域の性別・年齢層別の人口分布に合わせ、性別・年齢層別の割り当て標本サイズを計算した。
 - ②標本サイズに応じて「広域市」および「道」のサンプリング地点数を決定した。
- 例) 標本サイズ1000、地点ごと10名を抽出する場

合、ソウル市地点数の算出方法

ソウル市の成人人口 800 万名 / 韓国全
体の成人人口 4000 万名 = 20%

ソウル市の成人人口を代表する調査対象人数：
1000 名 × 20% = 200 名

各地点平均 10 名抽出するとし、200 名を調査す
るのに必要な地点数は、計 20 地点となる。

③Gallup Korea のランダム SPU 抽出ソフトを用
い、「広域市」および「道」ごとのスタート地点
(○○区○○洞○○番地)を無作為に抽出した。
初期に計画された標本抽出地点全体の実査で十
分な回答者を確保できない場合に、さらに地点を
追加することがあるが、この場合にも、Gallup
Korea のランダム SPU 抽出ソフトを用い無作為
に抽出した。

韓国調査 2012 では、当初は 101 地点で調査を計
画していたが、実査の過程で 7 地点が追加され、最
最終的に計 108 地点で調査が実施されたこととなっ
た。実際には、計画時に 133 地点を用意し、実査で
101 地点の調査で、人口密度が著しく低い地域にお
いて地点ごとの調査対象人数を確保できなかったた
め、7 地点を追加調査するという手続きとなった。
追加地点の内訳は、Daegyeon 広域市 1 地点、
Gyeonggi 道 1 地点、Gyeongbuk 道 1 地点、
Jeonnam 道 1 地点、Chungbuk 道 1 地点、
Chungnam 道 2 地点である。これらの地域は、
Daegyeon 広域市を除き、人口密度の低い地方都市
である。

(2) 個人の選定方法

① 各調査地点に対して、センサスデータに基づき、
あらかじめ性別・年齢層別の割当計画表を作成し

た。

② 調査員は、割当計画表をもとに、無作為に選ば
れたスタート地点(○○区○○洞○○番地)から
ランダム・ルートで訪問調査を実施した。原則と
して、世帯ごとに男—女—男—女の順で選ぶと共
に、一世帯から 1 名のみを対象者とした。(基本
的には、各戸を等間隔で系統的に訪問することに
しているが、計画された回答者数を確保するため
には、その地区にある世帯を全部訪問しないと確
保できないのが実状ということである。)

③ 抽出された世帯の中に、性別・年齢別の条件を
満たす対象者が複数いる場合、調査時点において
誕生日が最も近い人を選択する「誕生日法」を用
いて個人を抽出した。

3.2 新たに調査方法を工夫した中国本土調査

通常、人口分布データがある場合、2 段標
本抽出法では第 1 段として調査対象地域全
体をいくつかの部分地域に分割し、その各部
分地域内の地点(選挙区など)数は全体での
人口比例で求め、第 2 段として各抽出地点で
は(微調整を除き)例えば 10 名などと定数
とする。しかし、北京・上海 2003 調査では、
オリンピック前の大規模な都市住民移転の
最中であったことなども影響し、正確な人口
分布データは世論調査には活用できなかった。
このような場合、人口分布が不明で人口
比例での地点抽出ができない場合は、第 1 段
で等確率で地点(選挙区など)を抽出したう
えで、抽出された各地点を訪問しその総世帯
数や総人口数を把握し、それに比例させて各

選挙区のサンプル(回答者数)を割り当てる
ことがある。これは、前述の方法に比べて推
定誤差が大きくなるので好ましくはないが、
入手できる人口や世帯の正確なデータがな
い場合に採用されるやり方の1つである。

北京・上海2003年及び2006年調査では
このような標本抽出を、「居民委員会(日本の
自治会に相当)」を抽出地点と想定して考
案し、中国人民大学と華東政法大学等の協
力を得て遂行した。しかし、結果を見ると、
サンプリング理論の詳細が理解されなかつ
たためか、調査協力率が低すぎたためか、か
なりの予備サンプルが補充されており、この
方針が徹底されていなかったようである。北
京・上海2011年調査では、不完全ながらも
世帯数と人口データが活用できたので、本来
の方法に近い抽出方法に進めた。ただし、
2011年調査は、近年の各居民委員会にお
ける住民の出入りの厳重な管理のため、前2
回で用いられたランダム・ルートによる戸別訪
問が不可能になり、高い鉄の堀に囲まれている
各居民委員会の入り口で待ち、出入りする
住民を性別・年齢層別に割り当てて抽出する
方法に変更せざるを得なかった。このため、
データの時系列比較においては、サンプリ
ング方法の差異をも勘案すべきであろう。

この割り当て法は、中国関連での比較可能
性を確保する目的で香港2011と台湾2011
調査でも採用したのだが、現在でも台湾では、
大都市部は別にして、従来通りの戸別訪問
面接ができているということであり、われわ

れの判断がベストであったかは検討の余地
が残る。逆に、香港は調査環境のためか、担
当調査機関のためか、目標回収数を達成する
ために調査期間が数か月に及ぶという事態
になった。この点も、将来の調査のためには
検討の余地がある。

3.3 ベトナム2013調査の標本抽出計画と 回収状況等

ベトナムの *Indochina research* 社
人口センサスデータを用いながら各地域で
の地点数の割り当てには北京・上海2003
調査に近い方法を採用している。つまり、全国を
6分割し、その各地域から省/中央直轄市
(*province*)を3つずつ抽出するのだが、各
省/中央直轄市に割り当てる地点数は全国
6地域の人口分布比例ではなく、抽出した
18の省/中央直轄市間の人口比例で割り当
てている。さらに回収標本全体での都市部と地
方部の標本サイズの比率は7:3と決めてい
る。また、性別・年齢層別のソフトクオー
ター(*soft quarter*)と呼ばれる割り当て表が作成
されている。割り当て法(クォーターサン
プリング)が用いられているわけではなく、あ
くまでもランダム・ルート法によるサンプリ
ングだが、回答者の協力率の偏りにより有効
回収標本が割り当て表から著しく外れ過ぎ
ていないかを確認するためとされる。しかし、
回収結果を見ると割り当て表とほぼ同じで
あり、実践上の回収管理として用いられて
いることが推察される。やはり割り当て法では

なくランダム・ルート法を用いているというオーストラリア 2006 調査において、人口センサスから計算される分布表にあまりに整合した結果を得て不思議であったが、どうやら、ランダム・ルート法を用いている多くの国や機関では、恣意性の排除を考えて「割り当て法は用いず、ランダム・ルート法を用いている」と称しながら、「ランダム・ルート法だが、回収結果をモニターし、最終的にあらかじめ作成された割り当て表に近くなるように統制しているのが実情であることが、推察された。これは、民主主義的に等確率標本抽出法を守ることとなっている機関では、仮に割り当て法などで恣意性が入り込む調査方法の細部の問題があってもそれを隠蔽しがちなのに対して、現状の政治体制や社会状況などからベトナムでは隠蔽する必要を感じなかったために露呈してきた側面かもしれない。

母集団の推定のための統計的無作為標本抽出法という考えからは承服しがたいが、民主主義の国でないため市場調査の方法をそのまま援用しているということか。しかし、都市部と地方の格差、国全体の政治への影響力なども視野に入れると、ベトナムの実情を浮き彫りにするには現行の方法が十分なのかもしれないと思わせることもある。調査方法の概要は以下のとおりである。

- (1) 母集団:ベトナム全国に居住する 18~65 歳のベトナム国籍を持つ男女。

- (2) 標本:計画標本 1000 名 (129 地点) (割り当て法のため、回収目標標本数も同数)
- (3) 抽出方法:クラスターサンプリング (誕生日法[next birthday]使用。割り当て表援用)
- ①全国を 6 地域 (area) に分け、各地域から省/中央直轄市 (province) を 3 つずつ、合計で 18 の省/中央直轄市を選ぶ。2009 年の国勢調査の人口分布に応じて各地域と各省/中央直轄市の標本数を割り当てる。
 - ②選ばれた 18 の省/中央直轄市において、標本の都市部 (urban) と農村部 (rural) のサンプルサイズの比が 3 対 7 に、1 地点あたりの標本数が 10 以下となるように、県/省直轄市/市/区 (district) と町/村/坊 (ward) を選ぶ。
 - ③抽出された町/村/坊において、無作為に開始街区 (starting block) を決め、その街区の 4 つの角 (corner) の内の 1 つの角を開始角 (starting corner) として選ぶ。
 - ④調査員は、開始角から開始街区の壁 (wall) に沿って右手廻り法 (right hand rule) で移動する。最初に訪問する地点は、乱数を発生させることにより得られる数 k を用いて、開始角から k 軒目の世帯とする。
 - ⑤世帯内での回答者の抽出には、抽出された各世帯にいる 18~65 歳の中から、調査日において最も誕生日が来るのが近い人を抽出する誕生日法 (next birthday method) を用いる。
 - ⑥世帯間隔は、 k 軒おきに世帯を訪問し、町/村/坊ごとに決められた標本数が得られるまで調査を続ける。

表2 「アジア・太平洋価値観国際比較」調査(2010-2014)における各国・地域の「協力率」(＝有効回答数÷[有効回答数+拒否数])

日本以外では厳密な統計的標本抽出法はとられていないため、回収率は計算できないことが多い。それらの多くは計画した目標数を達成する各種の割り当て法であるが、ここでは訪問で接触できた数のうち、対象外を除き、有効回答の割合である「協力率」と、その補数である拒否率を示す。通常の「回収率」計算では、母数には移転・病氣・不在なども含むが、ここではそれらを除外した「協力率」を考える。日本では「不在率」も回収率に関する大きな問題であるが、海外調査に多いランダム・ルート法の場合、「不在者」が対象外であるか否かすら確認できないため、ここでは除外する。方法によっては不在率がかかなり高率となり得るので、ここでの「協力率」は真の「回収率」よりもかなり高くなっていると思われる。各国の調査方法や集計方法がかかなり異なるので厳密な比較のためではなく、あくまでも参考のためである。「協力率」が高い方が調査の質が高いとは必ずしも言えず、調査法が厳密な統計的標本抽出法から外れているため、見かけ上の「協力率」が高いということもあり得る。

国・地域	調査年	調査法	協力率(%)	拒否率(%)	備考
日本	2010	層化2段無作為標本抽出法	63	37	通常の意味の「回収率」は、47.3%であった。 ランダムルート法だが、協力率や在宅率、住居の数など、結局、実際は前回調査(2006)の割り当てとほぼ変わらぬ調査方法になったようだ。訪問先が対象外の率が20%ある(性・年齢層・人種のソフトクォータの可能性あり)。
米国	2010	性・年齢層・人種の割り当てに基づくランダムルート法	47	53	
北京	2011	性別・年齢層別の割り当て法	(参考値)79	(参考値)21	
上海	2011	性別・年齢層別の割り当て法	不明	不明	北京と上海では、各戸への訪問面接は困難になってしまった。それゆえ、居民委員会の入り口で調査対象に協力依頼せざるを得なかった。この方法では、路上で各対象に協力依頼の声をかけるのだが、「協力率」すら厳密には計算しがたい。香港も同様の方法を探ったが、目標割り当て数になかなか到達できずに、調査期間が半年に及んだ。
香港	2011-12	性別・年齢層別の割り当て法	(参考値)22	(参考値)78	
台湾	2011	性別・年齢層別の割り当て法	19	81	台湾は都市部を除けば戸別訪問面接はできるらしいが、今回は大陸の方法をあえて採用したので、「協力率」は低くなったと思われる。
韓国	2012	性別・年齢層別の割り当てに基づくランダム・クォータ	38	62	計画標本地点に予備を設け、最終的に計画目標数にするようにしている。
シンガポール	2012	住居タイプ別の世帯リストに基づくランダム・ルート法	50	50	総訪問数に対しては、不在率、対象外の率がそれぞれ51%、13%である。
オーストラリア	2012	クローバー・リーブ法	21	79	ほとんどの人口が集中する3大都市のみのランダム・ルートである。
インド	2013	ライト・ハンド・メソッド法	(参考値「回収率」)27		投票用紙記入所名簿を用いた、10大都市のみのランダム・ルートである。
ベトナム	2013	ライト・ハンド・メソッド法	85	15	ソフトクォータと称し、基本はランダム・ルート法だが割り当てで管理する。

以上、韓国、中国、ベトナム調査の方法について触れた。他の国々については、(表2)に国・地域別概要を示すが、その詳細は、(表1)に示した既刊の研究レポートやWEBサイトを参照されたい。

なお、猪口孝らによるアジアバロメーターはわれわれの調査よりも広範囲の国々をカバーしている。しかし、アジアの多くの国々では、厳格な統計的標本抽出法の適用が現実的ではないことが了解されるであろう。したがって、発表されている統計数字の信頼性に注意が必要である。表面上の数字の解析に対して慎重を期すべきだが、それ以前に各国の調査方法の実践の詳細、データのバイアスなどの問題点を浮き彫りにすることが、各国の政治、経済、社会状況を如実に語る貴重な情報であることに留意すべきである。

(<https://www.asiabarometer.org/ja/surveys/2007> 参照)

また、大阪商業大学と東京大学社会科学研究所のEASSは、日本と台湾と韓国と香港・中国の4ヵ国・地域で実施されているが、これらは先述した中国本土の問題は別にして、一応、統計的標本抽出法が活用できる隣国に限った国際比較調査となっている。

4. まとめに代えて

各国の実践的調査方法の差違は、主として母集団に関する信頼できる統計データの有無、世論調査を1人1票の民主主義の投票の擬制として考えているか否か(等確率標

本抽出の重視)に関わると思われる。また、民主主義の国々でも、整備された標本抽出リストが世論調査に活用できない場合、厳密な等確率抽出が遂行困難である。また、日本の戦後の科学的世論調査の確立の歴史は世界的には特異であり、多くの国では市場調査の延長上に世論調査の発展があった。したがって、等確率抽出の厳密さよりも、販売促進や政策への世論支持の取り付けなど、当該の調査目的に照らした成果が調査自体の評価基準であり得る。しかし、日本では、まず何よりも母集団の意見の賛否の分布を科学的に推定することが主眼に置かれた。その推定値が真の値に十分近いか否かは直接には検証できないため、その保証は厳格な統計的標本抽出方法を守っているか否かに帰着された。

今日の回収率の低下や、母集団推定の理論が曖昧な電話調査などでは、その視点からの正当化は困難であろう。もし、現在のそのような世論調査の方法論を敢えて正当化しようとするのであれば、世論調査の結果が具体的にどのように生かされているのかを示すことが、新たな評価基準としては必要かもしれない。ただし、各マスコミの調査結果の取り上げ方、政府の調査の方法論や結果の発表の仕方が安易な方向へ流れることには危惧する。科学的世論調査の信頼性は、各時代の問題を抱えながらも戦後長年をかけて確立してきたのだが、貶めるのは一瞬で済む。

戦後の自民党の派閥政治が崩壊し、近年は「世論」を無視しえない政治になってきた。

それ自体はよいことに思えるが、各世論調査の質を見極める能力、世論調査の結果の解析のリテラシーの向上がさらに強く求められる時代になっている。

参考文献

- 林知己夫(1984) . 調査の科学. 講談社ブルーバックス. (ちくま学芸文庫 2011 年再刊..)
- 吉野諒三 (2005). 東アジア価値観調査－文化多様体解析 (CULMAN) に基づく計量文明論の構築へ向けて -. 行動計量学、Vol.32, No.1, pp.133-146.
- 吉野諒三編 (2007). 東アジア国民性比較 データの科学. 勉誠出版.
- 吉野諒三編 (2010) 環太平洋価値観国際比較調査-東アジアと周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析-. 総合報告書.
- 吉野諒三・林文・山岡和枝 (2010). 「国際比較データの解析」 朝倉書店.

アジア・太平洋価値観国際比較

---信頼感の文化多様体解析---

吉野諒三

統計数理研究所・調査科学研究センター、及び総合大学院大学・複合科学研究科・統計学専攻

1. 本調査研究の背景

本特別セッションは、過去4年に引き続き「アジア・太平洋価値観国際比較調査---文化多様体の統計科学的解析---」（科学研究費・基盤研究S, 代表・吉野諒三）（2010-14年度）に関する研究報告を主とする。本研究は2002-05年度「東アジア価値観国際比較調査」、及び2004-09年度「環太平洋価値観国際比較調査」の拡大を意図した研究の一環であり、歴史的には統計数理研究所における1953年以來の「日本人の国民性」調査及び1971年以來の「意識の国際比較」の延長上にある。「日本人の国民性」調査は、戦後民主主義の基盤としての官民の世論調査の発展と緊密に結びつき、「意識の国際比較」は連鎖的調査分析（Cultural Link Analysis, CLA）の確立へとつながった。さらに、現在の研究は、計量的文明論としての「文化多様体解析（Cultural Manifold Analysis, CULMAN）」という方法論研究の一環として位置づけられる。

----- 表 1. List of Recent Cross-National Surveys by ISM. -----

2002-2005	East Asia Values Survey (EAVS) : Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, & Singapore
2004-2009	Pacific-Rim Values Survey (PRVS) : Japan, USA, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, Singapore, Australia & India
2010-2014	Asia-Pacific Values Survey (APVS) : Japan, USA, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, Singapore, Australia, India & Vietnam.

以下、吉野の発表では、昨年の発表内容について、アジア・太平洋価値観国際比較調査の最終データを補完する。

2 GSSの信頼感に関する3項目への回答分布

我々の国内及び国際比較では、1998年より、GSS(General Social Survey)に含まれる対人的信頼感に関する項目を取り入れている。GSS自体は、統計数理研究所の「日本人の国民性」調査を模して開始された各国や国際比較の経年調査の1つであるが、当該の項目に関しては、逆輸入の形で、日本人の国民性調査1988年にとりいれられたものである。表現は多少のヴァリエーションがある場合もあるが、われわれの国際比較では、以下の表現を用いることが多い。

a たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

1. 他人の役にたとうとしている

2. 自分のことだけ考えている

b 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

1.他人は機会があれば利用しようとしていると思う 2 そんなことはないと思う

c たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

1 信頼できると思う 2 常に用心した方がよい

これらの項目は、Rosenberg(1956)が学生調査で、再生率 92%の Guttman スケールを構成して得た「Faith-in-People Scale」の 5 項目(trustworthiness, honesty, goodness, generosity, brotherliness)が元となっている。その 5 項目は Almond & Verba(1963)等の研究にも用いられ、その後、ミシガン大学 Survey Research Center の ISR 調査やシカゴ大学 NORC の GSS で用いられる過程で 3 項目が、回答スケールが 2 値となるなど表現が修正され(Robinson, Shaver & Wrightsman, 1991), 1988 年ごろからは統計数理研究所の「日本人の国民性調査」や国際比較調査でも用いられるようになった。

元の 5 項目は多数の項目から因子分析で独立した因子として抽出されたもので、特に上記の 3 項目は、「trust in people」のスケールとして用いられている。項目 a は「互酬性(norm of reciprocity)」、b は「公平性(fairness)」、c は「一般的対人信頼感(generalized interpersonal trust)」の尺度として扱われることも多い。しかし、それらの名称の独り歩きには注意すべきと思われる。その名称のままの意味で用いる傾向は、政治・経済にせよ、医療にせよ、先行する理論やモデルを実証データで証明しようとするトップダウン型の研究に多くみられる (Kawachi, Kennedy & Wilkinson, 1999; Uslaner, 2002)。しかし、単一の項目が、特定のテーマの尺度として十分な妥当性と信頼性が担保されないままに、他の重要なテーマの変数を従属変数として説明するための独立変数として用いることには、慎重でなければならない。

また、c については、表現を「たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、信用できないと思いますか」と後半の部分を変えると、日米とも「信頼できる」が増えることも報告されている (Yoshino, 2002)。c の表現は、敢えて簡単に「信頼できるかできないか」を聞くのではなく、「信頼できるか」と「常に用心した方がよい」と必ずしも矛盾はしない 2 つの価値観を並べ、タテマエ (social desirability) で簡単に「信頼できる」という回答が高く出るのを、ある程度、抑制する効果があると推察される。これに関し、例えば Miller & Mitamura(2003) は、この項目について日米の学生実験調査で 2 つの要素への反応の違いを考察している。

項目 a,b,c は因子分析により独立した因子として抽出されたのであるが、必ずしも無相関でない。筆者らの国際比較データの解析では、一貫して、日本は b と c の相関、アメリカは a と b の相関が相対的に高いことが確認されている (Yoshino, 2002, 2009; 吉野・大崎、2013)。

表 2 に、これまでの統計数理研究所による日米欧 7 개국調査、東アジア価値観調査、環太平洋価値観調査、アジア太平洋調査における、各国の信頼感 3 項目の相関を示した。概ね、欧米と東アジアの傾向が大きく分かれ、日本と韓国とベトナム、そしてインドはそれぞれ、それらとは多少とも異なる様相を示している (注意 韓国データの安定性は確認必要)。調査年次の差があるが、複数回異なる年次で調査した国・地域では概ね、安定した様相が確認できる。このように国によって 3 項目間の相関のパターンが異なることは、各項目が各国において持つ意味の多義性、多様

性あるいは文化差を示唆している。

このように、それぞれの国において、信頼感 3 項目の相互関係を慎重に考察することが必要と思われるが、そのためには各国の人々の外向的態度や内向的態度、自己開示性など、既存の知見とともに、データを読み解く必要がある(吉野・角田, 2010)。さらに詳細は、吉野・大崎 (2013)、Yoshino (2013、2014a,b) をご参照ください。各調査の集計データは、<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/sr/index.html> よりダウンロード可能のものがある。

図 1. C. 「一般的信頼」の「信頼できる」の回答の割合

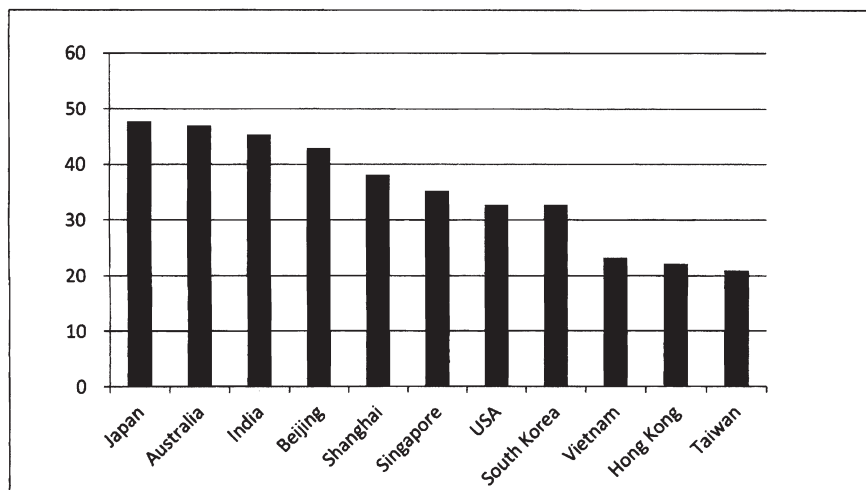


表 2. GSS 信頼感 3 項目間の相関 (スピアマンの相関係数) の国際比較

アジア太平洋価値観調査

調査年	2010	2010	2011	2011	2011	2011	2011	2012	2012	2013	2013
	Japan	USA	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	Australia	India	Vietnam
a × b	0.14	0.49	0.19	0.26	0.31	0.28	0.00	0.31	0.43	0.04	0.10
a × c	0.24	0.44	0.21	0.21	0.28	0.27	0.23	0.29	0.36	0.25	0.21
b × c	0.28	0.39	0.21	0.24	0.26	0.22	0.02	0.32	0.35	0.01	0.35

環太平洋価値観調査

調査年	2004	2006	2005	2005	2005	2006	2006	2007	2007	2008
	Japan	USA	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	Australia	India
a × b	0.20	0.53	0.21	0.24	0.18	0.20	0.10	0.32	0.44	0.05
a × c	0.30	0.36	0.23	0.21	0.19	0.22	0.24	0.32	0.38	0.35
b × c	0.31	0.37	0.15	0.22	0.22	0.12	0.26	0.21	0.32	0.00

東アジア価値観調査

調査年	2002	2002	2002	2002	2003	2003	2004	2003	2002
	Japan	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	Kunming	Hangzhou
a × b	0.23	0.21	0.33	0.18	0.26	0.05	0.32	0.37	0.27
a × c	0.32	0.28	0.33	0.19	0.26	0.13	0.31	0.33	0.21
b × c	0.37	0.13	0.24	0.16	0.15	0.24	0.22	0.31	0.25

日米欧7か国調査

調査年	1988	1988					1987	1987	1992	1993	1987
	Japan	USA					Franc	UK	Italy	Nether	W.Ger
							e			lands	many
a × b	0.14	0.45					0.32	0.44	0.40	0.36	0.36
a × c	0.24	0.37					0.21	0.35	0.30	0.29	0.49
b × c	0.29	0.44					0.38	0.36	0.34	0.32	0.34

a: Helpful, b: Fair, c: Trust 3対の相関の中で最も高いものを太字で示している。

統計数理研究所の国際比較調査データに基づく。各項目の回答分布は、「環太平洋価値観調査」総合報告書(吉野編, 2010)第3章, 及び「アジア太平洋価値観調査」2010日本調査(吉野・二階堂編, 2011a)と2010USA調査(吉野・二階堂編, 2011b)参照。

謝辞

本研究は、日本学術振興会による科学研究費補助金・基盤研究S(課題番号No.22223006, 研究代表 吉野諒三)による。

参考文献

Yoshino, R. (2009). Reconstruction of trust on a cultural manifold sense of trust in ongitudinal and cross-national surveys of national character. *Behaviormetrika*, 36, 2, 114-147.

Yoshino, R.(2013). On The Trust of Nations --- The World as a Hierarchical Cultural Manifold ---. In N.I.Dryakhlov et al., "Japan-Russia Conference on Trust in Society, Business and Organization," pp.213-250. National Research University, Moscow.

吉野諒三(2014a). 信頼感の国際比較研究. 第7章 Trust of Nations on Cultural Mnaifold Analysis (CULMAN): Sense of trsut in our longitudinal andcross-national surveys of national character. 中央大学社会科学研究所叢書,26.

吉野諒三(2014b). 『幸福度』は政策科学のために測定可能か? 特集テーマ「我が国における『幸福度』再考」 特集論説『幸福度』再考. 日本計画行政学会誌 計画行政,37,2,35-40.

吉野諒三・大崎裕子 (2013). 「主観的階層帰属意識」,「満足感」と「信頼感」——社会調査における質問項目の尺度についての留意点——. *行動計量学* 40,2,97-114.

吉野諒三・角田弘子 (2010). 人々の関係の広がりについて. *行動計量学*, 37, 13-17.

Well-being と social capital の国際比較

○山岡 和枝¹

吉野 諒三²

¹ 帝京大学大学院公衆衛生学研究科

² 統計数理研究所調査科学研究センター

1 はじめに

Well-being(安寧)は最近の医療・社会調査研究において重要な問題となっている。多くの調査では主観的な well-being に着目し、さまざまな定義のもとで調査が実施されている。本研究では主観的安寧の要素として幸福感、生活の質(生活満足度)、健康満足度、自覚症状に着目した。しかし、その反応(測定)には、性差や文化、その他の社会・文化的相違が影響する可能性がある。さらに回答の欠損の問題も無視できない可能性がある。社会的価値観や質問紙調査への一般的反応傾向に関しては、文化的連鎖解析(吉野&林、2002年)および文化的な種々の分析(吉野ら、2009年)のパラダイムの下で、半世紀にわたり国際比較調査での地域格差が報告されてきた。一方で、近年、われわれの実施した「健康と文化に関する統計学的研究」(アメリカ、ドイツ、フランス、英国、日本、韓国、台湾、2002-2010)の一連の調査はRDDによるCATIシステムを使用した電話調査(最初の5カ国)と面接調査(韓国・台湾)により行なったものである(<http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~yama-hc/>)。昨年度は、特に運命観と人生観の2つの生命観に関する質問は翻訳文の相違や文化差の影響について報告してきた。本研究では、well-being と social capital (社会関係資本) をはじめ様々な社会文化的要因がどのように関連しているかを、欠損値を取り扱う方法論の問題と特性や制限も含めた上で検討し、これらの国々の異同の姿を明らかにすることを目的とした。

2 方法

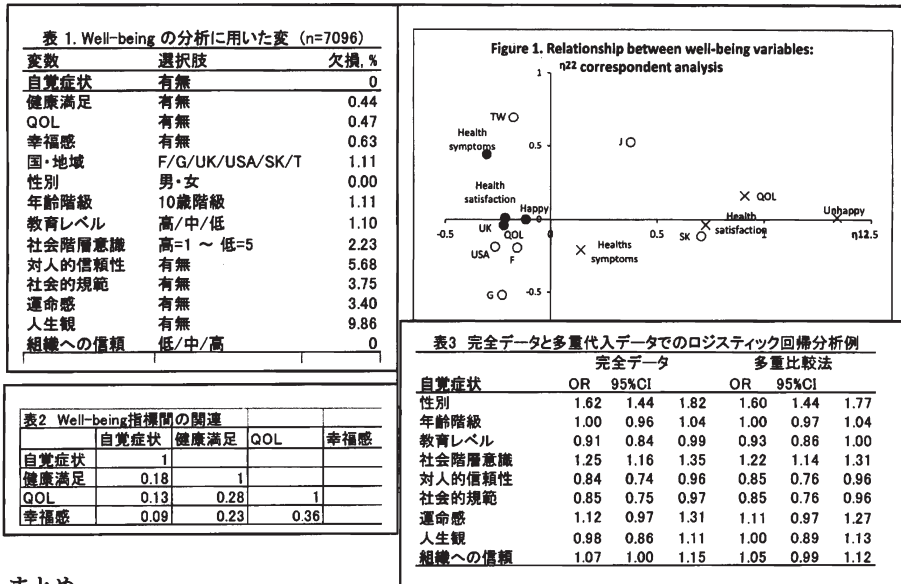
Well-being と関連する質問項目として、幸福感、生活の質、満足度、自覚症状(頭痛、腰痛、いらいら、うつ、不眠)の有無の4項目を取り上げた。social capital をはじめとする様々な社会文化的要因として、性別、年齢階級(10歳階級)、教育レベル(低・中・高)、社会的階層意識(5段階)、信頼感の有無、社会的規範の有無、運命観(人の運命は決まっており、人の力では変えられない vs. 人生は自分で切り開いていくものだ)、人生観(人生は太く短く生きたい vs. 人生は細く長く生きたい)、組織への信頼感の程度(低・中・高)を取り上げた。昨年度報告したとおり、生命観に関する質問では選択肢を2つ挙げ、人生に対する考え方について近い方を選ぶものであり、欠損値が多い傾向がある。

3 結果と考察

欠損値については表1にしめす。国により欠損値の多少はあるが、信頼感、社会的規範、運命感、人生観という、やや抽象的概念を含む項目で欠損が多くなっていた。次に、取り上げ

た well-being に関する質問項目について数量化3類によるパターン分類を行った結果を図1に示す。項目間の関連性では、特に悪い方向の回答で一次的な構造が見られ、自覚症状、健康満足度、生活の質、幸福感の順で特に第1軸の得点が多くなっている傾向が認められた。

Well-being の各項目を結果変数として、それぞれについてロジスティックモデルにより、欠損のあるデータを取り除いた完全データ、欠損を1つのカテゴリーとして加えたデータ、および多重代入法により補完したデータにより分析した結果を、それぞれについてオッズ比の推定値で比較した。オッズ比そのものの概ねの傾向は変わることはなく、特に関連の強い項目がいくつか見られた。もちろん、翻訳・逆翻訳の検討で言語的には一応は同等と見なされても、地域や国の文化差を超えた国際比較可能性は完全に保障されるものではなく(吉野,林,山岡,2010)、国際比較調査での質問文の翻訳の相違による影響を十分に検討することが肝要であること(林,2001;吉野,2001; Yoshino & Hayashi, 2002) はいうまでもない。なお、詳細については当日報告する。



4 まとめ

Well-being の要素の指標間の関連性は強くはないがあること、social capital などの社会関連指標との関連も欠損値の取り扱いの如何に関わらず認められることがわかった。

文献

Yamaoka K. (2008) Social capital and health and well-being in East Asia: A population -based study, *Social Science & Medicine* 66: 885-899.

Yoshino, R. & Hayashi, C. (2002) An overview of cultural link analysis of national character, *Behaviormetrika*, 29,125-141.

Yoshino R, Hayashi C. (2002). An overview of cultural link analysis of national character, *Behaviormetrika*, 29,125-141.

Yoshino R, Nikaido K, Fujita T. (2009). Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character : paradigm of cross-national survey, *Behaviormetrika* 36, 2, 89-113

吉野諒三(2001) 心を測る一個と集団の意識の科学一. 東京: 朝倉書店

林知己夫(2001) データの科学. 東京: 朝倉書店

吉野諒三, 林文, 山岡和枝 (2010) 国際比較データの解析. 東京: 朝倉書店

WEB: <http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~yama-hc/> e-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp

多言語社会での社会調査における留意点

—シンガポール及びインド調査の比較検討—

藤田泰昌（長崎大学）・吉野諒三（統計数理研究所）

1 はじめに

国際比較調査を実施する上で留意すべき点については、既に多くの考察がなされてきた。たとえば、標本抽出の手法の違い、回収率の違い、翻訳の問題、調査員の熟達度の違いといった点での国家間での差異などが指摘されてきた（たとえば吉野他 2010、Heath et al. 2005）。だが、一国内における調査条件の違い、とりわけ多言語社会ゆえの調査の留意点については、十分考慮されてきたとは言いがたい。本報告では、2012年のシンガポール調査および2013年のインド調査の比較検討を通じて、多言語社会での調査において留意すべき問題について考察を行う。

2 社会調査における言語の問題

国際的な調査を行う場合、そしてそれが多言語社会での社会調査という場合、言語の問題は重要な問題となる。まず、翻訳の過程で調査主体が意図した設問内容が回答者に伝わらないものになっていないかという問題をクリアして、国家間あるいは言語間で調査結果の比較可能性を確保しなければならない。それゆえ、多言語社会での調査では、調査対象国で用いられる言語の数に合わせて複数種類の調査票を用意する必要がある。我々のアジア・太平洋価値観国際比較調査でも、シンガポール調査では3種類の調査票（中国語英語併記、マレー語英語併記、タミル語英語併記）を用意し、インド調査では8種類の調査票を用いた。

だが、複数言語で調査票を用意すれば、多言語社会での調査において留意すべき言語の問題が解決するわけではない。回答者と面接調査員の主要言語が一致していない場合、両者の主要言語が同一の場合とは異なる回答がなされるのではないかという問題があるからである。この問題は、面接調査員の主要言語の割合を、回答者の主要言語の割合と同一になるように配置したとしても解決しない。なぜなら、言語ごとに住民の居住地域が分かれているわけではないからである。したがって、面接調査員の訪問先回答者が面接調査員と主言語を異にするということは珍しいことではなくなってしまう。たとえば以下の表に示すインド（ムンバイ）でいえば、ヒンディー語を主要言語とする回答者59人のうち、ヒンディー語以外の異なる言語を主要言語とする面接調査員の訪問を受けたのは22人（40%弱）に及ぶ。同様に、マラティ語を主要言語とする回答者126人のうち、異なる主要言語をもつ面接調査員の訪問を受けたのは30%を越え、さらに英語を主要言語とする回答者82人の場合には70%を越える調査員の主要言語は英語ではなかった。

回答者本人主要言語と調査員主要言語のクロス表

インド (ムンバイ)		調査員言語									合計
		Hindi	Tamil	Kannada	Telugu	Gujarati	Marathi	Malayalam	English	Other	
Hindi	度数	37	0	0	0	0	13	0	6	3	59
	回答者本人主要言語の%	62.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.0%	0.0%	10.2%	5.1%	100.0%
Tamil	度数	1	2	0	0	0	2	0	0	0	5
	回答者本人主要言語の%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
Kannada	度数	0	0	2	0	0	0	0	2	0	4
	回答者本人主要言語の%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
Telugu	度数	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
	回答者本人主要言語の%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
Gujarati	度数	2	0	0	0	6	4	0	3	0	15
	回答者本人主要言語の%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	26.7%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%
Marathi	度数	30	0	0	0	0	83	0	12	1	126
	回答者本人主要言語の%	23.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	65.9%	0.0%	9.5%	0.8%	100.0%
Malayalam	度数	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
	回答者本人主要言語の%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
English	度数	26	0	1	0	1	29	0	25	0	82
	回答者本人主要言語の%	31.7%	0.0%	1.2%	0.0%	1.2%	35.4%	0.0%	30.5%	0.0%	100.0%
Other	度数	6	0	0	0	0	11	0	1	5	23
	回答者本人主要言語の%	26.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	47.8%	0.0%	4.3%	21.7%	100.0%
合計	度数	102	2	3	2	7	145	1	49	9	320
	回答者本人主要言語の%	31.9%	0.6%	0.9%	0.6%	2.2%	45.3%	0.3%	15.3%	2.8%	100.0%

3 シンガポール調査とインド調査の比較検討

面接調査員による調査において、このような調査員と回答者の間の主要言語の不一致は回答に影響しないのだろうか。この点を検討するため、同じ主要言語の回答者であっても、担当した面接調査員の主要言語と同一であるか否かによって、回答パターンに違いがあるかどうかを本報告は分析・考察する。分析対象として、回答肢が2択ではないために回答傾向の差が出やすく、また主観的要素が大きいと思われる以下のような質問項目群を取り上げる。さらに、そのような回答パターンの違いが、多次元データ解析の分析結果にも影響を与えるかどうかについても分析・考察を行う。

問 12 あなたと同じ年齢の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか

- 1非常に満足している 2満足している 3あまり満足していない 4満足していない

問 17 あなたは、次のような危険について不安を感じることはありませんか（重い病気、交通事故、失業、戦争、原子力施設の事故）

- 1非常に感じる 2かなり感じる 3少しは感じる 4全く感じない

主観的幸福度の実態と影響要因 —アジア・太平洋価値観の国際比較を中心に—

鄭 躍軍

同志社大学大学院 文化情報学研究科

1 はじめに

幸福は誰しもが願っていることであるが、幸福への理解は人によって様々である。近年、幸福についての研究は、哲学、心理学、経済学、政治学など多様な観点から世界的になされている。特に幸福の意味、幸福度の科学的測定方法などについて、先進国で広く議論されており、国民の幸福を高めるための新しい知見が示されるようになった(Bok, 2010)。一方で、幸福の重要な要因として、単に客観的指標により測定できる物質的な豊かさだけでなく、主観的指標しか表せない精神的な充足さにも注目する必要性が明らかになった。その例として、経済協力開発機構(OECD)は、2009年に幸福度を「物質的生活条件」「生活の質(QoL)」、「持続可能性」の3つの側面に分け、測定指標を提案したことが挙げられる。

主観的幸福度は、生活の質の測定として、物質的生活条件だけではなく、心理的・文化的要因による影響をも受けると考えられる。例えば、OECDの2014年度レポートでは、「米国の力強い経済と企業セクターの繁栄によって、米国民は平均的に高い水準の所得と豊かな暮らしを享受しているが、国民の幸福度は過去30年間ほぼ横ばいだ」と指摘している。これは、社会経済状況を評価するための客観的指標よりも、主観的幸福度指標により幸福の度合いを評価することは政策決定にとって大きな意義をもつことを示唆している。

主観的幸福度の評価には、統一した指標があるわけではなく、多くの指標が提案されている。Dienerらは、主観的幸福度の測定に「認知的指標」と「感情的指標」の両方が必要だと主張している(Diener et al, 1999)。認知的指標は生活満足度を意味するが、感情的指標は幸せや喜び、楽しさなどの肯定的感情と、怒りや痛み、悲しみなどの否定的感情の両面を指す。約10年前までは、研究者の間に幸福度について意味のある測定は不可能だと考えられていたが、最近では様々な調査研究が行われ、主観的幸福度に関する信頼できる調査データの収集は可能であるということが実証されている。例えば、多くの調査では世帯収入といった客観的指標に比べ、生活満足度についての質問は回答率が高い。また、主観的幸福に関する質問は回答者が属する文化的背景の如何を問わず、同じように理解されることが示されている(Diener and Tov, 2006)。さらに、自分の生活全般をどのように評価しているという指標と、多くの人が経験している肯定的感情を表す指標を焦点に、主観的幸福度を測定する研究の重要性が明らかになった。

筆者は、これまで「東アジア価値観国際比較調査」(2002~2005年)、「環太平洋価値観国際比較調査」(2005-2008年)と「アジア・太平洋価値観国際比較調査」(2010~2014年)では取り上げた「健康」「生活」「家庭」に対する満足度、「社会階層意識」の調査データを基に、異なる文化圏に属する人びとの主観的幸福度の実態を計量的に分析してきた。その結果、人々の主観的幸福度は住宅、収入、雇用、共同体、教育、ガバナンス、医療などの客観的社会経済状況よりも、価値観を礎とする主観的判断からの影響を多く受けていることが明らかになった(鄭, 2012)。その上で、筆者は生活全般の満足度ならびに肯定的感情の側面から、主観的幸福度を計測するための総合尺度を提案した(鄭, 2013)。そこで本研究では、主観的幸福度の総合尺度を基に、アジア・太平洋諸国の実態及びその影響要因を明らかにすることを目的とした。

2 研究方法

主観的幸福度は、個人の価値観や置かれた社会経済状況に対する判断であるという視点から、本研究では、表1に示している4項目を主観的幸福度の計測指標として選定した。国・地域別の特徴及び時系列変化を把握すると同時に、性別、年齢層、学歴、世帯収入、婚姻状態、家族構成、宗教信仰、社会関係資本などの人口統計学的要因と主観的幸福度の関連を焦点に、国・地域別の共通性と特異性を比較分析する。

表1 主観的幸福度計測用質問項目及び総合得点

質問項目	得点と選択肢				
	2	3	4	5	
健康満足度	非常に満足している	満足している	あまり満足していない	満足していない	
生活満足度	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
	上	中の上	中の中	中の下	下

以上の4つの質問項目ではいずれも順序尺度による選択肢を用いているが、得点の客観性を失わないために、コード番号の合計をそのまま主観的幸福度の総合得点とした(鄭, 2013)。その結果、表2に示されているように、総合得点が低いほど主観的幸福度は高い。

表2 主観的幸福度の総合尺度

尺度	得点
とても幸福	4~6
幸福	7~9
どちらともいえない	10~13
不幸	14~16
とても不幸	17~19

健康満足度、家庭満足度、生活満足度の3項目の最も肯定的選択肢の回答割合の時系列変化に注目するが、社会階層意識について「上」と「中の上」を合わせた回答傾向の変化を焦点に考察した。また、主観的幸福度の影響要因として、性別、年齢、学歴の他に、世帯収入、婚姻状態、家族構成、宗教信仰、社会関係資本(加入組織の有無)の文化的要因にも配慮した。関連性分析を行うことで、文化、経済、政治の異なる国・地域の統計学的特徴を抽出することを試みた。さらに、一連の分析結果を基に、主観的幸福度の測定指標の妥当性と信憑性を再検証した。

3 結果と考察

3.1 主観的幸福度の時系列変化

2002年から継続している価値観国際比較調査のデータ分析結果から、アジア・太平洋諸国・地域の特徴を読み取ることができた。図1は、国・地域別の健康満足度の最も肯定的な回答(非常に満足している)の時系列変化を示している。米国、豪州、シンガポール、インドと比べ、東アジア

諸国の健康満足度は全体的に低いが、香港と台湾以外の国・地域は過去の10年間に上昇する傾向にある。図2は、家庭満足度の「満足」割合の時系列変化を示すものである。中国文化圏やインド、そして米豪において家庭満足度が高い水準にあり、かつ大きな変化は見られなかった。これに対して、日本のそれはやや低くほぼ横ばいで移行しているが、韓国の「満足」割合は激しく下がっている。図3は、生活満足度の「満足」割合の時系列変化の様子である。日本、米国、シンガポール、上海、香港、台湾などの国・地域において、10年の間に生活満足度はほぼ安定している。しかし、韓国では人びとの「満足」割合は約10%と減っている。

社会階層意識は、自分が属する社会階層を総合的に評価する指標である。図4に示しているように、インド以外の国・地域において「上」と「中の上」を合わせた回答割合が少なく、国の社会経済状況や文化に関わらず「中流意識」は定着している。また、日本、韓国、北京、豪州のように変化はほとんど見られない国・地域もあれば、上海、台湾、香港、シンガポールの如く少し増える国・地域もある。なお、インド以外の国において、「上」の回答割合は20%以下に止まっている。

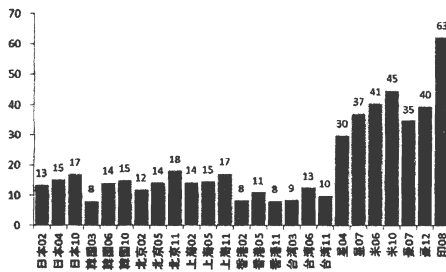


図1 健康満足度(非常に満足)の変化

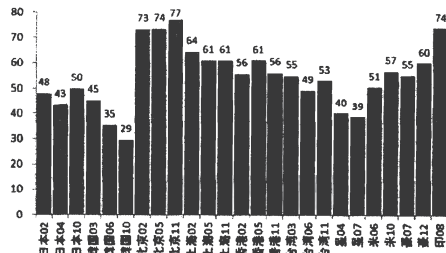


図2 家庭満足度(満足)の変化

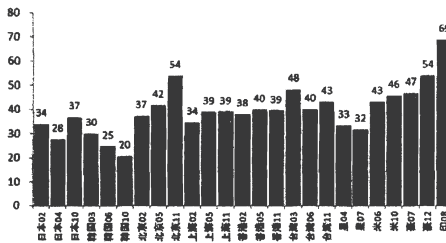


図3 生活満足度(満足)の変化

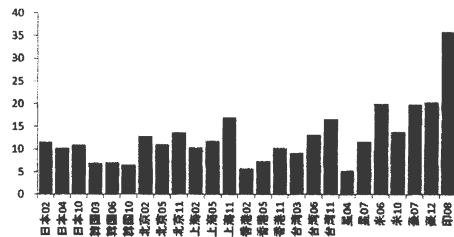


図4 社会階層意識(上・中)の変化

健康満足度、家庭満足度、生活満足度といった、自分の生活を評価する指標の分析結果からはアジア・太平洋諸国では、生活満足度に大きな差はなく、かつ安定していることが分かった。しかし、健康満足度と家庭満足度の水準は、国の経済状況や文化背景により異なることが浮き彫りになった。また、この10年の間に満足度が上昇する国がある一方で、改善が見られない国もある。社会帰属意識について、変わらなかった国が多いが、「上」の割合が増える国もある。

3.2 主観的幸福度の比較

表2の総合得点に基づいた尺度を基準に、2004年～2008年に実施した「環太平洋価値観国際比較調査」データを用いて計算した各国・地域の主観的幸福度得点分布は、図5に示している。主観的幸福度の総合得点の低い順に、インド、豪州、米国、シンガポール、台湾、上海、香港、北京、日本、韓国は並んでいる。さらに「とても幸せ」と答える割合を勘案した結果から、東アジア諸国の主観的幸福感の水準は著しく低いことが分かった。

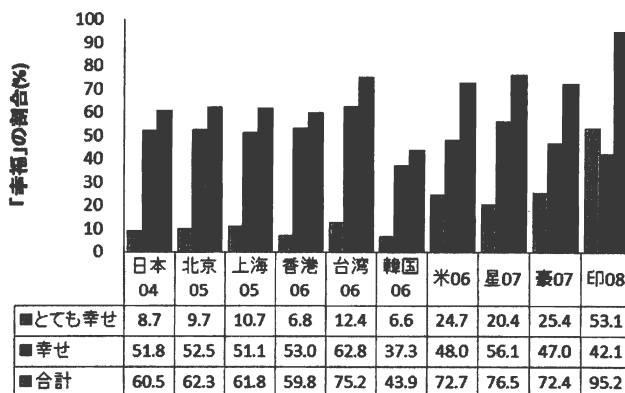


図5 総合得点に基づいた主観的幸福度の国際比較

3.3 主観的幸福度の影響要因

性別、年齢層、学歴、世帯収入、婚姻状態、家族構成、宗教信仰、社会関係資本が主観的幸福度にどのような影響を与えているかを分析した結果から、以下のようなことが明らかになった。

- 1) 性別や年齢層による影響は極めて限定的なものである。ただし、韓国だけは年齢の増加とともに主観的幸福度が低下する傾向がある。
- 2) 学歴、世帯収入、結婚、組織参加などの要因は各国・地域に共通して正の影響を与える。
- 3) 家族構成員が多いほど主観的幸福度は高い。
- 4) 日本、韓国、香港、シンガポール、米国、豪州において、宗教はポジティブな影響をもつものに対して、中国本土、台湾、インドではネガティブな影響が見られている。

4 おわりに

継続調査データの分析結果から、アジア・太平洋諸国の主観的幸福度は大きなバラツキがあり、時系列変化のトレンドは文化背景や社会経済状況によって一定ではないことが分かった。特に、米豪に比べ、東アジア諸国の主観的幸福度は低い。また、各国・地域に共通しているのは、人びとの主観的幸福度にポジティブな影響を与える要因として学歴、世帯収入、婚姻状態、家族構成、社会関係資本が確認された。一方、性別間の差は見られず、年齢層や宗教信仰の影響は国・地域によって異なることも明らかになった。

参考文献

- Bok D. (2010): The Politics of Happiness, Princeton University Press.
- Diener E., Suh E. M., Lucas R. E. and Smith H. L. (1999): Subjective well-being: Three Decades of Progress. Psychological Bulletin, 125: 276-302.
- Diener E. and Tov W. (2006): National Accounts of Well-being, in K. Land (ed.), Encyclopedia of Quality of Life.
- 鄭 躍軍(2012): 主観的幸福度の国際比較—調査データからみた東アジアの実態—, 第40回日本行動計量学会大会抄録: 377-380.
- 鄭 躍軍(2013): 主観的幸福度の計測指標の考案—東アジア価値観調査データから得たエビデンス—, 第41回日本行動計量学会大会発表抄録論文集: 154-155.

国際比較調査にて特定国で特徴的な回答となる変数

—アジア・太平洋価値観国際比較調査の単純集計解釈総括に向けて—

○二階堂晃祐
(統計数理研究所)

1. はじめに

アジア・太平洋価値観国際比較調査の調査実施最終年度だった 2013 年度に行われたインド調査では、「恋人同士が心中するのは美しい～賛成か反対か」(問 39) の質問に対して、「賛成」と答えたものの割合は 52.3%だった。この割合は当調査で対象となった他の 10 カ国/地点では最高でも 5.8% (香港と上海) だったから、インドの値は明らかに極端な「外れ値」となる。もっとも、この数値がインドのみで観察された理由は基本的には明確である。対応する訳文の作成にあたり、英文では当初 wonderful、それ以外の言語ではこの単語に概ね該当すると考えられる訳語を使用してきたが、インド調査に当たっては現地調査会社の意見もありより表現としては無難で自然とも考えられる、touching という表現に変更した。結果的に、インドのみで賛意を表す回答者が大幅に増えた。従って、この質問に関しては、集計結果は対象国における価値観や文化、考え方の違いを反映しているというより質問表現の問題だったと考えられる。この質問におけるインドの位置づけはかなり極端な例だが、しかし特定の 1、2 か国のみが他国/地域とは大きく異なる (いわば「外れ値とも呼べる」) 回答傾向を示す質問はアジア・太平洋価値観調査の中で相当数見られた。上述したケースのように質問表現の変更が意図せぬ結果につながったものとは違い、純粋にその特定国/地域の文化的特徴を如実に表しているものもあるだろう。そして、これらは他の国/地域はほぼ似たような回答傾向を暗示しているのに、特定の 1、2 地点のみが大きく違っている、という意味で特に興味深いと考えられる。これを念頭に、当報告では各国/地域別に「外れ値」となった変数を探し出し、まとめてみた。

2. 国/地域別、特異な回答傾向が見られた変数のリスト～アジア・太平洋価値観調査から

実証面では、「外れ値」を厳密に定義するのは意外なほどに難しい。当国際比較調査に含まれている質問群は内容的に多岐にわたり、また回答選択肢も様々な形式で設定されているため一貫した統計的基準を当てはめるのは容易でないからだ。当面、下記は目分量で判別出来る「外れ値」の中でも、特に目を引くもののリストである。

国/地域	質問番号と内容の概要	回答傾向の特徴
日本	問 1 : 今後 5 年間の生活水準見通し	「良くなる」、「少し良くなる」を合わせても 9.5%と少ない。他は最低でも 34%。
	問 7 : 理想の子どもの数	「3」以上が計 56.9%と多い。米国は 50%だが、他は最大でも 45%である。
	問 18g : 政治の大切さ (7 段階評価)	「7 (大切)」北京は 23%、日本は 22.1%。上海は 17%だが、その他 8 地点は高くとも 10%前後。
	問 24a : 助けてくれる人 & 問 24d : 自身を評価してくれる人	「いない」が、日本と韓国ではそれぞれ 20%超。香港では 10%台前半だが、それ以外は皆一桁。
	問 27 : 科学で人間らしさは減るか & 問 32 : 機械化と心の豊かさ	「どちらとも言えない」が 42.6%と 39.4%、それ以外は上海の問 32 が 24.7%を除き 10%台
	問 41b : 科学技術と心の解明 & 問 41c : 科学技術と社会経済問題	「強く」と「まあ」を合わせても 41b は賛成が 17.1%、41c は 13%。他国は概ね 50%を超える。
	問 11 : 職場リーダーの条件	「顔が広い」が 4.8%、他国は豪州を除き 15%以上

米国	問 26c：妖怪や鬼をどう感じる	「Interesting」が 15.4%、他は豪州を除きほぼ皆無
	問 30：人間と自然の関係	「自然に従う」が 26.1%と少なく、「自然を利用」が 60.8%と多い。他国とは双方最低 10%の差。
	問 41d：将来火星での生活可能か	強く反対が 39.3%、豪州は 32.3%、シンガポール 22.1%だが他は 15%以下。
	問 52b：信頼感（社会福祉施設）	あまり信頼しないが 40.7%、韓国は 33%だが他は最大でも 24%。
北京・上海	問 1：今後 5 年間の生活水準見通し	非常によくなるが北京 52%、上海 36%、他は米国 32%、ベトナム 27%と高いが一桁台も多い。
	問 26a~d：超自然現象	「つまらない」が北京、上海とも 20%台後半以上と多く、差は他国と概ね最低でも 10%以上。
	問 49：世界の中の役割	「科学技術の発展」が北京 35%、上海 40%。他は台湾、ベトナムを除き概ね 10%台。
	問 51b：日常生活の張合い	とても感じるが北京 71.5%、他は皆 50%以下。
台湾	問 26a：超自然現象（超能力・念力）	「ある」が 39%、他はシンガポールを除き 25%以下。
	問 32：機械化と心の豊かさ	「豊かさが減る」が 63.9%、韓国 64.5%と並び多い。他は 20%台~40%台。
香港	問 8：暮らし方	「過ちをおかさずまじめに生きる」が 22%と少ない。他は 40%台か、50%超。
韓国	問 11：職場リーダーの条件	「尊敬され好かれる」が 52%。他は 10%台から 36%。
	問 17a~e：不安感	全項目で極めて「非常に不安」が低い。最大で無職が 6.2%、他国はどの項目も概ね最低 20%台。
	問 22：相談相手	「友人・知人」が 24.3%と多く、香港を除いて他とは差が最低 10%。
	問 39e：人類全体への貢献	やってみたいが 40%、他国より最低でも 20%低い。
豪州	問 40b：太く短くか細く長くか	太く短くが 56.4%、他国より最低でも 15%多い。
	問 49：世界の中の役割	「異なる文化や宗教の理解を促進」が 32.2%、この選択は米国とシンガポール 28%台を除くと一桁台。
シンガポール	問 21d：健康問題（うつ状態）	4.5%のみ。ベトナムと日本が 10%強、他はより多い。
	問 26d：幽霊や亡霊、たたり	「ある」が 40%、台湾は 27%だが他は最低 15%低い。

3. 考察と注意点、及び一貫した統計的基準設定に向けて

今回作成した「外れ値」のリストでは該当するもの全てを網羅するのは紙面の都合上難しいこともあり、ある程度は割合している。基本的には、いわば「意外性」がなく、気づいた時点での解釈が比較的容易と考えられる項目は掲載していない。例えば、アメリカにおける信仰心の強さ、インドにおける家族観や性に関する保守的な意識、等がこれに当たる。また、インド、ベトナムについても掲載項目がないが、実はこれら 2 か国については結果的に「外れ値」を提示した変数はかなり多かった点にも言及しておきたい。それらの多くは、これら 2 か国のみは経済情勢が大きく違っており、現時点では先進国、またはそれに準ずる地位にない点が多かった理由と考えられる。

既に言及したように、当報告の現時点での大きな問題点は外れ値が明確に定義されておらず、判別が目分量で行われている点である。基本的には、ほぼ全ての国/地域が似たような回答傾向を示しているにも関わらず、一つ、もしくは 2 つのみが最低でも残りの最小値、あるいは最大値から更に 10% は外れている変数に焦点を当てた。現在、より厳密で統計学的に統一された基準の作成が可能かどうか、思案中である。一方で、文化の差異にも配慮した杓子定規にならない手法を勘案していきたい。

アジア・太平洋地域の非営利組織に対する信頼 —無回答割合と信頼の構造についての国際比較—

○松本 渉
関西大学総合情報学部

1. はじめに

社会関係資本などの文脈を含め、昨今の非営利組織への関心の高さと信頼の研究の意義の両方を考え合わせると、各国における非営利組織に対する信頼がどのような状況かを検討する意義があるとおもわれる。

ところが、そもそも非営利組織の概念は、極めて多義的に用いられており、万国共通の呼称や定義を有しているわけではないし、用いられている概念自体も変化を遂げる可能性を持ち続けてきた(松本, 2003)。利潤非分配という見方に着目すれば、宗教団体や労働組合も、非営利組織のひとつに位置付けられる。また、いわゆる質問紙調査におけるワーディングとしては、非営利組織・非政府組織の英語を略した NPO や NGO という表現で非営利組織のことをたずねることもできるし、ボランティアの団体や市民活動を行う団体という表現で非営利組織についてたずねることもできる。非営利組織についての質問は、非営利組織固有の多義的な曖昧性と表現上の多様性を内包しているとも言える。

このような問題意識を念頭に置きつつ、松本(2011b)では、アジア・太平洋価値観国際比較調査の日本 2010 調査と USA2010 調査、市民社会調査の日本調査、米国調査、韓国調査の 5 種類の調査の結果を用いて、非営利組織に対する信頼を分析した。その結果、(1) NPO・NGO といった略語を用いた表現が、ボランティアの団体や市民活動を行う団体という表現より伝わりにくい可能性があること、(2) 労働組合や業界団体・同業者団体といった一般になじみが薄い組織もイメージを持って回答しにくい可能性があること、(3) 自治会や町内会は信頼が高いが、政治関係の団体の信頼が低いのは、日米韓の 3 か国で共通していること、(4) 宗教団体は、一貫して日本では信頼が低く、米国では信頼が高いこと等を指摘した。

本報告では、その後アジア・太平洋価値観国際比較調査が進展したことを踏まえ、前出の 5 種類の調査以外の結果を追加し、日本・米国・韓国以外の地域を含めた非営利組織に対する信頼を探索的に比較する。

2. 調査の概要と質問項目

日本・米国・韓国の 3 か国で実施した市民社会調査においては、2007 年度から 2009 年度に非営利の組織に対する信頼について、具体的には、「a. 政治関係の団体や会」「b. 業界団体・同業者団体」「c. 宗教の団体や会」「d. 自治会や町内会」「e. 生協(生活協同組合)等の消費者団体」「f. 労働組合」「g. ボランティアの団体や市民活動を行う団体」の七種類について、「1 非常に信頼する」「2 やや信頼する」「3 あまり信頼しない」「4 全く信頼しない」の 4 件法で信頼の程度をたずねている。

一方、2010 年度以降実施されているアジア・太平洋価値観国際比較調査においては、いわゆる非営利の組織に対する信頼に関する質問文としては、「a. 宗教団体」「g. NPO・NGO」「h. 社会福祉施設」の三種類について、「1 非常に信頼する」「2 やや信頼する」「3 あまり信頼しない」「4 全く信頼しない」の 4 件法で信頼の程度をたずねたものがある。

本報告では、市民社会調査の日本調査、米国調査、韓国調査の 3 つの調査(表 1)、アジア・太平洋価値観国際比較調査の日本 2010 調査、USA2010 調査、北京 2011 調査、上海 2011 調査、台湾 2011 調査、香港 2011 調査、オーストラリア 2012 調査、韓国 2012 調査(表 2)などの結果を用いて、回答の分布の仕方を概観し、非営利組織に対する信頼に関する国際比較の結果とその比較の可能性について探索的に議論していく。

1 詳細は、松本(2011a)を参照。

2 詳細は、吉野・二階堂(2011a, 2011b, 2012a, 2012b)、吉野・二階堂・氏家(2012)を参照。

表 1 市民社会調査の概要と市民社会調査における非営利組織に対する信頼の項目

調査	回収標本	モード	
1 日本 2007	545	面接	a. 政治関係の団体や会
2 米国 2008	1005	電話	b. 業界団体・同業者団体
3 韓国 2009	1033	面接	c. 宗教の団体や会
			d. 自治会や町内会
			e. 生協（生活協同組合）等の消費者団体
			f. 労働組合
			g. ボランティアの団体や市民活動を行う団体

表 2 市民社会調査の概要と市民社会調査における非営利組織に対する信頼の項目

調査	回収標本	モード	
4 日本 2010	852	面接	a. 宗教団体
5 USA2010	1002	面接	g. NPO・NGO
6 北京 2011	1000	面接	h. 社会福祉施設
7 上海 2011	1000	面接	
8 台湾 2011	1000	面接	
9 香港 2011	1000	面接	
10 オーストラリア 2012	801	面接	
11 韓国 2012	1005	面接	

3. 分析手順

市民社会調査・アジア・太平洋価値観調査とも、まず無回答（DK, わからない, item nonresponse）³の発生状況を分析し、項目そのものの答えやすさを検討する。項目無回答の発生には、各組織の概念としてのなじみやすさもある程度反映していると予想するからである。その上で、各項目（非営利組織）の信頼の程度の比較や属性変数との相関の程度の比較などを探索的に検討する。

4. 無回答の発生割合の比較

各項目の無回答の発生割合については、表 3 のように、上海 2011 における NPO・NGO（19%）、日本 2007 における労働組合（12%）、上海 2011 における宗教団体（11%）、米国 2008 における業界団体・同業者団体（10%）、日本 2010 における NPO・NGO（9%）の順に高い結果となった。逆に、日本 2010 における宗教団体（2%）、韓国 2009 におけるボランティアの団体や市民活動を行う団体（2%）、韓国 2009 における自治会や町内会（2%）、USA2010 における自治会や町内会（2%）、韓国 2009 における政治関係の団体や会（2%）などが比較的低い発生割合でとどまっている。

NPO・NGO がオーストラリア 2012 を除いて高い傾向がある。オーストラリアは、他の項目も無回答割合が小さく、同一の調査では、NPO・NGO が宗教団体や社会福祉施設よりも無回答割合が大きい傾向がある。逆に、上海 2011 は三項目共通して無回答割合が大きい。同じ日本調査でも、日本調査 2010 と日本調査 2007 では、2010 の方が低めなのは、調査としての全体的な傾向である可能性が否めないが、日本 2010 の中では相対的に NPO・NGO の無回答割合の高さ（9%）が目立つ。日本 2007 のボランティアの団や市民活動を行う団体の無回答割合（5%）も上回っていることや、USA2010 のなかでも、NPO・NGO の無回答割合は高めに出ている。NPO・NGO は、カッコ書きで略さずに書いているが、このような略語を用いた表現は、伝わりにくいのではないかと思われる。

また、日本 2007、米国 2008、韓国 2009 と、それぞれの調査においては、労働組合や業界団体・同業者団体の無回答割合が高めに出るという点では共通している。これらの組織は、今回扱った国々においては、比較的なじみがないという点では、共通している可能性が考えられる。

³ 厳密には、DK（Don't Know）と Refused を区別した調査もあったが、便宜上 DK としてまとめた。

表3 各項目の無回答の発生割合

調査	質問No.	質問内容	無回答割合	調査	質問No.	質問内容	無回答割合
上海2011	Q52g	NPO・NGO	19%	香港2011	Q52a	宗教団体	4%
日本2007	Q23f	労働組合	12%	韓国2009	Q23e	生協(生活協同組合)等の消費者団体	4%
上海2011	Q52a	宗教団体	11%	韓国2009	Q23b	業界団体・同業者団体	3%
米国2008	Q27b	業界団体・同業者団体	10%	香港2011	Q52h	社会福祉施設	3%
日本2010	Q52g	NPO・NGO	9%	USA2010	Q52h	社会福祉施設	3%
米国2008	Q27e	生協(生活協同組合)等の消費者団体	8%	米国2008	Q27c	宗教の団体や会	3%
日本2007	Q23b	業界団体・同業者団体	8%	日本2007	Q23d	自治会や町内会	3%
日本2007	Q23a	政治関係の団体や会	7%	日本2010	Q52h	社会福祉施設	3%
上海2011	Q52h	社会福祉施設	7%	米国2008	Q27g	ボランティアの団体や市民活動を行う団体	3%
日本2007	Q23c	宗教の団体や会	6%	韓国2009	Q23c	宗教の団体や会	3%
日本2007	Q23e	生協(生活協同組合)等の消費者団体	6%	米国2008	Q27d	自治会や町内会	3%
北京2011	Q52g	NPO・NGO	6%	韓国2012	Q52a	宗教団体	2%
香港2011	Q52g	NPO・NGO	5%	韓国2009	Q23a	政治関係の団体や会	2%
米国2008	Q27f	労働組合	5%	USA2010	Q52a	宗教団体	2%
台湾2011	Q52g	NPO・NGO	5%	韓国2012	Q52h	社会福祉施設	2%
日本2007	Q23g	ボランティアの団体や市民活動を行う団体	5%	韓国2009	Q23d	自治会や町内会	2%
北京2011	Q52a	宗教団体	5%	韓国2009	Q23g	ボランティアの団体や市民活動を行う団体	2%
韓国2012	Q52g	NPO・NGO	5%	日本2010	Q52a	宗教団体	2%
USA2010	Q52g	NPO・NGO	5%	臺灣2012	Q52g	NPO・NGO	1%
台湾2011	Q52h	社会福祉施設	4%	北京2011	Q52h	社会福祉施設	1%
米国2008	Q27a	政治関係の団体や会	4%	台湾2011	Q52a	宗教団体	1%
韓国2009	Q23f	労働組合	4%	臺灣2012	Q52h	社会福祉施設	1%
				臺灣2012	Q52a	宗教団体	0%

5. 信頼に関する単純集計と関連構造の分析

無回答を除いた単純集計から信頼の高低を概観すると、米国2008の自治会や町内会、米国2008のボランティアの団体や市民活動を行う団体、北京2011の社会福祉施設、米国2008の生協(生活協同組合)等の消費者団体、香港2011の社会福祉施設、日本2007の自治会や町内会、米国2008の宗教の団体や会といった項目に対しては「非常に信頼する」「やや信頼する」の割合が比較的高いことを示していた。

逆に、「全く信頼しない」「あまり信頼しない」の割合が比較的高い項目としては、日本2007の宗教の団体や会、日本2010の宗教団体、韓国2009の政治関係の団体や会、北京2011の宗教団体、韓国2009の業界団体・同業者団体、日本2007の政治関係の団体や会、米国2008の政治関係の団体や会といった項目であった。

項目別の全体的な傾向としては、米国2008と台湾2011を除けば、社会福祉施設が高い信頼を示し、宗教団体に対する信頼が低い。日本における宗教団体または宗教の団体や会に対する信頼については、2007年度と2010年度の異なる調査において、共通して8割以上の方が、「あまり信頼しない」「全く信頼しない」といった否定的な回答をしていることは一貫している。過去の研究の知見(例えば、松本, 2006)でも、日本における宗教団体に対する信頼が一貫して低いことが指摘されているが、今回の調査の結果も、これらの傾向と乖離するものではなかったことがわかる。

さらに詳細を推量するため、それぞれの調査データの属性変数(性・年齢)とこれらの非営利組織に対する信頼に対して、カテゴリカル主成分分析を適用すると、性・年齢と近接する項目(強く関連する項目)は見いだせなかったが、宗教団体への信頼は、若年層よりも高齢層において近接しているという傾向は、多くに共通してみられた。また、3つの市民社会調査(日本2007、米国2008、韓国2009)においては、ボランティア団体や市民活動団体に対する信頼と自治会・町内会に対する信頼について関連がうかがえた。

次に、カテゴリカル主成分分析の結果のうち、市民社会調査とアジア・太平洋価値観調査の二つのプロジェクトでは、異なる項目について扱っているが、表現が違うが実質的には同内容の似ている項目について注目した。すると、市民社会調査においては、「宗教の団体や会」と「ボランティア団体や市民活動団体」が各国共通して乖離しており、関連性が小さいことがうかがえる。アジア・太平洋価値観調査の「宗教団体」と「NPO・NGO」の二つについてもおおむねカテゴリプロットの反対側に付置され、この調査においても関連性が小さいことが確認された。宗教団体とNPO・NGOについては、異なる調査プロジェクトではあるが、この両者の非関連性は共有されている(ただし、アジア・環太平洋価値観調査においては、宗教団体、NPO・NGO、社会福祉施設の3項目における相対的な関連性の程度)。

6. まとめ

本報告においては、無回答割合の比較、単純集計の比較、調査ごとのカテゴリカル主成分分析により、非営利組織に対する信頼についての国際比較上の解釈を探索的に試みた。

その結果、まず、似たような意味の概念であっても、表現が変わると無回答の割合が変化するケースがみられた。一般の人々へのなじみやすさが影響していると思われるが、無回答の割合の変化によっては、信頼の度合いの解釈にも影響するので注意が必要である。次に、米国と台湾の調査以外では、宗教団体に対する信頼が低いことがうかがえた。東アジア各国に加え、オーストラリアにおいても宗教団体に対する信頼は低いのである。カテゴリカル主成分分析からは、宗教団体とNPO・NGO（あるいは、ボランティア団体、市民活動団体）の関連性が相対的に小さいことが、各調査においておおむね共有されている傾向がうかがえた。

謝辞

「市民の政治参加と社会貢献に関する世論調査—市民社会の国際比較—」（市民社会調査）は、科学研究費補助金若手研究（A）（2007～2010年度）（研究代表者：松本渉）「非営利セクターの展開に関する日米韓国際比較」（課題番号 19683004）の一環として実施された。「アジア・太平洋価値観調査」は、科学研究費補助金基盤研究(S)（2010～2014年度）（研究代表者：吉野諒三）「アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析—」（課題番号 22223006）の一環として実施された。

参考文献

- 松本渉（2003）「民間非営利部門における組織概念」『国際環境協力』3, 63-78。
- 松本渉（2006）「組織に対する信頼の安定性—JGSS 累積データ 2000-2003 を用いた多母集団同時分析—」大阪商業大学比較地域研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集[5]JGSS で見た日本人の意識と行動』pp.59-69。
- 松本渉（2011a）『市民の政治参加と社会貢献の国際比較—総合報告書—』関西大学総合情報学部松本渉研究室。
- 松本渉（2011b）「非営利組織に対する信頼の国際比較—複数の国際比較調査の結果から—」『日本行動計量学会第39回大会抄録集』pp.97-100。
- 吉野諒三・二階堂晃祐（2011a）『アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析— 日本 2010 調査報告書』統計数理研究所。
- 吉野諒三・二階堂晃祐（2011b）『アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析— USA2010 調査報告書』統計数理研究所。
- 吉野諒三・二階堂晃祐・氏家豊（2012）『アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析— 北京・上海 2011 調査報告書』統計数理研究所。
- 吉野諒三・二階堂晃祐（2012a）『アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析— 台湾 2011 調査報告書』統計数理研究所。
- 吉野諒三・二階堂晃祐（2012b）『アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析— 香港 2011 調査報告書』統計数理研究所。
- 吉野諒三・二階堂晃祐（2013）『アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析— オーストラリア 2012 調査報告書』統計数理研究所。
- 吉野諒三・二階堂晃祐（2013）『アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析— 韓国 2012 調査報告書』統計数理研究所。

連絡先 matsumoto@res.kutc.kansai-u.ac.jp

調査データに表れる生きがいとソーシャル・サポート —「アジア太平洋価値観国際比較調査 (APVS)」の結果 から—

○朴 堯星 吉野諒三

統計数理研究所・調査科学研究センター

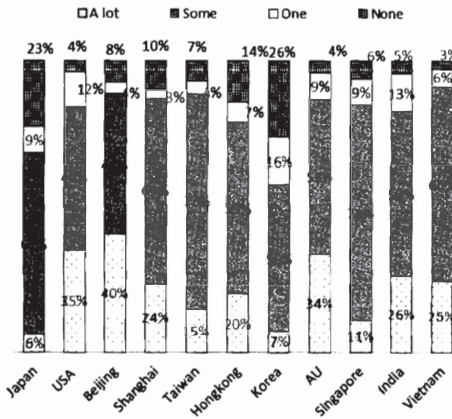
1 はじめに

これまで公衆衛生の分野では、ソーシャル・サポートが精神的な健康にもたらす効果の重要性についてしばしば議論されてきた。例えば、Cohen and Wills (1985) は、ソーシャル・サポートがある場合、個人はストレスを軽減することができることで、ストレスに適切に対処できるようになるとしている。これは、個人が属する社会との絆の自覚が、心身の健康を保つことに有効であることを意味する。まさに社会的ネットワークの重要性を論じるソーシャル・キャピタルの概念につながるのではないだろうか。他方でソーシャル・キャピタルと健康に関する多くの研究が進められており、カワチ (1997) は、ソーシャル・キャピタルには地域住民の健康に正の効果があることを明らかにしている。ただし、ソーシャル・キャピタルが主観的健康感を高めるプロセスについては明らかにされていない。これに対し、本研究では、社会的ネットワークとしてのソーシャル・キャピタルと主観的健康感の間に、生きがい感が媒介しているのではないかと考えている。なぜならば、ソーシャル・サポートの存在を自覚することができる者にとっては、自分の存在意義に対して高く評価することになる。これが、自らの生きがい感の向上を媒介し、主観的健康感の向上に結びつく可能性がある。本報告では、Cohen and Wills、カワチの理論に依拠して、個人におけるソーシャル・サポートが生きがい感に与える影響を検証することを第1の目的とする。さらに、ソーシャル・サポートが生きがい感に与える影響には、各国独自の文化や価値観などの国ごとの文化的特性による文脈が影響していると推察される。よって、日本、米国、北京、上海、台湾、オーストラリア、韓国、シンガポール、インド、ベトナムにおける生きがい感とソーシャル・サポートの関係性について国際比較を試みることを第2の目的とする。

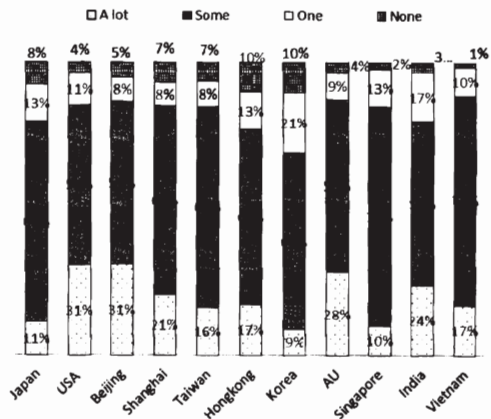
2 用いたデータおよび項目

本報告ではアジア・太平洋価値観国際比較調査 (APVS) (代表者：吉野諒三) の2010年の日本調査および米国調査、2011年の北京調査、上海調査、台湾調査並び、香港調査、2012年のオーストラリア調査、韓国調査、シンガポール調査、並び、2013年のインド調査、ベトナム調査のデータを用いる。APVSでは、以下のように「ソーシャル・サポート」を問24a~dで、「生きがい感」を問51a~dで尋ねている。本報告では基礎的分析として、11か国における回答の周辺分布を確認する。

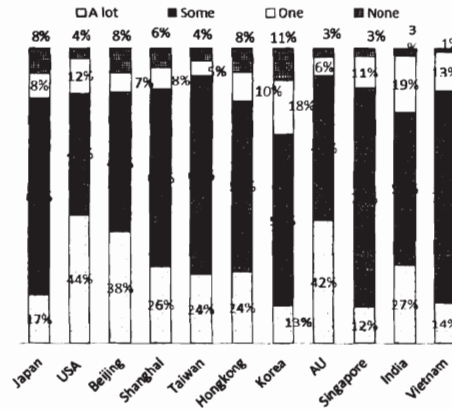
24a: 物や金銭を貸してくれたり、手伝ってくれる人



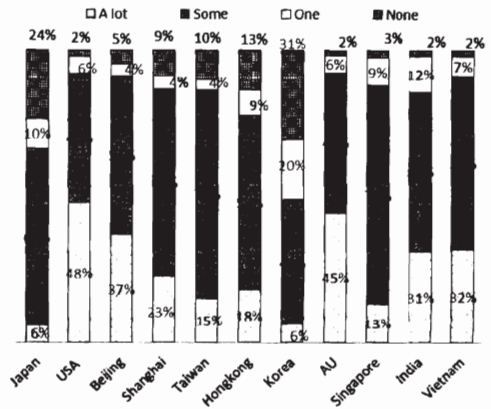
24b: あなたの現在の気持ちや状況を理解してくれている人



24c: 気楽に電話したり、会ったりして相談できる人



24d: あなたのことを高く評価していたり、敬意を払ってくれている人



い。一方で日本、韓国は他国に比べて肯定的な回答の割合が低い。これは、近年の日本と韓国における社会情勢の不安定さが起因していると考えられる。また、各質問項目に対して韓国は、生きがいを持つ者と、生きがいを持たない者とに二極化している。ここに格差社会が進行する韓国社会の現状が表れていると考えられる。また、中国文化圏で比較すると、ソーシャル・サポートに関する質問と同様に、北京、上海、台湾の順に、生きがい感の割合が小さく、北京、上海、台湾の順に欧米型から日本、韓国型へ変化しているといえる。さらに、北京は 51c, 51d の家族に関する生きがい感が高い傾向にある。ここには、中国人の家族といった小集団における帰属意識が高いことが起因していると考えられる。

6 考察

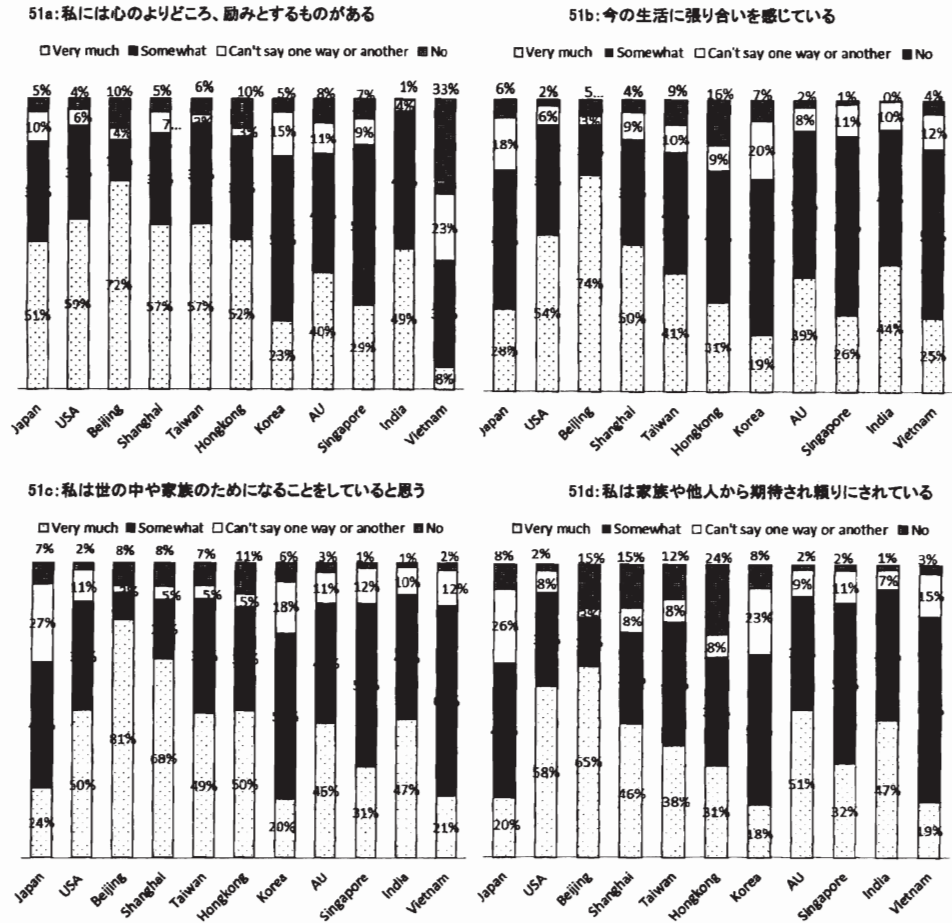


図2 「生きがい感」についての国・地域別の割合

欧米型と、日本、韓国の東アジア型に分かれることが分かった。その中で中国は地域ごとに異なる傾向を示し、北京、上海、台湾はより欧米型に、香港は日本、韓国型に近いことがみられる。

謝辞 本調査研究は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究S（課題番号：22223006、研究代表者：吉野諒三）によるものである。

参考文献

Cohen S. and Wills T A. (1985) Stress, Social Support, and the Buffering Hypothesis. *Psychological Bulletin*. 98(2), pp. 310-57.
 吉野諒三(2010) アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析—日本 2010 調査報告書 統計数理研究所調査研究リポート No. 103.

ベトナムの「宗教」と「信仰」

－アジア太平洋価値観国際比較・ベトナム 2013 調査－

○服部 浩昌

統計数理研究所 調査科学研究センター

1 はじめに

本研究は、統計数理研究所が、アジア、太平洋の国々を対象に実施している質問紙法を用いた国際比較調査である「アジア・太平洋価値観調査 (Asia-Pacific Values Survey)」の二次分析を通して、ベトナムにおける宗教性の諸相について検討するものである。

2 調査の概要

「アジア・太平洋価値観国際比較」調査のベトナム調査は、ベトナム全国に居住する 18～65 歳のベトナム国籍を持つ男女を母集団とし、標本抽出にはランダム・ルート・サンプリングが用いられた。計画標本数は 1,000 である。実査は 2013 年 12 月から 2014 年 1 月にかけて、現地調査会社に委託して個別面接聴取法によりおこなわれ、有効回収標本数は 1,000 であった。

3 ベトナムにおける「宗教」と「信仰」

ベトナムにおける「宗教」については「仏教が 80%、その他にカトリック、カオダイ教、ホアハオ教がある」とされている (外務省 2002、日本貿易振興会 2014)。この記述から「ベトナムは仏教徒の多い国である」と推測できる。一方、2009 年に行われた国勢調査では、「あなたは何か宗教を信仰していますか? (Do you follow any faith/religion?)」という質問に対し「はい (yes)」と回答したものは全人口の 18.2%であり、81.8%が「いいえ (no)」と回答している。そして「はい」と回答した人に対して「それは何という宗教ですか」と質問をおこなった結果、「仏教 (Buddhist)」と回答したものは全人口の 7.9%であった。国勢調査の結果からは、ベトナムではおよそ 8 割のらびとが「信仰している宗教は無い」と回答していることがわかる。今井昭夫によると「ベトナムでは『宗教』と『信仰』に分けられて、当局による宗教管理が行われている。(中略)『宗教』とは超越者への信仰と儀礼体系 (教義) や道徳倫理体系 (戒律) および教団組織を有しているものであり、仏教やキリスト教などが相当する。それに対して『信仰』はより広い意味をもち、宗教的内容をもっているものの特定の『宗教』に含まれないとか、完備した『宗教』のレベルに達していない何らかの信念を示すために用いられる」という (今井昭夫・岩井美佐紀編著『現代ベトナムを知るための 60 章第 2 版』明石書店、2012 年)。本報告は、ベトナムのらびとは「宗教 (religion)」と「信仰 (religious faith)」をどのようにとらえているのか、について考察をこころみるものである。

4 調査の結果

(1) 宗教や信仰をもっているか

ベトナムにおける「宗教」と「信仰」を調査するために、アジア太平洋価値観国際比較調査ではつぎの質問をおこなった。質問は「あなたは、何か宗教とか信仰とかをもっていますか」である。回答の選択肢は「宗教 (religion) がある」「信仰 (religious faith) がある」「ない (no)」「わからない」である。結果は「宗教がある (28.3%)」と「信仰がある (47.1%)」と回答した人の割合の合計は 75.4%であった。4分の3の人びとが「宗教か信仰がある」と回答した。

(2) 何という宗教か

「宗教がある」と「信仰がある」と回答した人に対しては、引き続き「それは何という宗教ですか」という質問がおこなわれた。「宗教がある」「信仰がある」と回答した人のうち 65.0%が「仏教 (Buddhism)」と回答している。つぎに割合が高い回答は「Ancestors worship (祖先崇拜)」の 21.1%である。「宗教がある」と「信仰がある」と回答したそれぞれに分けて集計した結果は、仏教と回答したものの 39.0%が前の質問で「宗教がある」、61.0%が「信仰がある」と回答していた。仏教を「宗教」ととらえているものと、「信仰」ととらえているものがあると考えられる。「祖先崇拜」については、99.4%が「宗教」ではなく「信仰」としてとらえていると考えられる。

表1 何という宗教か

宗教名	宗教あり+信仰あり	宗教あり	信仰あり	Total
Buddhism	65.0	39.0	61.0	100 (490)
Catholic	11.3	88.1	11.9	100 (84)
Protestantism	0.3	100.0	0.0	100 (2)
Islam	-	-	-	
Hoa Hao	-	-	-	
Cao Dai	2.3	88.2	11.8	100 (17)
Brahmanism	-	-	-	
Ancestors worship	21.1	0.6	99.4	100 (159)
Other	0.3	0.0	100.0	100 (2)
Total (n)	100.0 (754)	37.5 (283)	65.5 (471)	100 (754)

(3) 宗教的な心は大切か?

ベトナムの人びとの「宗教的な心 (religious mind)」について、「宗教的な心は大切か、それとも大切でないか」を質問した。結果は「大切である」61.3%、「大切でない」34.3%、「わからない」4.4%であった。つぎに、「宗教や信仰があるか」の質問で、「宗教がある」「信仰がある」「宗教/信仰は無い」と回答したそれぞれにわけて集計した結果、「大切」と回答した人の割合は、「宗教がある」80.2%、「信仰がある」67.5%、「宗教/信仰は無い」27.6%であった。「宗教/信仰は無い」と回答したもののうち3分の2が「宗教的な心は大切ではない」と回答していた。

南北ベトナム人の社会意識と価値観の相違

アジア太平洋比較調査データによる比較分析

芝井清久

統計数理研究所 調査科学研究センター

1 はじめに

本報告は、2013年度におこなわれたアジア・太平洋価値観比較調査のベトナム調査結果を用いて、南部と北部のベトナム人に国家および国際関係といった政治に対する意識や社会経済に関する価値観の違いが存在するのかどうかを考察するものである。

周知のとおり、ベトナムは第二次世界大戦終結から1976年まで、共産主義・社会主義の北部と資本主義・民主主義の南部に分断されていた歴史がある。分断期間の約30年と統一後の約40年を経た現在のベトナムには、民主主義・資本主義国家を経験した人と共産主義政権下で生まれ育った人が併存し、さらには元資本主義国であった南部の経済的優勢という南北格差などが存在する。それに加えて、フランス、日本による支配、ベトナム戦争時代における米軍・韓国軍によるベトナム人への残虐行為、ラオス侵攻による国際的孤立、現在まで続く中国との軍事紛争など、ベトナムは戦後においても多くの戦争、特に外敵への抗戦を経験しており、政治経済思想に加えて外国に対する評価においても南北ベトナム人で共有する経験と相反する経験が存在する。

世代の違いを考えても、南北統一以前の時代を記憶している50歳以上の人々、統一後の共産主義政権時代に生まれ育った30～40歳代の人々、そして冷戦終結後のドイモイ政策下で生まれ育った10～20歳代の人々と分けると、ベトナム人は経験した社会情勢が大きく異なっている。異なる政治体制による南北分断とそれにもなう戦争経験は、現在のベトナム人の社会的価値観にも何らかの影響を与えているのであろうか。今回初めておこなったベトナム調査の結果を基に、その考察の第一段階として、政治経済に関する意識の違いを調べてみたい。

2 関係を重視する国家、好印象を持つ国家

現在のベトナム政府は政治的にも経済的にもアメリカとの関係を深めようとしており、また戦

表 1 南北ベトナムのサンプル数

Total N		North	South	Total
Total N		425	575	1000
Sampling Area		14	22	36
Gender	Male	210	282	492
	Female	215	293	508
Age	18-35 yrs	205	297	502
	36-49 yrs	138	182	320
	50 yrs or higher	82	96	178
Income	Under 3,000,000 VND	22	67	89
	3,000,001 - 12,500,000 VND	275	389	664
	12,500,001 VND or higher	88	103	191
	DK/NA/Other	40	16	56

争を知らない若い世代のベトナム人には日本やアメリカによる侵略は過去のものとなりつつあるようだが、実際の意識がどうなのかを見てみたい。

「問2 ベトナムにとって最も友好関係を深めるべき国や地域は？」の回答分布は以下のようになった。全体では30.1%のアメリカが最多だが、南北で分けると南部で35.1%、北部で22.9%と違いがはっきりと分かる。日本も同様に南部のほうが回答が多い。反対にEU、ロシア、韓国は北部のほうが回答が多いことがわかる。ロシアは北部の20.2%に対して南部では11.4%と大きな開きがある。

表2 ベトナムにとって最も友好関係を深めるべき国や地域

	USA	EU	Russia	China	Japan	South Korea	India	Singapore	Australia	Other Asian countries	Total%	N	
Total	30.1%	13.4%	15.0%	4.5%	20.1%	8.5%	0.6%	3.0%	2.0%	2.8%	100.0%	958	
North	22.9%	17.1%	20.2%	5.0%	16.6%	12.1%	0.8%	3.0%	1.5%	0.8%	100.0%	397	
South	35.1%	10.7%	11.4%	4.1%	22.6%	5.9%	0.5%	3.0%	2.3%	4.3%	100.0%	561	
$\chi^2 = 56.926 (p = 0.000)$													
North	18-35 yrs	30.3%	16.2%	16.7%	4.0%	15.7%	11.1%	1.0%	3.5%	0.5%	1.0%	100.0%	198
	36-49 yrs	14.0%	15.7%	19.8%	8.3%	21.5%	13.2%	0.8%	4.1%	2.5%	-	100.0%	121
	50 yrs or higher	17.9%	21.8%	29.5%	2.6%	11.5%	12.8%	-	-	2.6%	1.3%	100.0%	78
South	18-35 yrs	38.1%	9.6%	9.6%	4.8%	20.3%	6.9%	0.7%	2.7%	2.4%	4.8%	100.0%	291
	36-49 yrs	33.1%	10.7%	14.0%	3.4%	23.6%	4.5%	0.6%	3.9%	2.2%	3.9%	100.0%	178
	50 yrs or higher	29.3%	14.1%	12.0%	3.3%	28.3%	5.4%	-	2.2%	2.2%	3.3%	100.0%	92

さらに年齢層別に回答を見ると、北部では、アメリカの回答率が高い割合（30.3%）となっているのは若年層（18-35歳）のみで、中・高齢層ではEUやロシアよりも低い。この点から、やはりベトナム戦争を体験した世代（40歳以上）の北ベトナム人はアメリカに対する印象は良くなく、戦争を知らない世代はこだわりなくアメリカを選ぶことができることがうかがえる。

日本に関しても、やはり南部の方が回答率が高いが、高齢層のほうが高い割合（28.3%）となっていて、反対に北部では高齢層の回答率が最も低い（11.5%）。もし日本による侵略が回答率の低い理由であるとしたら、南北どちらにもその傾向が現れるはずであり、南北で異なるのは、やはりベトナム戦争をはじめとする分断時代における印象の差が現れているのであろう。本調査の対象年齢は65歳までのため戦後生まれのベトナム人だけであり、侵略者の日本という悪い印象を持っていないのか、もしくはその後もフランス、アメリカ、中国と度重なる外敵との戦争経験のために日本との戦争の記憶が薄まっているのか、いずれにせよ全体でアメリカに次ぐ回答率を得ている。

反対に、ベトナム戦争時の敵味方の関係と逆の結果となっているのが韓国である。北部の12.1%に対して、南部では5.9%と非常に低い回答率となっている。韓国軍は米軍とともに北ベトナムと戦ったが、その一方でベトナムへの対処という名目でいくつもの虐殺事件を南ベトナム領内でおこなっているため、南部における印象が悪い可能性があるだろう。同様に、南部の高齢層のア

アメリカの回答率が他の年齢層より低いのも、アメリカの南ベトナム領内での虐殺行為が関係しているのかもしれない。近年のベトナムへの経済進出が最も激しいのはアメリカと韓国であるが、それがベトナム人に韓国との友好関係を深めようと思わせる効果を持つてはいるとはいえない可能性が伺える。「問3 生まれ変わるとしたらどの国もしくは地域か？（アメリカと母国は除く）」の回答においても、韓国は南部における回答率（13.9%）が北部（28.0%）に比べて著しく低く、南北双方の全年齢層で一定の回答率を得ている日本やアメリカとはかなり異なった評価を受けている。この設問では文化的・経済的に豊かな先進国や親近感を持っている国などの憧れのような感情に基づいて選ばれやすい傾向があり、近年の韓国芸能の流行を反映してか若年層の回答率は他の年齢層よりは高い。それでも南部の回答率は北部の全年齢層を大きく下回っており、南部における韓国の印象が低めであることがわかる。

表3 生まれ変わりたい国

	Russia	China	Japan	South Korea	Taiwan	Hong Kong	India	Singapore	Australia	USA	Vietnam	Total%	N	
Total	9.7%	1.6%	22.1%	19.5%	3.0%	3.0%	1.0%	12.6%	10.2%	12.1%	5.1%	100.0%	958	
North	12.0%	1.9%	20.9%	28.0%	3.3%	2.4%	0.8%	12.0%	7.1%	11.7%	-	100.0%	397	
South	8.1%	1.4%	23.0%	13.9%	2.9%	3.4%	1.1%	13.0%	12.3%	12.3%	8.5%	100.0%	561	
$\chi^2 = 64.842 (p = 0.000)$														
North	18-35 yrs	8.3%	2.2%	17.8%	31.1%	2.8%	2.2%	1.1%	16.7%	5.6%	12.2%	-	100.0%	198
	36-49 yrs	13.8%	1.7%	23.3%	24.1%	3.4%	3.4%	-	10.3%	8.6%	11.2%	-	100.0%	121
	50 yrs or higher	18.1%	1.4%	25.0%	26.4%	4.2%	1.4%	1.4%	2.8%	8.3%	11.1%	-	100.0%	78
South	18-35 yrs	7.9%	2.4%	22.1%	17.9%	3.4%	2.8%	0.7%	15.2%	12.1%	11.7%	3.8%	100.0%	291
	36-49 yrs	8.8%	0.6%	21.1%	11.1%	2.3%	4.1%	1.8%	11.1%	16.4%	12.3%	10.5%	100.0%	178
	50 yrs or higher	7.6%	-	29.3%	6.5%	2.2%	4.3%	1.1%	9.8%	5.4%	14.1%	19.6%	100.0%	92

この設問では「アメリカと母国以外の国・地域」と条件をつけたが、それでもアメリカを挙げた人が南北の全年齢層に10%弱いるなど、南北いずれにも世界一の大国アメリカへの憧れを持つ人は一定数いるようである。それに対して、「もう一度ベトナムに生まれたい」と答えた人は南部だけに存在し、さらに年齢層が高いほど回答率が高くなっている。ベトナム戦争で敗北して共産主義化されたことを実体験した人の5人に1人がベトナムを選んでいることは意外な結果といえるが、敗戦および吸収合併という祖国を失うことに等しい経験をしていることから、出身地に対する執着が北部より強いとも考えられる。さらには、南ベトナムはドイモイ政策以来北部よりも経済が発展していること、ベトナム戦争で亡命した人々の帰国が許されたことから、母国に住みやすさを感じているとも考えられる。

3 経済関連—労働意識

それでは経済関連の意識はどうであろうか。これまでの調査結果では、国内経済が発展するほど金銭などの物質的要素から仕事内容の充実感など非物質的要素を求める傾向が強くなっていく

ことが確認された。南部が資本主義経済であったとはいえ、長い戦争状態を終えてようやく経済発展を本格化させたばかりのベトナムでは、政治関連の項目ほど大きな違いは見いだせないと思われる。

「問 14 より求めるのは金か余暇か」「問 15 一生暮らせる金があっても働き続けるか止めるか」「問 16 仕事に最も求めるものは何か」の回答率は表 4 のとおりであった。統計的には回答に有意な差が見受けられるものの、物質的利益を重視する傾向がみられることは共通しており、この点は同じく途上国のインドの結果と似通った結果といえる。経済面では、南北の違いよりも発展途上国にみられる傾向がやはり南北いずれにも表れており、経済に関する価値観では南北ベトナムでは大きな違いといえる特徴は表れなかった。

表 4 労働意識に関する設問の回答

	Q14		Q15		Q16				
	More money	More free time	Continue to work	Stop working	A good income	A safe job	Working with people you like	Doing an important job	
Total	70.8%	29.2%	90.0%	10.0%	48.8%	24.3%	11.9%	15.0%	
North	66.2%	33.8%	92.5%	7.5%	46.1%	31.1%	7.8%	15.1%	
South	74.3%	25.7%	88.2%	11.8%	50.8%	19.3%	15.0%	15.0%	
	$\chi^2 = 7.678 (p = 0.006)$		$\chi^2 = 4.960 (p = 0.026)$		$\chi^2 = 25.608 (p = 0.000)$				
North	18-35 yrs	74.0%	26.0%	95.1%	4.9%	48.8%	28.8%	6.3%	16.1%
	36-49 yrs	59.4%	40.6%	89.1%	10.9%	44.2%	34.1%	8.7%	13.0%
	50 yrs or higher	58.0%	42.0%	91.4%	8.6%	42.7%	31.7%	9.8%	15.9%
South	18-35 yrs	77.4%	22.6%	89.2%	10.8%	51.2%	18.5%	15.2%	15.2%
	36-49 yrs	75.3%	24.7%	89.6%	10.4%	48.9%	21.4%	14.8%	14.8%
	50 yrs or higher	62.5%	37.5%	82.3%	17.7%	53.1%	17.7%	14.6%	14.6%

4 まとめ

南北ベトナム人の価値観の違いとしては、政治関連により明確に表れることを改めて確認することとなった。長く損害の大きかった戦争の経験があるため当然ともいえるが、戦争の経験がその社会に生きる人々の意識形成に及ぼす影響力の大きさをうかがい知ることができたといえる。さらなる検証を試みたいが、他の政治関連の設問はそのまま使用することが難しい。ベトナムは中国と同じく政府による国民の監視が厳しいため、政府組織に関する設問には本音の回答を選びづらい様子がうかがえるためである（例えばベトナムは汚職の酷さが国際的にも知られているが、国の行政・議会・警察の信頼度を問う設問では南北ともに90%前後が「信頼する」と答えた）。そのため、単純なデータ分析だけではこれ以上に政治意識に関する相違を示すことは難しいと思われる。南北の意識の違いをより詳細に明らかにするための、さらなる検証方法を模索する必要があるだろう。

地域社会における宗教的感情とソーシャル・キャピタル

○角田弘子¹ 林文² 吉野諒三³

¹日本ウェルネススポーツ大学 スポーツプロモーション学部

^{2,3}統計数理研究所・調査科学研究センター

1 はじめに

現代社会における宗教的なものの持つ意味を連鎖的比較分析 (Cultural Linkage Analysis, CLA) の考え方によって、日本人の国民性と国際比較調査から見てきた。ここでは 2010 年度から進められているアジア太平洋国際比較調査によって考察を進めた。「信仰はなくても宗教的な心 (感情) は大切」の考えと信頼感やソーシャル・キャピタルとの関連を考察する。

2 信仰と宗教的感情

日本とアジア太平洋諸国・地域の信仰の有無と宗教的な心は大切かの回答の関係は表 1 の通りである。日本は信仰あり (A) が北京について低い。これに対して、信仰なしだが宗教的な心は大切 (B) が多く、(A)+(B) を合わせると日本の宗教に対する親近性が示される。「宗教的な心は大切」が日本の特徴である。

表 1 「信仰の有無」と「宗教的な心は大切か」 (%)

宗教的な心	信仰あり				計 (A)	(A)+(B)	信仰なし		
	大切	大切でない	その他	その他			大切(B)	大切でない	その他
日本	25	1	1	26	72	46	18	10	
アメリカ	70	6	3	78	85	7	12	3	
北京	12	2	1	14	38	24	54	8	
上海	20	3	5	27	47	20	35	18	
台湾	67	6	2	75	91	16	7	2	
香港	27	2	4	33	61	28	25	14	
韓国	40	3	1	44	66	23	29	5	
オーストラリア	40	13	2	55	66	11	33	1	
シンガポール	72	7	2	81	86	6	12	1	
インド	85	10	1	95	97	1	4	0	
ベトナム	55	18	3	75	82	7	16	2	

3 宗教的感情とソーシャル・キャピタル

地域社会のつながり作りのためには、ソーシャル・キャピタルを新しく形成するとともに、その地域にもともとソーシャル・キャピタルが豊かに存在しているかどうかも重要な問題である (パトナム, 2001)。また、家族、親戚、友人、知人の集まり、学校、職場、教会、自治会、地縁的な団体、街づくり NPO、趣味や運動のグループなど、地域社会には独自の社会的文脈を持つ集団がある (稲葉, 2008)。日本の宗教に対する親近性が示される一方、下記の質問の回答傾向を見ると、日本では宗教団体への信頼は「あまり信頼しない」「全く信頼しない」を合わせると 85% になる。

質問 あなたは、次にあげる組織や制度、事がらをどの程度信頼しますか。
「非常に信頼する」「やや信頼する」「あまり信頼しない」「全く信頼しない」のいずれかでお答え
ください。a 宗教団体

表 2 宗教団体への信頼

	非常に信頼	やや信頼	あまり信頼 しない	全く信頼 しない	DK	N
日本	2%	11%	46%	39%	2%	852
アメリカ	24%	35%	30%	10%	2%	1002
北京	7%	20%	32%	37%	5%	1000
上海	10%	26%	32%	21%	11%	1000
台湾	14%	61%	21%	3%	1%	1000
香港	13%	45%	25%	14%	4%	1000
韓国	8%	33%	42%	15%	3%	1005
オーストラリア	11%	33%	34%	21%	1%	801
シンガポール	24%	58%	15%	2%	1%	1021
インド	47%	39%	10%	4%	1%	1015
ベトナム	26%	53%	17%	2%	2%	1000

4 まとめ

「宗教的な心」という考えは日本に独自のものと捉えるものであったが、日本以外でも、必ずしも信仰によってはいない宗教的な感情が存在することが確認された。ソーシャル・キャピタルを既存の概念である「信頼感」や「集団への帰属意識」で捉えると、各国において持つ意味の多様性あるいは文化差、翻訳の問題が示唆される。ソーシャル・キャピタルが発現する社会的文脈が地域社会によって異なり、それを整えることが求められている。

各国間で異なる様相をつかむ文化多様体解析 (Cultural Manifold Analysis, CULMAN) の方法論の確立を目指し、これまでの蓄積データとあわせ分析を進めている。

謝辞

本研究は「アジア・太平洋価値観国際比較調査 - 文化多様体の統計科学的解析 -」(科学研究費・基礎研究 S 代表 吉野諒三) の助成による。

参考文献

調査の詳細は以下のウェブサイトをご参照下さい。

「日本人の国民性調査」 <http://www.ism.ac.jp/kokuminsei/page4/index.html>

「国際比較調査アーカイブ」 <http://www.ism.ac.jp/~yoshino/>

「哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造」 ロバート・ハットナム, 2001, NTT 出版

「ソーシャル・キャピタルの潜在力」 稲葉陽二, 2008, 日本評論社

日本人の素朴な自然観と宗教観

○林 文¹ 吉野 諒三²

¹東洋英和女学院大学 ²統計数理研究所

1. はじめに

日本人の宗教に対する意識や態度の特殊性について、日本人の国民性調査、国際比較調査などで取り上げられたいくつかの項目を通して述べてきた（林，2010）。ここでは、2009年度の郵送ウェブ実験調査（林・吉野，2011）を通して自然観とのつながりをあらためて考察しなおす。宗教的という言葉についての定義も問題にされることがあるが、言葉の定義よりも実際の人々の感じ方や行動から、宗教あるいは宗教的とは何かを探ろうとする立場である。信仰という形で捉えられる宗教観とは異なる何らかの宗教的と言ってもよいものは何かを捉えていきたい。

2. 自然観と宗教観に関する調査

1976～1978年度の東京と米沢における「日本の習慣・行事に関する調査」では日本人の「ほんね」を引き出す調査と分析を目標とした調査で、素朴な宗教的感情、自然観に関する質問を含んでいる。1993年の「日本人の自然観」調査では、その調査を基盤として自然観を追及した。2004年の東アジア価値観調査の日本調査Bでもこの流れを意識した内容が含まれている。実験的な小地域郵送調査として、2006年度、2008年度に横浜市の一部で行い、2009年度には首都圏で郵送ウェブ実験調査を行った。さらにこの基盤として重要なのは、「日本人の国民性」調査の1958年から2008年まで5年毎の「信仰の有無」「宗教的な心は大切か」の質問といくつかの関連質問である。使われている質問は必ずしも共通ではなく、調査方法も、日本国内でも調査対象も異なっているため、単純に回答の割合だけを比較することは避けねばならないが、ここに関連質問の結果を列挙した。

「信仰の有無」と「宗教的な心は大切か」による4群の分布とともに示した。「信仰あり」の群でいずれも素朴な宗教的感情と考えられる回答率が高いのは当然ともいえようが、「信仰なし」で「宗教的な心は大切でない」の群でも、半数以上が「神社やお寺で改まった気持ちになったこと」があり、半数程度が「大きな古い木に神々しい気持ち」になったことがある。また、7割近くが「誰も見ていなくても良くない行いをすると罰があたる」を肯定する。こうした感覚を信仰によらない宗教的感情と捉えることができる。こうした意識が日本人の社会秩序の基盤として、信仰の代わりに役割を持っていると考えられる。自然観についてもどう関連しているかについても国際比較で捉えていきたい。ちなみに、国際比較は、1981年のドイツとフィンランドで行われており、「大きな古い木に神々しい気持ちを持ったことがある」などは9割を超えている。一方「罰があたる」の日本人における概念は翻訳も困難で比較調査はできていない。

3. まとめ

似た質問の、様々な調査対象さまざまな調査方法間の比較によって、多少の時代変化とあまり変わらない意識が捉えられた。国際比較への進展、死生観との関連も今後の課題である。

	「お化け調査」			「自然観調査」		「伝統的価値観調査」			
	東京		米沢	全国	東京	横浜 A地域	横浜 B地域	首都圏	
	面接	面接	面接	面接	面接	郵送	郵送	郵送	ウェブ
調査実施年度	1976	1978	1977	1993	1994	2006	2008	2009	2009
	%	%	%	%	%	%	%	%	%
信仰あり	22	21	30	28		34	20	20	19
信仰なし・宗教的な心大切	48	49	48	47		43	51	45	45
信仰なし・宗教的な心大切でない	12	14	8	13		18	26	24	31
信仰と宗教的な心その他	18	16	14	12		5	4	11	6
a 神社の前で心が落ち着いたり、あらたまった気持ちになることがあるか 「はい」	69	63	72			79			
b お寺で仏像を見たり、お経を聞いたりしたとき、心が落ち着いたりあらたまった気持ちになることがあるか 「はい」	70	69	75			82			
c キリスト教の教会に中々、心が落ち着いたりあらたまった気持ちになることがあるか 「はい」	22		12			49			
d 神社の拝殿の前に立ったり、お寺で仏像を見たり、キリスト教の教会に入ったとき、あらたまった気持ちになったりしたことがあるか 「はい」 [2008, 2009は、「キリスト教の教会に入ったとき」なし]				82	79		81	77	78
e 何か困ったとき『神様』とか『仏様』とか心の中で叫んだり、お祈りしたくなるか 「はい」	60	56	62						
f 大きな古い木を見たときに、何か神々しい気持ちをいだくか 「はい」		57		77	78	70	68	68	68
g 深い森に入ったとき、何か神秘的な気持ちをいだくか 「はい」		53		73					
h 日の出や日没、また静かな山の中で、あらたまった気持ちになったことがあるか 「はい」 [横浜2006年調査は「日の出や日没、また満月の光に、」] [横浜2008年調査は「日の出や日没に、のみ」]				78	86	69	69		
i 山川草木、山や川や草や木など、すべてに霊がやどっているような気持ちになったことがあるか 「はい」	31	24	24	37	45	48	42	41	44
j 都会の近代建築や、最新の施設の中にも、何か霊的なものが宿っているような感じになるか 「はい」 [横浜2006年調査は「都会の近代建築や、コンピュータなどハイテク機器の中にも、」]						9	10	14	19
k 神や仏をそまつにするとばちがあたると思うか 「はい」	50	56	57						
l お米や食べ物をそまつにすると、すまないことをしたような気がするか 「はい」	88	87	87						
m 誰も見ていなくても、良くない行いをすると、バチ(罰)があたりそうな気がする。 「はい」						87	88	84	80
n 針供養などのように、使い古した身近な道具に感謝するために供養をしたいような気持ちになったことがあるか 「はい」		37	41	64		51	48	43	48
o 人間の自然開発の犠牲になったり、食糧になったり、実験に使われたりした動物に対して、感謝をささげたい気持ちになったことがあるか 「はい」				59	73				
p 林道を作るために古い木を切り倒さざるをえなかった時に「樹霊の碑」を建てて木の霊を祭っているところがある。どう感じるか 「よいこと」				57					

参考文献

- [1] 林文. 現代人にとっての信仰の有無と宗教的な心－日本人の国民性調査と国際比較調査から－(研究ノート), 統計数理, 2010.
- [2] 林文・吉野諒三. 伝統的価値観と身近な生活意識に関する意識調査報告書－郵送調査と各調査機関のWEB調査の比較－, 統計数理研究所, 2011. および、林文. 同一別冊, 2011.

6. 関連文献

- Fujita, T., and Yoshino, R. (2009). Social values on international relationships in the Asia-Pacific region. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.148-165.
- Hayashi, F. and Nikkaido K. (2009). Religious Faith and Religious Feelings in Japan: Analyses of Cross-Cultural and Longitudinal Surveys. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.167-180.
- 林知己夫、鈴木達三、吉野諒三他 (1998). 国民性七か国比較. 出光書店
- 林知己夫他 (1992). 第五 日本人の国民性. 出光書店.
- 林 文 (2010). 現代日本人にとっての信仰の有無と宗教的な心. 日本人の国民性調査と国際比較調査から. 統計数理第 58 巻 第 1 号特集「日本人の国民性調査研究. 平成期の 20 年」, 39-59. 統計数理研究所.
- Inkeles, A. (1997). *National character*. Transaction Publishers: New Brunswick.
(吉野諒三 (2003) 訳「国民性論 — 精神社会的展望 —」出光書店)
- Park, Y. (2015). Sense of Ikigai and Social Support in the Asia-Pacific Region. *Behaviormetrika*, 42, 2.
- Shibai, K. (2015). Vietnamese Characteristics of Social Conscience and Values — National Character, Differences between North and South, and Gaps between the Vietnam War Generation and the Post-war Generation. *Behaviormetrika*, 42, 2.
- 芝井清久・吉野諒三. (2013). 職業観・労働観に現れる価値観の多様性と普遍性--「環太平洋価値観国際比較」データの文化多様体解析 CULMAN---. データ分析の理論と応用, 3(1), 17-47.
- Tsunoda, H., Yoshino, R., & Yokoyama. (2008). Components of Social Capital and Socio-Psychological Factors That Worsen the Perceived Health of Japanese Males and Females. *The Tohoku Journal of Experimental Medicine*, Vol.216, No.2, pp.173-185.
- Yamaoka, K. & Yoshino, R. (2015). Health and Well-being and Social Capital in Asia Pacific Value Survey: A Population-based Study. *Behaviormetrika*, 42, 2.
- 吉野諒三. (2001). 心を測る — 個と集団の意識の科学 —. 朝倉書店.
- Yoshino, R. (2002). A time to trust. *Behaviormetrika*. Vol.29 No.2, pp.231-260.
- 吉野諒三. (2003). 「信の崩壊」— 世論調査方法論の今日の課題. 行動計量学, 展望「21世紀の行動計量学」第 29 巻第 1 号, pp.45-54.
- 吉野諒三. (2003). 「信頼の時代」. *Eco-Forum*, Vol.22, No.1, 特集号「ソーシャル・キャピタル Part II」, pp.42-51. 統計研究会.
- 吉野諒三 (2005). 東アジア価値観国際比較調査—文化多様体解析 (CULMAN) に基づく計量的文明論構築へ向けて—. 行動計量学. 第 32 巻 2 号, pp. 133-146.
- 吉野諒三 (2005). 富国信頼の時代—東アジア価値観国際比較調査における「信頼感」の統計科学的解析—. 行動計量学. 第 32 巻 2 号, pp. 147-160.
- Yoshino, R. (2005). Trust and National Character--- Japanese sense of trust, Cross-national and longitudinal surveys-. *Comparative Sociology*, Vol.4, No.3-4, pp.417-450.
- Yoshino, R. (2006). A social value survey of China --- on the change and stability in the

- Chinese globalization ---. *Behaviormetrika*. Vol.33, No.2, pp. 111-130.
- 吉野諒三編. (2007). 東アジア国民性比較 データの科学. 勉誠出版.
- 吉野諒三. (2008). 「科学的」世論調査の価値・歴史と理論と実践の三位一体. 日本統計学会誌, 37, 2, pp.279-290. (2008).
- 吉野諒三. (2008). 海外の標本抽出面接調査の方法. いんぷおるむ 第 53 回. 新情報、Vol.95. pp.7-12.
- 吉野諒三. (2008). 「国民性」と環境問題 ---文化の多様性を受け入れる政策立案のために---. 環境情報科学 37,1,pp.21-26. (特集号)
- 吉野諒三 (2008). UFO は存在するか? ---お化け調査再考「合理と非合理の間」---. 市場調査、273、pp.4-13.
- 吉野諒三. (2008). 継続調査の課題と将来. 社会と調査、創刊号、pp.29-35.
- 吉野諒三. (2008). 信頼の国際比較. (所収「ソーシャル・キャピタルの潜在力」稲葉陽二編), 日本評論社, pp. 31-53.
- Yoshino, R. (2009). Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.114-147.
- Yoshino, R. (2012). Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character. In M. Sasaki, M. & R. M. Marsh, R.M., (ed.), *Trust-comparative perspectives*, pp.297-346.
- 吉野諒三. (2011). 文化の多様体解析. 社会と調査、7、5-11.
- 吉野諒三. (2011). 世論調査と学術調査の区別--「ユニバース、母集団、標本」再考--. 日本世論調査協会報 よろん、108、2-12.
- 吉野諒三. (2011). 世論調査の歴史と理論と実践—データの科学の真髄 データ分析の理論と応用 1巻1号、23-40.
- 吉野諒三 (2011). 第 1 章 信頼の国際比較. 「ソーシャル・キャピタルのフロンティア」(稲葉陽二、大守隆、近藤克則、宮田加久子、矢野聡、吉野諒三編). ミネルヴェア書房.
- 吉野諒三. (2012). ひと、こころ、知恵のつながり, 専門図書館, 251, 1-7.
- Yoshino, R. (2013). Trust of nations on Cultural Manifold Analysis (CULMAN): Sense of Trust in Our Longitudinal and Cross-National Surveys of National Character. In N.I.Dryakhlov et al., Japan-Russia Conference on Trust in Society, Business and Organization, pp.213-250. National Research University: Moscow.
- Yoshino, R. (2014). Trust of nations on Cultural Manifold Analysis (CULMAN): Sense of Trust in Our Longitudinal and Cross-National Surveys of National Character. 中央大学社会科学研究所研究叢書 26『信頼感の国際比較研究』佐々木正道編, 第 7 章, pp.143-204. (これは、Yoshino,R.[2013]のシンポジウム発表論文を校正したもの。)
- 吉野諒三. (2014). 『幸福度』は政策科学のために測定可能か? 特集テーマ「我が国における『幸福度』再考」日本計画行政学会誌 計画行政, 37, 2, 35-40.
- 吉野諒三. (2014). ソーシャル・キャピタル 「きずな」の科学とは何か. 稲葉陽二・大守隆・近藤克則・辻中豊・露口健司・山内直人・吉野諒三著. 2章ソーシャル・キャピタルの本質 1. 測定及び3章5.ソーシャル・キャピタルと計測(吉野執筆). ミネルヴェア書房.

- 吉野諒三. (2014). 東アジア地域の調査の実際. 日本世論調査協会報. よろん, 114号, pp.2-11.
- 吉野諒三. (2014). 意識調査が掴んでいた「アラブの春」の予兆とその後の展開. 市場調査, No.294, pp.2-3.
- Yoshino, R. (2015). Trust of Nations ---Looking for more universal values for interpersonal and international Relationships---. *Behaviormetrika*, Vol.42, No.2.**
- Yoshino, R. & Hayashi, C. (2002). An overview of cultural link analysis of national character. *Behaviormetrika*. Vol.29 No.2, pp.125-141.
- 吉野諒三・林文・山岡和枝 (2010). 国際比較データの解析. 朝倉書店.
- Yoshino, R., Nikaido, K., & Fujita, T. (2009). Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character: paradigm of cross-national survey. In *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.89-114.
- 吉野諒三・大崎裕子. (2013). 「主観的階層帰属意識」, 「満足感」と「信頼感」—社会調査における質問項目の尺度についての留意点—. *行動計量学*.40, 2, pp. 97-114.
- 吉野諒三・角田弘子. (2010). 人々の関係の広がりについて—国際比較方法論研究の幾つかの知見から (特集 少子高齢化時代のソーシャル・キャピタル). *行動計量学* 37: 3-17.
- 吉野諒三・角田弘子. (2013). 「人のつながりと広がり--- 国際比較の視点から」. 『ソーシャルキャピタルで解く社会的孤立』(稲葉・藤原編) 第1部第1章, pp18-36. ミネルヴェア書房
- Yoshino, R, Shibai, K., Nikaido, K., and Fujita T. (2015). The Asia-Pacific Values Survey 2010-2014 --- Cultural Manifold Analysis (CULMAN) of National Character ---. *Behaviormetrika*, 42, 2.**
- Yoshino, R., & Yamaoka, K. (2011). Health and Trust on the Asia Pacific Values Survey (APVS). The proceedings of the conference on social stratification and health 2011, 57.
- 吉野諒三・鄭躍軍・朴承根. (2003). 東アジア諸国の人々の日本語観. *行動計量学*, 第30巻第1号, pp.311-52.
- 鄭躍軍・吉野諒三・村上征勝. (2006). 東アジア諸国の人々の自然観・環境観の解析—環境意識形成に影響を与える要因の抽出—. *行動計量学*. Vol.32, No.2, pp.55-68.

[統計数理研究所 調査研究レポート]

- (<http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html>)に一覧がある)
- No. 54. 社会的態度基底構造についての国際比較方法の標準化に関する研究. (林知己夫編, 1981)
- No. 59. 社会調査による国際比較方法の研究. (林知己夫編, 1984)
- No. 70. 意識の国際比較方法論の研究: 連鎖的比較方法の確立とその展開—1988年ハワイ・ホノルル市民調査—. (林知己夫・鈴木達三編, 1991)
- No. 71. 意識の国際比較方法論の研究—新しい統計的社会調査法の確立とその展開—. (林知己夫・鈴木達三編, 1991)
- No. 72. 意識の国際比較方法論の研究 —5ヵ国調査共通ファイルコードブック—1987年ドイツ調査 1987年フランス調査 1987年イギリス調査 1988年アメリカ調査 1988年日本調査. (林知己夫編, 1992)
- No. 73. 意識の国際比較方法論の研究 —5ヵ国調査性別・年齢別集計—1987年ドイツ調査

- 1987年フランス調査 1987年イギリス調査 1988年アメリカ調査 1988年日本調査. (林知己夫編, 1993)
- No. 74. ブラジル日系人の意識調査 -1991~1992-. (山本勝造・河合武夫編, 1993)
- No. 75. 国民性の研究 第9回全国調査 -1993年全国調査-. (日本人の国民性調査委員会編, 1994).
- No. 76. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究-総合報告書-. (吉野諒三・鈴木達三編, 1995)
- No. 77. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究-国民性の国際比較の為のマニュアル-. (吉野諒三・鈴木達三編, 1995)
- No. 78. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究-イタリア調査の回答コードブック-. (吉野諒三・鈴木達三編, 1995)
- No. 79. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究-イタリア調査の自由回答データ-. (吉野諒三・鈴木達三編, 1995)
- No. 80. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究-オランダ調査の回答コードブック-. (吉野諒三・鈴木達三編, 1995)
- No. 81. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究-オランダ調査の自由回答データ-. (吉野諒三・鈴木達三編, 1995)
- No. 82. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究-共通ファイルコードブック-. (吉野諒三・鈴木達三編, 1995)
- No. 83. 国民性の研究 第10次全国調査-1998年全国調査-. (日本人の国民性調査委員会編, 1998)
- No. 84. 国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析. (吉野諒三編, 2000)
- No. 86. 文化の伝播変容の統計科学的研究-ハワイ日系人・非日系人国際比較調査-. (吉野諒三編, 2001)
- No. 89. 日本・中国の国民性比較のための基礎研究 - 中国北京市における意識調査 -. (鄭躍軍編, 2003)
- No. 90. 日本・中国の国民性比較のための基礎研究 (2) - 中国上海市における意識調査 -. (鄭躍軍編, 2003)
- No. 91. 東アジア価値観国際比較調査 - 「信頼感」の統計科学的解析 - 2002年日本調査報告書. (吉野諒三編, 2004)
- No. 103. アジア・太平洋価値観国際比較調査 -文化多様体の統計科学的解析- 2010年日本調査報告書. (吉野諒三・二階堂晃祐編, 2011)
- No. 104. アジア・太平洋価値観国際比較調査 -文化多様体の統計科学的解析- 2010年USA調査報告書. (吉野諒三・二階堂晃祐編, 2011)
- No. 105. アジア・太平洋価値観国際比較調査 -文化多様体の統計科学的解析- 2011年北京・上海調査報告書. (吉野諒三・二階堂晃祐・氏家豊編, 2012)
- No. 106. アジア・太平洋価値観国際比較調査 -文化多様体の統計科学的解析- 2011年台湾調査報告書. (吉野諒三・芝井清久編, 2012)
- No. 107. アジア・太平洋価値観国際比較調査 -文化多様体の統計科学的解析- 2011年香港調

査報告書。(吉野諒三・二階堂晃祐編, 2012)

- No. 109. アジア・太平洋価値観国際比較調査－文化多様体の統計科学的解析－ 2012年オーストラリア調査報告書。(吉野諒三・芝井清久編, 2013)
- No. 110. アジア・太平洋価値観国際比較調査－文化多様体の統計科学的解析－ 2012年韓国調査報告書。(吉野諒三・朴堯星編, 2013)
- No. 111. アジア・太平洋価値観国際比較調査－文化多様体の統計科学的解析－ 2012年シンガポール調査報告書。(吉野諒三・藤田泰昌・芝井清久編, 2013)
- No. 113. アジア・太平洋価値観国際比較調査－文化多様体の統計科学的解析－ 2013年インド調査報告書。(吉野諒三・二階堂晃祐・芝井清久編, 2014)
- No. 114. アジア・太平洋価値観国際比較調査－文化多様体の統計科学的解析－ 2013年ベトナム調査報告書。(吉野諒三・服部浩昌・芝井清久・朴堯星編, 2014)

[その他の統計数理研究所刊行の調査報告書]

- 東アジア価値観国際比較調査 2002年日本調査。(吉野諒三編, 2004)
- 東アジア価値観国際比較調査 2002年中国調査 [北京, 上海, 香港]。(吉野諒三編, 2004)
- 東アジア価値観国際比較調査 2003年台湾調査。(吉野諒三編, 2005)
- 東アジア価値観国際比較調査 2003年韓国調査。(吉野諒三編, 2005)
- 東アジア価値観国際比較調査 2004年シンガポール調査。(吉野諒三編, 2005)
- 東アジア価値観国際比較調査 2004年日本A調査。(吉野諒三編, 2005)
- (注意。後に、環太平洋価値観国際比較調査の日本2004Aとして位置付けた。)
- 東アジア価値観国際比較調査 2004年日本B調査。(吉野諒三編, 2005)
- (注意。後に、環太平洋価値観国際比較調査の日本2004Bとして位置付けた。)
- 東アジア価値観国際比較調査---「信頼感」の統計科学的解析---総合報告書。(吉野諒三編, 2006)
- 環太平洋価値観国際比較調査 2005年中国調査 [北京, 上海, 香港]。(吉野諒三編, 2007)
- 環太平洋価値観国際比較調査 2006年台湾調査。(吉野諒三・巖岩晶編, 2007)
- 環太平洋価値観国際比較調査 2006年韓国調査。(吉野諒三・松本渉編, 2007)
- 環太平洋価値観国際比較調査 2006年USA調査。(吉野諒三編, 2007)
- 環太平洋価値観国際比較調査 2007年シンガポール調査。(吉野諒三編, 2008)
- 環太平洋価値観国際比較調査 2007年オーストラリア調査。(吉野諒三・松本渉編, 2008)
- 環太平洋価値観国際比較調査 2008年インド調査。(吉野諒三編, 2009)
- 環太平洋価値観国際比較調査-東アジアと周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析--。総合報告書。(吉野諒三編, 2010)

※ 行動計量学32巻2号、33巻1号及びBehaviormetrika、Vol.29No.2、Vol.30No.1、Vol.36No.2、Vol.37No.1の特集号も参照していただきたい。それらは、J-stageの無料オンライン・ジャーナルとしてダウンロードが可能である。

行動計量学 <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jbhmk/>

Behaviormetrika <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/bhmk/>

また、BehaviormetrikaのVol. 42, No.2、もしくはそれ以降の号に「アジア・太平洋価値観国

際比較」特集が掲載予定である。

「日本人の国民性調査」についての雑誌「統計数理」の特集号は、
http://www.ism.ac.jp/editsec/toukei/special_topics.html

の第43巻1号、第48巻1号、第58巻1号、63巻2号（あるいはそれ以降の号）にある。

6. References

(Many Japanese papers and books are omitted here. See the previous Japanese list of reference for them.)

- Fujita, T., & Yoshino, R. (2009). Social values on international relationships in the Asia-Pacific region. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.148-165.
- Hayashi, C. (ed.) (1973). *Japanese Americans in Hawaii*. ISM Research Report, No. 33. Tokyo: The Institute of statistical mathematics.
- Hayashi, C. (1992a). Quantitative Social Research—Belief Systems, the way of thinking and sentiments of five nations—. *Behaviormetrika*, Vol. 19, No.2, pp. 127- 170.
- Hayashi, C. (1992b). Belief systems, Japanese way of thinking: Interchronological and international perspectives. Social, Educational and Clinical Psychology, *Proceedings of the 22nd International Congress of Applied Psychology*, 3, pp. 3-34. Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.
- Hayashi, C. (1998). The quantitative study of national character: Interchronological and international perspectives. In M. Sasaki (ed.), *Values and attitude across nations and time* (pp. 91-114). Boston: Brill.
- Hayashi, C. (2000). The Future study on national character to quantitative study on civilization from comparative study of national character (in Japanese). *The proceeding of ISM*, Vol.48, No.1, pp. 33-66
- Hayashi, C. & Kuroda, Y. (1997). *Japanese culture in comparative perspective*. London: Praeger.
- Hayashi, C. & Suzuki, T. (1997). *Shakai-chosa to Suryo-ka* [Social Survey And Quantification Methods]. Tokyo: Iwanami-shoten.
- Hayashi, C., Yoshino, R., Suzuki, T., Murakami, M., Hayashi, F., Kamano, S., Miyake, I., & Sasaki, M. (1998). *Kokumin-sei nanaka-koku hikaku* [Comparison of national character of seven countries]. Tokyo: Idemitsu-syoten.
- Hayashi, C., Yoshino, R., Yamamoto, K., Kawai, T., Wakisaka, K., Miyao, S., Mori, K., Mizuno, H., Suzuki, T., & Hayashi, F. (1991). *Research on Japanese Brazilians in 1991*. ISM Research Report, No.74.
- Inkeles, A. (1997). *National character*. Transaction Publications.
- Kuroda, M. (1990). *Restrictions by mother tongue and the international mutual Understanding—survey on Arabic college students*. Toyota foundation.
- Matsumoto, W. (2006). Sense of trust on organizations in East Asia--- analysis for a cross-national comparative study---. *The Japanese Journal of Behaviormetrika*, 33, 1, pp.25-40.
- Mizuno, K., Yoshino, R., Hayashi, C., Nishihira, S., Hayashi, F.(1992), Sakamoto, Y., Murakami, M., Nakamura, T. *Nihonjin no Kokuminsei* [Japanese national character], Vol. 5. Tokyo: Idemitsu-Shoten.
- Park, Y. (2015). Sense of Ikigai and Social Support in the Asia-Pacific Region. *Behaviormetrika*, 42, 2.
- Sakamoto, Y., Tsuchiya, T., Nakamura, T., Maeda, T., & Fouse, D. (2000). A survey of national character: the 10th nationwide survey (1998). ISM report No.85. The Institute of StatisticalMathematics:Tokyo.
- Shibai, K. (2015). Vietnamese Characteristics of Social Conscience and Values - National Character, Differences between North and South, and Gaps between the Vietnam War Generation and the Post-war Generation. *Behaviormetrika*, 42, 2.
- Shibai, K., & Yoshino, R. (2013). Diversity and Universality of People's Values and Opinion on Occupation-CULMAN (Cultural Manifold Analysis) of the Pacific-Rim Values Survey 2005-2008- *Bulletin of Data Analysis of Japanese Classification Society*, 3, 1, 17-48.
- Yamaoka, K. (2000). Variation in attitudes and values among Japanese Americans and Japanese Brazilians across generations. *Behaviormetrika*, 27, 2, pp. 125-151.

- Yamaoka, K. & Yoshino, R. (2015). Health and Well-being and Social Capital in Asia Pacific Value Survey: A Population-based Study. *Behaviormetrika*, 42, 2.
- Yoshino, R. (1992a). Superculture as a frame of reference for cross-national comparison of national character. *Behaviormetrika*, 19, 1, 23-41.
- Yoshino, R. (1992b). The unbiased BIGHT model and its application to the distinction of responses to a free-answer question in a social survey. *Behaviormetrika*, 19, 2, pp. 83-96.
- Yoshino, R. (1995a). *Application of cultural link analysis for comparative social survey*. ISM Research Report, No.76. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.
- Yoshino, R. (1995b). *Application of cultural link analysis for comparative social survey—manual of cross-national social survey on national character—*. ISM Research Report, No.77. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.
- Yoshino, R. (1996). Degree of conformity for the cross-national comparative studies. In Hayashi. C. & Scheuch, E. K., *Quantitative Social Research*. Oplanden: Reske+Budrich.
- Yoshino, R. (1997). Introduction to an institute of public opinion survey—the Institute of Statistical Mathematics. *The Journal of JAPOR, YORON*, 79, pp. 82-90.
- Yoshino, R. (1998). A social quantum theory—for analysis the study of public Opinion survey—. *Behaviormetrika*, 25, 2, pp. 111-132.
- Yoshino, R. (2000). *The Japanese American on the West coast survey*. ISM Research Report No.84. The Institute of Statistical Mathematics: Tokyo.
- Yoshino, R. (2001). *Kokoro wo hakaru* [Measurement of Mind]. Tokyo: Asakura-syoten.
- Yoshino, R. (2002). A time to trust – a study on peoples’ sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character -. *Behaviormetrika*. Vol.29 No.2,pp.231-260.
- Yoshino, R. (2005a). East Asia Values Survey –towards the development of a behaviormetric study on the cultural manifold analysis (CULMAN) —. *The Japanese Journal of Behaviormetrika*, 32, 1, pp.133-146.
- Yoshino, R. (2005b) . For the development of trust and economic prosperity- A study of data science on East Asia Values Survey —. *The Japanese Journal of Behaviormetrika*, 32, 1, pp.147-160.
- Yoshino, R. (2006). A social value survey of China --- on the change and stability in the Chinese globalization ---. *Behaviormetrika*, 33, 2, pp. 111-130.
- Yoshino, R. (ed.) (2007). *Higasi-ajia no kokuminsei –dehta no kagaku* [East Asia Value Survey --- Science of Data---]. Bensei-syuppan: Tokyo.
- Yoshino, R. (2009). Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.114-147.
- Yoshino, R. (2012). Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character. In M. Sasaki, M. & R. M. Marsh, R.M., (ed.), *Trust-comparative perspectives-*, pp.297-346. (Revised version of Yoshino [2009].)
- Yoshino, R. (2013). Trust of nations on Cultural Manifold Analysis (CULMAN): Sense of Trust in Our Longitudinal and Cross-National Surveys of National Character. In N.I.Dryakhlov et al., *Japan-Russia Conference on Trust in Society, Business and Organization*, pp.213-250. National Research University, Moscow. (This is a revised version of Yoshino[2009] with new data.)
- Yoshino, R. (2014). Trust of nations on Cultural Manifold Analysis (CULMAN): Sense of Trust in Our Longitudinal and Cross-National Surveys of National Character. In M. Sasaki [ed.], Cross-National Studies on Sense of Trust (Ch7, pp.143-204). Chuo University Press: Tokyo.** (This is a revised version of Yoshino [2013].)
- Yoshino, R. (2014). Practice of social surveys in the East Asian countries (in Japanese). *YORON* (Journal of Japan Association for Public Opinion Research), No.114, pp.2-11.
- Yoshino, R. (2014). “Spring of Arab” and its development prognosized by public opinion survey data of Japan-Egypt cooperative research team (in Japanese). *Marketing research*, No.294, pp.2-3. Public

Opinion Research Center, Tokyo.

Yoshino, R. (2015). Trust of Nations ---Looking for more universal values for interpersonal and international Relationships---. *Behaviormetrika*, Vol.42, No.2.

Yoshino, R., Chino, N. & Yamagishi, K. (2007). *Mathematical Psychology*. Ch.5 A Behaviormetric study of civilization on Data Science (in Japanese). Baihuu-kan: Tokyo.

Yoshino, R., & Hayashi, C. (2002). An Overview of Cultural Link Analysis of National Character. *Behaviormetrika*, Vol. 29, No.2, pp.125-142.

Yoshino, R. & Khor, D. (1995). Complementary scaling for cross-national analyses of national character. *Behaviormetrika*, 22 (2), pp. 155-184.

Yoshino, R. Hayashi, C. Suzuki, T. (1995). Kokuminsei no kokusai-hikaku-chousa no tame no situmon-bun no sakusei (Construction of questionnaire for cross-national comparative social survey). *Japanese Journal of Behaviormetrika*, Vol. 22, No. 1, 62-79.

Yoshino, R., Nikaido, K., & Fujita, T. (2009). Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character: paradigm of cross-national survey. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.89-114.

Yoshino, R., & Osaki, H. (2013). Subjective Social Class, Sense of Satisfaction, and Sense of Trust —A Note on Psychological Scales of Social Surveys—. *The Japanese Journal of Behaviormetrics*, 40, 2, pp.97-114.

Yoshino, R., Shibai, K., Nikaido, K., and Fujita T. (2015). The Asia-Pacific Values Survey 2010-2014 --- Cultural Manifold Analysis (CULMAN) of National Character ---. *Behaviormetrika*, 42, 2.

Yoshino, R., Zheng, Y., Phark, S. (2003). Japanese language census of the East Asia (in Japanese). *The Japanese Journal of Behaviormetrika*, 30, 1, pp.311-52.

Yoshino, R., Hayashi, F., & Yamaoka, K. (2010). Analysis of cross-national survey data. (in Japanese). Asakura-syoten: Tokyo.

Yoshino, R., Yamaoka, K. (2011). Health and Trust on the Asia Pacific Values Survey (APVS). *The proceedings of the conference on social stratification and health 2011*, 57.

Zheng, Y., Yoshino, R., & Murakami, M. (2006). The sense of natural environments- a comparative study of Japan and China--. *The Japanese Journal of Behaviormetrika*, 32, 2, pp.55-68.

The following is a list of ISM Research Report Series on our surveys. (For the list of titles of all the reports in Japanese, see http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/contents_e.html, or http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index_e.html for download of recent reports.

No. 54. A Statistical Method for Comparative Study of Fundamental Structure of Social Attitude. (Hayashi, C. [ed.], 1981)

No. 59. Statistical Methods for Comparative Study of Social Attitude by Surveys. (Hayashi, C. [ed.], 1984)

No. 70. Toward the Establishment and Development of Statistical Analysis for the Study of Comparative Culture: The Fourth Attitudinal Survey of Honolulu Residents, 1988. (Hayashi, C. and Suzuki, T. [eds.], 1991[1988])

No. 71. Cultural Link Analysis for Comparative Social Research: A New Approach for the Exploration of Structure in Ways of Thinking Applied to Cross-National Analysis of General Social Attitudes. (Hayashi, C. and Suzuki, T. [eds.], 1991)

No. 72. Cultural Link Analysis for Comparative Social Research: A Codebook for A Common File of 1987's German Survey, 1987's French Survey, 1987's British Survey, 1988's U.S. Survey, and 1988's Japanese Survey. (Hayashi, C. [ed.], 1992)

No. 73. Cultural Link Analysis for Comparative Social Research: Cross-Tables by Sex and Age for 1987's German Survey, 1987's French Survey, 1987's British Survey, 1987's U.S. Survey, and 1988's Japanese Survey. (Hayashi, C. [ed.], 1993)

- No. 74. Research on National Character of Japanese Brazilian: 1991~1992. (Yamamoto, K. and Mori, K. [eds.], 1993[1991~92])
- No. 75. A Study of the Japanese National Character: The Ninth Nationwide Survey. (Research Committee on the Study of the Japanese National Character [ed.], 1994).
- No. 76. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A General Report. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)
- No. 77. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Manual for International Comparison of the National Character. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)
- No. 78. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Codebook of 1992 Italian Survey. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)
- No. 79. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A List of Responses for Open-Ended Questions of 1992's Italian Survey. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)
- No. 80. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Codebook of 1993's Dutch Survey. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)
- No. 81. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A List of Responses for Open-Ended Questions of 1993's Dutch Survey. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)
- No. 82. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Codebook for a Common File of 1992's Italian Survey, 1993's Dutch Survey. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)
- No. 83. A Study of the Japanese National Character: The Tenth Nationwide Survey. (Research Committee on the Study of the Japanese National Character [ed.], 1998)
- No. 84. A Study of Statistical Science on Cultural Transmission: Japanese Americans on the West Coast Survey (JAWCS). (Yoshino, R. [ed.], 2000)
- No. 86. Hawaii Resident Survey 1999-2000 by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2001)
- No. 89. Researches on the National Character of Chinese and Japanese: A Sampling Survey in Beijing, China. (Zheng, Y. [ed.], 2003)
- No. 90. Researches on the National Character of Chinese and Japanese: A Sampling Survey in Shanghai, China. (Zheng, Y. [ed.], 2003)
- No. 91. East Asia Values Survey: Japan 2002 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2004)
- No. 103. Asia-Pacific Values Survey: Japan2010 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. & Nikaido, K. [ed.], 2011).
- No. 104. Asia-Pacific Values Survey: USA2010 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. & Nikaido, K. [ed.], 2011).
- No. 105. Asia-Pacific Values Survey: Beijing & Shanghai 2011 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. Nikaido, K., & Ujiie, Y. [ed.], 2012).
- No. 106. Asia-Pacific Values Survey: Taiwan2011 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. & Shibai, K. [ed.], 2012).
- No. 107. Asia-Pacific Values Survey: Hong Kong 2011 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. & Nikaido, K. [ed.], 2012).

- No. 109. Asia-Pacific Values Survey: Australia 2012 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. & Shibai, K. [ed.], 2013).
- No. 110. Asia-Pacific Values Survey: South Korea 2012 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. & Park, Y. [ed.], 2013).
- No. 111. Asia-Pacific Values Survey: Singapore 2012 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. Fujita, T., & Park, Y. [ed.], 2013).
- No. 113. Asia-Pacific Values Survey: India 2013 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R., Nikaido, K. & Shibai, K. [ed.], 2014).
- No. 114. Asia-Pacific Values Survey: Vietnam 2013 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. , Hattori, H., Shibai, K., & Park, Y. [ed.], 2014).

The following reports have also been published by ISM.

- The East Asia Value Survey: China 2002-03 Survey [Beijing, Shanghai & Hong-Kong] by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2004)
- The East Asia Value Survey: Japan 2004A Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2005)
- The East Asia Value Survey: Japan 2004B Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2005)
- The East Asia Value Survey (2002-2005): Data Analysis on Peoples' Sense of Trust. (Yoshino, R. [ed.], 2006)
- The Asia & Pacific Value Survey: China 2005 Survey [Beijing, Shanghai & Hong-Kong] by The Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2007)
- The Asia & Pacific Value Survey: Taiwan 2006 by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. and Horoiwa, A. [eds.], 2007)
- The Asia-Pacific Value Survey: South Korea 2006 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. and Matsumoto, W. [eds.], 2007)
- The Asia-Pacific Value Survey: USA 2006 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2007)
- The Asia & Pacific Value Survey: Singapore 2007 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2008)
- The Asia & Pacific Value Survey: Australia 2007 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R., and Matsumoto, W. [eds.], 2008)
- The Asia & Pacific Value Survey: India 2008 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2009)
- The Asia & Pacific Value Survey: General report. (Yoshino, R. [ed.], 2010)
- A Study of Statistical Science on Health and Culture: Cross-National Comparative Survey on Life – 2006 America CATI Survey – (Yamaoka, K. and Yoshino, R. [eds.], 2008)
- A Study of Statistical Science on Health and Culture: Cross-National Comparative Survey on Life – 2007 German CATI Survey – (Yamaoka, K. and Yoshino, R. [eds.], 2008)

A Study of Statistical Science on Health and Culture: Cross-National Comparative Survey on Life – 2009
JAPAN CATI Survey – (Yamaoka, K. and Yoshino, R. [eds.], 2010)

A Study of Statistical Science on Health and Culture: Cross-National Comparative Survey on Life – 2009
France CATI Survey – (Yamaoka, K. and Yoshino, R. [eds.], 2010)

A Study of Statistical Science on Health and Culture: Cross-National Comparative Survey on Life – 2010
UK CATI Survey – (Yamaoka, K. and Yoshino, R. [eds.], 2011)

Note: As written before, although the Japanese title of the survey project 2004-2009 literally means the Pacific-Rim Values Survey, the title “**The Asia-Pacific Values Survey**” was occasionally used for the project in the past English publication, because it covered not only Pacific-Rim Area but India. We have decided to designate **the Pacific-Rim Values Survey** (effectively 1st round of the Asia-Pacific Values Survey) for **the 2004-2009 project** and **the Asia-Pacific Values Survey** for **the 2010-2014 project** (effectively 2nd round the Asia-Pacific Values Survey).

Five volumes have been published as a series of “Japanese National Character Survey” by Shisei-dou (Vol.1, 2 & 3) and Idemitsu-syoten (Vol.4 & 5).

Special issues on our longitudinal or cross-national surveys have been published in the following journals.

- The Japanese Journal of Statistical Mathematics, Vol.43, No.1. (1995)
(on Japanese national character survey 1953-1993)
- The Japanese Journal of Statistical Mathematics, Vol.48, No.1. (2000)
(on Japanese national character survey 1953-1998)
- The Japanese Journal of Statistical Mathematics, Vol.53, No.1. (2005)
(on Japanese national character survey 1953-2003)
- Behaviormetrika Vol.29, No.2 (2002) & Vol.30, No.1 (2003)
(on our past longitudinal and cross-national surveys of national character 1953-2001)
- The Japanese Journal of Behaviormetrika, No.32-1(2005) & 33-1 (2006).
(on the East Asia Values Survey 2002-2005).
- Behaviormetrika Vol.36, No.2 (2009) & Vol.37, No.1 (2010)
(on our past longitudinal and cross-national surveys of national character 1953-2001)

Also, a special issue is in preparation for Behaviormetrika, Vol. 42.No.2, 2015.

The papers of these special issues are available on a free online journal of the Journal of Behaviormetrika (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/bhmk>), the Japanese Journal of Behaviormetrika (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jbhmk/>).

As for our past surveys, see our webpages of the Institute of Statistical Mathematics

- **The webpage of ISM cross-national surveys.**

<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/>

http://www.ism.ac.jp/ism_info_e/kokuminsei_e.html (in English)

- **The webpage of ISM surveys**

http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html

http://www.ism.ac.jp/ism_info_e/kokuminsei_e.html (in English).

• The webpage of ISM Survey Research Report.

<http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html>

http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index_e.html (in English)

Note: In the case we find some errors in our cross-national survey reports or data, we will list them in our home page: http://www.ism.ac.jp/~yoshino/corrigenda_e.html.

ISM Survey Research Report No.117

The Asia-Pacific Values Survey
— Cultural Manifold Analysis (CULMAN) on
People's Sense of Trust —

Summary Report

Ryozo Yoshino, Kiyohisa Shibai & Kosuke Nikaido (Eds.)

March, 2015

The Institute of Statistical Mathematics
Research Organization of Information and Systems

10-3 Midori-cho, Tachikawa
Tokyo 190-8562, Japan

ISSN 2185-8381